車掌25号

待つ特集・400円

酒と写真と流行歌
バー鳥渡（チョット）
高円寺駅より徒歩約1分
夕方7時頃～翌朝2時頃
素晴しい写真！旨い酒！☎03 3338-3331

400円

値段 ↗

車掌 25 号（待つ特集）

発行　車掌編集部
（編集・発行人　塔島ひろみ）

スタッフ　神田ぱん、伊藤岳人、前嶋かおる、小林絵理子、
舟久保文恵、北島みみ、松井文、佐伯なつみ

協力　三本美春、山田幸司、謝覚人、オコエ様

印刷　現代社

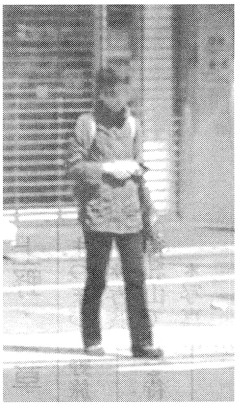
2016 年 11 月 15 日

車掌編集部　〒124-0022　東京都葛飾区奥戸 6-18-17　塔島方
Tel･Fax　03-5670-3021（五郎、直、美玲、仁一）

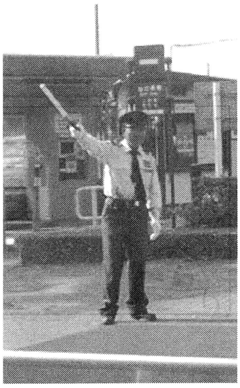
題字（表紙）佐伯なつみ
〔ユナイテッドシネマとしまえんの待合席にて友人が来るのを待ちながら〕

題字（表紙裏）松下文
〔2016 年 9 月 27 日大垣市内の住宅、地震も風もないのに倒壊とききオオ〜と思って住民の方の無事のニュースをを待ちながら〕

値段字（本頁）塔島ひろみ
〔2016 年 9 月 27 日東大病院皮膚科外来の待合室で呼び出しを待ちながら〕

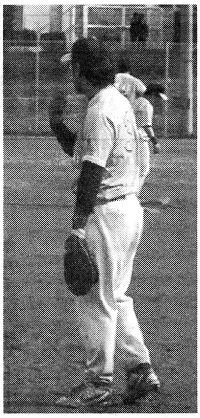


1



2

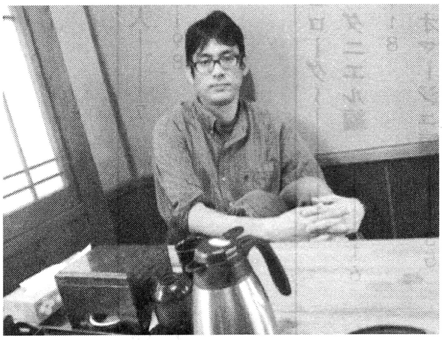
3



4

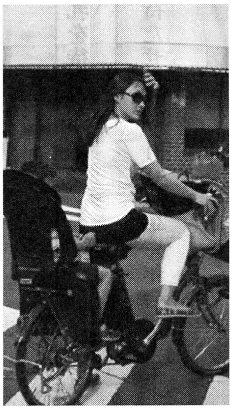
待ち人百景　1

5



6

7



8

9

10

11

12

13

14

15

草莽２５号 もくじ

待つ特集

景物

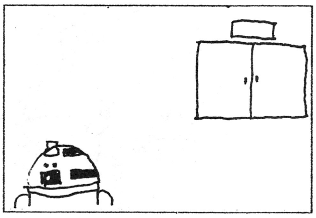
待ち人百景——1、4、5、19、23、41、44、79
＊写真解説——35
鳩待峠で鳩を待つ：鳩待峠① 広瀬鳥渡——表紙
鳩待峠で鳩を待つ：鳩待峠② 広瀬鳥渡——裏表紙

食物

銘菓・腹待ち師——6
＊写真——8
コーヒーまたはB定を待つ——26

誕生・死没

生まれてくるのを待つ 伊藤岳人——7
バトル・ザ・死ぬのを待つ——98
父が死ぬのを待つ かおる——132
＊写真——137



志村・村田

志村を待つ〜プロローグ〜——11
志村を待つ １ ダニエル編——16
＊写真——18
志村を待つ ２ オマージュ編——35
志村を待つ ３ 船橋編——20
志村を待つ ４ 撮影会編——36
志村を待つ ５ 旅行編——50
動詞研究——待つ 村田青朔——37
志村を待つ ６ 時鳥編——38
志村を待つ ７ 電車編——58
志村を待つ ８ しりとり編——52
志村を待つ ９ やけくそ編——65
志村を待つ １０ 時効編——77
電話口で小説を——126
＊写真——128

上野・浅草

まつまつ上野旅行——65
＊写真——74、75
待乳山で乳を待つ——83
＊写真——97
待乳山で乳を待つアゲイン——112
＊写真——121
２４号お待たせ記念２００９年忘年会——118

ドキュメント・ザ・尾行

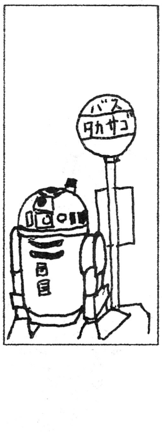
鳴くまで待つ　1日め　うたごえ編――20
＊写真――22
鳴くまで待つ　2日め　イオン編――38
＊写真――45、48
鳴くまで待つ　3日め　完結編――52
＊写真――57
鳴くまで待つ　4日め　再起編――77
＊写真――78
鳴くまで待つ　5日め　再起編（その2）――85
＊写真――100
鳴くまで待つ　6日め（再起編）成就祈願編――94
＊写真――101
鳴くまで待つ　7日め（再起編）成就祈願編続編――09
＊写真――104
鳴くまで待つ　8日め　正念場編――114
＊写真――124
鳴くまで待つ　9日め　石の上にも三年、待てば海路の日和あり編――122
＊写真――125
鳴くまで待つ　10日め　大吉編――129
＊写真――140
鳴くまで待つ　11日め　緊張編――138
＊写真――144

バス・電車

川崎旅行――50
＊写真――60、61
待合～町田から、松戸から――58
＊写真――64

座談・日記

待つにまつわる座談会第1回――13
塔島ひろみ・待ってる間にふと日記――91



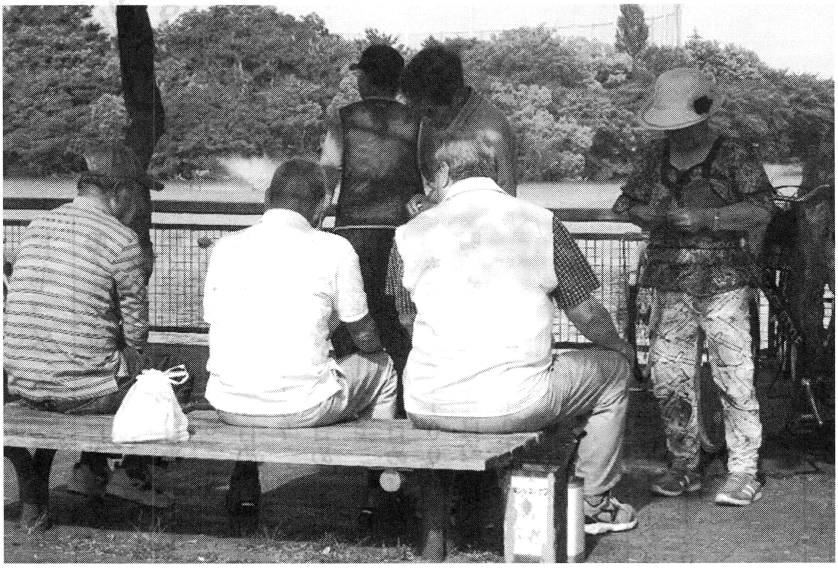
―のりた、車掌24号
発売を待つ―

（2012年1月1日）

車掌25号　もくじ

待つ特集

20、21

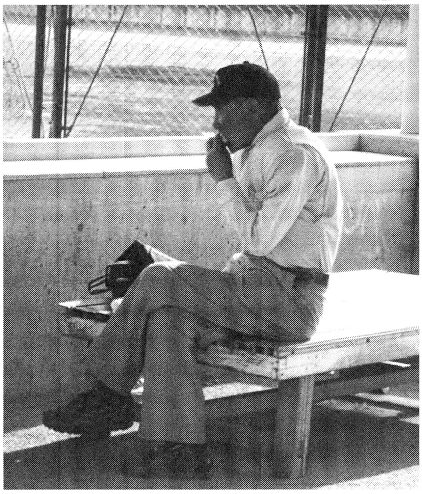


17、18、19

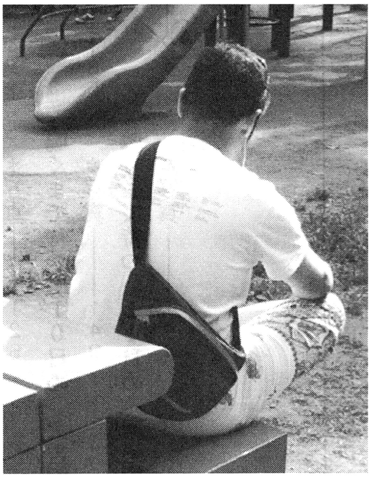
16

待ち人百景 2

22

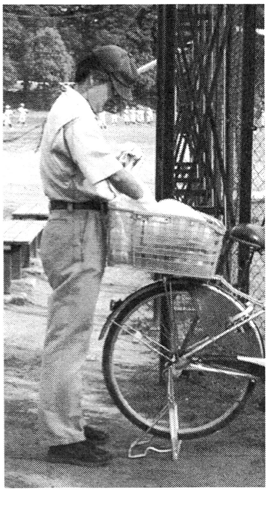


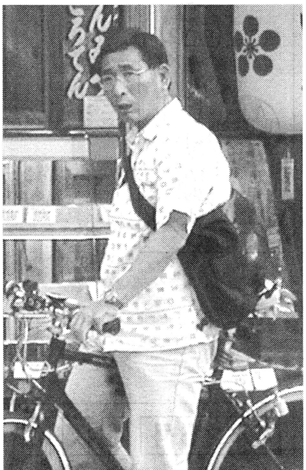
23



27

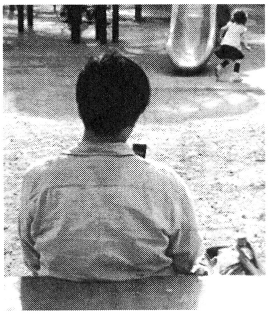
25





24

26

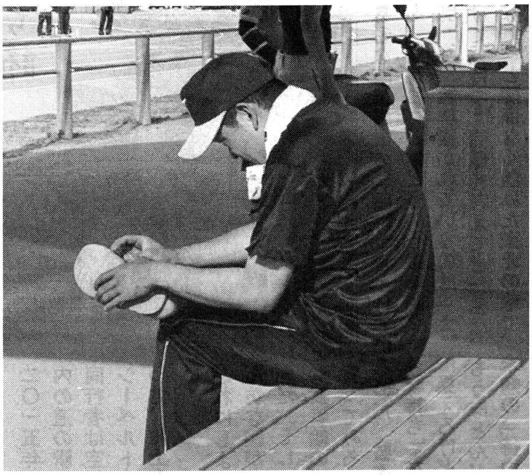


写真解説…三五頁

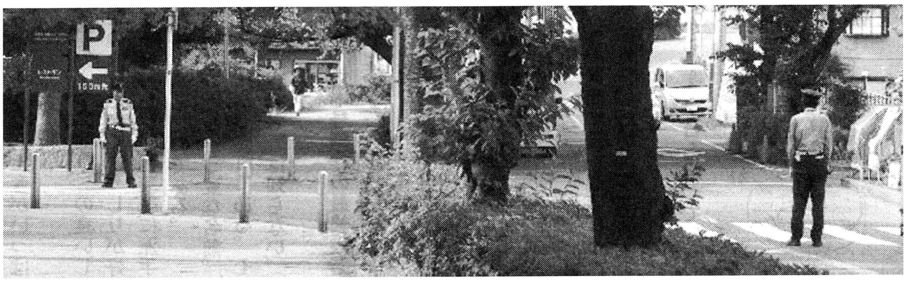
待ち人百景　3

28

29

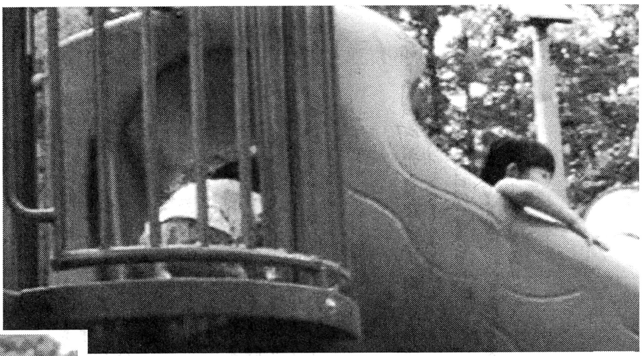


30



32

31



34

33

36

35

銘菓・腹待ち師

二〇一五年十月某日、福島第一原発から三十キロ圏内の道の駅「南相馬」で、私はお土産を選んでいた。同行者は空間線量を測っている。０．１４マイクロシーベルトとメモしている。私は売場をぐるぐる回って、お土産を選ぶ。おいしそうなお土産がいっぱい！

どれにしよう？　これを食べる人（同僚）の食いしん坊な顔が浮かんだ。この人はとかくずっしりが好きだ。そして持ってみて一番重たい、包装紙に派手な武者絵の描かれたお菓子を選んだのである。

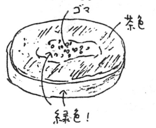
買ってみるとそれは「腹待ち師」という変な名前。野馬追で有名な南相馬市の「原町」とかけているのだ。製造者「栄泉堂」の住所も原町である。それにしても「腹待ち」とはどういう意味か？　「腹持ち」ならわかるけど、「腹待ち」は知らない。それに「師」？　絵に描かれているのは「士」に見えるけど。

何年もかけて「待つ」問題を考えてきた私は、もうほとんどの原稿が出揃った本号制作の最終段階で、こんな車掌と関係なく訪れた東北の地で、未知の「待つ」に出会ってしまったのであった。

職場で食いしん坊の同僚と食べると「おいしい」と喜んでくれた。とてもうれしい。木の実と小豆の小判型のお饅頭。材料を見ると「桑の葉」なんかが入っている。私はこの菓子が好きになった。そしてますます気になったので製造者「栄泉堂」に手紙を書いた。「よろしければ、この商品の由来や商品名の生まれた経緯などにつきまして、ご案内をいただけませんでしょうか」。

しかし１週間待っても、２週間待っても、返事は来なかった。友部正人への質問に続く連敗だろうか？（友部に「あなたは電車を待つと詩ができるんですか？」みたいな質問をしたが返事は来なかった）

あきらめて、待つのを止めた。そしたら、返事が来た。質問状を出してから、１７日も経ってから、返事ゲット！



代表取締役会長という最高位にある人物からの自筆状（↓）を読み「腹待ち師」の謎は解けた。２５年間原町（目黒区）に住んだ私だが、「腹待ち」は考えつかなかった。素晴らしい。これからは「腹待ち」を使いたいと思う。例「給食のいい匂いがしてきた、ハラマチだよん」など。（塔島）

拝啓

秋の色も深まってまいりましたがこの度は当社の「腹待ち師」をお買上げ頂き厚く御礼申し上げます。当市は現在は「南相馬市」となっておりますが昭和二十九年三月原ノ町・高平村・太田村・大みか村が合併、原町市となりました。昭和三十一年九月に石神村が合併、一町四村で市となっておりました。

「銘菓腹待ち師」はまずはネーミングから考えました。

腹…腹が鳴るようなおいしい菓子

待ち…食べるのが待ちどうしい菓子

師…薬膳料理第一人者に御来店頂き勉強した、

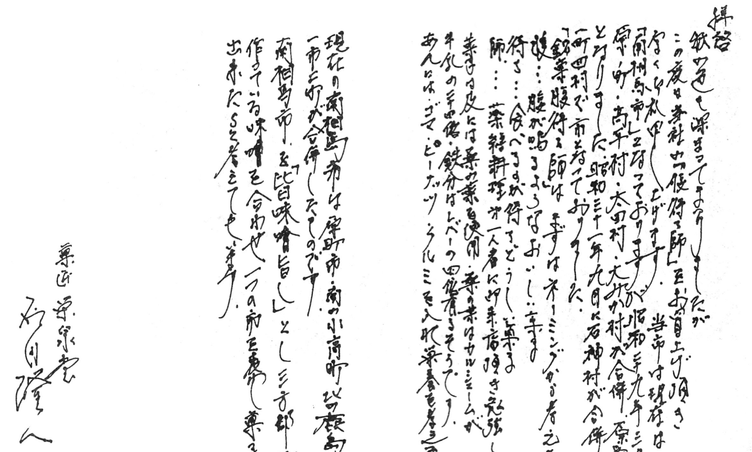
菓子は皮には桑の葉を使用・桑の葉はカルシュームが牛乳の二十四倍・鉄分はレバーの四倍有るそうです。

あんには、ゴマ・ピーナッツ・クルミを入れ栄養を考えました。

現在の南相馬市は原町市・南の小高町北の鹿島町一市二町が合併したものです。

南相馬市を「皆味噌旨し」とし三方部で作っている味噌を合わせ一つの市を表わし菓子に出来たらと考えてもいます。

菓子匠　栄泉堂　石田隆一



生まれてくるのを待つ

伊藤岳人

２０１４年１１月３日（月）～４日（火）

明日は連休明け。朝礼もあるので早く寝ようと布団に入った瞬間に入院中の妻から電話があった。本格的に陣痛が始まったみたいだという。ただし時間がかかりそうなので近くの実家で待機していてほしいとのこと。慌てて支度をして家を出る。終電３本前くらいの下り電車に乗って妻の実家へ。

最寄駅からの暗い道をとぼとぼと歩いて、ようやく妻の実家に着き、敷いてもらった布団に入ったもののなかなか眠れない。ようやくうとうとしたなと思ったとき、また枕元の携帯が震えていることに気がついた。いよいよ生まれそうだという妻の辛そうな声。時計を見ると３時すぎで、義母と義妹も起きてくる。急いでタクシー会社に電話をするがこの時間は配車ができないと言われてしまい、義妹に車を出してもらって十数分で病院着。分娩室には立ち合いをする僕しか入れない決まりになっているので、義妹にはそのまま帰宅してもらう。

分娩室に入ると、妻が分娩台の上で身悶えしながら小さなうめき声を上げていた。案内してくれた看護師が慣れた様子で妻の下半身の様子をこっそり見て「まだまだだね～」と明るい調子で言って部屋を出ていく。この状況と看護師の態度のギャップに驚いてしまうが、妻によればまだ６割程度の進行具合なのだという。そして（陣痛だから）痛みには周期があり、現在は１０分くらいの間隔で大きな痛みがやってくるらしい。そんな報告を言葉少なにしてくれるが、痛みと痛みの合間ではあっても身体的には楽ではないようで、表情はこれまで見たことないほど険しい。

というわけで人生初の「生まれてくるのを待つ時間」が始まった。

改めて見てみると部屋は８畳間くらいの大きさで、中央に近いところに分娩台があり、その横に曇りガラスの衝立を挟んで待つ人用？の長椅子がある。それ以外に丁度品としてあるのは、薬剤や医療器具、タオルなどが置かれた棚とクローゼット。トイレもあり、壁は白く、窓はない。

横たわる妻の身体からは２本のチューブが伸びている。１本は右腕につけられた点滴で、もう１本は壁際に設置された四角い機械に繋がっている。そちらのほうは服の内側に埋められているので身体のどこにつながっているのかはわからない。今まで見たことのないこの機械からは、脳波みたいな折れ線グラフが記された紙がべろべろと吐き出され、すでに大量の紙の束が床に垂れている。おそらくこれが『二十世紀終わりの夏、私はこんな風に子供を産んだ』の４８ページに出てきた「分娩監視装置」というものだろう。ほぼ規則的に同程度の高さの山なり線が続いていて、この大きな山の部分が陣痛のピークであるらしい。さらにこの機械には小さなスピーカーも付属されていて、ごうごうとマイクに風があたるような音が常に鳴っている。聞いたらこれが胎音なのだという。見るものすべてが物珍しく、室内を歩きまわりながら左見右見していたら「いいから座ってて！」と怒られてしまった。神経がだいぶ高ぶっているようだ。しおらしく長椅子に座る。ただ近くにいてくれるだけでいいという。

しかしなにもすることがない。一応文庫本を持参してきたものの、とても読む気分にはならない。衝立の向こうから聞こえる胎音とうめき声を聴きながら曇りガラスをじっと見つめる。しかしそうしていると頭の中が遠いところに吸いこまれていくようで、次第に自分がなにをしているのかわからなくなってくる。僕は今、子が生まれるのを待っているのだ。自分の心にそう言い聞かせてみたりもしてみる。

それにしても、生まれるという言葉に対しては若干の違和感がある。これから出てくる子はお腹の中でもう「生きて」いるわけで、「生まれる」の逆が「死ぬ」だとすれば、生まれるという表現でこの状況を受けとめるのはどう考えてもおかしい。「生まれる」は、厳密には受精した瞬間（つまりこの世に生命が発生した瞬間）に使うべき言葉ではないだろうか。

同じ意味で「誕生日」というのも変だ。正しくは単に「お腹から出てきた日」であり、つまりは誕生日などそれほど尊ぶべき日ではなく、もっと言えば同ルールで施行されている誕生日占い、星座占い、生まれ月占い等の類はまったく無意味ということになる。そういうことに異を唱える人がいないのはなぜなんだろう。

そんな瑣事なことを考えていたら、妻から呼ばれて現実に引き戻される。水が飲みたいとのこと。ペットボトルの水に、ストローのついたキャップを装着して飲ませてあげる。このキャップは、この日のためにわざわざ通販で買ったものなので役に立ってうれしい。二口ほど飲んでから苦しそうな表情のまま礼を言われる。ここにきて１時間以上経ってやっと役に立つことができた。

時計を見るともう５時近くになっている。陣痛と陣痛の間隔が短くなってくると出産が近いという話なのだが、直近の記録用紙を確認してみると、折れ線グラフの山と山のあいだはきたときとほとんど変わっていないようだ。というか、むしろ間隔はやや広がっているようにも見える。そのことを報告するとてもがっかりされ、直後にまた陣痛のピークがきたらしく呻き声とともに大悶絶が始まった。試みに「がんばれ、がんばれ」と声をかけてみるが、余計だったようで「うるさい！」とにべもなく言われてしまう。水の供給以外になにかすることはないかと尋ねてみるもないということなので、また衝立の裏へと避難。僕はいったいなにをやっているのか。

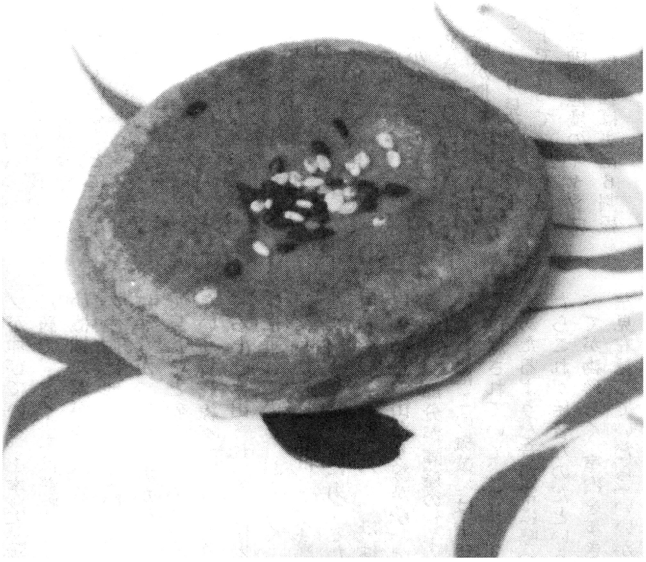
あれから看護師は一度も巡回にこない。そのことに気がつくとちょっと心配になった。部屋のドアを少しだけ開け、廊下を挟んだ向かいのナース室のほうを見てみる。するとガラス張りの壁の向こう側で看護師数人がなにか作業をしているのが見えた。おそらく「まだ当分」という判断で、あえて放っておかれているのだろう。ナース室の外に面した大きな窓からは強い日が差していてとてもまぶしく見える。密室の中にずっといたからまだ夜のような気分でいたが、もう朝なのだ。

胎音と妻のうめき声をＢＧＭに衝立の曇りガラスを眺めながら次に考えたのは、懸念の「嫉妬問題」についてだ。

４０歳までの僕の人生はとにかく最低最悪なものだった。暗く長いトンネルの中をずっと歩いてきたみたいだった。だから

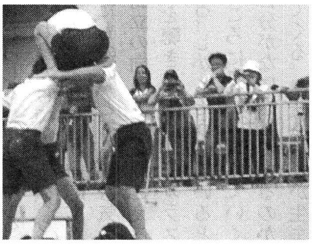
銘菓・腹待ち師（6頁）

開封を待つ銘菓・腹待ち師



腹行きを待つ銘菓・腹待ち師

空き待ち企画「二軍ちゃん」
—待ち人百景補欠ちゃん—



ピラミッドの完成を待つ２階席ギャラリー
（目黒区立原町小学校）

競技の終了を待つ上がった子
（目黒区立原町小学校）

ピラミッドの完成を待つ土台
（目黒区立原町小学校）

出番を待つリレー選手
（目黒区立原町小学校）

僕は40歳を期にそれまでの人生を自分の中で「なかったこと」にしたくらいだ。回り道をしすぎてまた元の道に戻ってきたようで、そのせいでたくさんの人たちに多大なる迷惑もかけてしまった。

それが親のせいだということは僕の中ですでに例証されている。僕はだから息子（書き忘れましたが生まれてくるのは男です）には、そんな人生を歩ませたくはない。愛情を持って育てたいと思っている。しかし問題はその結果として「子供が幸せになってしまう」ということだ。そうしたらその後、僕はその子に愛情を持ち続けることができるだろうか。もしかしたら、僕は彼のそんな人生に対して嫉妬の感情を抱いてしまうかもしれない。

実はこのことは以前、酒の席で人に話したことがある。するとネタだと思われたようで、その場にいたメンバー全員に笑われた。悩んでいたことを真剣な気持ちで話したつもりだったのに心外な気持ちになった。自分の子供に嫉妬する親なんているはずがないという話なのだが、それって本当だろうか。

6時になった。すると突然、複数の赤ちゃんの泣き声が外から聞こえてきた。実はこの部屋の隣にはもうひとつ分娩室があって、きたとき、そこにも使用中の赤ランプが灯っていた。だから、えっ隣には双子が？と思い慌てて廊下に出てみたら全然違った。ナース室からカートに載せられた何人もの新生児がどこかへ運び出されていくところだった。あとでわかったのだが、この病院はナース室に預けられている赤ちゃんを毎朝6時にお母さんのもとに戻すというスケジュールになっていたのだ。

朝の爽やかな光の中、背筋の伸びた看護師の手で颯爽と各部屋へと運ばれていく赤ちゃんを見届けてから分娩室に戻ると、蛍光灯の無機質な灯りに照らされた部屋の中央で相変わらず妻が身体をよじりながら低いうめき声をあげていた。直前の、壁一枚隔てたところで見た清々しいシーンとのあまりの落差にめまいがしてしまう。あんな明るい未来は我々には永久に訪れないのではないかとも思える。

7時になると朝食が運ばれてきた。眉根に皺を寄せて、無理だから代わりに食べてくれと言われる。メニューは、サバの塩焼き、ほうれん草のお浸し、茶わん蒸し、納豆、ワカメと豆腐の味噌汁、山盛りのごはん、それからほうじ茶。遠慮なく食べてみると、それほど薄味ということはなく、旅館で出る朝食のようで普通に美味しいが、この環境では味わって食べることができない。でもお腹が空いていたので完食。分娩室の中が納豆の匂いで満たされた。そして僕は眠くなった。

7時半、うとうとしていると院長先生がやってきた。定時の回診だという。診察を終えた先生はあと30分くらいで生まれると断言。えっそうなの？と一気に目が覚める。先生が出ていったあと、これは報知に値すると急いで義母に電話。今すぐ行くという。

改めて折れ線グラフを確認してみるが、特に変化があるとは思えない。妻に聞いても体調に特に変わりはないようだ。本当にもうすぐ生まれるのだろうか。

8時、義母到着。自転車できたそうだ。分娩室には入れないのでロビーで待ってもらうことにする。暇だろうからと朝刊を持ってきてくれた。部屋に戻り三面記事から開いてみるが、やっぱり気が散って読むことができない。いくら暇でも苦しんでいる人のそばではなにもできないということをこの一晩で痛感させられた気がする。そういえば30分経ったが状況に変化はなし。なぜかさっきの先生が見にくることもない。

9時、担当の助産婦さん（Eさん）初登場。そのEさん、局部をチェックすると、「うーん、まだだいぶかかりそうだねー」と院長とは正反対の判断を下し、すぐ部屋を出ていってしまった。申し訳ないが義母にはいったん帰ってもらうことにする。

それからはもう泰然自若というか、悟りの境地でこの難局に臨むことにしようと決める。長椅子に座り、僧のように腕を組んで目を閉じる。そしてなんとなくさっきの続きのことを考えた。自分の子に嫉妬を感じることなく、かつ愛情を持って育てるためにはどうしたらいいのか。

そういう不安を抱えてしまうのは、おそらく僕が自分の人生の中でまだ自己充足感を感じたことがないからだろう。いい年してそんなことを言ってる自分が恥ずかしいが、事実なんだからしょうがない。だからこれから親として自分を犠牲にして子のために生きるのが筋とわかってはいても本音では納得できないのだと思う。だって僕は自分の人生すらまだ始まっていないと思っているのだから。

そこまで考えてから突然に閃いた。僕はもうすぐ47歳になる。しかし本当の年齢は47歳ではない。40歳でそれまでの人生を「なかったこと」にしたのだから、正確には「7歳」なのだ。7歳といえば小学校に入る年齢だ。まだまだこれから自分の人生を好きなように生きていくことが可能な歳だろう。

7歳と0歳の関係ってなんだろうか。少なくとも親と子の年齢差ではない。そうだとしたら兄弟に近いかもしれない。もしかしたら父親としてではなく兄として彼に接すればいいのではないだろうか。兄であっても保護者と同じ愛情を注ぐことはできるはずだ。そして同時に自分の人生も少しずつ充実したものにしていけばいい。

そう思ったら気持ちが楽になった。気持ちが楽になったら、いつのまにか寝てしまった。そして目が覚め、慌てて腕時計を確認すると11時だった。立ち上がり衝立の向こう側を確認してみるが、状況はまるで変わっていない。やはりEさんの判断のほうが正しかったようだ。まだまだ先は長くなりそうなので今日欠勤する旨を会社に伝えにいくことにする。それと午後にある打ち合わせもキャンセルしなくてはいけない。妻にまた水を飲ませてから廊下を歩いて照明の明るいロビーに入ると「シャバに出た」という気分になった。

しかし、思っていた以上にあちこちに電話をしなければいけない必要が生じ、中座の時間が長くなってしまった。そして急いで分娩室に戻ると、思いもよらない事態が展開されていた。少し斜めにされた分娩台の上で妻の両足は大きく開かれており、その前にEさんが立って、なにやらごそごそとやっている（大きな布で覆われているからこちらからは見えない）。仰天しつつ、青い顔の妻に尋ねると、席を立っていたあいだに破水したのだという。

これからいきむので旦那さんはそれに合わせて妻の後ろで首の裏を押さえてくださいとせっぱつまった声でEさんに言われる。それからは陣痛のピークがくるタ

イミングで妻がいきみ、そのつど僕が首をおさえるという作業が何度も続いた。しかし何回繰り返してもまったく進展がないようでEさんは焦っている。そんな状態が（たぶん）２０分くらい続き、妻と子はこのまま死んでしまうのかもしれないと思った頃、院長先生再登場。Eさんが局部を見せながら経過を報告すると、先生は「では」というような顔をして出ていき、数分後若い看護師と一緒に戻ってきた。先生は吸引器のような機械を、看護師は太い注射器のようなものを手に持っている。旦那さんは引き続き首を押さえていてくださいとのこと。妻の後頭部だけを見ながらひたすら首を押さえ続ける。その向こう側でなにが行なわれているのかはまったくわからない。ただ、布の向こうで「はいまたいきんでー」「そうそう上手上手」「もう少しもう少し」「がんばってあともう一息」というようなEさんの言葉が再々聞こえてくるだけ。

しかしそれからはあっと言う間だった。「ほら、生まれたー」というEさんの明るい声に驚き、思わず上体を起こすと、布の向こう側に小さな紫色の生き物の頭が見えた。Eさんが高く持ち上げて我々に見せてくれる。生き物というより濡れ雑巾のようだった。ぐったりとした顔をしている。それは、暗く長いトンネルの中をずっと歩いてきた顔のようにも見えた。

空き待ち企画「二軍ちゃん」—伊藤岳人の「待ってるときにふと考えていたこと日記」から

２０１３年１１月２３日(土)１５時０５分頃〜１４分　ＪＲ北朝霞駅で東京方面行きの電車を待っていたときに考えていたこと。喉が乾いたので駅の階段の踊り場にある紙コップのコーヒーを買おうかどうしようかというようなこと（けっきょく１１０円と高いので買わず）。この街にはどうして薬局がないのかというようなこと。

２０１３年１１月２３日(土)１５時５８分頃〜１６時１分　東武スカイツリー線越谷駅で急行久喜行きの電車を待っていたときに考えていたこと。久喜が東武動物公園より先であることが意外だった。もうこの時点で東京より気温が低いんだなあとかそういうこと。

２０１３年１１月２３日(土)１６時２９分頃〜３４分頃　東武伊勢佐木線久喜駅で館林行きの電車を待っているときに考えていたこと。この駅で電車を待っている人は皆、服装が暗く（黒い服を着ている人が多い）、表情も暗い人が多いのはなぜだろうとかそういうこと。

空き待ち企画「二軍ちゃん」—塔島ひろみの日記から

４月１７日(日)

２９　ひろみが看護士を待たせる

今日のシャワーは2番目だが、どうせ医者が来ず、また裸で待つことになろう、と看護士に言われる。なのですごくゆっくりシャワーにする。そしたらゆっくり過ぎたらしく、入っている途中で看護士に処置室に用意がしてあるから〜と声をかけられてしまった。私が待たせた分、私が待つ時間は減ったようだ。しかも私を待つ間、看護士は通常処置中に行うネットの穴あけや、テープ切りなど、あらかじめやっておき、準備万端になっている。処置が早く済む。

３０　老婆が若者を待たす（婿が結婚を待つ）

入院中なのでどんどん読書が進み、源氏（四）を読み終わった。有吉佐和子『紀の川』に行く。ｐ１３、紀本家の大御うさんである豊乃が、孫娘の花を真谷敬策に嫁がせることに決まってから（結納から）2年間も、嫁入り道具を揃えるために相手を待たした。

「二年待たせた私も私やが、文句云わんと待っておくれた敬策はんは、私が見込んだ通りの大物やったらし」

文句を言わずに待つ人は大物である。

大物は待てる

ということがわかる。

待った大物：徳川家康、真谷敬策。

例が二人だけど、この価値観は本当か？　またどうして待てる人は大物なのか？　すると待てないと小物？　ほかに例は？

３１　花嫁と祖母が村人を待たす　ｐ１４

嫁ぐ前に慈尊院の弥勒堂に詣る二人を見送りのみなが待っていた。

待ち合わせていない場合、勝手に待ってる人は早めに来て待たないといけない。（追っかけの人がアイドルの入り待ち出待ちをするなど）一方、相手は相手がいなくても待つことがなく、スケジュールをこなしていくだけである。一方通行の待ち。

人気者は人を待たす

３２　花嫁とその一行が休息所の人々を待たす　ｐ２０

よくいろんな人々を待たせるご一行である。吉井家は紀本家より低格なので、休息所をたのまれて感激して受けた。しかし頼まれた方であるから「頼まれた方」＜「頼む方」という図式からは吉井家の方が格上だ。が、仕事として休息所が花嫁を待たす、てのはあり得ない。待たしたら、仕事を果たしてない、ことになる。どっちみちここまで一方的に待たすばかりの花嫁である。つまり、

主役は待たせ、待たされない

ということである。例外はある？

３０のつづき

敬策が花嫁を待つ＝真谷家が紀本家（の準備が整うの）を待つ

ってことでｐ２２、この待っている2年間を真谷家は無駄にせず、この間に祝儀用の本膳四ツ椀を輪島の椀与って人に新しく作らせたそうである。

そして、更に次の会話が。「可愛らしのう」「敬策はんも待ち甲斐はあったわのう」

同じ期間を待ったとき、待ってたものが、予想以上だと待ってた辛さが「甲斐」という二文字に昇華される。

ってことは、予想以下だと「こんなもののために俺は二年も待ったのかよ！　畜生！」てことになるだろう。

未知のものを待つときに、結果はすでに終わった「待つ」の意義を左右する大きな力を持つ。

その後初夜があり、直後「待っていたんや」（ｐ２６）と感動して敬策が言った。なんでこんなこと言ったのか？

それは待つ、ということが大変なことでそれを我慢してやりとおした。それは君（花）に対する期待感が尋常ではなかった、そしてやっぱり待ってた甲斐があってこの体合わせの気持ちよいこと！❤と、うれしかったので言ったのかな？　よかったね。

待つことの意義は、結果によって左右される、あとにならないとわからない。（努力と似ている？

売り男・志村二朗氏の失踪は、車掌にとり類天疱瘡より深刻で悲しい事件であった。２４号を出すまでの約6年、志村につなぎの手紙を送っといた方がいいか?と幾度となく考えたが、そのたび、志村は１０年経とうが５０年経とうが待つ男（待ち男）ではないか、と、一瞬でも不安を感じた自らを恥じ、送るのを控えた。

志村への最後のアクセスは、次の仕事の依頼である。

車掌２５号企画

「横田滋さんまたは早紀江さんに「待つ」ことに関して話をきく機会が到来するのを待つ」

最終目標：横田滋さんまたは早紀江さんまたはその両方に、「待つ」ことに関してのインタビューをする

やり方：

①横田さんたちが出没しそうな場所を、メディアの情報などをもとに、あたりをつける

②横田さんたちが出没しそうな場所をうろついたり、張り込んだりする

③横田さんたちに出くわすまで、②をくりかえす

④ついに、横田さんたち（またはその一方）に出くわす

⑤尾行し、横田さんの行動・様子を観察する

⑥①～⑤を何度かくりかえす

⑦ついに、横田さんたち（またはその一方）が、どこでどういうふうに話しかけたら、好意的に応えてくれるか、その行動様式やノリ、好き嫌い、などを把握する

⑧横田さんたちに、どういう風に話し掛け、インタビューまで持っていくかの作戦を練り、決める

⑨作戦を実行する

⑩インタビューを実行する（横田滋さん、または早紀江さんまたはその両方に、「待つ」ということに関して話を聞く）

やる人：

伊藤岳人と志村二朗

伊藤岳人は自分が調べた情報を逐次志村に提供、志村はそれを参考にしながら、自分でも調べ、あたりをつけ、②～⑥を実行する。

伊藤岳人は神奈川県に行ける日（仕事でたまたまそっち方面に行くとか、一日暇であるとか）が来るのを待つ。その日が来たら、②を実行する。また神奈川県に行ける日が来るのを待つ。その日が来たら、とくりかえし、⑥まで行う。⑦⑧⑨⑩は、単独でも合議して行っても、どっちでもいい。

協力する人：

車掌編集部員全員

横田滋さんまたは早紀江さんが出没しそうな場所について、情報を志村に提供する

志村を待つ
～プロローグ～

この仕事依頼が２００８年1月半ば。それに対して、同２４日付で、編集部は次の返信を受け取っている。

お便り拝見致しました。
取り急ぎお返事差し上げます。
先日はその場でお引き受けできず申し訳ありません。
話をきく機会が到来するのを待つ企画をお引き受けします。
お返事まで。
志村二朗

この間、横田夫妻のニュースを聞くたびに、どこかしらで企画を遂行しているだろう売り男・志村に思いをはせながら、車掌２４号の編集を急いだ。

さて、そして２０１３年、ついに２４号ができた。笑いながらお知らせを送ったところ、意外なことに、そのはがきは宛て所にたずねあたらなかった。

２４号における志村の活躍と天才ぶりは、尋常ではない。のりの人として同号に登場した菊池弘紀氏は、２４号の感想として、こう述べている。

伊藤岳人、志村二朗、法田友里恵
この人々にはおどろきました。各氏、独自の豊かな世界を持っていると思いました。（後略）

編集部は専ら、志村にこの号を見せたい、その一念で編集を急いだ（気持ちだけ）といっても過言ではない。

なのにやっとできたら、その事実を本人に伝えられなくなっていた。志村は何故編集部に断りもなく宛て所を変えたのか？　しかも横田氏情報が伝えられないところへの引越しは、２５号企画からの脱退も意味する。

程経ずして不思議なことが起きた。

編集部からスタッフの神田ぱんに宛てたハガキが「宛て所にたずね当らず」、戻ってきてしまった。しかしそこは神田の住所であり、当人に聞いても間違いがなく、また「神田」でも「渡辺」でも届くはずだと言うのである。

郵便局へ。その旨、神田からきた年賀状なども証拠に提示して問い質すと、調査してくれ、荒川局の配達員が（たまたま担当外の人がその日配ったため）間違

えた、ということがわかった。
志村（郵便局員）のような律儀者が職員であるところの郵便局も、場合によって間違いをする。この事件は、必ずしも志村が宛て所不明者になったわけではない、ということを示した。

2013年11月某日、その住所の宛てる土地へ足を運んだ。

その前に編集部オフィスの大家・丸山氏宅へ立ち寄り、次の契約を行わない旨告げる。前大家（姉の裕子氏）時代から17年ぐらいも借り続けた6畳間は、離婚後はほとんど物置となっていた。そこをまもなくついに出て行くのである。丸山氏はとてもがっかりして、「あーーー、そんな予感がしてたんですよ…」と言った。2月に真ん中の人が出ていき、8月に手前の人が亡くなり、今年は悪い年なので、きっと塔島さんも出ていくんじゃないかーと、予感してたそうだ。「風呂がない木造アパートにいまどき物好き以外に住む人はいない。しかも手前の人は室内で急死。死人が出た部屋には借り手がつかない。あーーーーー……」と、大きな嘆息とともに深々と頭を下げ、長年のお礼を言われた。

しかしこっちは驚きだ。中田旭氏！　最近見かけないとは思ってたけど、死んでたなんて！　麦子の自転車を駐輪場に止めるのを手伝ってもらったのはついこの前のことだけど（麦子は8月以降だと言い張っている）、それが最後だったのか。

鹿島荘（志村のかつての宛て所）行きを前に、心が乱れ、不安がよぎる。志村も死んじゃった、ってことはないか？　「中田」氏の姓は、志村の住所「下小田中」と似ている！　これから行くって時にこの話を聞いたのは、何かの予兆ではないか？

最寄駅の武蔵中原駅は、目黒線の延伸により意外に近く、考えごと（志村の生存状況の整理）をしているうちに着いていた。①鹿島荘はあり、志村もいる。郵便局の間違い。②鹿島荘はない、志村は自己都合ではなく鹿島荘のせいで引っ越した。③鹿島荘はあり、が志村はいない。志村は何らかの事情で転居または死亡。

武蔵中原駅より「宛て所」に向かう。中原街道を歩く。ロッテリアがある。車掌24号p316に登場するロッテリアだろうか？　番地が近くなってきたので左に入ると、白菜畑が広がっている。地図と番地を見ながら、曲がり、戻り、ぐるぐる回ってまず、「鹿島」が見つかった。3番違いなので大家であろう。そして私道を隔ててもう一軒「KASHIMA」も発見。そしてその裏にアパートが！　もしも、もしもここが鹿島荘だったら！（→③）と泣きそうになりながら見ると、違うアパート名が書いてあった。該当部屋の住人も志村ではなかった。停めてある自転車にも「志村」はなく、何より番地が「8」だった。宛て所は「7」なのだ。

「7」を探す。「鹿島」は10、KASHIMAは不明でその裏が「8」、そして畑をはさんでその先は「5」。「7」と書いてある建物がなく、また見る限り付近にあるアパートは「8」のフラットMと「5」のクレールだけ。つまり②である。志村は生きている。たぶん「KASHIMA」（豪邸）が建つために「鹿島荘」がどいた、と思われる。

しかし・・・。

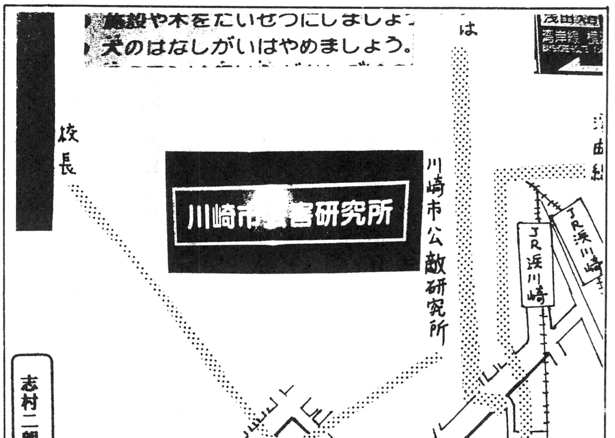
「死人が出た部屋に借り手はつかない」

丸山氏の予言めいた言葉が頭をよぎる。実はもう一つ、可能性「④志村が死に、借り手がつかないのでアパートを取り壊した」が存在した・・・。

そのあと「ダニエル」に行った。24号での志村の不自由研究に貢献をした、志村作「マップ五・田島地区」に載っている場所である。そのために武蔵中原で電車を待っていて驚いた。何と目の前のビルが「鹿島ビル」だ。更に驚いたのは、ダニエルの最寄と思われる「浜川崎」で電車を降りたら、無人駅だった！　そして浜川崎から田島町までは、日本鋼管の縄張りの何とも言えない暗い、黒い、巨大な溝川のような一帯だった。ダニエルを見つけ心からほっとした。

（塔島ひろみ）

志村を待つ　～プロローグ



志村二朗作成「マップ五・田島地区」より

待つにまつわる座談会第1回

塔島ひろみが日々の生活の中で抱いた「待つ」にまつわる疑問について自由に話し合い、解決していく「待つにまつわる座談会」。第1回目の議題はこんなだ。（←）

［議題1］　読み物「単なる撮影会」（車掌24号所収）における待つについて
この読み物で、待ち合わせたのは、誰と誰か？
何故、彼らは田島地区で待ち合わせたのか？

［議題2］　『関東大震災時の朝鮮人虐殺―その国家責任と民衆責任』（山田昭次、創史社）における待つについて
関東大震災時に虐殺された朝鮮人の故郷の肉親は、帰らぬ彼らをどんな想いで待っていたろう？（山田昭次の疑問）

［議題3］　『舞姫』（森鷗外）における待つについて
舞姫の行為（自分の待ち時間に他人を巻き込む）はいいのか？

［議題4］　「時鳥」について
時鳥はどうして鳴くのを待たれるのか？
また「時鳥」と書くのは何故か？
加えて、「待つ」と「時」の字が似ているのは何故か？

誰もが一度は疑問に思うが解決しないまま今に至る、そんな疑問を今編集部が解決に導きます！　お楽しみに！

塔島、待つ

会場は「ダニエル」。前ページで塔島が見つけた、行方不明の志村二朗と関係する喫茶店だ。この辺鄙な町の一角にある平凡なこの店を、志村は何故数度にわたり利用したか？　その理由が24号の企画と関係しない、志村自身の事情によるなら、大安の日の午後、志村がふらりとここダニエルを訪れることは、大いにあり得ることだった。失踪した志村とたまたま出くわす偶然を待ちながら、2013年12月21日、座談会はスタートした。

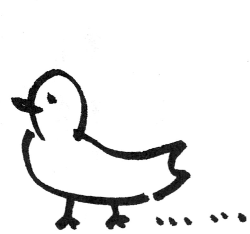
と言っても、開始時間を過ぎても参加者は塔島ひろみ1名で座談にならないので、とりあえずコーヒーを待つ間原稿を書く。（↓コーヒーまたはB定を待つの塔島ひろみ原稿参照）

コーヒーが来ても、参加者が増えないので、続き（←）を書く。

何故田島地区か、という問いに対し、今思いついたのは、ここは配達地区として志村のテリトリーなのではないか？　川崎の中で鹿島地区、鋼管地区、志村地区がある。郵便配達でよく回るところで、その中で気に入った志村な場所。それがダニエルであり、サン（ダニエル同様24号に頻出）だという考え。ウエイトレスの女性のイントネーションは少し、変っている。くめじまの人かもしれない。顔も何か、そんな感じだ。

小林絵理子、来る

塔島　（前略）（下の「志村を待つ」導入部の説明をしている）志村さんにお願いしているのは横田滋さんと横田早紀江さんがいそうな場所をウロウロしてもらってたまたま会う機会を待って、でその機会が到来したら二人にめぐみさんを待つことについての質問をして、車掌24号が出てからの締め切りになるからゆっくりやって下さい的な感じで、フーフー、フーフー、質問をして。
絵理子　はははは！
塔島　下さいと言う活動をお願いしてるんです。
絵理子　はははっ！
塔島　それでどうなったかを、あのー
絵理子　どうなったんですか？
塔島　それが、中間報告もないし。
　で、本当に彼がそれに取り組んでくれてるんだったら、私たちも横田さんと会えそうな場所に行けば、彼がいるかな、かかか、と思ったんだけど、ま、それよりは家に近いとこウロウロする方が、
絵理子　アーそれよりはね、会えるかー。
塔島　じゃまー以上です。
絵理子　だいぶ理解できました。ははは



そのこのきちんと調べてるのか？！

塔島　次の話題にしましょう。関東大震災のときに虐殺された朝鮮人の
絵理子　はい
塔島　肉親の人たちは帰らぬ彼らをどんな思いで待っていたのかな？　つまり
絵理子　はい
塔島　関東大震災のときに虐殺された朝鮮人については
絵理子　はい
塔島　いろんなところで語られてるんですけど、その時に待つ側の人たちは、どうだったのかな？という
絵理子　うん。待つ側の。
塔島　横田さんにしてみればめぐみさん側ではなく横田さん側の。
絵理子　あー
塔島　拉致のことについては、待つ人たちの気持ちが、どんだけ辛い気持で待ってるとかいろいろ言われてるけど、こっちの方では、何かこの人(山田氏)とかこんな本とかちゃんと出してるくせに
絵理子　はいはい、うん
塔島　ここの辺はすごい簡単な一文で。なのかな？ぐらいで片づけちゃってるけど。（↓二軍ちゃん）
絵理子　なるほど。
塔島　あのそのこのー、きちんとした、誰か調べたりしてるのか。

絵理子　ですよねこれ。「のであろうか」て、憶測ですからね。

食べながら解決

絵理子　要するにこの家族とかって、たぶん相当数

塔島　ものすごい人数

絵理子　だからたぶん中には、故郷の人たちでも、あいつ死んだ方がいいな、って思ってる家族もいるだろうへへへーので

塔島　一人ひとりちがくて、ひとくくりにはね

絵理子　みんな肉親が死んで悲しいと思ってるというわけでもないのでー

塔島　うん

絵理子　バラバラだと思います。

塔島　うん

絵理子　本当はいなくなってよかったなって思ってるかもしれないし、または、いなくなってから初めて、大事な娘たちだって思ったのかもしれないし。

塔島　なるほど。

絵理子　すみません、食べながらで

塔島　いえいえ、**急にいなくなった肉親を待つ人の気持ちについて、えっと人によって違うと**。結論は。

絵理子　うん。

失礼じゃないのか？！

塔島　何か、好きな、一緒に暮らしてる人（森）がどこかへ行ってしまい、いつ帰ってくるかわからず、それで寂しく、っていう人（舞姫）が、一人で眠れなくて、眠くなるまでの間が辛いと。

絵理子　うん。

塔島　なので、その間の眠くなるまでの待っている時間

絵理子　うん

塔島　友達の家に行ってたくさん話をして、そうすると話し疲れて、自然に眠くなって

絵理子　うん

塔島　疲れた頃に帰ってすぐに布団に入ってパッと眠る

絵理子　うんうん

塔島　っていうことをした人がいるんですよ、小説の中で。

絵理子　うん。

塔島　で、その友達に失礼じゃないのかな？て思って。

絵理子　その友達――、…夜―ですよねえ。

塔島　夜ですね。

仲良しならよいのか？

絵理子　友達が夜型の……確実に起きていて、頻繁に、っていうかそういうことをしても怒らないって間柄なんですかねえ。

塔島　わからない。それによって違いますかね。とても仲良しで、お互いにそんなことし合ってる感じだったらば？

絵理子　そうですね。とても仲良しで行ったり来たり、…なら別に失礼じゃないけど、

塔島　関係によって違うと。

絵理子　うーん

舞姫はＮＧ

塔島　待ってる間に何かするじゃないですか。

絵理子　あ、はいはい

塔島　待ってるときに何かをするとき、どっちが主体なの？　待ちながら、何かをするってときに、どっちをその人はしてるのかな？　待ってる間に時間がもったいないからメールをするとか、

絵理子　あー

塔島　そういうのって、待っていないときにメールをされることとと、何か、違うのかな？

絵理子　その待ってる相手以外の友達を時間つぶしに使うってことですよね。

塔島　その行為の重みっていうのは薄れるのかしら？　誰かを待ってるときに、なかなか来ないからその間に何かをしていて、来たからそこでパッとやめたり。

絵理子　待ってて暇だから友達に電話して、話が盛り上がってて、であー来たから切るね！って切られたら、切られた方としては何か不愉快。

塔島　そうだよね。

絵理子　突然切られたら不愉快ですよっ。

塔島　うん、ふふふ

絵理子　やっぱり片方としては、あー私はつかわれたんだー、てなりますよね。

塔島　そうだよね。**待ってるときに人を使うの（舞姫）は間違いと。**

どんどん解決

塔島　ホトトギス、というのはどうして鳴くのを待たれるのか？

絵理子　そうですね―…鳴くまで待とうホトトギス。

塔島　と、時鳥と書くのは、待つことと関係あるのかな？　時と、待つと、字が似てるのはどうしてかな？という。

絵理子　めったに鳴かない鳥なんですかねえ…。それプラス、声がきれいだからみんなに鳴きたがられている？

塔島　その、季節が関係しない？

絵理子　春に鳴く。

塔島　春に鳴くと？　春を告げるから？

絵理子　あ、春を告げる鳥だからこう書くのか。

塔島　わかんない。じゃあ**声がきれいだから。めったに鳴かず季節が来たら、春に鳴くからだと。**

絵理子　そうですね。うん、待つと、時と、似てますね。

今はもう誰も待たない時鳥

塔島　なんて鳴くの？

絵理子　あれ？　**ホーホケキョはうぐいす**か。

塔島　うん。

絵理子　あれ？　ホトトギスって何だっけー？

塔島　わかんない。**ホーホケキョはうぐいすだよね。**

絵理子　**ホーホケキョはうぐいす**ですか？

塔島　似てるよね。だけどなんか、鳴くまで待とうぐいす～って何か

絵理子　言わないですね。

塔島　ホトトギスの方が短歌に出てくる

絵理子　なんか言葉で、姿が思い浮かばない。

塔島　今いる？　ホトトギスって？

絵理子　あんまり都心ではいなさそう。絶滅してはいないだろうけど。
塔島　あ、今でも待たれているのかしら?
絵理子　あ、ホトトギスが鳴くのを?
塔島　鳴いたらわかるのかしら? わかる人は?
絵理子　いま、うるさいからわからないー—じゃないんですか?
塔島　鳴いても?
絵理子　鳴いても。
塔島　じゃあ今はもう待たれてないのかなあ。
絵理子　待たれてないと思いますよ。昔はー、何も娯楽もないしー、うるさくもないしー、灯りも何もないからー。
塔島　あー
絵理子　楽しむものが鳥の声ぐらいヒヒヒヒヒー。今は面白いものがありすぎるからー。
塔島　なるほど。
絵理子　**鳥が鳴くのを待つ時代はもう終わったのかもしれませんねえ。**
塔島　今は鳥を待つなんて風流なことはしない。もはや鳥は待たれていない。

米朝は死んだか

絵理子　25号はいつごろ出す予定?
塔島　もうすぐできそうだって時に、何かを待って、出そうかなと。いう気はしていて。
絵理子　何かを。あー、何かを待って!
塔島　志村さんと出会えたらとか、
絵理子　あーはいはい、なるほどなるほど
塔島　あとは死ぬ人を待つ企画(↓バトル・ザ・死ぬのを待つ)をやってるじゃないですか。
絵理子　あー
塔島　やってますよね? そういえば誰だっけ? 小林さん。
絵理子　へ、へ、へ、へ、だーれ? もう何て返答したか忘れちゃった。
塔島　えーといた人は大島渚と赤塚不二夫と森繁と横田さんと石原慎太郎と、あとー、桂
絵理子　米朝
塔島　米朝さん。はい。そのぐらい?
絵理子　私、赤塚不二夫だった気がするー
塔島　そんな気もしますね。
絵理子　酒飲みだからすぐ死ぬかなーと思った気がする。
塔島　あと残ってる人はたぶんすごく少ない。
絵理子　そうですね、**山城新伍も死にましたよねえ。**
塔島　もう誰が死んで誰が死んでないか…
絵理子　死にましたよね? ん?
塔島　わかんなくなっちゃったーははは
絵理子　はははは…**大島渚もやっと死んだじゃないですか。**
塔島　死んだっけ?
絵理子　死にましたよ、そんでデビッドボーイがすごい残念だみたいなことを言って、
塔島　ねえ、桂米朝って、死んだっけ?
絵理子　わかんない。
塔島　桂米朝やっている朝田さんから連絡が全然来なくなっちゃったから—

朝田も死んだか?

絵理子　朝田さんて誰ですか?
塔島　尼崎に住んでるんですよ。その人が桂米朝の家の近くで
絵理子　へえー
塔島　亡くなったらお葬式も取材しますとか言ってたんですけど、全然連絡がー
絵理子　あー
塔島　これ(24号)には出ています。耳栓をして観戦したり。
絵理子　そうなんですか。あ、ほんとに尼崎に?今、一番ホットな土地ですよね、尼崎。
塔島　何で?
絵理子　殺人事件が起きたり。尼崎連続…
塔島　え?
絵理子　すごい事件があったじゃないですか、女の人が家庭内を支配して、親族とかいっぱい何か、
塔島　あの、大勢家族がいて、
絵理子　そうそうそう! それでつかまった女の人が、**警察**で事件の真相を言う前に、自殺しちゃって
塔島　うーんうんうん。
絵理子　真相がわかんなくなったのと、最近も一個起きたのは、
塔島　また別に?
絵理子　別の事件が最近起きてーアパートでー女の人がー近所の行き所のない子供たちを自分のアパートに住まわせて
塔島　あーーーー
絵理子　それで何か自分の娘と付き合ってる? 言い寄ってきた男の人かなんかを虐待したかなんかで
塔島　あーーー
絵理子　尼崎は何か、悪いことがー、ハハ
塔島　列車の事件も起きたじゃない。列車で大勢死んだじゃない。
絵理子　ははははは
塔島　JR西日本かなんかでさー
絵理子　アハ、アハ、アハ
塔島　あれも尼崎
絵理子　あれも尼崎、なんか
塔島　大変だね。
絵理子　**大変な土地**……ハハハハーーーー
(大笑)
二人　(爆笑)
絵理子　**悪い事しかない~**~ハハハ
塔島　ふふふ。そう、そこに住んでるんですよ。

アイスコーヒーにガムシロップの驚き

(伊藤到着)
塔島　どこから来ました?
伊藤　あの、川崎新町です。
塔島　あ、あの南武線の支線の
伊藤　はい
塔島　それ、本数がないよね
伊藤　そうですね
塔島　無人駅じゃなかった?
伊藤
塔島　一個先の駅は無人駅だった。
絵理子　**驚き**ですよね
伊藤
伊藤　すいませんアイスコーヒー下さい
店員　はい、アイスコーヒー、ガムシロップ入ってるのと、入ってないのと、どちらを。
伊藤　入ってる方。
店員　入ってる方?!
伊藤　はい。
店員　はい。

色盲の人

塔島　知り合いの人で、色盲の人っていないですか?

伊藤　・・・

塔島　私が今勤めてるところで車掌3号の表紙が突然評価されて、で何かサイトに同じようなものを載せることになって、作ったんですよ。同じような仕組みで色盲の人だけに見えて健常者には見えないっていうのをやってるんだけど、肝腎の色盲の人がわからなくって確認できないんですけど、知ってる人でいないですか？

伊藤　昔の職場にはいましたけどその人がどこにいるかわかんないです。

塔島　はーんなるほど。

伊藤　知り合いではないですけど、**ひさうちみちおは色盲です。**

塔島　あ、本当に？　そっか。そうですか。

解題・読み物「単なる撮影会」

塔島　議題2以降はすぐにポンポンポンと解決したんですけど、議題1がほとんどできなくて。せっかく伊藤さんが来たので、議題1についてもう少し話しましょう。じゃあ議題1について考えてください。

伊藤　えっと、「単なる撮影会」を見つけ出せなかったんですけど。

塔島　えっと、「よみもの」っていうとこから始まるんですよ。

絵理子　（「単なる撮影会」を見ながら）「雁が楽しそうに鳴いている」っていうの。

塔島　ここはわからないですね。

伊藤　うむ。

塔島　この「僕」って誰？　まずここがわからないです。

絵理子　あー、

塔島　何を撮影してたのかな？　ここのマップ（24号所収の「マップ5」）に出ているいろんなものを撮影したのかな？　この意味としては、誰か第三者がいるのかな？　どう思います？　普通に読むとその「僕」っていうのが第三者で、マップ1を配った人が志村さんでしょ？

伊藤・絵理子　ちんもく

塔島　何でここなのかな？、まず。志村さんちは全然遠いんですよ。で、そこに書いてあるのでは、田島に来るのが必然的な感じがあるんだけど撮影のために。ただだけど何？（この間、誰かなにかをこぼす）

塔島　ごめんね、大丈夫？…配達地域なのかな？、この辺が。郵便局員だからー。

伊藤　あー

塔島　たくさんマップを作ってくれたんだけど、ここだけマイナーなのね。あとはみんな銀座とか、川崎とか、上野とかなんだけど。それがどうしてだかわかれば、どこにいそうとかわかるかなーと。…

伊藤　交番は

塔島　交番は、

絵理子　あります、あっちの方にありました

塔島　この地図に載ってます。ほらこれが交番、でこの「サン」てのが床屋さんでたぶん、よく利用してるみたいなんだけど。

店員　（誰かに）また来年もよろしくお願いします。ありがとうございました。

店の人は大変だった

塔島　志村さんの住所んとこに行ったんですよ。そしたらアパートはなかったのね。大家さんがそこに自分の家を建てちゃってて。アパートはつぶされてて。

伊藤　自宅はどこなんですか？

塔島　中原区下小田中。

伊藤　こっからは遠い？

塔島　全然遠い。無関係です。

伊藤　神奈川県内ではある？

塔島　ここは川崎区で、えっと中原区。だから中原郵便局なのかな？て気がしてたんだけど、こっちに配達ってのも変だし。

絵理子　うーーん、配達の範囲ってどれぐらいなんでしょうね。

塔島　「同僚」ってのが昔高津郵便局で働いてたって書いてあって

絵理子　あーー

塔島　だからたぶん区ごとかな？

店の人　**すごい大変だった**

絵理子　そうですね。

店の人　下水管の工事とか言ってさー、ショベルカーとかいっぱい。んでさーアイスティーある？

テープ終わる

塔島　本当に待ち合わせたのかな？　本当にこの人（僕）はいるのかなあ？　いない人じゃない？　一人…。店の人に聞いてみよっか。たぶんここでインタビューしてるから。

絵理子　あー、「この人見かけませんでしたか？」と。写真ありますか？

塔島　ここ（車掌）の中にある。ふふふ、

絵理子　ふふふふふ、へへへへ！　聞いてみるのも一つ、恥ずかしいけどははは！　この人来ますか？って？へへへへ、ふふふふへふふふ

塔島　覚えてると思うんだよね、ここで聞いてるから。196ページ。

伊藤　何か、何で交番で待ち合わせたか、っていうのが引っかかるんですけど。

塔島　あー、じゃあ交番に行ってみますか？

絵理子　で、「この人来ませんか？」って、ははは！

塔島　「こういうものです」ははは！…

（テープ終わり）

（続いて第2回、第3回と座談会をちょこちょこ開く予定だったが、取り止めとなった。）

（座談会後記）

志村を待つ　1

ダニエル編

桜木町で「マップ一」を見付けた事から、田島地区に僕は「マップ一」の作者と来ている。僕の賛辞をこの作者は聞き通してくれる。逆に行き辛いとは思わぬという事まで僕は話す。ナポリタンを食べつつ「マップ一」の作者は言う、素晴らしいと。味方、だろう。僕と関わって、作者の抱える辛い事はいくらか失われるかもしれない。食べ終え、僕達は財布を取り出す。ふと作者の財布を見る。困った時はお軽い様です。年金をもらう頃まで

「マップ二」の作者と関わり続ける事は許されるだろうか。カメラを託されシャッターを切る。「マップ二」の作者に認められる。自分なら興奮する。彼方、見ている。このときのような動作。「マップ」のふさわしいあり方について思いめぐらす。この人は会う人達と「マップ」を作る、そんな事も脳裏をよぎる。

（志村二朗『読み物「単なる撮影会」』後半部）

この読み物に登場するナポリタンは、ダニエルのナポリタンであるはずだった。座談会が終了し、志村が来ないままダニエルを後にするが帰り際店員に、ここで数年前「私」について研究した人物・志村二朗を探しているが、と消息を問う。すると、志村のことも、この店で行われた「私」の研究についても、まったく記憶にないとの返事が返ってきた。

川崎駅までの帰り道、ついでに「待ち合わせの交番」及び「サン」を見ていく。交番は重要分岐点の角にあり、この場所に初めてくる人との待ち合わせ場所として、いかにもふさわしい場所だった。

一方「サン」は、大通りからそれた細道にある小さな町床屋で、中に志村はいなかった。写真を撮っていると中の店主が気付き、怪しむ。

志村はかつてこの町に、住んでいた（ひっそりと）。と私は思った。

こうのとり扱い慣れている様子だ。このようにして僕はこの家で生まれた。一家は暖かく暮らしたい。今日焼き肉その他いっぱい。旨い肉、買います。

（志村二朗『読み物「単なる撮影会」』冒頭部）

空き待ち企画「二軍ちゃん」—塔島ひろみの日記から

2011年4月9日（土）

待って、やっと4回目で待っていたおいしい食事が登場した。タンパク質そのものがドーン！とあるおかず。チキンソテーとてもおいしく、食べ終わるのがもったいないくらいだった。あと待ってるのは塩鮭である。入院中に出るだろうか。（しょっぱいので出ないかも）

病院の場合、患者がお客さんのため、病院側より立場が上だと思うけど、地位は医者が上（患者は医者を「先生」と呼び、医者の命令に従う。）そして病院では待つのは主に患者の方で、医者が患者を待つことは少ないと思う。

〈仮定1〉

待たせる人の立場 ＞ 待つ人の立場

入院中、周囲で起きている「待つ」「待たせる」をウォッチしていこう。（伊藤岳人の調査でわかったように入院患者は暇なので）

①患者が患者を待たせる

コインランドリーで洗濯。途中で様子を見に行くと、私の名前の下に「647青木」って書いてある。

約20分後、洗濯が終わり「647青木」へ行ってみると、「みどり」という名のおばあさんで、洗濯どうぞ、お待たせしました、と声をかける。

②見舞客が患者を待たせる

今日神田ぱんが印刷物を持ってきてくれることになってるので、朝からずっと待っている。が全然来ない。

〈仮定2〉

忙しい人（待たせる）→暇な人（待つ）

③患者が外部者を待たせる

隣の野々宮さんがリハビリを兼ねて食堂に行ってるとき、野々宮さんのケータイがブー、ブー、と鳴った。2：25くらい。直後に戻ってきたがケータイが鳴ってたことに気づく様子はなく、何か食べている。相手は待っている。（その後2：40に解決）

④行方不明の家族の帰りを待つ

『関東大震災時の朝鮮人虐殺—その国家責任と民衆責任』（山田昭次、創史社）を読んでいたら、山田昭次があとがきの段ではっと気がついた。姜大興にも朝鮮には肉親がいたであろう。故郷の肉親は帰らぬ彼をどんな想いで待っていたろう。

染谷の住民に殺された姜大興、名前は墓碑銘に刻まれたが、住民は彼の故郷を知らないので、その死は故郷の肉親に知らされたはずがない。

「おそらく何万人という朝鮮の肉親たちは、日本に渡った親、兄弟の帰国をむなしく待ちわび、殺された場所すらわからない悲しみと怒りを抱いて、長い歳月を過ごしたのであろう。」（p254）

⑤行政がボランティア希望者を待たせる（山田町のボランティアセンター（県外））

3時のニュースで、山田町（岩手？）では今まで県外のボランティア受入は何かの理由で進んでいなかったが、今日から県外受入を始めた。したら、さっそく何人も希望者が来たとかの話。この受入開始直後に登録した人たちは、たぶんずっと受入開始を待ってたんだろうと思う。いつからかはわかんない。

⑥病院が患者を待たせる

隣の野々宮さんは去年の7月に交通事故に遭い、それがキッカケで股関節を痛め、一歩一歩針を踏むような痛さで、辛く、早く手術を受けたかったが、緊急性がないと順番待ちで半年も待たされ、ようやく3月30日に手術できた。

⑦焼き魚を待つ

塩鮭を待っていると書いたが、大きな括りでは待っていたのは焼き魚だ。それがついに出た！

もーのすごい脂の乗った、メルルーサか何かの西京漬焼き。もーのすごくおいしい！　人はあまり、まずい物を待つことをせず、食べ物を待つとき、多くはおいしいものを待つ。

おいしいもの〉まずいもの（待たせる度）

⑧疲るるを待つ

持ってきた本は源氏以外読み終わってしまったので売店に行くと、つまらなそうなミステリーみたいのばっかりで、東大内とは思えない品ぞろえぶりだ。…の中、森鴎外『阿部一族・舞姫』を見つけ、購入し、読む。するとエリスは「余が立ちし日には、いつになく独りにて燈火に向はん事の心憂さに、知る人の許にて夜に入るまでもの語りし、疲るるを待ちて家に還り、直ちにいねつ」だったそうだ。（エリスからの手紙に書いてあった）

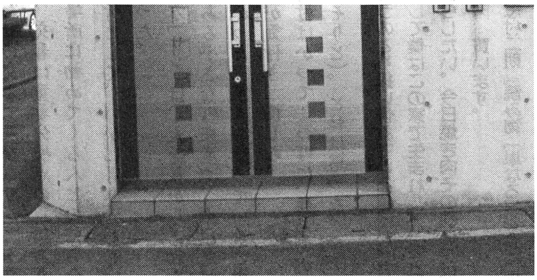
独りでなかなか眠れない状態（眠くなるのを待つ状態）を避けるために、疲れるまで何かをしながら疲れるのを待つ。

「待つ」という行為はこのように他の行為と同時に行われることが多く、それは「待つ」は行為でありながら動きのない行為で、単独で行うと苦痛を伴いやすいため、苦痛紛らわしの目的であえて他の行為を並行して行うことが多いからだろう。そして「物語り」という行為は「待つ」ために行われる手段に過ぎず、「待つ」の下位におかれる。失礼ではないか？　知る人に？

志村を待つ

プロローグ〜1

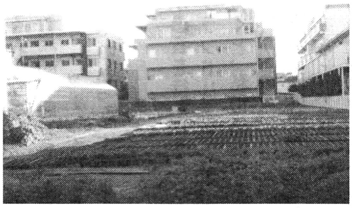
（11頁〜12頁、16頁〜17頁）



志村が住んでいたあたりにあった志村の家ではない豪邸玄関

辺鄙な町にダニエルを見つけた

畑と新築のマンションと。志村が住んでいた時と風景はどれだけ変わっているだろうか



志村が住んでいたあたりにあった志村が住んでいないアパート

駅前に鹿島ビル

志村を待ちながらの座談終了後、会場前で震える参加者

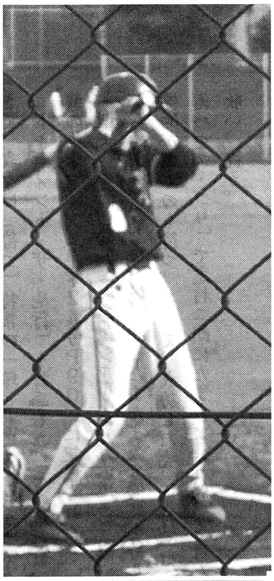
座談会後、志村が不自由研究を行った理容サンに足を延ばす待ち人はいなかった

読み物「単なる撮影会」登場人物が待合せを行った交番をのぞくが待ち人はいなかった

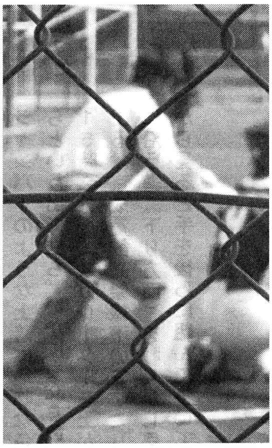
待ち人百景　4

写真解説…三五頁

37

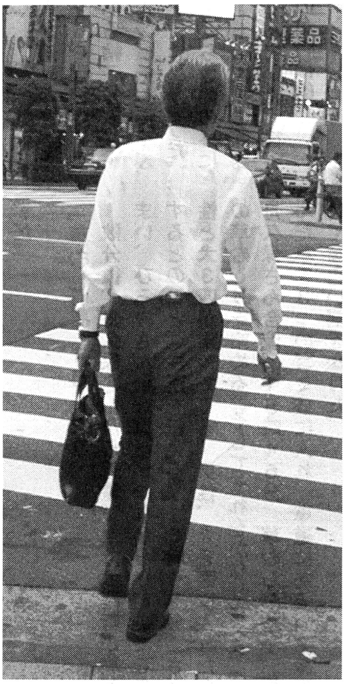

38

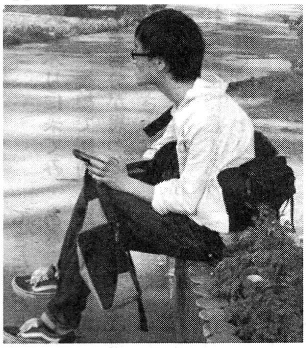
39


40

41

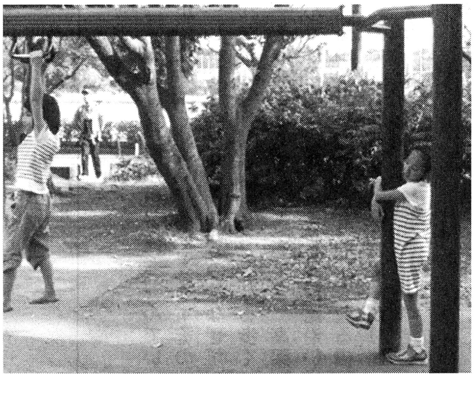
42


43


44

45

46


47

鳴くまで待つ

2014年5月　第1日め　うたごえ編

志村を待つ　3　船橋編

車掌編集部は2014年4月2日、引っ越した。それは「清田ハイツ」というカタカナ混じりの白い素敵なアパートで、特徴は2階のドアの外が日がな一日うんこ臭いことである。その臭いが換気扇をつけると家ん中まで入り込んでくる。そのうんこ臭がひろみの鼻に火をつけ、25号企画が続々と実行に移されていった。

志村を待つ　3　船橋編

本誌24号を熟読した人は、志村二朗氏が同誌企画「不自由研究」のために作成した「拘束マップ二・川崎」に、何故か船橋のマップも掲載されていることにお気づきのはずだ。そして二朗が車掌とは無関係な事情で「船橋」を訪れていたその目的が、ズバリ

うたごえハウス・ゴリ

であることも。

さて、我々は「待つ」特集の一環として、標的が鳴くまで待つ「ドキュメント・ザ・尾行」を計画した。その尾行は、二朗記載の拘束マップ（車掌24号P90）に記載された「拘束2を気にしなくて済む船橋シャポーちゃん広場（B一階）」から始まり、我々は志村二朗にたまたま会う偶然を待ちながら、標的が鳴くのを待つ。そして、成功した暁、尾行隊は「うたごえハウス・ゴリ」で志村二朗にたまたま会う偶然を待ちながら、歌い、祝う。

ドキュメント・ザ・尾行「鳴くのを待つ」

（実行日：2014年5月6日（火））

趣旨：この人（または動物）の声が聞きたい！」と思った人の声が聞こえるのを待つ。

「船橋シャポーちゃん広場」という不可解な名前の広場に着いてみると、広場とは名ばかりの狭いスペースで、大勢の人が座って何かを待っている。

この志村二朗氏が導いてくれた出発点で我々は

「この人（または動物）の声が聞きたい！」と思う人が通るのを待つ。そして各自

「この人（または動物）の声が聞きたい！」と思う人のあとをつける。そして

その人（または動物）の声が聞こえるまで尾行を続け、ついに声を聞く。

ことを目指す。

参加者は伊藤岳人、舟久保文恵、塔島ひろみ。14：50、それぞれの尾行、その為の待機が始まった。

伊藤レポート

「我が故郷」

船橋というのは我が故郷ではあるが、久しぶりに来てみて（実家にはめったに帰らない）大人になった視線で駅前周辺を眺めてみると、大衆飲み屋が乱立する自分が思っていた以上にやさぐれた街であったことに気づき今さらながらではあるが驚いた。子供の頃の印象はこんなではなかった気がする。というわけなので、やさぐれた街に棲息するやさぐれたオヤジの声を飲み屋のような場所で聞きたいと思った。

「そういう人、現る」15：00

15時ちょうど、そんな感じの男性老人が通りかかったので尾行開始。身長160センチくらい？60代後半くらい？で「そういう人」の定番アイテムである帽子を被り、ジャンパーのような上着に地味な色のズボン。そして手ぶらという出で立ち。いかにも立ち飲み屋とかに行きそうだ。15時2分、エスカレーターを上がり1階から建物の外に出る。京成電鉄高架線下のファミリーマートの左横の線路に沿う道（下り方面）をわりかし早足で進んでいく。後ろから見ると手を後ろに組んで歩いているのが特徴的。

「振り返る癖」

ガード下にはよさげな大衆飲み屋が数軒建ち並んでいて、しめしめと思うが、標的はそれのどこにも入らずその前を通りすぎていく。しかしときどき振り返るのはなぜだろう？　もう気づかれたとは考えにくいから、単なる歩くときの癖と思われる。そのままてくてくと道を歩き、高架の下を交わる道を進んで線路の反対側へ。さらに線路沿いに進行したあと道は線路から少し離れ、小さな川を渡る橋へ。標的はその橋を渡って、しばらく行って左に曲がり路地の中にその姿は消えた。

「月極駐車場」15：11

走って追うと、3匹の犬を連れた中年の男が路地から出てきた。どうやら標的はこの路地に入ってすぐの袋小路にある家に入ったらしく、そしてこの犬を連れた中年男性は、路地の入口角にある家の住人のようだ（玄関の前の開き戸に「猛犬に注意」のプレートが3枚貼ってあった）。あーもっと早く追っていれば、標的がこの男性と挨拶する声が聞こえたかもしれない。住所は、船橋市宮本●-●-1●？この路地に立っていたら怪しすぎるので、車道を挟んだ月極駐車場で張り込み開始。15時11分。ここからは車道沿いの家が邪魔で標的の家は見えないが、再びどこかに出かけるのであればここしか出口はないのですぐにわかるはずだ。

「草むしり」15：27

数分後、舟久保さんから着電。自分は尾行が終わってしまい、ひろみさんとは電話がつながらないのでここに合流するとのこと。住所を伝える。15時27分、さっきの男性と犬3匹が戻ってくる。男性、犬を家に入れたあと路地の草むしりを始める。そしてそれをかなり長くやっている。舟久保さん合流。15時46分、草むしり終了。男性は摘んだ草を3つのゴミ袋に入れ、車道にあるゴミ集積場に置いて黄色い網をかけた。

「再登場」１６：０９

それからはずっとなにもなく、１６時９分、再び標的が道に出てきて再び尾行開始。帽子もズボンもさっきと同じだが、上着だけが黒いものに変わっている。今日は５月とは思えないほどとても寒い日だから暖房効率のよいものに替えたのだろう。今回も手ぶらだ。来た道と同じ道を逆方向に歩く。途中やっぱり何度も振り返る。でも僕のほうを見ているふうではないので危険性は感じない。１６時１６分、再びシャポーへ。

「ナス」

エスカレーターを降り、地下の生鮮食料品売り場へ。そこでナスの入った袋を手にとるがすぐ戻す。店を出てシャポーちゃん広場の前を直進。エスカレーターを上がって１階へ。今度は「食鮮館」という生鮮食料品売り場があり、そこでまたナスの袋（一袋１９８円）を手にとり、今度はそれをしっかり持って店内奥のほうへ。途中、別の売り場で水菜？かカイワレ？のような緑色の野菜も手にとり、そのままレジに並ぶ。ここが勝負だ！とばかりレジの女性があからさまに不審な目で見ているのも構わず標的の真後ろに立って耳をすますが、標的は何もしゃべらずに金を渡し、無言でお釣りとレジ袋に入れられた野菜を受けとった。本当に一言も声を発さなかった。

「帰宅」１６：３２

１６時２４分、同じようにシャポーを出て同じ道を同じように歩き、１６時３２分、二度目の帰宅。今度はちゃんとドアを開けて室内に入る場面も見ることができた。しかし「ただいま」のような声は聞こえず。再び路上で張り込み継続。とても寒い。１７時８分、ひろみさん合流。すっごく寒い。１８時、時間切れで終了。

塔島レポート

「標的現れる」１４：５５

私の標的が現れたのは１４：５５。駅の方角から現れた彼は、標的フェロモンを発しながらちゃん広場前をどんどん歩いて通り過ぎて行ったのである。

私は迷わず、ついて行った。

標的、ちゃん広場の南側を西方向へ通過して、あっと言う間にシャポー外へ。尾行開始後まだ５０秒くらいなのに。私は駅構内にいて、（電車に乗るんだろうか？）と思ったが、その５秒後、私は東武百貨店内にいて、１０秒後は東武百貨店の外にいた。

止まらず、速く、ずんずんと歩くこの標的のくりくり頭を小走りに追う。

駐輪場突入。速すぎて、どこの駐輪場かもわかんない。（自転車に乗るの？）と思ったが、数秒後私は今度はイトーヨーカドー西館前にいて、しかしそこでも彼は止まらず通り抜けて右へ曲がったその直後、一瞬、０．４秒くらい立ち止まる一幕があった。

「宝くじ」１４：５８

初めて、通り抜けが目的ではない感じで宝くじ売場窓口へぐんぐんと、接近する標的。もしかして、（早くも声が聞ける？！）と緊張し、待つ。が標的は窓口前に置いてあった紙をひらりと、（たぶん）１枚抜き取って、サッと立ち去る。そしてその１０秒後、私はイトーヨーカドー店内にいた。

「水分補給」１５：０１

イトーヨーカドー船橋店。入るとすぐに、エスカレーターでＢ１へ。食べ物売場だ。

ここでも標的は全く商品に目を奪われず、どんどんな足取りでどこかを目指して進んでいく。セルフサービスの軽食コーナーが現れる。その奥の、店員のいる窓口へずんずんと近づいて行く標的。（声が聞ける大きなチャンス！）私は緊張し、急いで盗聴モードに気持ちを切り替え、息をのむ。標的、１５：０１、立ち止まる。

そこは店員に到達する前の柱のところで、足は止まったが、着いたと同時に紙コップを取り給茶器からコップに液体を注ぎ、飲んだ。標的、５秒ぐらいリラックス。そして紙コップを捨てるとすぐに行動を再開した。

「天沼弁天池公園」１５：０６

またエスカレーターを昇っていく。エスカレータに乗る間、お腹をかく。全く淀みなく、無駄のない完ぺきな一連の行動。私も掻きたい（痒疹）。

ヨーカドーを退出すると正面が「翠雲堂」という仏具屋。それを右折。すぐに交差点があり左折。大きな通りの歩道を進む。途中、信号待ちをはさみ、１５：０６「天沼弁天池公園」脇を通り過ぎるとき、一瞬間だけわき見をした。１０秒後、私も同じ地点で左側の景色を見、そこに黒々と立っている裸像をカメラに収めたが、その直後、目の前を通り過ぎたドミノピザにも目をやる標的。でそっちはカメラに収めなかった。

「標的観察」

しばらく直線での尾行が続く間に、標的の外観（背面を中心に）を確認。デニムっぽいブルーのシャツにデニムっぽい紺ズボン。眼鏡をかけくりくり頭で３０代ぐらい。がっしりしてるけどスポーツマンタイプとはまったく違う、特殊な何かがみなぎる男性。手ぶら。え？　宝くじ売場で受け取った紙はどうなったの？

「ロイヤルホスト」１５：０９

船橋駅北口十字路。

という交差点に出た。標的はそこで信号待ち。私は何かの陰に隠れながら結構近くまで接近し、標的の呼吸を窺う。

「ピコピコ」と、盲人用信号の音が聞こえる。それから

ロイヤルホストへ行かれるわけですね

とはっきり聞こえた。それは後ろから歩いてきた別の男性がケータイで話している声だった。

カッコー、カッコー

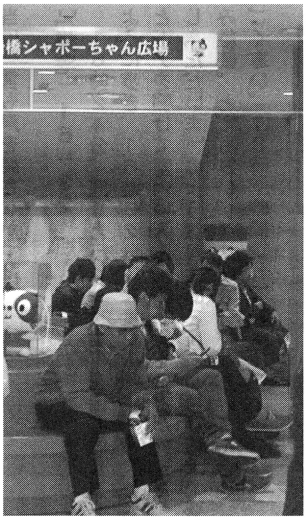
盲人用信号の別の音色が聞こえ、標的は沈黙のまま歩行再開。向こう岸にはロイヤルホストがある。

「どぶ川」１５：１０

それを過ぎ直進、そしてその先の通り沿いにメガネハットがあり

鳴くまで待つ・1 （20頁～25頁）

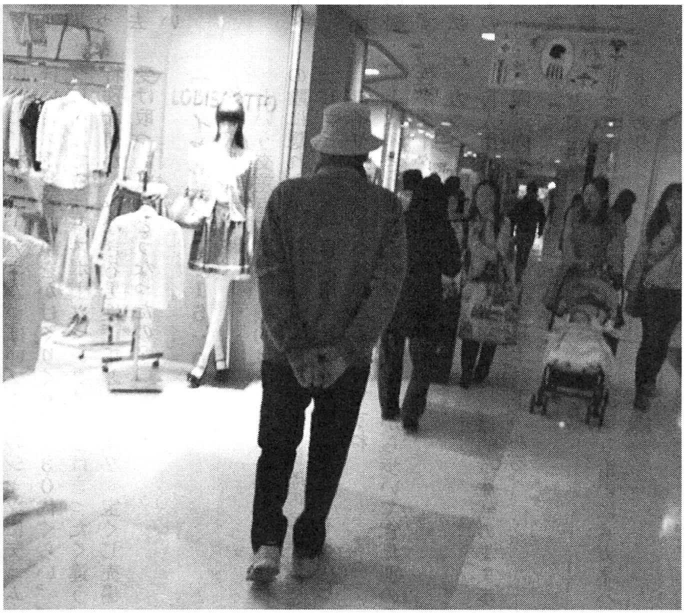
２０１４年５月６日１４：３３。長い尾行はこの待つ人だらけの広場から始まった。



１５：４０。自宅らしき家に入った標的を塔島は近くの公園で待った。

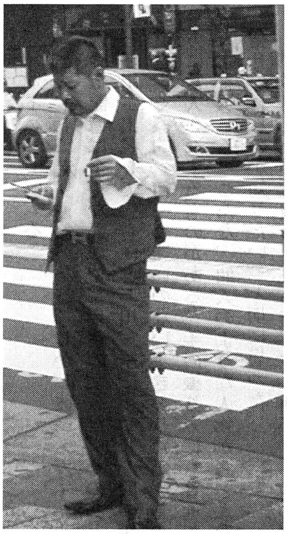
１５：０６。塔島の標的がチラ見した像。

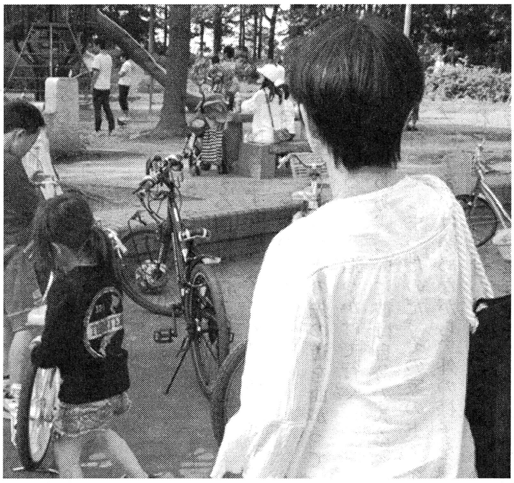
１５：１０。シャポー内を歩く岳人の標的。



１６：２６。伊藤の標的は違う服装で再びシャポー内を歩いていた。

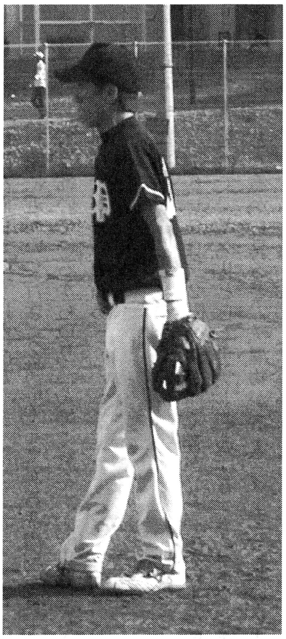
写真解説…三五・三六頁


50


49

48

51



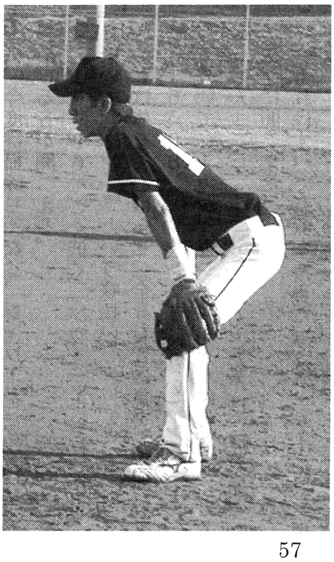
52

53

54

55

56


57

58

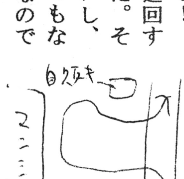
待ち人百景

5

メガネハットに入る
とノートに走り書きがある。しかし彼がメガネハットに入った記憶は全くないので、妄想のようだ。そのあと突如どぶ川が出現して、右にどぶ川、左につつじの間の細い歩道を歩く標的。何一つ迷いのない歩きぶりだが、首の傾き方に常人を逸するものがある。手の振り方にも普通でない天才を感じる。こんな、仙人のような人物からどんな声が発せられるのか知りたい。と切に思った。

どぶ川にかかる橋のところで、左に曲がり、角のマンションに入っていく標的。私は焦る！

ところがまたもや敷地内を図のように迂回すると、またもとの道に戻ってきた。その間、何かを探してる風でもないし、ぶらぶらふらついて入った風でもなく、至って同一の迷いない歩調なのである。



「家」１５：２０

声を発する前に家に入られることを私は警戒していたので、ひとまず安堵。マンション名をメモって顔を上げると、いなくなっちゃった！

あわてて走るとその先の道を曲がっていて、だいぶ先を歩いているので、追っかけて行く。

しかしああ、ついに彼は自分の入るべき家を見つけ、入って行ってしまったのだ。その家のドアを開け入りながら、ノブに手をかけ閉めながら、外の様子を急に気にする標的。それで後ろから近付いている私を見つけ、睨みつける。目が合う。私はすぐに目をそらし、素知らぬ顔で通り過ぎたが、数秒、彼は私を見ていた。（視線を感じた）そしてドアが閉まった。

「張り込み」

尾行は３０分足らずで終わってしまい、通常の尾行ならこれで完了だが、今回は声を聞かないと終わらない。ひとまず舟久保に電話すると、舟久保は自分の標的の声を聞いてあっけなく終わったので、今伊藤に合流しようと向かっているところだと言う。伊藤は声を聞かないまま標的が帰宅、私と同じ状況だそうだ。

舟久保にはそっちに行ってもらい、私はしばらくここで待つことにした。

今私の標的が入っている家を観察する。車庫に車と自転車が停まっている。そして実はケータイ嫌いの私が、何と今日のために一週間前についに、ケータイを買った。そのケータイで舟久保に、ここの住所とかをライトメールで送ろうとした。が失敗。

少し先にとてもさびしい公園があった。休日なのに子供一人遊んでいない。「ちかんに注意」とあるが、まさにちかんのためのような公園である。そのそばに立って、標的家ドア口を見つめていると、ここ（公園前）と標的家の間にある家からファミリーが出てきて、自転車で私の前を通って出かけて行った。

寒くなってきた。

「洗濯物」

少しするとさっきのファミリーが帰ってきた。まだそこに立っている私を見ている。そして家に入ったと思ったらまた出てきて、ガヤガヤし、また自転車で（ファミリーの一部）出かけていき、と落ち着きがない。著しく私の目的の邪魔になる、いやなファミリーなのだ。彼らが標的ならとうに尾行は終わっているが、あいにく私はこんな人たちの声には興味はない。

公園と反対方向の曲がり角まで移動し、そこでも少し待ってみたが、住宅、集合住宅、駐車場があるだけの住宅街のただの路上に、中年女が一人、ある一点を見つめながら、立っている、ことの不自然さがストレスとなり、皮膚病（痒疹）が悪化しそうになった。

家に近づいて行き、２階に干してある洗濯物を見上げる。もう乾いているから取り込んでくれや、「おー乾いた！」と叫びながら。と祈る。

「透明人間」１６：００

１６：００。２階の窓が開く音がした。家のまん前にいたので、ギクリとしてササーと逃げる。でちょっと離れたところから見ると、洗濯物がスー、スー、と吸い込まれるように取り込まれていき、取り込んでいる人の姿は見えないのだった。そして何故か茶色いタオル１枚だけが取り込まれず、残されたまま、取り込み終了。取り込んでいる人の声ももちろん聞こえなかった。

野球帰りの少年二人がすぐ近くのマンションの前で立ち話を始めた。若いくせに、おばさんみたい。すごい迷惑。私は彼らの目を気にしつつ、標的家の前を行ったり来たり。

一帯はとても静かで、これだけ家・マンションが立ち並んでいるくせに、どの家からも何一つ音も声も漏れ出てこない。時間だけが流れすぎる透明人間の町で、２人の野球少年だけがいつまでも立ち話を続けている（たぶんテレビの話）。

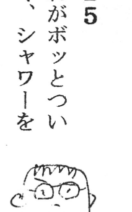
「風呂掃除」１６：２０

やっと彼らが立ち去って１６：２０、標的家に寄っていくと、中からシャワーの音がする！　ゴシゴシ洗っている音もするので、誰かが風呂場掃除をしているのか？　私は家事をしてるとき、５分に１回は「キャー！」と叫ぶ（何かしら失敗して）し、歌うし、「アー疲れた！」とかすぐ言う、シャウティング主婦だが、今風呂掃除しているこの人の、何とおとなしいことか。

でも音がするので、家の前から離れられなくなった私の鼻先にリンナイの湯沸かし器の室外機みたいのがあって、お湯が出されるたびそれがボッ！という音を立てる。

「シャワー」１６：２５

１６：２５　またそれがボッとついて、今度は掃除じゃなく、シャワーを浴びる音が聞こえる。



１６：２６　ごく低く「フウ！」というため息。それに続いて「ケン！」という咳払い。

私は体をこわばらせ、全身を音に集中して聞いている。

１６：２８　「ウウン！」（咳払い）

続いてシャカシャカシャワーをかける音。

「おん！」「エッ！」と、どんどん声は、堰を切ったように次々に聞こえた。

それはすべて意味を持ったコミュニケーション用の言語

ではなく、おならやげっぷに近い単に口から出てしまった音であり、低く、そして大きかった。

めっちゃおやじ。

老人というほどでもない、ほどほどなおやじの発する音に思える。

16時過ぎという早い時間に一人で騒がしくシャワーを浴びているこの人は誰？

標的かもしれないし、違うかもしれない。

16：30　湯を出すのが終わったらしく、シャワーのBGMがなくなる。

体を拭いているのだろうか？　「エッホ！」「ううん！」（ともに咳払い）

16：36　えっほ！

そのあと静寂が訪れた。

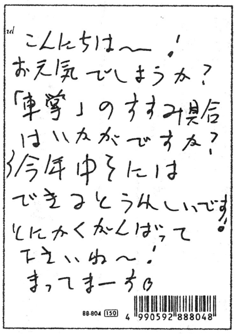
そして我々はゴリへ向かった。途中、「ちゃん広場」の名の由来を聞くと、「シャポーちゃん」というキャラクターの名に因むそうだ。ついでに「ちゃん広場」ではなく「シャポーちゃん広場」であると教えられた。

そして志村を待ちながら「うたごえライブハウスゴリ」で打ち上げをする予定だったが、尾行が完了しないのに打ち上げようという根性が駄目だったようで、ゴリは閉まっていた。

「拘束マップ二・川崎」（車掌24号p90）をガイドマップにして、隠れ家ごはん「月の宴」（同p45）にたどり着き、高くついた。（3人で8000円ぐらい！）

シャポーちゃん広場上で簡単に終わったという舟久保の尾行レポートは1年経ってもまだ編集部に届いていない。

—のりた、車掌24号発売を待つ—



（2009年5月6日）

空き待ち企画「二軍ちゃん」—塔島ひろみの日記から

2011年4月15日（金）

25　看護士が患者を待たす

私はきのうから647室にいる。

隣の大泊さんが、朝食ありなのに、服薬8時の指示で、矛盾するので、看護士に質問している。「確かに変ですね、別の看護士に聞くので、待っててください」とカーテン越しに聞こえ、時計をチェック。6:50。で7:10に説明に来たので、20分待ち。朝ご飯は抜きで、午前中の検査だった。

26　とりの声を待つ　源氏（四）「幻」P316-317

五月雨の季節、源氏は「花たちばなの、月影に、いと際やかに見ゆる薫りも、追風なつかしければ、「千代を馴らせる聲もせなん」と、待ってたとき、にわかに「立ちいづる村雲のけしき、いとあやにくにて、いと、おどろおどろしう降りくる雨に添ひて、さと吹く風に、灯籠も吹きまどはして、空暗き心地す」…。この「千代を馴らせる聲」てのは、注によれば、源氏が橘の咲いてるのを見て、後撰和歌集の読人知らず「色かへぬ花橘にほとどぎす千代を馴らせる声聞ゆなり」という歌を思い出して、ほととぎすが鳴くのを待っていた、という意味だそうだ。（次項へ続く）

26　つづき

同、P319。さぶらひ給った夕霧と会話を交わす源氏。何事につけても、忍びがたきお心弱さの、つゝましくて、過ぎにし事、いたうものたまひ出でぬに、待たれつる時鳥の、ほのかに鳴きたる…。

本を読む人にとっては2ページ待って来た、時鳥、今鳴いた。徳川家康は「鳴かぬなら鳴くまで待とう時鳥」と言って、何年も待ったけど、この2ページの間、源氏は夕霧とかと多少の会話をしてるぐらい。待ち始めたのは、「十餘日の月、はなやかにさし出でたる」のでたぶん夕方、鳴いたのは、「なき人をしのぶる宵の村雨に濡れてや来つる山ほととぎす」とあるので、宵。数時間ほどしか待ってない。

つまり時鳥は名前のとおり、割とグッドタイミングで待ったら鳴いた、って感じのようだ。

しかし時鳥はどうしてこんなに鳴くのを待たれるのか？「時鳥」と書くのは何故か？（※↓座談会のページで解明）

27　ひろみが便を待つ

きのう一日、衝撃の「低残渣食」というのを味わった。メニューには「マカロニサラダ」とか、「煮物」とか「煮びたし」とか「あんかけ」とか「りんご缶」とかあるけど、全部、ただのドロドロの、うんこみたいので、なにを食べているのかわからない、てようりうんこを食べてるみたいである。で夜9時に下剤を飲む。

今日の朝、7:20頃から、2リットルの下剤服用開始。昨日下剤を飲んだので、朝起きた時出るらしいが出ず。今日飲む2リットルのは「ニフレック」というすごくまずい液。途中にシャワー&処置が入る。その間に下痢をする可能性があるのでそしたらどうするかを看護士と予め細かく打ち合わせ。しかし何事もなく終了し、ニフレックに戻る。1リットル飲んだところで、「ここまで飲んだところで、排便はありましたか？　なかったら下記1に注意して飲んでください」とか書いてあり、不安だ。途中、看護士が来たので、このまま飲んでいいのか聞くと、いい、と言う。そしてそのまま10時30分くらいにやっと飲み終わり、あとは下痢を待つばかり。

下痢を待ちながらゴロゴロ過ごす。そうすると何事もないまま13:00になった。そしてこれでは困るので、浣腸することになってしまった。そして浣腸をしてようやく腸が動き始めたが、出足が遅かったので、3:30までの検査までに出尽くすだろうか。と待っているところへ、タイミング悪く、経子が来た。

今浣腸をしたところなので、対応できないと言って、食堂で待っててもらう。別れた夫の親が、わざわざお見舞いに来てくれたのに、浣腸中…。これもそれも、結婚中とうじの便の多さを馬鹿にしたことへの呪いかもしれない。

そのあとトイレに何度も行くが、看護士の（排便完了の）OKが出ず、内視鏡係には事情を話して待ってても

コーヒーまたはB定を待つ

注文品が来るのが遅いといらつくものだが、待たされれば待たされるほどこのコーナーは充実する

概要：コーヒー、またはB定食を注文してから出てくるまでの間、待つ。待てば待つほど、高得点。（どれだけ待ったかをアピールする）

やり方（コーヒー部門）：
①喫茶店またはそれに準ずる店でコーヒーを注文する。（※）
②報告書作成を開始する。
③コーヒーが来る。
④同時に報告書作成を終了する。
⑤コーヒーを飲む。
⑥報告書を提出する。
※ブレンドが望ましい。アメリカン可。

やり方（B定部門）：
①食堂またはそれに準ずる店でB定食を注文する。（※※）
②報告書作成を開始する。
③B定食が来る。
④同時に報告書作成を終了する。
⑤B定食を食べる。
⑥報告書を提出する。
※※　Bランチ可。

参加条件：
ありません。どなたでも参加できます。

報告書：
作成年月日、店の名前、作成者の名前は必ず記入。
その他に何を書くかは自由であり、まったく無関係の文章や絵画を含んでもよい。
電子データは不可。ハードコピーは、待ってる間（③までの間）に印刷したものであれば、可。
報告書全体で、待ち時間の長さをアピールする。

禁止事項：
待ち時間が長くなることが予見される行為
・「ゆっくりでいいよ」とか「○○分後に出してください」とか言う
・たくさん注文する、他のものといっしょに注文する　など
報告書の事後的な書き足し・添削・編集

提出された報告書の扱い：
車掌編集部の審査を経た上で、車掌25号に掲載。（返却はしません）
すぐれた報告書（もっとも待ち時間が長かったと思われる報告書）提出者は表彰される。

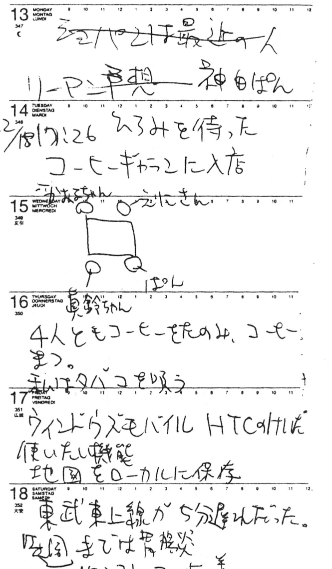
提出期限：
車掌24号発行日の3ヵ月後

本企画は、24号を待たせてる間のアリバイ企画であり、24号編集中の相当初期、何と2008年の夏ごろから募集を始めていた。そして2013年10月に24号が出て、締め切りは2014年の1月となったので、チャレンジ期間は5年6カ月、と全国民が応募できるほどたくさんあった。にも関わらず、集まった報告書は15こ、そのうち半分は118ページに紹介した忘年会で、参加者に無理やりやらせたもので、自ら挑んだ人はたった4人だけだった。これはどういうことかと言うと、**歳月は人を待たないが、人はコーヒーやB定を待たない、そしてコーヒーやB定は、車掌24号を待っていなかった、**ということである。

さて、審査は、車掌営業特集時（22号）に車掌の売り子となって活躍中の、北島みみが務めている。同じ営業特集時に売り男になった志村二朗氏は、本号の各所に書いてある通り車掌24号を待たずに失踪したが、一方みみは車掌への熱意は二朗の50分の1程度だったが今もこのように審査員をしたりと、貢献している。二朗は定食に例えれば鯨竜田揚げ定食、みみは納豆定食の人、ということだ。

待った感じが出れば出るほど良い報告書。それでは、以降、審査員のコメントを添えながら、16の報告書を紹介しよう。

コーヒー部門1　コーヒーギャラン
神田ぱん



コメント

先週まで胃腸炎だった人が　コーヒーを飲んで　また　体調が悪くならないか　心配です。（みみ）

コーヒーまたはB定を待つ

コーヒー部門3 ギャラン タキナミ

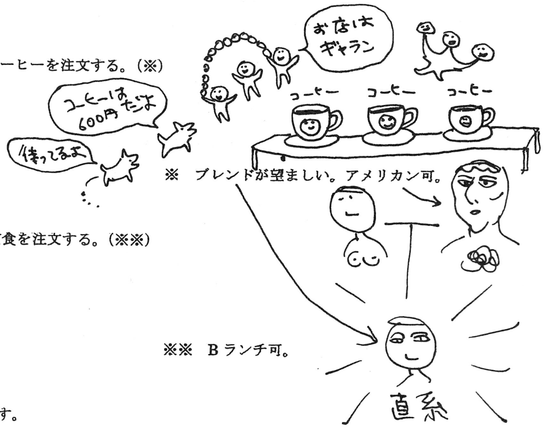
2010年12月18日
タキナミ

定を待つ」

食を注文してから出てくるまでの間、待つ。待てば待つほど、高得点。（どれだけ

でコーヒーを注文する。（※）

る。



※ ブレンドが望ましい。アメリカン可。

さB定食を注文する。（※※）

る。

※※ Bランチ可。

きます。

コメント

アメリカンとブレンドが　図解してあって　ゆかいでした（みみ）

コーヒー部門2 ギャラン 門戸大輔

12/18 17:30
注文してからすでに全員自己紹介を
終えたのにまだ私は待っている。
2つにテーブルが別れたのが功を
奏したようでまだコーヒーはこないので
ブレンドが望ましい。アメリカン可。待っている。
もうしばらくしたら来るかもしれないが
まだ私は待てるだろう。背後に
コーヒーが準備されている気配が
する。怖々、待つ。間もなく
来るだろう。もう来てもいいはずだ。
※ Bランチ可。忘年会のレストランは18:00に
予約しているのでそろそろコーヒが
来なくてはならない。待てばいいの
か、せいた方がいいのか、アンビバレ
画を含んでもよい。ントな気持にさいなま
）に印刷したのものであれば、可。れながら、
待っている。間なく来たら、
熱い黒い液体が私ののどを
か言う　など　通るだろう。さて、きた。

せん）
書）提出者は表彰される。　ギャラン
門戸大輔

コメント

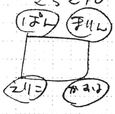
17:30 に店に入り　18:00 予約の忘年会のレストランに間に合うかどうかというハラハラ感は　待っている感じが現れていて　良かったと思います。（みみ）

コーヒー部門5 ギャラン かおる

コメント

時間をこまめに書いてあるのは
この報告書だけでした。
数字が書いてあると　わかりやすいです。ね（みみ）

12/18　かおるメモ
17:17
「待つ」テーマだから　わざと待たされてるのかと　ぱんてん言い出す

17:27　まっち店に入り　コーヒーをまっている


ぱんてんにえんぴつを借りた
まっちは宮まりんにボールペンをかりたけどインクが出にくかった

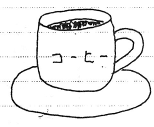
店はこんでいる　たばこ臭い　ゴージャスな内装
「ギャラン」　待たされるかもと期待

17:28　ぱんてんが㋮にケータイについて質問をはじめる　おかげで㋮は自分の報告書がかけない

17:31

コーヒー部門4 ギャラン 舟久保文恵

この店は前に
チャットのオフ会で
来たよ。



コーヒプリンス 1号店
みてたよ。

コーヒー早くこないかな
車掌のおかげで
コーヒーが飲めるように
なりまった。ハッピー♡

いがいと時間が
かかる。

ホットミルク
が好き。

2010年12月18日
ギャラン
舟久保文恵

コメント

紙も絵も内容も　ファンシーで　女子力を感じました。（みみ）

コーヒー部門6

待つ。待てば待つほど、高得点。（どれだけ
店の「待てうかがいます」を無視
丹羽さん、塚島さん、門戸さん
17:25 店の頼み、みな独自で投合
5人テーブルと4人テーブル
塚島さんはやる気がないので
おしぼりで手をふいている
久し振りの報告書で書き方が分からない
ンドが望ましい。アメリカン可。
17:29 書くことがなくなり
4人テーブルの方はコーヒーがきたので、
もうすぐくるだろうと期待する。
赤のチェックのテーブルが目立つ
なぜか半袖、コーヒーの来る気配
ランチ可。 店の名前を探す。
メニューをみる ない
B定はない
待てる位が過ぎる。
期待するがまだ来ない
塚島さんは待ちくたびれた
なんでもよい。
印刷したのものであれば、可。他

コメント

字が小さい。.
来ない、来る気配がない　などと書いて
あると　待ってる感が出ますね。（みみ）

コーヒー部門7 ダニエル

コメント

なぜ　ひろみさんだけ（18 日ではなく）21 日の報
告書なのか　気になります。（みみ）

コーヒーを待つ間のげんこう
2013.12.21
ダニエルで、すぐ注文。
今、志村二郎をまちながら 東京ちろのための待つにまつわる
座談会が開始される。
2:05についたけど誰もきてなくて、店にはナポリタンのにおいが
みちみちていた。ウエイトレスは美人。すぐ、コーヒーを注文する。
さて、本日の議題1である
そもそも単なる編集会において待ち合わせたのは誰で、
何故僕らは日暮里で待ち合わせたか。
◎それは百志村の提出物を全部読んでいけば
解けるはず。「編集会」というのだろう　2:10 にまだあかり）
（おまてとうさよ

コーヒー部門8 ギャラン（?） 小林絵理子

コメント

忘年会の内容が気になりました。
私だったら　1年前のこととか
忘れているような気がします。（みみ）

2010年 12/18
店の名前、ギャラン（?）正確に分からない
なんかカタカナの名前，上野アメ横
小林絵理子
2010年の忘年会なのに2009年の事を話さなければならないので間違えないか心配
ぜんそくを ~~持ち~~ 持ちつつ タバコ可の店なので少しキツイ。
電車の遅れの事をぱんさんたちが話している
あ、コーヒー来た
17:33 コーヒーとーちゃく

コーヒー部門9 coffee shop ギャラン 山田幸司

コメント

この報告書で、ギャランに入った９人
は　みんな　待ち時間が同じじゃん
と　思ってしまいました。（みみ）

入店 coffee shop ギャラン
17:26 ホットコーヒーを注文
~~料理~~
9人で入り、ほぼ満席状態
~~注文~~
来るのが遅れそうな予感
17:30 と、思ったら来た

山田幸司

●●●● コーヒーまたはB定を待つ ●●●●●

コーヒー部門１０
アシュレ
三本美治

江田駅の裏　アシュレという店
2月11日　17:00　　三本美治
いつもは　向いの　コメダコーヒーに行く
小さな　自営でやっている様な店、ここなら
チェーン店と違って出て来るのが遅いだろうと思って入ってみた。

メニューを見ていると　こんなおじいさんが
じっとこちらを見ている

どうやって　報告書を作成しようか作戦を練っていたので
じっと見られているといたたまれなくなる
奥に出して　今　豆を　ちゅうしゅつ（?）している
かんばんには　青葉区で　2番目に美味しい店とかいて
ある　1番目はどこ？　つかっているコーヒーは
（?）
キャラバンコーヒーとある　キャラバンというとヴァン・モリソン
を思い出す　客は自分と若い客（2階）の2人（計3人）

ちょっと変わった　休日なのに閑散としている。
何か書くにはでもこちらの方が好都合
今度　書きものとかするには　こちらを使おう
かし

コメント
おじいさんがゆっくりと　コーヒーを　いれている様子が　うかがえるので　待ってる感じが　出ていると思います。
２番目に美味しい店と　わざわざ書く理由を知りたい。（みみ）

「コーヒーを待つ」

①2008年8月15日　船橋・京成船橋駅付近のベローチェにて　謝覚人
②待ち時間は1分（最近はもっぱらド・トールないしベローチェしか行かないので）
③報告書（というか雑感）

「待つ」という行為はテツガク的には否定的行為の代表である。ちょうど「穴」というのが否定的物体の代表であるように。まず、分かりやすいの穴の方から。

たとえば「ケツの穴がかゆい」という場合、実際にかゆいのは肛門を構成する皮膚の一部なのであって、「ケツの穴」という何かがかゆいわけではない。穴自体は、括約筋に囲まれた空隙にすぎないのだ。ドーナツの穴にしても同様。実体と言えるのは、油で揚げられたメリケン粉が環状につながっている部分であって、穴と言われる箇所には無色透明な空気が自在に漂っているだけである。しかし、では穴は完全な「無」かというとそうは行かないのがややこしいところだ。穴は一穴，二穴と数えることができるし、直径も測定することもできる。つまりモノのように扱えるのである。ケツの穴が小さいと言われれば憤慨もする。単なる無に憤慨することは、まあない。つまり穴とはモノではないが、非モノでもない。いわば「モノもどき」である。これを小難しく言うと、否定的物体。

「待つ」はどうか。たとえば駅のプラットフォームで恋人を待つとする。待ちながら携帯電話をもてあそんでもよいし、鼻毛を抜いてもよく、あるいは行きかう若い女性に見とれて「畜生、オレのよりいい女だ」と舌打ちをするのも自由である。立ったりしゃがんだり、プラットフォーム上をぶらぶらしたり、急に尿意を催して、トイレに行きたいんだが彼女が来ちゃうとまずいなと気をもんでその場で足踏みし続けるのも自由だ。つまり以上の動作のどれも、「待つ」を成立させるための必要条件ではない。かといって十分条件でもない。プラットフォームで足踏みをすれば、即、誰かを待っている証拠だということにははならないからだ。単に寒いだけかもしれないし、買ったばかりの靴が足に合わないのでそうやっているのかもかもしれない。パーキンソン氏病になった場合に備えて事前訓練している可能性だって絶対になくはないのだ。所在なげに突っ立ったまま、ときおり腕時計に目をやるのだって、誰かを待っているとは限らない。要するに、これが「待つ」ってことなんだとずばり言えるような、そんな行為は存在しないのだ。かといって全然行為でないわけでもない。「待ってろ」と言うことは無内容な命令ではないし、三十分も予定時間を過ぎたのに、別に息をハアハアさせもせず「待った？」と笑ってごまかすことは、手としてはよくある。このように行為のようで行為でなく、無為のようで無為でない、まことに泥沼的な事象なのである、待つということは。

この泥沼をめぐって頭をしぼるのは、一見無駄に見えて事実無駄なことなんだけれも、何かを待ちわびて無駄に時間をつぶすしかない場合は無駄ではないだろう。

以上

- 1 -

禁止事項の
・報告書の事後的な書き足し、添削、編集
をしたと思われるので　落選

コメント

要綱をキチンと読もう！（みみ）

B定部門1
目黒区役所食堂
笹井吾朗

コメント

並んでいるうちから書いていたので
少々フライングな気もします。（みみ）

レストランメニュー（2013年12月）

	Aランチ 590円	Bランチ 550円	Cランチ 500円	日替丼（味噌汁付） 500円	スペシャル麺 400円
12/2 (月)	揚 天ぷら盛り合わせ 849kcal 脂 26.7g 塩 3.6g	煮 肉野菜豆腐 668kcal 脂 17.5g 塩 3.8g	焼 NEW アジのチーズマヨネーズ焼 772kcal 脂 28.3g 塩 4.1g	焼きとり丼 615kcal 脂 18.2g 塩 3.4g	焼きそば 565kcal 脂 21.7g 塩 4.0g
12/3 (火)	揚 エビフライ タルタルソース 788kcal 脂 24.7g 塩 3.7g	焼 塩ネギチキン 775kcal 脂 30.1g 塩 4.3g	炒 細切り野菜炒め 621kcal 脂 15.7g 塩 3.3g	麻婆豆腐丼 689kcal 脂 16.9g 塩 3.5g	ジャージャー麺 564kcal 脂 14.8g 塩 2.9g
12/4 (水)	揚 ヒレカツとウインナーフライ 850kcal 脂 31.6g 塩 3.9g	蒸 NEW 蒸し鶏と野菜マリネ 682kcal 脂 21.0g 塩 2.3g	焼 ヘルシーランチ 福岡焼カレー 620kcal 脂 17.9g 塩 3.4g	中華丼 696kcal 脂 15.7g 塩 3.7g	唐揚げラーメン 680kcal 脂 23.3g 塩 6.0g
12/5 (木)	焼 NEW エビ入りハンバーグ クリームソース 822kcal 脂 25.6g 塩 4.1g	炒 チキンとポテトオイスターソース炒め 656kcal 脂 19.8g 塩 3.8g	揚 NEW さばと野菜の衣揚げ 819kcal 脂 29.7g 塩 3.1g	牛丼 738kcal 脂 23.1g 塩 3.6g	旨煮ラーメン 575kcal 脂 15.8g 塩 7.3g
12/6 (金)	揚 ミックスフライ 954kcal 脂 33.9g 塩 3.6g	焼 つくね大葉焼き 706kcal 脂 23.7g 塩 3.6g	炒 豆腐豚肉炒め 756kcal 脂 31.8g 塩 3.1g	天津丼 681kcal 脂 15.9g 塩 3.8g	細切りとりラーメン 616kcal 脂 16.1g 塩 6.2g

※セットメニューとしてそば or うどんと日替わりミニ丼セット¥650 もございます。（味噌汁は付きません）
※仕入の都合により、一部メニューを変更することがありますが、ご了承下さい。
※A・B・Cランチにはご飯・味噌汁・小鉢が付いています。

定番メニュー	
きつねうどん 300円 381kcal 塩分 4.8g	きつねそば 300円 383kcal 塩分 4.2g
たぬきうどん 300円 423kcal 塩分 4.5g	たぬきそば 300円 425kcal 塩分 3.9g
かき揚げうどん 300円 484kcal 塩分 4.5g	かき揚げそば 300円 486kcal 塩分 3.9g
ラーメン 300円 458kcal 塩分 5.2g	カツカレー 450円 952kcal 塩分 2.8g
カレーライス 350円 720kcal 塩分 2.1g	ミニカレー 200円 376kcal 塩分 1.2g
おにぎり（鮭） 80円 240kcal 塩分 0.6g	おにぎり（たらこ） 80円 216kcal 塩分 1.0g
ライス 100円 336kcal 塩分 0g 大 504kcal 小 252kcal	味噌汁 50円 26kcal 塩分 1.3g

「コーヒーまたはB定を待つ」（B定部門）
2013/12/5（木）
目黒区役所食堂 於
笹井吾朗

・職場近くの目黒区役所の食堂に来ております。
食券制ですので券売機に並んでいるうちに書いております。
Bランチに追加して納豆も付けるつもりです。
食券を買ったのでお金と箸を取ってBランチの出るのを待っております。

B定部門2
和派居酒屋「喜作」本店
笹井吾朗

「コーヒーまたはB定を待つ」報告書
2008年9月13日(土) 11:30〜12:30
和派居酒屋「喜作」本店
笹井吾朗作成

11:40 日替わり定食B を注文する
本日のメニューは 豚キムチ炒め
1ドリンク付くので、食後に
ホット烏龍茶を注文する
中央の長方形テーブルにて
正面に亀のハクセイが掛っている
右方のカウンタには大小の天狗
のお面が2つ掛っている

11:45 日替わりB 到着

コメント

もし　自分が店をもつ事が
あったとしても
亀のハクセイや　天狗の面は
かざらないと思う。（みみ）

喜作 和派居酒屋 喜作本店

和派居酒屋喜作本店・埼玉県草加市栄町2ー9ー16 kisakuビル4F
TEL 048ー935ー0960
200名様収容大宴会場・200台立体駐車場有り

B定部門3
中華食堂　駒沢大学店
三本美治

中華食堂　駒沢大学店　2014年3月1日　三本美治

これだけ絵を描いたという事で待ち時間の長さをアピールしたい

コメント
スケッチから　中華が　あまり感じられないのが　残念ですが、待ってる感じは　伝わったと思います。（みみ）

B定部門4
青葉区役所食堂
三本美治

3月7日　青葉区役所食堂　三本美治

この時は一つの　食べさせなくなってしまって

今気ないと思っていたが、ここは食券を買って

するシステム　早く出てきそう…

ごまとうふ、たきこみごはん　何だろう..

コメント
やはり　食券を買うタイプの　食堂は　待たない印象ですね。（みみ）

表彰

コーヒー部門
三本美治様

すいている店なのに一番待ったで賞

B定食部門
三本美治様

他の人のB定が早く来すぎで賞

講評

審査してみましたが、
コーヒーに関しては　9人が同じ店でしたので、三本さんしか選べませんでしたし、B定に関しても　他の人が　ほとんど食券だったので　三本さんしか選べなく、ひいきしているとしか思えない　つまらない結果に　なってしまいました。

ごめんなさい。

北島みみ

空き待ち企画「二軍ちゃん」―塔島ひろみの日記から

2012年2月4日

ごはんがたけるのを待つ間、この日記の続きを書くことに。10/1に読んだ『闇の奥』のコピーが出てきて、「待つ」が二個あった。しかしすでにこの話の内容を忘れた。何もわからない。待っている間に人は忘却するということがわかった。

> がたい重荷が、胸に押し被さってくるの
> の肩を軽ぐたたいていた。まるで吃るよ
> 、……クルツさんの名声にかかわるよう
> っているのだ。僕はじっと待っていた。
> 、むしろ一個の不死の魂であったらしい。
> はっきり言ってしまい給え。ある意味で
> 商売仲間」でなかったら、結果はとにか
> ころだったのだが、というような前置を

2012年2月10日

去年の10月3日にラジオ深夜便で鳳蘭がこう言った。

「今は、ただ運を待っている」(12:50　私の人生)

意味がいまひとつわからないけど、今も待っているかな？　運は蘭ちゃんに、来たかな？　どうかいな？

> 131
> たら……」そこで僕は、「なに、安心し
> だが、それでもまだ安心し切れないら
> や、いろいろ有難う、」と僕は言った。
> だ心配で堪らないかのように、「でも、
> か、僕はそれが恐ろしいんです、もしか
> 善処方を誓約してやった。と彼は言葉を
> 待ってくれているのです。じゃ、僕は行
> らえませんか？」それくらいのことは、

2012年2月18日(パソコン立ち上がりを待つ間)

去年10月に読んだ闇の奥の続き。

「俺はこの真暗闇の中で、じっと死を待っているのだ」

と、p144で彼が言った。死を待っているってよく聞く言葉な気がするが、長生きの人ほど待つ時が長く、待つ時間＝退屈とすると、長生きはよくない。で早死には効率がよい感じ。早く死にそうで、死が怖い人は、待ってれば死ぬのが楽しみになる。あと、待ってるヤカンは煮えない、ってのもあるから、死にたくない人は死を待つのがやっぱり有効な行き方だ。

> ながらも屑鉄の山の中で汗を流したりしなければならなか
> 「ある晩、灯りをもって入って行くと、突然彼がかすか
> じっと死を待っているのだ。」と言うのに、僕は思わずギ
> 目の前に、現に灯りがあるのにだ。「馬鹿な！　なにを言
> も、まるで釘づけされたように、じっと覗きこまないでは
> 「あの時彼の顔に現われた恐ろしい変化、僕はそれに
> がなかったし、願わくば今後も二度とふたたび見たくな
> というよりは、魅惑されてしまったのだ。いわば帷が引き
> 顔に、陰欝な自負、仮借ない力、おどおどした恐怖、―

2月24日　また闇の奥のコピーから(10/3に読んだ分)

p153①僕はマホガニつくりの扉の前に立って、ベルを押した。待っている間も、鏡のように光る鏡板の中から、彼の眼―まるで全世界を抱擁し、嫌悪するかのように、爛々と光る彼の大きな眼が、じっと僕を睨んでいるような気がした。

「ベルを押して相手が出てくるのを待つ間」

という特殊状況で人は、どのような行動をとるのか？

↓パターン化される？

ベルを押して相手が出てくるのを待つ間、の時間を利用して何か、できるかも！

p153②夕闇が迫っていた。僕はしばらく天井の高い応接室で待たされた。部屋には床から天井まで届く細長い窓が三つ、それがまるで布巻きの柱のように白々と光っていた。黄金色に光る、調度類の曲った脚と背面とが、ほのかに輪廓を浮び上らせ、高い大理石の炉は、つめたい、まるで墓碑のような白さだった。隅にはグランド・ピアノが一台、どっしりと置かれてあったが、薄暗い。

どこかを訪問して応対者に待たされる間、ふつう人がするのは周囲の観察、おかげで私は5F財務係棚内の消耗品類、丸山家の玄関に置かれている調度類など、という見ても役に立たないものを何度となく見、目に焼きつけてしまっている。死んでもまぶたの裏にでかい糊だの、へんな小僧だのが映っていると思う。訪問者の待ち時間、というテーマについて、更に考えていく必要があるだろう。

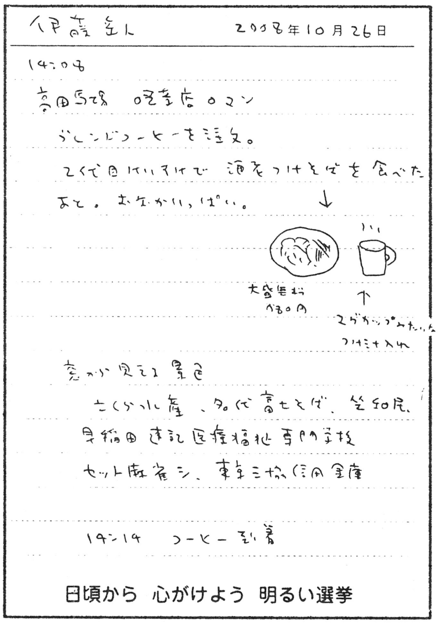
2012年3月3日(土)ひなまつり

去年の10/5の通勤電車で私は中日が優勝したことを知った。ところが今麦太に聞いたら、中日が優勝したのは一昨年だと言う。つまり私が闇の奥を読んだのも、鳳蘭が運を待ってると発言したのも、一昨年であった。(集めた「待つ」を順番に整理している)　道理で覚えていないわけだ。

コーヒーまたはB定を待つ　番外編

①②締め切りから２年近く経ってから届いた報告書

「書いたのに忘れていた原稿が出てきたので、送りました。」（伊藤岳人）



伊藤岳人　2008年10月26日

14:08

高田馬場　喫茶店ロマン

ブレンドコーヒーを注文。

さくで目けい?けで 油そつけそばを食べた

あと。おなかいっぱい。

大盛無料 980円

マグカップみたいな コーヒー入れ

窓から見える景色

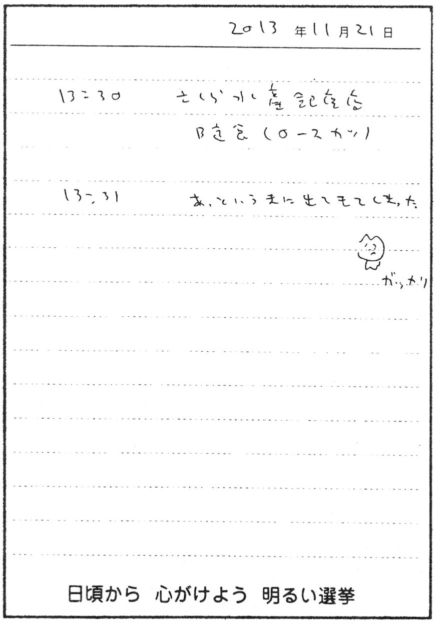
さくら水産、夕代富士そば、笑和屋、

早稲田速記医療福祉専門学校

セット麻雀シ、東京三協信用金庫

14:14　コーヒー到着

日頃から　心がけよう　明るい選挙



2013年11月21日

13:30　さくら水産記念会

B定食（ロースカツ）

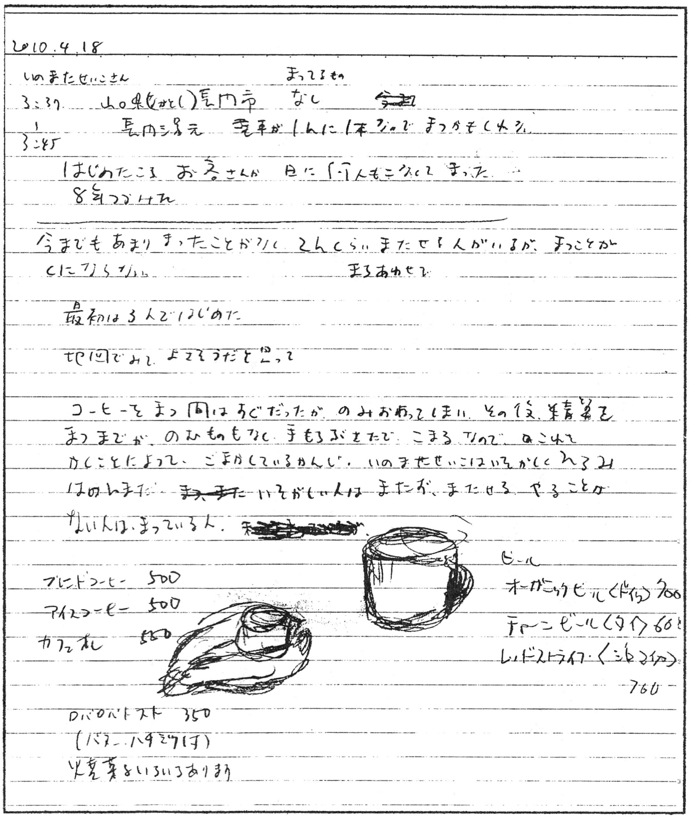
13:31　あっという間に出てきてしまった

ガッカリ

日頃から　心がけよう　明るい選挙

③報告書と言えない報告書

「店名・署名もなく、大半はコーヒーが来てから書かれていて、報告書と言えない。」（塔島ひろみ）



2010.4.18

いのまたせいこさん　まってるもの

3:37　山口県(かとし)長門市　なし

3:45　長門湯本　電車が1ぢに1本なので まつかもしれない

はじめたころ お客さんが 日に何人もこなくて まった

8年つづけた

今までもあまりまったことがなく こんくらいまたせるんがいるが、まつことが

くになるない　まるあかせで

最初は3人ではじめた

地図でみて よさそうだと思って

コーヒーをまつ間はすぐだったが、のみおわってしまい、その後、精算を

まつまでが、のむものもなく 手もちぶさたで こまる なので、これを

かくことによって、ごまかしているかんじ。いのまたせいこはいそがしくれろみ

はのんまだ。いそがしい人は またず、またせる。やることが

ない人は、まっている人。

ブレンドコーヒー 500

アイスコーヒー 500

カフェオレ 550

ビール

オーガニックビール〈ドイツ〉700

チャーニビール〈タイ〉600

レッドストライプ〈ジャマイカ〉 700

ロバロバトースト 350

(バター、ハチミツ付)

焼菓子もいろいろあります

空き待ち企画「二軍ちゃん」

——塔島ひろみの観察メモから

6月21日（土）

事務所んところの人が通らない路地で工事をやっていて、その道に入りたい人対策要員の工事会社の交通整理の人。つまりひどく暇。そうな感じで、40才位で、人が通ったり仕事ができるのを待つ間、左手のひらを右手でぐりぐり押さえて圧力を加えている。何のためか？　ずっとやっている。

待ち人百景 写真解説

(p1、p4、p5、p19、p23、p41、p44、p79)

撮影：伊藤岳人・神田ぱん・塔島ひろみ・(6のみ)前嶋かおる

1 何か反省しながら信号を待つ人（上野広小路交差点）

2 川崎市民ミュージアム前の横断歩道で歩行者が横断するのを待つ警備員

3 15時43分。自動販売機の前で商品が出てくるのを待つ20代ふうの女性。結局緑茶を買った模様

4 球を待つ一塁手(等々力緑地野球場)

5 試合が終るのを2人で待つ関係者（たぶん）(等々力緑地野球場)

6 2013年11月10日12時頃 つくば「三都や」にて、巌がうな丼を食べ終わるのを膝を抱えて待つ毅

7 市民ミュージアムバス停でバスまたは親を待つ子ども

8 日差しを気にしながら信号待ちの子連れ美女（目黒区原町）

9、10 15時51分。先導する車が来るのを待つ交通誘導員。制服にはTECNOの文字。(市民ミュージアムそば)

11 移動しながら試合が終るのを待つ関係者（等々力緑地野球場）

12 市民ミュージアムバス停でバスの発車時刻を待つバス運転士

13 見てると来ない（目黒駅）

14 グラウンドの調整が終るのを踊りながら待つ関係者(等々力緑地野球場)

15 川崎市民ミュージアム前の広場で犬がオシッコし終わるのを待つ飼い主

16 広告より小さい待っている人（御徒町駅）

17，18，19，20，21 5時54分。ラジオで競馬中継を聞きながら、写真判定の結果が発表されるのを待つ高齢者男性4人と高齢者女性1人。1着は決まっていて、2着と3着の判定を待っていた？ようだった。(等々力緑地)

22「まだ10分あるから」と言っておにぎりを食べる関係者(等々力緑地野球場)

23 川崎市等々力緑地公園で子ども（？）が遊び終わるのを待つ親

24 痛そうな顔をして信号を待つ男性（天神下）

25 22の人に「まだ10分あるから」と言われた別の関係者。自転車のかごをゴソゴソしながら10分後を待つ

26 川崎市等々力緑地公園で子ども（？）が遊び終わるのを待つ親

27 御徒町で電車待ち。うつむいて思いつめてるのかと思ったらスマホ（かケータイ）をしていた

28 やっといた紙のものを読みながら電車を待つ人（目黒駅）

29 川崎市等々力緑地公園でケツをかきながらきょうだい（？）を待つ子ども

30 サンダルを直しながら何かを待つ人(等々力緑地野球場)

31，32 16時2分。先導する車が来るのを待つ交通誘導員。とても暇そう。やはり2人ともTECNO所属の人。(等々力緑地)

33 アートホテルズ大森の裏でなにかを待つ女(手帳を見ている)

34 川崎市等々力緑地公園で滑り台の順番を待つ子ども(左)

35 川崎市等々力緑地公園で子ども（？）が遊び終わるのを待つ親

36「待ってるから」と言って子供をせかす親。待ちながら汗をふいている（等々力緑地）

37 湯島天神下交差点で歩きながら信号を待つ人

38 球を待つバッター（等々力緑地野球場）

39 川崎市等々力緑地公園で水鉄砲の水をくむ順番を待つ子ども(右)

40 球を待つ審判(おにぎりの人(↓22))(等々力緑地公園)

41 球を待つバッター（等々力緑地野球場）

42 16時5分。先導する車が来るのを待つ交通誘導員。撮ってるときは気づかなかったが、撮影者のほうをガン見している。(等々力緑地公園)

43 湯島天神下交差点でスタンバイして(左足が浮いている)信号を待つ人

44 川崎市等々力緑地公園で子ども（？）が遊び終わるのを待つ親

45 川崎市等々力緑地公園で子ども（？）が遊び終わるのを待つ親子

46 16時18分。自分の投げたブーメランが戻ってくるのを待つ少年。(等々力緑地)

47 川崎市等々力緑地公園でうんていの順番を待つ子ども

48 試合が何かの事情で中断。再開を待つ関係者(等々力緑地野球場)

49 川崎市等々力緑地公園で孫（？）が自転車に乗るのを待つ祖母（？）「早くしなさい！待ってんだから！」と待っていることを表明したため撮影(等々力緑地公園)

志村を待つ 2 オマージュ編

志村関係資料を調べていると、志村の作ったチラシ「くぼさんにオマージュを捧げる」（24号参照）にこんなことが書いてあった。

晴れた日曜日にたいてい志村は川崎市市民ミュージアム(川崎市中原区等々力1-2)で路上演奏をしています。詳細は志村までお問合せ下さい。

それは是非詳細を知りたい。そこに書かれた志村のものと思われる番号にかけてみる。すると

「この番号は現在使われておりません」

2013年1月13日、私は次のような案内をスタッフへ送った。

単なる撮影会のお知らせ
こんにちは。
さて、以下のとおり「単なる撮影会」を待ちながら行いますので、ご参集ください。
日時：2014年2月11日（火）13：30
集合場所：川崎市市民ミュージアム（川崎市中原区等々力1-2）
条件：晴れていたら
内容：車掌24号「読み物「単なる撮影会」」の著者、志村二朗とたまたま出会うのを待ちながら、付近で何か（誰か）を待ってる人の写真を撮る。
晴れていなければ、単なる撮影会をやめて、川崎旅行に切り替えるかもしれません。
よろしくお願い申し上げます。

ところが撮影会前日、私は次の件名のメールをスタッフに送った。

「単なる撮影会中止のお知らせ」

志村の路上演奏は「晴れた日曜日」に行われるが、明日は火曜日だと今頃気づいたからである。撮影会がなくなって急に暇になった2月11日

50 天神下交差点で後ろ向きに信号を待つ人
51 48に同じく再開を待つ一塁手
52 川崎市等々力緑地公園でパパのナビを待っているママ。「パパぁどっち行けばいいの〜?」と指示を待っていることを表明したため撮影
53 日比谷図書館の階段でデモが始まるのを待ちながらスマホを操作する男性
54 同じく、時代物小説を読みながらデモを待つ女性
55 15時57分。青空将棋。相手が指すのを待っているおじさん。
56 天神下交差点でポケットに手を入れて信号を待つ人
57 試合再開。51の人、同じ待つでも緊張して球を待つ。
58 川崎市等々力緑地公園で歩行者が横断するのを待つ警備員
59 天神下の信号待ち。何か見ている
60 女を見ている
61 出番を待つ次に打つ人(等々力緑地)
62 球を待つバッター(等々力緑地)
63 御徒町駅改札付近。刑事風に待つ。
64,65,66 16時28分。信号待ちをしている女性2人。その向こうに先導する車が来るのを待つ交通誘導員。(等々力緑地)
67 トラックを走るランナーたちにゴールのところで声かけする人。1周終って2週目でみんながいなくなり、また来るのを待っている(等々力緑地)
68 川崎市等々力緑地公園で子ども(?)が遊び終わるのを待つ親
69 川崎市等々力緑地公園でママがトイレから出てくるのを待つ親子。「ねーママまだ〜?」「もうちょっと待ってて」と待っていることを表明したため撮影
70,71 16時38分。先導する車が来るのを待つ交通誘導員。この奥はサッカー場。観客の大きな歓声が響きわたっている。(等々力緑地)
72 サッカー少年。球が来るのを待つ。(等々力緑地)
73 川崎市等々力緑地公園で孫(?)が遊び終わるのを待つ祖父(?)
74 サッカー少年(キーパー)。シュートの球を待つ。(もうそこに球が)(等々力緑地)
75 川崎市等々力緑地公園で子ども(?)が遊び終わるのを待つ親子か何かわからない人々
76,77,78 17時1分。信号待ちをするお父さんとお母さんと、写真では見えづらいですがお父さんに抱かれている乳児。(ミュージアム前交差点)
79 74と同じ人。カメラ目線でシュートの球を待つ
80 79と同じ人。またシュートの球を待つが、球はまだ遠い。
81 川崎市等々力緑地公園でパソコンのレスポンスを待つ男性。「…遅えなー」と待っていることを表明したため撮影
82 川崎市等々力緑地公園でベンチから飛び降りるのを待つ子ども。母親のような人が「ちーちゃん待って待って」と待たせていることを表明したため撮影
83 川崎市等々力緑地公園で誰かが遊び終わるのを待つ親子
84 ボールを待つバッター(等々力緑地)
85 ピッチャーの投げを待つキャッチャー(等々力緑地)
86 並んで待つ(目黒駅)
87 天神下交差点。足を歩道に乗せ、安定感のある姿勢で信号待ち。
88 川崎市等々力緑地公園で体力の回復を待つ男性
89 キャッチボールで球を待つ人。(等々力緑地)
90 同じ人。球がより接近。
91 同じ人。違うタイプの球を待つ。
92 川崎市営等々力グランドでランナーがトラックを周回するのを待つタイムキーパー
93,94 17時9分。バスが来るのを待つ母と娘(二人の顔はそっくり)。母のほうは服装は若く見えましたが顔は老けていました。(市民ミュージアムバス停)
95 川崎市営等々力グランドでコーチ(?)の説教が終わるのを待つランナーたち
96 川崎市民ミュージアム前の広場でスマホのレスポンスを待つ男性
97 川崎市民ミュージアム前の広場でパパ(?)と子ども(?)がサッカーをし終わるのを待つ親子
98 よくわからないけど何か待ってる陸上関係者(等々力緑地)
99 川崎市民ミュージアム前の広場で子ども(?)が自転車で自分のところに来るのを待つ父親(?)
100 陸上の人。一人で輪からはずれて冷やしながら(治るのを?出番を?)待つ(等々力緑地)
101 川崎市民ミュージアム前の広場で飼い主がコーヒーを飲むのを待つ犬

(火・祝)。この失敗に心ひしゃげながら次の展開を思案するひろみの隣りで、麦子(小6)がバレンタインの友チョコ作りに勤しんでいた。で、私が暇だと思って、いちいち、これでいいのかどうしたらいいか、聞いてくるのが、うるさくてならない。全て適当に答えるのだが、その最後で私は彼女にこう言った。

「じゃあ、あと500ワットで3分レンジしてみたら?」

納得し、早速実行する愚かな麦子。3分後、哀れ、中から真っ黒に焦げ死んだチョコクッキーが現れた。

この日、伊藤岳人は私の2つ目のメールを読まず、川崎市民ミュージアムに向かってしまい、ひどい目にあったが、その教訓(ひろみは嘘言う)が生かされなかったことによる悲劇であった。これも二朗の呪いだろうか? 暗黒の火曜日になってしまった。

志村を待つ 4 撮影会編

晴れた日曜日である2014年5月18日、改めて撮影会が実施された。川崎市民ミュージアムは何故か閉まっていて、川崎市民ミュージアムの前で路上演奏する人はなかった。

この日の参加者は伊藤岳人・神田ぱん・塔島ひろみ。3手に分かれて待つ人を撮影しながら我々は志村を待っていたが、志村は現れなかったし、現れても誰も気づかなかったかもしれない。我々にはノルマが与えられており、それをこなすのに一生懸命だったからだ。

何かを待ちながら、他のことを一生懸命することはできない。もしできてもその間は待っていることを忘れているので、本当はその間は待っていない。

という待つにまつわる重要な事実がこの日わかった。

動詞研究――待つ

村田青朔

人は誰かを待つ。相手が来ると信じている。裏切られることもある。

病院の待合室では時間が延々と過ぎていく。

クモは巣を張ってエサを待つ。

「待つ」とは、想定される何かが起こるまで、受け身的に時間を過ごすことである。

今、受け身的と書いたが、それは時間の流れに対してであり、行為としては殴りながらゴングを待つという場面もあるだろう。

踊りながら待つ。走って待つ。アクティブに待つことは可能である。待ってるとイライラして、じっとしてられない、なんて人もいるに違いない。

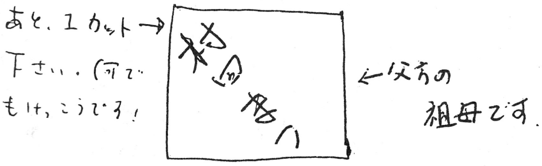
しかし「待つ」という動詞は、基本的に動作が控え目である。静的である。「止まる（とどまる）」の意味あいもある。行動の「行」「行く」とは対照的。

逃げる泥棒に「こら待て！」と言えば、「止まれ」「逃げるな」であるはずだ。「つかまえられるまでそこに居ろ」という事だろうか？　だがそう言われて「待つ」泥棒はいないだろう。変な言葉かけだと思う。

さて今度は「待」という漢字について考えたい。すると「待つ」以上に、受け身の要素が強くなる。何か偉そうな奴の影がチラつくのだ。オレの言う事を聞け！命令を待て！みたいな感じ。ミッションインポシブルである。天命を待て、みたいなところもある。

熟語にすれば「待遇」「接待」「招待」などなど。〇〇してやるから待ってろよ、という事か。「期待」「優待」など喜ばしい言葉もあるが「虐待」なんていう恐ろしいのもある。でも、どちらにせよ「扱われてる」「あしらわれてる」感じ。

いつかはわからないけど、死刑執行の日を待て…なのだ。ヤダヤダ



村田青朔
元舞踏園芸家。車掌3号に寄稿した「動詞研究・送る」以来２５年ぶりに動詞研究をしてもらいました。「いまも元舞踏園芸家ですが、身体は思うように動きません。困ったものです。ハッハッハ」（村田氏）

空き待ち企画「二軍ちゃん」―塔島ひろみの日記から

2011年4月18日(月)　鼻血が毎日出る。もうすぐ看護士が見回りで来るだろう、という時間に鼻血が出たので、言ってみた。「ここを押さえて5～10分経っても止まらなかったら、ナースコールをしてね、あ、今そこに先生がいるから聞いてみるね、先生に診てもらおう」、とか言いながら、看護婦去る。そして十分ほどすると、住田が来たが、大泊さんのところへ来た。で待っていると、次に富士登さんが住田をつかまえ

鳴くまで待つ

2014年7月　第2日め　イオン編

7月27日（日）「ドキュメント・ザ・尾行　〈鳴くまで待つ〉〈つづき〉」について

〈概要〉
この尾行は標的が鳴く（声を出す、そして我々が声を聞き取る）まで続く

標的1は、5月6日の第1回目で、舟久保文恵が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。
標的2は、同じく、伊藤岳人が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。
標的3は、同じく、塔島ひろみが「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。
このうち標的1については、舟久保が尾行開始後ほどなくその声を聞き、終了している。
標的2、標的3は、第1回目で声を聞くことができなかったので、7月27日に再び挑む。

〈当日の動き〉
2人の標的のうち、先に出会えた方から順に尾行をする。
7月27日（日）10:00船橋シャポーちゃん広場集合。
参加者（山田、三本、神田、塔島）はグーパージャンなどで組み分けをし、2班に分かれる。
第1班は標的2の、第2班は標的3の、それぞれ自宅へ急行し、待機する。
標的たちは、家にいるのか、すでに外出しているのか、不明である。どちらの可能性も考えながら待機すること。
標的2，3とも同居者がいるので、写真・その他情報を参考に、慎重に標的を判断すること。
両班とも、万一標的が家から現れ、外出行動を始めたら、尾行を開始し、その旨をもう一方の班へ連絡する。連絡を受けたもう一方の班は、その時までに自分の方の標的に特段の動きがない場合、自分の標的を一時見捨て、尾行班に合流する。
全員体制での尾行が成功（標的の声を聞く）、または失敗（非常に怪しまれる）したら、もう一方の標的の尾行に全員で移る。（→全員で標的自宅に行き、標的を待つ。）
全員体制での尾行が振り出しに戻った（標的が声を出さないまま自宅に戻る）場合は、またグーパージャンなどで、2組に分かれ、振り出しから始める。
なお、万一標的が声を出しながら現れたら、尾行はその瞬間完了となる。その場合、すぐにもう一方の班に連絡を取り合流し、もう一方の尾行（そのための待ち）を全員でする。
標的2、標的3、両方の声を聞くまで尾行は続く。この日に尾行が完了しなかった場合、また後日再々挑戦を行う。
ということもあり、あまり無理せずほどほどに切り上げ、切り上げ場所が船橋に近い所だったら、歌声喫茶の「ゴリ」で打ち上げる。

〈その他〉
・この日の全ての動きは、行方不明となっている志村二朗氏にたまたま遭遇する機会を待ちながら、行われる。たまたま志村氏を見つけたら、尾行中でも次のメッセージを氏に伝えること。
　「志村さん、私たちは今、志村さんにたまたま会う偶然を待ちながら、25号企画を船橋シャポーちゃん広場から始めています。24号を渡したいです。ご連絡お待ちしています。車掌編集部一同」
・待機中・尾行中は可能な範囲で記録を取り、後日感想もまじえ、編集部に提出する。
・待機中は退屈なので「待ちながらすること」しりとりを実行する。「待つ」の「つ」から始めてたとえば「つむじいじり」「リスたたき」「緊張」などと、相棒と進める。これは記録し、後日提出。

以上

車掌編集部「鳴くまで待つ」実行委員長　塔島ひろみ

志村を待つ　6　時鳥編

「新聞配達　7月23日」
今自分はバイクで新聞配達をしているのですが、7月23日、朝刊の配達後、店の外の道のはじでガソリンを入れていたところ、入れ終わった後、注ぎ口が飛び出して（おそらく職場に向かって）歩いていた40半ば位の女の人の方にガソリンがはねてしまうという事がありました（多分かかってはいない）そしてもちろんすぐ謝ったけれど、その女の人はキッとこちらをにらみつけて「名前は⁉」と聞き、そのうらみのこもった目におじけづき「みつもと…」と答えたのでした。
（女の人はそのまま駅の方へ行ってしまった）
その事を販売店に報告すると「そういう時は〝大丈夫ですか⁉〟と聞くものだ」と諭され、翌日同じ時間にやり直し。同じ場所で待っている事になった…45歳にもなって情けない。
ましてや、現れる確率は高いとはいえ（翌日も平日）絶対ではない。1度しか見ていない顔で違う服装（スーツではなく私服だった）だったら分からないかもしれない。
そんな不安の中、考えた事は…
「あぁ、これは27日にある尾行の予行練習なんだな」という事だった。翌日、朝刊配達後、そう思って有意義な気持ちで待っていると、標的は簡単に現れた。（〝大丈夫ですか⁉〟と聞いたら、怖がって逃げられたけれど…）
…という事で、これは本番を前にいい兆候なのではないか⁉と思い、この日の尾行に臨んだのだけれど…（三本美春）

「一切空」
最初に断っておくと、私は普段ほとんどメモを取らない人間なので、この日もメモ帳を持っていたことすら忘れ一切を記録していない。
ほぼうろ覚えの記憶と、尾行中やりとりしたメール内容からの報告になることをご了承下さい。（山田幸司）

「先勝」

午前10時に船橋シャポーちゃん広場に集合し、まずグーとパーで尾行チームを決めた。私は三本さんと組みになり、前回伊藤さんが尾行したという標的2の家へ急行することになった。ひろみさんは山田さんことまりんちゃんと組みになった。

シャポーを出たとたん、猛烈に暑くて、ぎんぎらぎんの炎天下でとてもイヤだ、やりたくないと思った。

でも、もともとの尾行予定日は前日の26日で、たぶん大安だからだけど、私が「27日ならOKです」と言ったため27日に変更されたので、今さらやりたくないとは言えない。

暦を見たら本日27日は「先勝」だ。先勝は確か午前中が吉だから、あと2時間で何とかなればきっと標的の声も聞けるはずだ。でも何ともならない気もする。（神田ぱん）

「クソ地図」

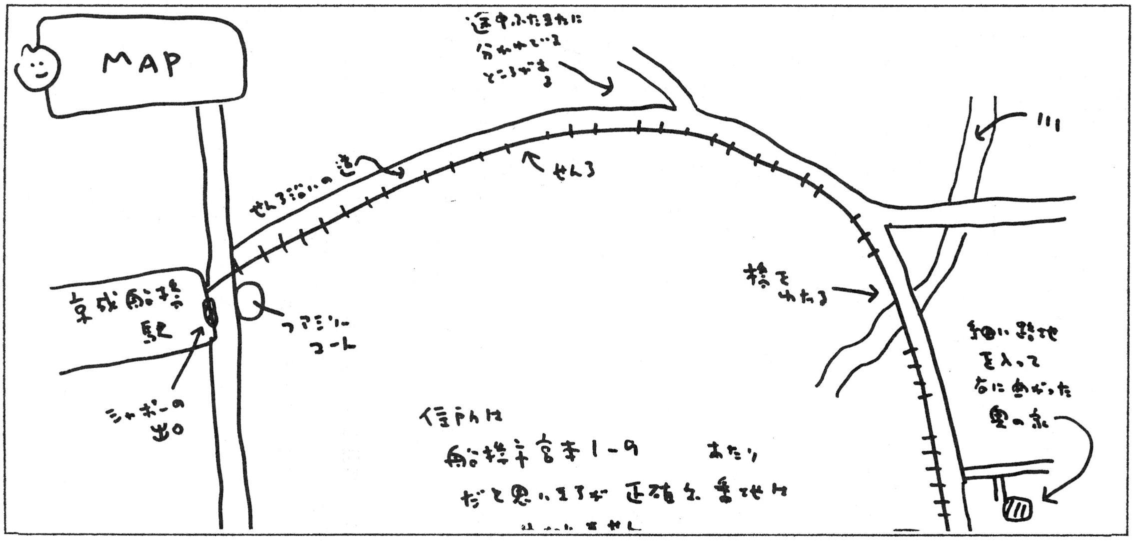
そのしょうこに、いきなり道に迷い、ちっとも標的の家にたどりつかなかった。地図では、線路沿いの平坦な道っぽいのに、そもそも線路沿いの道は途切れてたり、住宅きわきわだったりするへんな道。何なのこの地図？？　曲がるポイントも、目印になる建物も書いてない、何の役にも立たないクソ地図だ。

スマホの地図で「たぶんこのへん」とされる住所を調べたら、全然違うところだった。伊藤さんを恨みながら、炎天下をウロウロし、三本さんに「高知のクーロン城と呼ばれるさわだマンション」の話を聞きながら、10時40分ぐらいにようやく標的2の家を発見した。（神田）

尾行はほぼ初体験だ。緊張する。渡された地図を見て、標的の家に向かって、線路沿いを歩く。しかしその線路を間違えていた！！（2本あってもう1本の方だった）迷う！！しかしぱんさんが住所を検索してスマホで探し当てる。（三本）

「犬」

標的2の家は、行き止まりの細い路地の奥で、確認のため近づいたら手前の家で犬が吠え出した。すぐ近くをウロ

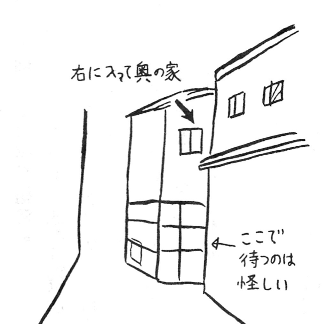


クソ地図（部分）

つくとあやしまれるため、路地につながる道路沿いの高架下にある駐車場で待つことにした。駐車場は日陰で風通しもよく、安売りジュースの自販機まであってかなり快適だった。

私は三本さんに、孫の自慢話をしたり、志村さんが音信不通になってる話をしたりした。孫の動画を見せびらかしたら三本さんは「どんな子でも『かわいいですね』って言おうと決めてましたが、本当にかわいくてビックリしました」と驚愕されていた。

11時ぐらいにひろみさんから「こちらは待ってるが動きがない」旨のメールが入った。たった1時間でこんなメールを寄越すなんて、ひろみさんもヤキが回ったな。と思いかけたが、着いたばかりの我々とは違い、ひろみ＆まりんチームは炎天下でじーっと待ってたのだろう。（神田）



通り一本はさんだ駐車場で待つことにする（三本）

「ヤキ」

塔島さんと組になりターゲット3の自宅へ。

10時半頃から〝3〟自宅の張り込みをスタート。

〝3〟は前回も塔島さんのターゲットであったことから、本人確認も容易と思われ、ほとんど玄関を目視することもなく門扉の音のみに注意しながらしりとりをして過ごす。（山田）

標的の玄関の見える、標的の家の向かいのマンションの駐車場で、張り込みをしながらしりとり開始。テーマは「待っている間にすること」。待つの「つ」から始めて、つめかみ→身だしなみチェック→靴紐直し→写真撮影→石けり→

隣接レストラン検索→首まわし、と進んだあと、
塩飴をなめる
と言って、山田氏は塩飴をくれた。自分もなめて、そして布をザーと絞っているので、その水は何かと思ったら「汗」だと言う。思わず「気持ち悪い!」と言ってしまった。(塔島ひろみ)

「しいたけ栽培」

そういえば待つ間には「待ちながらすること」しりとりをやらねばならないことを思い出し、「待ちながらすること」しりとりをした。
待つ→つらい思い出話(神田)→しいたけ栽培(三本)→イライラ(神田)→乱取り(三本)→立位前屈(神田)→つかの間の休息(三本)→靴みがき(神田)→恐怖新聞を読む(三本)→ムーを読む(神田)
さすがに自分でも「これじゃ『○○を読む』でキリがないですかね」といいわけをしたら、三本さんは「いいんじゃないですか? 読むシリーズで」と言う。そっか、いいよな読むシリーズ。本の題名さえ思いつけば無限だから便利! しかし三本さんは次に
昔ばなし(三本)
とアッサリ方向性を変えた。(神田)

「ブックオフシリーズ始まる」

山田氏は前日も熱中症で死にかけていて、今日もこんなバケツ一杯ぐらいも発汗している。塩飴1個じゃ到底補えない塩分量なので、今も死にかけているかもしれないが、我慢してもらうより他はなく、まず
「ルービックキューブ」と言って、しりとりを続ける。すると「ブックオフで古本を読む」とセンテンスで攻めてきたので、私も一単語にまとめる努力を放棄、→「スイカにチャージ」。
ここでかれこれ40分くらい待っている。11:12、神田に様子を聞くと標的2の方も動きなしとのこと。(塔島)

「洗濯物」

4、50分ほど数軒先のあまり日陰のない立体駐車場で張り込み、その後〝3〟宅をはさんで反対側のマンションの入り口に場所をかえ、〝3〟が出てくるのを待つ。
途中隣家の住人や通行人に見られはするが、それほど怪しまれてはいない様子。(山田)
標的んちの隣りの隣りくらいの夫婦みたいのが自転車で出かけていき、帰ってきて、その間炎天下に我々がずっといるのを見て、変に思わないわけはなく、マンション入り口の方に張り込み場所変更、移動。昔話→静かにする→留守電メッセージチェック
としりとりを続けながら、我々は皮膚病仲間だと言うことがわかったため、皮膚病話に花が咲く。(中身は省略)
今日は10時から駅前でまつりイベントが開始され、町全体が祭りのようだ。
それを見るため、すでに家を出て、今はもういないかも。
車があり、自転車があり、洗濯物が干され、30℃の太陽の下で標的家は静かに、だるまのように、暑さに耐え、我々はなめくじのように溶けていった。(塔島)

「標的2とする」

立って待っていたのだけれど、疲れて来て駐車場の縁石に座る(標的が出て来たら見える位置で)通行人が見る。40~50分経った頃だろうか。(三本)
しらみとり(神田)→リゲインを飲む(三本)
え→「飲む」もありですかあ(笑)これも無限に続けられますよねー(笑)とか言ったとたん、(神田)
路地から人が!!
標的だ!!(三本)
標的2と思しき人物が奥の家から出てきた。(神田)
船橋駅方面に歩いて行く。写真で見るより若く感じるが、よく見ると老けている。追う。
やっぱり同じ人だと思う(特に後ろ毛が)…(三本)
伊藤さんから送られた画像では帽子をかむっていて、60~70代男性のように見えていたが、奥の家から出てきた男性は草野大悟似…いや瀧川鯉昇似のちょっといかつい風貌、40代後半か50代ぐらいで、いっしゅん(あれ? この人と違う?)と戸惑った。
ひろみさんからは「標的かどうか迷ったら伊藤岳人にメールで確認して下さい」と指示されていたが、標的2と思しき人物の足取りは早く、伊藤さんにメールしてるヒマなんかない。とりあえず追いかけているうち、背中や足下の様子が画像と相違ないことを確信。メールすんのもめんどくさいから、もうこの人が標的2とした。
標的2は船橋駅方面へ、かなり早足で歩いている。標的2のあとを追いながら、あのクソ地図はこのルートをあらわしたかったのか~と気づいた。(神田)

「紫外線」

クイズ→ずいずいずっころばし→新聞を読む→ムード歌謡を聞く→クッキーを食べる→ルノアールでコーヒーを飲む→虫捕り→料理番組鑑賞
私たちは二人とも、紫外線療法が有効な病、という点で一致していた。紫外線に関しては山田氏の方が先輩で、みかんを食べてから浴びるとてき面に効くとか、最近の皮膚病会は患者数の多いアトピーのことしか考えてないとか。
11:45三本からメール。「こちらは終わりました。今そちらに向かいます」(塔島)

「ホンダフィット」

地図に描かれた「せんろ」は京成線の線路であり、我々がたどった線路はJRの線路だったみたいだ。どっちの線路なんてわかんねえよ。あんなクソ地図。
標的2はきっとシャポーちゃん広場に行くんでしょうね、などと話しながら尾行をしていたら、(神田)
なんとその時、信じられない事が…反対車線を走っていた白いホンダの軽(ナンバーて●11)が止まり、30歳位の薬剤師(あるいは看護師)風の白衣の女の人が出て来て「新船橋のイオンってどう行けば?…」などと標的に聞いている。(三本)
前方に停車したホンダの白いフィットから女性が下りて標的2に近づいた。
ん? 誰? 友だち??
どうやらフィットの女性は、標的2に何か道を尋ねたらしい。

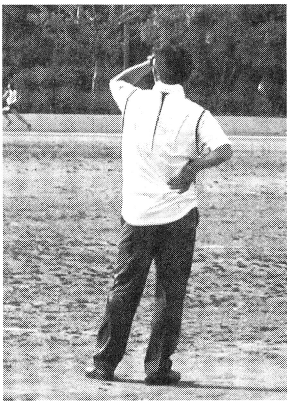
写真解説…三六頁

待ち人百景 6

62

61

59,60



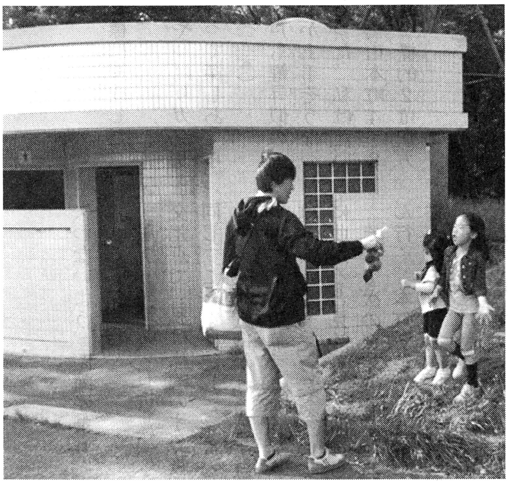
67

64.65.

66

63

69

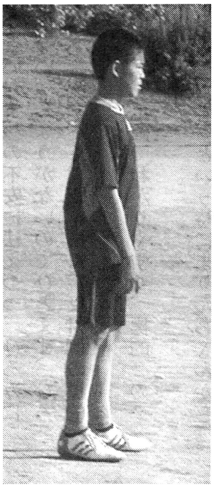


68

70

71

72



73

ええええ?? 確かにあまりひとけのないところではあったが、女性が! わざわざクルマを停めてまで! 道を尋ねる??

繰り返すが標的2は、鯉昇似のちょっといかつい風貌。私なら絶対に(あ、あの人に道きいてみよう♪)とは思わないタイプだ。

数多く歩いている人の中から、決して話しかけやすいタイプではない標的をわざわざ選んで聞くという、驚きの展開(三本)

アタマに?マークが浮かんだところで、この尾行は標的の「声を聞く」のが目標だったことを思い出し、急いで標的2に駆け寄り、そしらぬ顔で通り過ぎた。(神田)

「イオン」

「新船橋のイオンがあるでしょう、新船橋のイオンわかります?」

と標的2の声が聞こえた。(神田)

(しかも親切に、何度も教えていた気さくな標的)近付いてその声を聞く。成功。11:30(三本)

ひょっとしてあの女性は車掌関係者…?? 本日参加できない伊藤さんが雇った仕込み…??

何がなんだかわからないが、とにかく目標は達成した。尾行終了〜〜! わーい!(神田)

尾行終了。それにしても何という幸運。やっぱりガソリンをかけそうになった女の人を、翌朝も待って探しあてられた、あのいい予感は当たっていたのか…(三本)

標的2は、顔が鯉昇師匠なだけあって、声も鯉昇似の、重みと広がりのあるアルトだ。カラオケとか上手そうなつぶだちのいい声。鳴くまで待った甲斐があった。私はたいして待ってないけど。声を聞いた場所は船橋市本町4-8-50、時間は11時30分。さすが先勝。標的2は駅方面へ立ち去った。(神田)

「3も始動!」

1:46「おめでとうございます。お待ちしています」と送り、しりとりを続ける。↓運動↓うがい↓椅子にすわる↓ルノアールでココアを飲む

ルノアールシリーズの発見はとてもうれしく、その他、紅茶、ジュース、ミルク、カフェオレ、いろいろ飲んでいきたいと思ったが、ココアを飲んだところで(塔島)

11時50分、ドアが開き門扉の開く音がした。(山田)

ので、夢に終わった。(塔島)

事前にもらった写真とは別な人間のようだったが、塔島さん曰く、髪は伸びているが顔は同じ人とのこと、尾行を開始する。(山田)

私の覚えている標的とは何か違うが、ひとまずついていく。背格好と歩き方は標的と似ているが、頭の感じが似ていない(標的はさっぱりしたスポーツ刈りだったが、この人はモサモサ暑苦しい頭。目下標的率は50%)。(塔島)

「左折」

駅とは反対方向へ。

水色っぽい柄のポロシャツ以外は覚えていないが、坊主頭が伸びきった髪型が特徴の〝3〟は住宅街を抜け左折。

声を聞くためには相当近づく必要があるが、近づきすぎて不審に思われては元も子もない。そんな私の思いに反して塔島さんはどんどん急ぎ足で追っていく。とりあえず見失わないよう、距離を取りつつ塔島さんについて行くことにする。(山田)

左折=船橋駅、右折=松戸、直進=東海神、の表示のある交差点で、私は標的のすぐ後ろで顔を観察し、「顔が標的と同じ」ことを確認した。近づいたけど私は標的の視野外にいて、絶対気付かれるはずはないし、気付いても私が怪しい者であると察する理由は一つもない。ところが直後標的は、あたかも尾行に気づいている人のように、いったん左に曲がると見せかけて曲がらず、まっすぐ進んだ。

そして次の交差点で左に曲がると、速度を速め、どんどん行く。本町7-20、7-19と動いて行く住所を走り書きながら、初回尾行の終盤で標的が見せた、謎の「迂回行動」を私は思い出す。この間に山田が神田—三本に連絡した。(塔島)

それにしてもこんなに首尾よくサッサと終わるなんて、ラッキーすぎるな…いちまつの不安に怯えつつ、ひろみに電話してみたが出ない。しょうがないのでひとまず、ひろみ&まりんチームへ合流すべく、駅を挟んだ反対側の標的3の家へ向かった。

標的3宅への地図は、正確でわかりやすく、標的2のクソ地図とはえらい違いだった。

だが間もなく現場へ到着、という時にまりんちゃんから「移動している」旨のメールが入った。(神田)

「遠回り」

〝3〟は県道9号の交差点にさしかかり信号待ち。方向的には駅方面ではあるが、駅に行くには自宅を右に出ないと遠回りなので、駅からこの場所の間に目的地があるだろうと推測してみた。(山田)

そしてあ。ロイヤルホストだ。

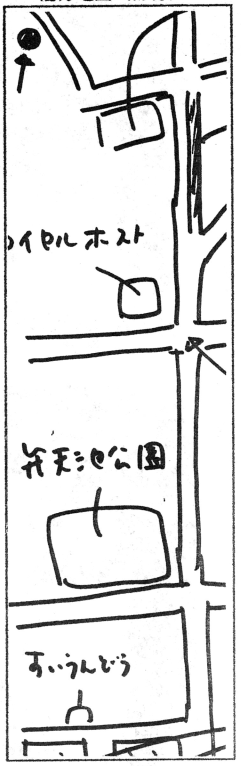
行く手にロイヤルホストがあった。

前回の尾行で標的がその前を通って家に帰った、駅と標的んちの間にあるお店。(塔島)

しかし〝3〟は交差点横断後9号を左折、さらに駅前通りを右折して駅に向かった。(山田)

そして「益子たばこ店」の前でズボンをごそごそやりポケットからハンカチを取り出し汗をぬぐった。

優秀地図（部分）



これも見覚えのある天沼公園の前で、12時を知らせるチャイムが鳴った。（塔島）

なぜ遠回りしたのだろう？ 怪しい二人組が家を見張っていて、さらに尾行されていることに気づいているんだろうか？

そう思った矢先、〃3〃は駅前の立体交差直前で立ち止まり、煙草でも吸うのかと思ったら財布らしき物を確認して引き返した。（山田）

「標的に一本」

そして右方向に進路を変え、ATMみたいなとこへ向かったので、（塔島）

ここですぐに引き返したら絶対怪しまれると思っている尾行初体験の私をよそに、やはり塔島さんはがんがんついて行く。

ヨーカドーの角を曲がった先の看板を確認し、「銀行に行くのかも」との塔島さんの予想をふまえ、ATMのある路地の入り口付近で出てくるのを待ちながら、先に尾行終了したぱんさんと三本さんに現在地をメールすることにした。が、これがいけなかった。（山田）

ところが標的はそこを素通りして左にツツツと進み、曲って曲って、アレヨアレヨという間に我々を振り切って、気がつくと我（ひろみ）しか尾行隊はいなかった。（塔島）

どうも標的3は家を出て、駅の方へ向かっているらしい。ひろみの電話は相変わらずつながらない。現場へ行ってみたが、やはりひろみもまりんもいない。あー。やっぱり…そうそうまくいくわけないと思ったよ！ しかたないので、また来た方向へ戻る。（神田）

メールを送信し路地を覗くと、行き止まりではなく駅まで抜けられるようになっていた。〃3〃と塔島さんの姿もなく周辺を見渡すも見つけられない。尾行開始20分でターゲットを見失ってしまった。（山田）

そしてイトーヨカドーへ。（塔島）

「イトーヨーカドーでの攻防」

3か月前と同じようにエスカレーターで地下に。

そこから食品売り場を右側に移動して角っこのテーブルコーナーへ。

食事時なので食べるか？と思ったけど食べず、ポットからお茶を注ぎ、飲んだ。3か月前と同じ行動。

1人なのでドキドキする。

飲み終わり、こっちに来た。トイレへ。その隙に山田氏にメール。

「ヨウカドウ地下といれ」（12：08）

でも打ち終わったらすぐ出てきて、売場は見ず、店を出た。

山田氏に「出口」（12：10）

早く来てくれ！（塔島）

「先勝終わる」

「ヨーカドー地下」「出口」など塔島さんからメールがあるも追いつけず、電話も繋がらないのでとりあえずぱんさん三本さんと合流することにした。（山田）

ぱんさんと、もう1方の塔島さんと山田さんの班の方に向かう。（三本）

途中でまりんちゃんと電話がつながった。まりんちゃんはひろみさんとはぐれてしまい「ヨーカドーの地下にいる」というのでヨーカドーへ向かう。

だがヨーカドーの地下にはひろみもまりんもいなかった。イートインコーナーに椅子もあったので、「ここで連絡を待つということにして座りましょう」と三本さんに提案し、椅子にへたりこんだ。時計を見たら12時をまわっていた。先勝の、吉の時間帯は終わり、これからは凶の時間帯に突入するわけだ。（神田）

「合流」

水分を補い、かつ尿も出しきり、すっきりした標的、このあとものすごい地の利を生かした行動（変な曲がりくねった裏道みたいのばかり通り、右折、左折を繰り返す）でひろみを翻弄、しかも町じゅう祭であちこちで遭遇する祭男女や神輿などに目もくれず、ものすごいマイペース、マイワールドの男である。

そして「いさりび」という暖簾のある店をまっすぐ突き進んで右にホテルの広告のある行き止まりの道で立ち止まり、何かをしている。

近寄ってみる。何かメモを見ているのか？ 行き先を探しているのかも。12：15。

そして左折して、右折して、などして、とあるビルに入っていった。（塔島）

脚がすごく痛いし、もう疲れたからコッソリ帰っちゃおうかなーとか思っていたが、まりんちゃんから電話が来て、ヨーカドーの地下で合流した。（神田）

しかし塔島さんとはなかなか会えず、線路を渡ってあちこち歩く。（三本）

「散髪」

そこはBなんとかいうカットショップ。

カット1200と書いてある。ガラス越しに店員とやりとりしている風なのが見える。声声声！ あーどうしよう！

山田氏に連絡しなくちゃ。急いでケータイで送ろうとするが、炎天過ぎて、画面が光って文字が全く読めない。

カット1200円は10分で切り終わるだろう。急げ急げ。

物陰に行き、入力しようとするが、オーノー！！ 私はまだ一度もアルファベットを入力したことがなかったので、アルファベットの入力方法がわからん！ おまけにこの辺の番地も何もわからん！

標的、結構切り進んでいて、トントン拍子。もうこれはメールでなく電話だ！ と気付き、℡しようとすると、何故かさっき登録した山田氏の番号が消えていて、出てこな

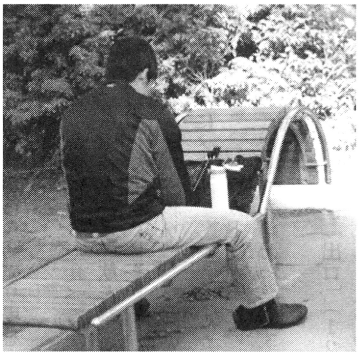
76、
77,
78

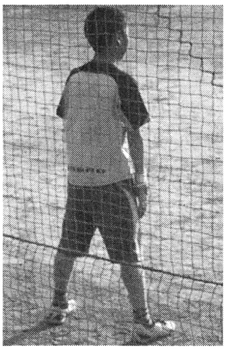
75

74

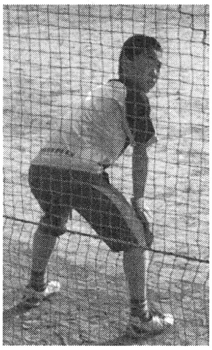
82

81

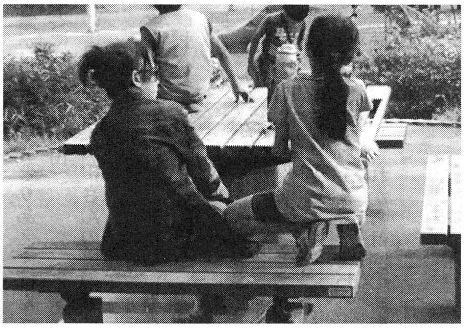




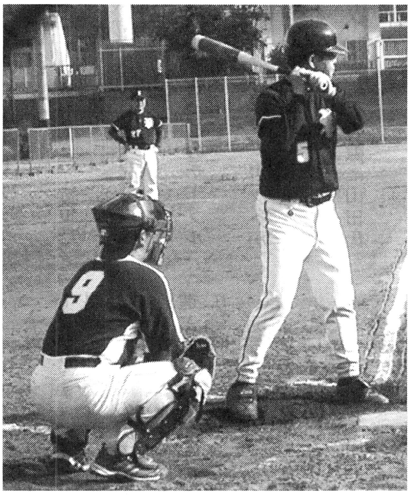
80



79



83



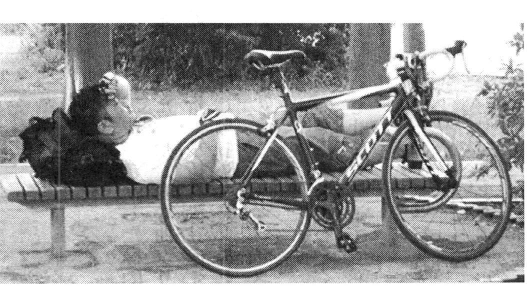
84

85

待ち人
百景
7

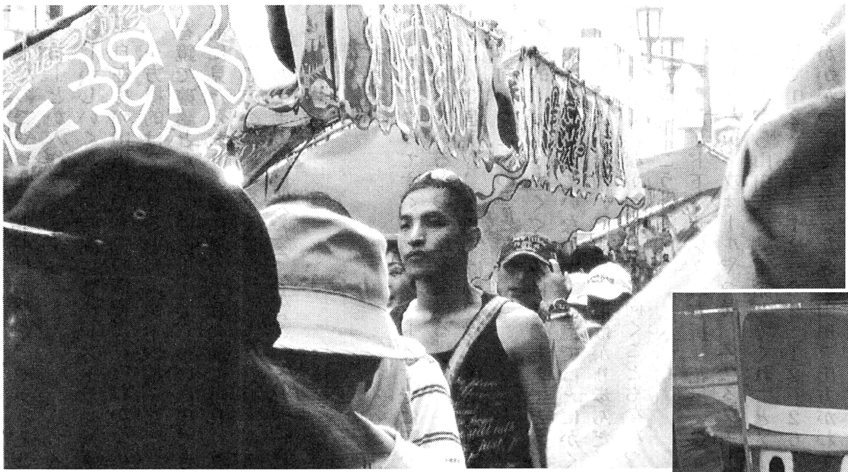
86

87

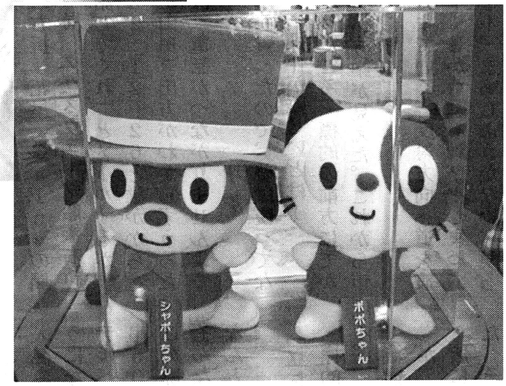


88

鳴くまで待つ・2
（38 頁～49 頁）

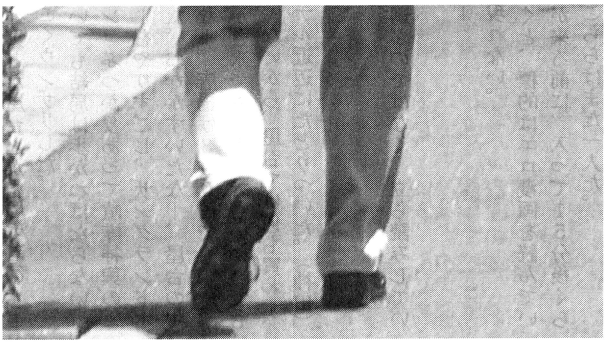


「船橋の祭りはこうなっているのか」見ているだけでもメチャクチャ楽しかった。（三本）



船橋シャポーちゃん広場にいた寝不足コンビ。

標的３の足はまず駅方面に向った。



船橋市役所前で大きく迂回する標的３（右奥）。

大通りからはずれた細道で突然立ち止まる標的３。
広告のホテル名も「ルーナ３」（左端）。

い。なのでやっぱメールしかなく、やっとえこーるふぉーへあーとか入れて送信。

しかしいくら待ち時間に隣接レストラン検索をするスマホ自在男の山田氏でもこの情報だけでわかるか？

一方標的は？と見ると、トントン拍子だ！　もう後ろ髪を鏡で確認とかしている！　で、ついに出てきた。３か月前に見たとおりの頭に戻って私の前に現れ、私を見、ガード下の方へ歩いて行く。

このまま家に帰るだろうか？　その前に声を聞かないと！（塔島）

「市役所」

三人になってすぐ、ターゲットはすでに駅の南側の床屋へ移動しているとの連絡を受ける。

三人で追うも、〃３〃は散髪終了後また逆戻りして駅方面へ向かったとのこと。（山田）

標的、ガードをくぐり抜けそのあとでどういう風に進んだかは全く覚えていないが、記憶ではとにかく地元民しか知らないような細い、曲った道ばかり歩んだ。周りの風景には目もくれなかった。振り向くこともなかった。

メモ帳にはこうある。

守屋　ガード下　サンクス右折　花屋　Ｃａｌｎｅの間　モナリザ左折　ウォールやっ局　クロスウェーブ船橋右折

歩きながら山田氏に「電話してくれ」とメールするが、そして１２：１３、１２：２２、１２：２６と誰かから電話がかかってくるが（たぶん山田）出方がわからずうろたえるばかり。１２：２７には「電話がつながりませんよ」とメールも来る。

私は尾行のためにケータイを買ったので、普段使ってないのがいけなかった。こんなに操作が難しいとは！

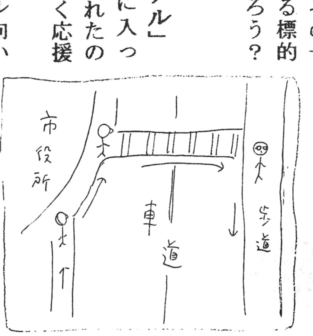
そして１２：４０も近くなったころ、標的の前方にでかい建物が現れた。「市役所」という字が見えた。これから市役所へ！？　(日)だけど？

ところが標的は市役所入口までいくと反対方向へ道を渡り、今来た方へ戻ってゆく！　しかも「あれ？！しまってんの？　えー？！　じゃあーー、まぁしようがない、戻ろう」という感じでは全くない。立ち止まらず、迷う様子もなく、男らしく淡々とその一見無駄な歩みを続ける標的は、一体何者なのだろう？

（塔島）

「サングランドホテル」

セブンイレブンに入った。やっと止まってくれたので神田に℡。一刻も早く応援部隊を得たい。



市役所で引き返す

サングランドホテル向いのセブンに入ったと告げる。早く来てくれ！（塔島）

ひろみさんから電話がきて「サングランドホテルの向かいのセブンイレブンにいる」と言うので、まりんちゃんのスマホで、サングランドホテルの場所を調べてもらった。すると、ここから徒歩１０分ぐらいかかるという。またそんなに歩くのかとウンザリした。すいている道を歩くだけでもウンザリな炎天下なのに、駅まわりでは市民フェスティバルをやっていて、神輿とか屋台とか出てでものすごく混雑していて、ものすごくウンザリした。

とはいえウンザリしていても結局は歩かねばならない。人混みをかきわけ、ガチンコぶつかりあって喧嘩神輿のようになっているベビーカーをやりすごし、サングランドホテルへ向かって歩き続けた。おなかすいたなー、屋台の牛串５００円とか買いたいなー。唐揚げ３００円でもいい。この際チョコバナナでもかき氷でもビールでもいい…でもそんなことしてる場合じゃないから、屋台では何も買わず、なんとかサングランドホテル近辺にたどりついた。（神田）

「立ち読み」

標的、何か買うものを選ぶのではなく、立ち読みしている。

結構長いので今のうち！

が、神田たちは一向、現れない。

店に入って背後から覗くと、標的はエロ漫画を読んでいた。そしてとうとう、皆が来る前に、入って１５分後くらいに、標的は出てきた。こちらはまだ一人だ。

今後こそ帰ってしまうだろう。このまま帰ってしまったらこんなに尾行したことが無になってしまう。（塔島）

「仲間割れ」

神田に℡し、居場所を知らせながら歩く。神社を通ったり、お寺を通ったりしている。すると

「そうやってその場所に私たちが行っても着いたころはいなくなっているから無駄だと思う」

と冷たい返答が返ってきた。（塔島）

またひろみから電話が来て「もう移動してて、駅の方に向かっています！」と言う。はあ～～！？　また逆戻り？さすが凶時間！　ってフザケンナ！　ハラヘッタ！

ウンザリが最高潮になった。（神田）

そして「なのでどっかお店に入ってお昼ご飯を食べてますよ、一人で頑張ってください」とか言うではないか？！

（塔島）

ひろみは「えー！？　ちょっと！　そんなこと言わないで！　来て下さい！」と絶叫したが「まー行けたら行きます。じゃーね」と冷たく切った。（神田）

「三本」

…というわけなので、また駅に戻ります。と宣言したところ、それまで文句も言わず黙々と歩いていた三本さんが「…ゆっくり行きましょう」とつぶやいた。きっと三本さんもつらいのだろうと思った。（神田）

「祭」

塔島さんとはなかなか会えず、線路を渡ってあちこち歩く。

当日は祭りで、街なかのビルが立ち並ぶ中に、露店がひしめき合っている。田舎では神社とか広い空き地なので珍し

い。ステーキ、はしまきみたいなもんじゃ焼、シロップかけ放題のかき氷など、数ももの凄い。地元のよさこいか、ハッピを着てメイクした女の人、ゆかた姿でそれを見ている人など、人出ももちろんもの凄い。「船橋の祭りはこうなってんのかぁ」と、1人で尾行を続ける塔島さんには悪いけれど、見ているだけでもメチャクチャ楽しかった。（三本）

「振り出し」

ありがたいことに標的は、まっすぐピューと家に帰らず、まだ歩いた。趣のある空いた、好さげな道を、その趣にひとかけらの関心も見せずに黙々と。

まるで神田らがひろみと合流するための時間稼ぎをしてるかのように。

でもでも奴らは合流してくんないまま駅に着き、シャポーへ、そしてシャポーちゃん広場へ続く通路へ。そして左側にある本屋で足をとめた。

またエロ雑誌かい！ と私は思ったが、ここでもエロで足どめてくれたらその間に合流できるかも！ 覗くと、読んでいるのはエロではなく、「サイエンス」だ。

「シャポーちゃんひろばのまえのほんや」と長い文面をもたもたと打ち込み、山田に送信。入力中にいなくなっちゃうんじゃないかと、ひやひやした。送信時刻1：00となっている。（塔島）

駅まで戻ったら、まりんちゃんにメールが来ていて「シャポーちゃん広場前の本屋にいるそうです」。

え。マジか。双六の「振り出しに戻る」というコマが脳裏をよぎった。凶時間、徹底してる。

グッタリしながらシャポーちゃん広場に行ったが、あんのじょう標的もひろみもいなかった。（神田）

「待ち伏せ」

サイエンスはあまり長続きせず、他の雑誌も手に取ったりするが、ほどなく本屋を後にしシャポーちゃん方面へ。

3か月前の振り出しへ向かう。

頭の小ざっぱりした標的。シャポーちゃん広場を足早に通過。東武デパート内へ行くが、ただ通路としてのみ。東武を出て左へ。見覚えのある駐輪場。そこも通路。進んだ先は、この人の大好きなイトーヨーカドー。私の嫌いな、でもダイエーや東急よりましだと思うイトーヨーカドー。そのエスカレーターを降りていく標的。今日は2度目、前回含めると3度目である。

ところが降りたすぐのところで右に曲がってイートインへ、という今までのパターンと異なり今度は地下に着いたらエスカレーターのそばのカゴ置き場に佇んで、私を待っているようだ。（塔島）

どうしようかねーと途方に暮れていたら、ひろみから「ヨーカドー地下！」という切迫した雰囲気のメールが来た。（神田）

「標的、鳴く」

カット屋から出てきたとき、私の目の前を私を見て通り過ぎた。そのときとても怖かったけど、そのあとは後ろを気にせずマイペースに歩んでいると思っていた。自分の行動に集中するタイプの人だとわかった。

しかしさすが若者。

いくらなんでも変な黒ずくめのおばさんが間抜けな影のように自分に引っ付いて歩くのに気がついたようだ。こんな時に誰かもう一人いれば！ 太い柱の陰に隠れて身をひそめる。標的はカゴのところで止まっている。

と思って待って、また見るといなくなっていた。

焦り、売場を走るひろみ！ だけどすぐいた。冷蔵品類の棚の前で買うものを選んでる！

少し遠目に尾行することにした。このとき私は完全に自分の目的を忘却し、ただの尾行者に成り下がった。

標的に見つからず、つけおおせればいい

と無意識にいつもの尾行をしていたのだ。

標的はいろんな棚を回り、おそらく自分の昼食セット一人前を買い整えている様子。まるで下宿住まいの学生のようだが、本当は立派な家に住み、家族もいる。

レジに並ぶ標的。離れたところから見守るひろみ。

標的の番になった。レジの女性が何か指さして教えている。標的が何かを聞いているようなのだ！ 私は恐怖した。

変な女につけられているようなのだが、防犯センターはどこですか？

とか尋ねているんじゃないか！ と思って、縮こまって立ちすくんでしまった。

そうこのとき、標的が声を発していたはずだった。しかし近寄って行ったら、「ほら、ほら、こいつです！」と言いつけられると思ったのだ。

声を聞いたとたん尾行は終わるので、どんなに怪しまれようともどうでもよい、あとはただその場から立ち去ればよいのであるから。

と気付いたのはこのあとみんなと合流し、落ち着き、自分を取り戻してからのことだ。（塔島）

「尾行隊、笑う」

再びヨーカドーの地下まで行くと、ちょうどレジを出たところの〝3〟を発見した。さらに続いていかにも怪しげな小走りで〝3〟についていく塔島さん。（山田）

声を聞く大事な機会を逸したために、私は今後も標的と関わり続けなければいけない。

レジを終え、袋に買ったものを入れる標的。顔をあげて私を見る。

そのあとは、例によってイートインコーナーでの無料飲茶だ。飲むかな？ と思ってたらやっぱり飲んだ。髪が長くても、短くても、エロ本を読む前も、読んだ後も、尾行されても、イートインコーナーでのこの一杯が、この男の活力の源。エネルギースーパーなのであろう。

そのあとさっきレジの人に教えられた方向に行き、そこの女性とやりとりをしている。遠くにいる私にはそこに「声」があるかどうかは判別できない。なにか、引きかえてるようにも見えるし、怪しい女がついてることを告げているようにも見えなくはない。

それからエスカレーターをのぼって外に出ると、知ってる3人が現れ、今頃現れ、少し笑いながら、しかし私よりも疲れた顔で今更ながら現れたのである。（塔島）

「標的の帰宅」

ヨーカドーの地下でよーーーーーーーーーーーーーーやくひろみと合流できた。（神田）

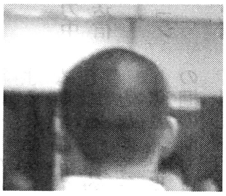
私の尾行はここで終わり、あとは帰るだけの残りの道程

鳴くまで待つ・2

(つづき)

(38頁～49頁)

この中で標的立ち読み中。お祭りなので浴衣女子の姿も。



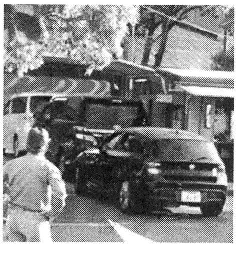
１２時５６分の標的３の後ろ頭

１２時１分の標的３の後ろ頭

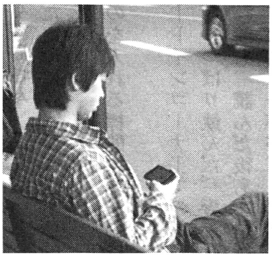
尾行沿道に突如現れた涼しげな景色。
（標的は素通り）

標的３のあとを尾行軍団がゾロゾロ用心棒のようについていく。

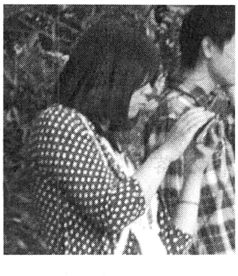
空き待ち企画「二軍ちゃん」
—待ち人百景補欠ちゃん—



とどろきアリーナ帰り客で混雑する川崎市民ミュージアム前の駐車場で出庫を待つ車両



バスを待つ人（川崎市民ミュージアム）



バスを待つ人（川崎市民ミュージアム）。

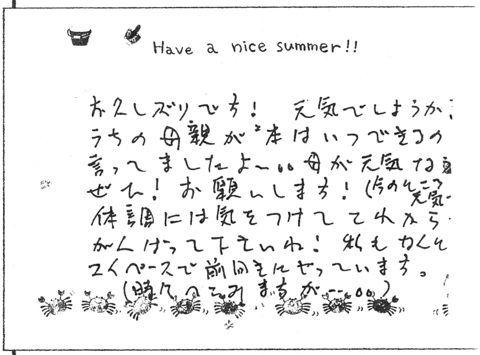
を彼らに託す。（塔島）

散髪と買い物を済ませた〝3〟はおそらく帰宅するだろうとのこと。その予想通り3は今度は駅から近いルートを通って帰宅した。

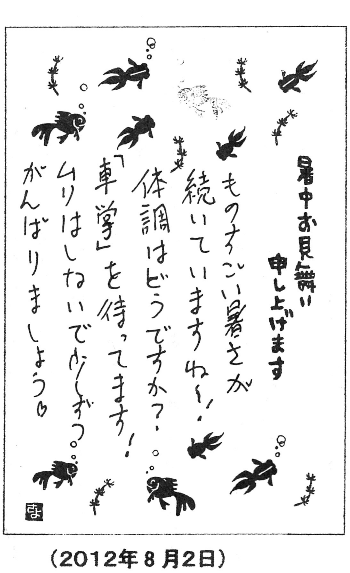
帰宅直前、最後のチャンスであろう家に入る時の発声に期待してぱんさんと一緒に3のすぐ後ろまで近づき、玄関前をゆっくり歩いてみたが、結局声を聞くことはできなかった。（山田）

ひろみが「出てくるまで待つ」とか言ったけど、私はもうイヤだから帰りますんでさようなら、と言ったら、「じゃあまた次にしましょう」ということになった。（神田）

—のりた、車掌24号発売を待つ—



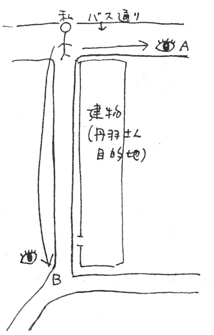
（2007年8月1日）



（2012年8月2日）

空き待ち企画「二軍ちゃん」—塔島ひろみの観察メモから

9:40-10:05まで御殿下記念館のあたりで丹羽さんを待った。まるで尾行で張り込みをするようにAとBどちらの方向から来ても対応できるよう、AとBを同時にずっと見続ける。でも丹羽さんは来ず、私は何をしてたんだろう。



ところですごく緊張して（逃がさないゾー）という気持ちで張り込んでいたため、全く考えごとをするとかなく、ただただ、来ないものを遠くに探す。来るものを見逃す危険性があるとき、人は待ちながら他のことをしない。ただ待つという行為のみする。

帰り、湯島交差点信号。女性。ティッシュの裏（↑「上野広〇〇〇」という字が見える）を読んで、それからカバンに入れた。ティッシュ配っている人が交差点にいるので、もらいたてのティッシューとみえる。そのあとまだずっと赤だけど、することはなく、ただ正面を見て待っている。（2013年6月28日　金）

白金高輪で三田線がなかなか来ず、ひたすら待っている。待ちながら、傘を忘れたことに気付き、（イケナイ！）と思う。ついでにカーディガンも忘れたことに気付き、イヤな気分になり、今日が大安だったことを思い出し、レモンパイだったけど（※）あんこも食べるべきだったかな？とか、いろいろなことを思った。（※原町最後の一年は、大安のあんぱんを「長谷パン」のパン（あんこでなくとも）とし、感謝をこめて一家で長谷パンを食べつくした。）（7月3日　水）

西小山。1分発が行ってしまい、5分待ち。私より先に来てた女性（20代）がショルダーの中をゴソゴソやってて、何が出てくるのか？と私は期待に胸を膨らませて、私も待っていると、四角いえんじ色の物体が出てきて、そこから出ているコードを自分の耳に取り付けた。そして四角いものを何か操作して（画面に字が書かれている）カバンに戻した。おそらく音響を聞いているのだろう。期待はずれのつまらない女。（7月4日　木）

早退で3:48のバス東大病院前バス停。奥さんと並んで立つ50代男性。腕を組んで仁王立ち。ぶあついお財布からバス代（小銭）を取り出し、財布をズボンのポケットに戻す。これ（あらかじめのバス代用意）を求められるバスは、ある程度の待ち時間がないと乗客や運転手に迷惑をかけるのだと気づく。その後仁王立ちを続け、一度奥さんと「テーピング」について話す。手持無沙汰だったたから話した、ぐらいな感じ。（7月5日　金）

上野広小路信号待ち。60代後半女性。財布から診察カードを取り出し見ている。何度か財布にしまいかけては、やめて、見ている。予約時間とか書いてある面を見ている。そしてついにしまって、歩きだした。（7月8日　火）

竜岡門前の、春日通りの信号待ち。60代くらいの男性。小川清著『淀川の治水論』という単行本を読んでいる。青になったら、本を閉じず、読みかけのページに指をはさんで右手に持ったまま歩きだす。左折の場合また信号待ちである。続きを読み始めようと本を開きかけたがすぐ青になったのでまたページに指を入れたままの状態で歩きだす。待ち時間のために待っていないときもスタンバイしている男性（読書翁）。そんなに面白いのか？この『淀川の治水論』という本。（7月11日）

東大病院皮膚科待合。4人連れ。小学校低学年の女の子＋母・祖父母。おじいちゃんが女の子にオレンジジュースを飲ませ、嬉しそうに3人でそれを見ている。そのあとお絵かきを始めた。（7月23日）

目黒駅待合。カップ式コーヒーかなんかを飲んでいる。20代女。昨日の例も合わせて、待つことは熱中症予防に貢献していることがわかった。（7月24日）

川崎旅行

志村を待つ 5 旅行編

２０１４年６月２２日実施

車掌２４号所収の「読み物・川崎旅行」（志村二朗著）で主人公がバスで辿った道のりを徒歩で、史朗がひょっこり現れるのを待ちながら行う、地味な旅行。

川崎旅行 ～ 旅行の目的と約束事

行程 バス川３３の行路（８・３３キロ）
終着地：彫刻「健康美」バス停・市営等々力グランド入口付近
（途中、中原区役所前の「自治会館」で休憩）

目的
１「あゝ雨の川崎旅行」（仮題）の作詞
２ 志村二朗氏に出くわす偶然を待つ
３ 動詞研究・待つ
４ 観光
５ 友好を深める

１について
信号待ちのたび、信号待ちの間に、順番に歌詞を書き足して、歌を作っていきます。上の題名は仮題なので、最初の番の人がタイトルを決めてください。
歌には、川崎旅行の道程で見聞した事象などを適宜織り込みながら、美しく仕上げていきましょう。
順番は、本日早く来た人（たくさん待った人）順。
信号は、「青だけど　次の青まで待つゆとり」という奥戸２丁目信号の標語

う。

２について
２４号で大活躍しながら、発売を前に行方不明になった志村氏を、車掌編集部は探しています。今日の川崎旅行の行程は、氏が２４号で行った「川崎旅行」を参考にしています。
道々志村氏を見かけたら、お知らせください。
持ってきたメモを、行程の中でどこか、たまたま志村氏が目にすることのありそうな場所に、置いてください。（３か所）
（たとえば志村氏は古書マニアなので、古書店の本の間に挟んだりするのは有効だと思います）

３について
車掌編集部は「日常の中での「待つ」という動詞の使われ方」の研究をしています。そのための資料集めとして、旅行中に「待つ」（活用語も含めて）という言葉を耳にしたら、即座に塔島へ内容を報告してください。また報告者はご褒美として、次の信号待ちでの歌詞作成権を順番に関係なくゲットします。（もともと自分の番の人は２回連続になります）なお、我々の発する

山田幸司・鈴木あずさ・塔島麦子・塔島ひろみと女性中心の川崎旅行一行は、１３：２０に川崎駅川３３バス停前を出発した。

最初の信号ではるばる真岡から参加した山田氏が、歌のタイトル「川崎、降ったり止んだり」を決め、うきうきと歩きだしてみたのだが、歩いても歩いても信号がなく、次の作詞へ進めない。地図を見るとこいつは「多摩川緑道路」という道で、多摩川に沿ってて、右が多摩川なので「右折」できない。だから信号がないのである。ユニバーサルデザインの２１世紀の世にあって、信号待ちの好きな人の気持ちを全く考えず設計された、時代錯誤な、詐欺みたいな、ひどい道だ。次の順番は塔島だが、幸町二丁目→河原町団地前→とノンストップで次々バス停を通り過ぎる。我々は人間のくせに、これではまるでリニアモーターカーではないか！

ようやく信号が見えてきた。しかし「青」じゃん。信号待ちのできない信号は、我々にとってはクリープを入れないコーヒーと同じだ！

そこで「約束事」にもある通り、標語「青だけど　次の青まで　待つゆとり」を積極的に取り入れ、貴重な信号が見えてきたら歩を遅め、青が点滅してあーもう間に合わないや、という頃に信号前に着くよう調整をした。更に標語の解釈を広げ、赤信号で書いてて青に変わっても、「次の青まで待つ」ことにした。自民党を手本としたこの狡からい方法により、本当は書けないはずの歌は書き進められていったのである。

１番の６行目で、山田は「青信号は意外に長い」と歌っている。これは赤で書き始め、青に変わっても次の青まで待っているときのやましい気持ちを歌ったものだが、この山田を見て塔島麦子がＫＹ発言。せっかく暗黙の了解でずる工作をしてるのに、「ねえ、どうして青になっても書いてるの？これじゃ「信号待ち」に作った歌になんないじゃん。私は「ちょっ」しか書いてなくてもちゃんと終わりにしたのに」と正論で攻めてきやがった。空気を読めや、娘！

しょんぼり罪を認め、正直なやり方に戻す。すると正直者に福があり、道は途中から内陸部に入り込み、信号が増えた。ずるする必要がなくなったのだ。

さて道中のおすすめ観光スポットは、３番に歌いこまれた駄菓子屋米屋と自治会館バーゲンで、「お土産交換」のお土産もすべて、この２か所で買われた。なお自治会館はロビーで志村二朗が不自由研究の記録をしたことでも知られる。

終着地「健康美」に着いたのがちょうど１７：００。バス川３３の行路８・３３キロを３

「待つ」は対象にはなりません。

4について
本日の必ず立ち寄る観光スポットは、信号待ちする信号前と「自治会館」および「健康美」です。それ以外に興味を持ったものを見つけたり、買い物したくなったり、トイレに行きたくなったり、メモを置きたい場所があったりしたら、著しく行程を逸脱しない限り、自由に行動していただいて結構です。

5について
友好を深めるためと、本日の記念に、終了後に「お土産交換」を行います。

110円以内の予算で（自腹）、旅行中各自一人分ずつ、そのためのお土産を入手してください。

その他
歌詞完成後、名前に「まつ」がつく人に作曲依頼しようと思っています。ノーギャラでやってくれそうな適当な人をご存知でしたら、お知らせください。

本日はご参加まことにありがとうございました！！！

車掌編集部　川崎旅行実行委員会
（代表者　塔島ひろみ）

川崎旅行行程表

（往路）	
停留所名 ↓	累計キロ ↓
市民ミュージアム	0.000km
市民ミュージアム前	0.170km
とどろきアリーナ前	0.460km
市営等々力グランド前	0.700km
市営等々力グランド入口	0.950km
小杉十字路	1.130km
小杉御殿町二丁目	1.400km
小杉御殿町	1.680km
中原区役所前	1.980km
東横線小杉駅	2.430km
市の坪中町	2.730km
市の坪本町	3.130km
市の坪南町	3.880km
平間駅入口	4.130km
田尻町	4.470km
鹿島田中町	4.730km
鹿島田	5.130km
下平間	5.430km
住宅前	5.830km
武道館前	6.130km
東芝前	6.430km
小向交番前	6.730km
小向	6.930km
妙光寺前	7.130km
戸手アパート前	7.430km
河原町団地前	7.780km
幸町二丁目	8.230km
ソリッドスクエア前	8.630km
川崎駅西口北	9.080km

「川崎、降ったり止んだり」

ここは川崎市戸手四丁目
信号がなくちょっ
黒ばらでパーマをあてて
武道館で身体を鍛えて
汚れた道着はイノウエでクリーニング
青信号は意外に長い

ここは川崎市下平間
信号はゆとりをもってちょっ
2ナハゲン 2ナホルモン
焼きたてパン屋にラ・ベルージュ
信じれば皆幸福
幸わせならよくじゅ保育園

ここはどこだかわからない
川崎は志村さんがちょっ
米屋で駄菓子の充実～～
赤信号は突然やって来る
道路橋にワーゲン
自治会館でバーゲン
川崎に雨は降らなかった

作詞　山田幸司・塔島ひろみ・
塔島麦子・鈴木あずさ

時間半かけて歩ききった。健康美前では「読み物」をまねて、像のまねをして記念撮影。最後まで志村二朗には会えなかったが、電話ボックス内の電話帳の間、自治会館のチラシの棚、中原ブックランドの書架に並んだ聖書の中、はたまた小杉御殿町二丁目町内会掲示板ほか沿道の複数の掲示板に、いつの日か志村の目に留まることを祈りつつ、志村へのメッセージがそっとあるいは堂々と、残されたのである。

志村さんへ
私たちは今、志村さんにたまたま会う偶然を待ちながら、「川崎旅行」をしています。
24号を渡したいです。ご連絡お待ちしています。

車掌編集部「川崎旅行者」一同

●山田幸司氏の感想

集合前は雨が降っていて心配でしたが、結局歩き始めたら最後まで降らなかったのでよかったです。
集合時間になっても誰も現れず、それも「待つ」特集の一環なのかと思ってしまいました。
参加人数も少なくて、作詞の順番もすぐに回ってきてしまうので わりと忙しない感じだったけど、歩くのは結構好きだし、普段なら絶対行かないであろう場所を歩くのは楽しかったです。
結局、志村さんに会えることなく終わってしまいましたが、公衆電話や掲示板に残してきたメッセージが志村さんに届くのを期待しています。メッセージの行く末と「待つ」特集号の発売を楽しみに待つことにします。
ちなみに、今回の川崎旅行での一番の収穫は、休憩地点の自治会館で偶然行われていた問屋直販バーゲンで手に入れたpumaのバッグです。
またなにかの企画の時には参加しようと思いますので、よろしくお願いします。
待乳山用の乳グッズも探しておかなくては…。

●鈴木あずさ氏の感想

お誘いありがとうございましたー。
お久しぶりなのに、いきなり集合時間に遅刻して早速お待たせしてすみませんでした！
川崎を歩いてみて、（川崎は、長い。）と初めて気づきました。
翌週の金曜に川崎市民ミュージアム（横尾忠則展）を訪れましたが、武蔵小杉からならすぐでした。
そんなことを思い知った川崎旅行。楽しかったです。
麦子ちゃんによろしくお伝えください。

●塔島麦子氏の感想

はじめてママの車掌のに参加し、意外に忙しかったです。

鳴くまで待つ

2014年10月　第3日め（完結編）

10月5日（日）「ドキュメント・ザ・尾行　〈鳴くまで待つ〉（完結編）」について

〈概要〉
この尾行は標的が鳴く（声を出す、そして我々が声を聞き取る）まで続く

標的1は、5月6日の第1回目で、舟久保文恵が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。
標的2は、同じく、伊藤岳人が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。
標的3は、同じく、塔島ひろみが「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。
このうち標的1については、舟久保が尾行開始後ほどなくその声を聞き、終了している。
標的2、標的3は、第1回目で声を聞くことができず、7月27日に再び挑んだものの失敗に終わったため、三たび挑む。

〈当日の動き〉
2人の標的のうち、先に出会えた方から順に尾行をする。
10月5日（日）10：00船橋シャポーちゃん広場集合。
参加者は、標的2の声を待つ第1班（班長：伊藤）、標的3の声を待つ第2班（班長：塔島）の2班に分かれる
第1班は標的2の、第2班は標的3の、それぞれ自宅へ急行し、待機する。
標的たちは、家にいるのか、すでに外出しているのか、不明である。どちらの可能性も考えながら待機すること。
両班とも、万一標的が家から現れ、外出行動を始めたら、尾行を開始し、その旨をもう一方の班へ連絡する。連絡を受けたもう一方の班は、その時までに自分の方の標的に特段の動きがない場合、自分の標的を一時見捨て、尾行班に合流する。
全員体制での尾行が成功（標的の声を聞く）、または失敗（非常に怪しまれたり、見失ったり）したら、もう一方の標的の尾行に全員で移る。（↓全員で標的自宅に行き、標的を待つ。）
全員体制での尾行が振り出しに戻った（標的が声を出さないまま自宅に戻る）場合は、また2組に分かれ、振り出しから始める。
尾行は、我々のうちただ一人でも、標的の声を聞いた瞬間に終了する。そのため声を出していることが明らかなときは顔を見られてもかまわず堂々と近づき声を聞き、逃げる。
声を聞くために話しかけたり、何かを仕掛けたりするのは反則。我々は標的の行動に影響を与えてはいけない。
標的2、標的3、両方の声を聞くまで尾行は続く。この日にもまだ尾行が完了しなかった場合、また後日再々挑戦を行う。

〈その他〉
・この日の全ての動きは、行方不明となっている志村二朗氏にたまたま遭遇する機会を待ちながら、行われる。たまたま志村氏を見つけたら、尾行中でも次のメッセージを氏に伝えること。
「志村さん、私たちは今、志村さんにたまたま会う偶然を待ちながら、25号企画を船橋シャポーちゃん広場から始めています。24号を渡したいです。ご連絡お待ちしています。車掌編集部一同」
・待機中・尾行中は可能な範囲で記録を取り、後日感想もまじえ、編集部に提出する。
・待機中は退屈なので「待ちながらすること」しりとりを実行する。第1班は前回の「ルノアールでココアを飲む」の続きの「む」から、第2班は「リゲインを飲む」の続きの「む」から、それぞれ始める。班員数が1名の班がある場合は、携帯メールを使用する。これは記録し、後日提出。

以上

車掌編集部「鳴くまで待つ」実行委員長　塔島ひろみ

志村を待つ　8　しりとり編

「標的ですか？」　塔島ひろみ（8月14日）

伊藤様
先日神田さんから尾行の写真が送られてきたのですが、なんか伊藤さんの追っていた標的と別人な感じがするため、写真を送ります。（鳴くのを待つ第2日めの標的2について）

「別人だと思う」　伊藤岳人（8月18日）

塔島ひろみ様
尾行の写真の件、完全に別人だと思いました。
よろしくお願いします。

「名誉を挽回せねばならない」　三本美春

朝7：30過ぎ、船橋へ出発。あいにくの雨。
しかも台風接近中との事で天気の良くなる気配はない。
10：00前、待ち合わせ場所のシャポーちゃん広場へ。
前回の尾行（7／27）以後、車掌編集部伊藤岳人さんに確認してもらった所、標的2だと思った人は別人だった事が判明。
（確かに写真よりちょっと若かった…）「もしかしたら息子さんかも」と塔島さん。
やばい。名誉を挽回せねばならない。

学ばない男からの愚かなメール　塔島ひろみ

今日は90％雨の予報で、昼からは雨足が強くなるという。そして次の日は巨大台風が関東平野を襲うというのだ。ということは、それを知っている人は今日の午前に翌日までの用事を済ませるであろう。つまり今日の午前が、今後こそ標的を捉えるチャンスである！
出かける前、9時くらいにケータイに電源を入れると、山田から
「今日は結構な雨になるっぽいですけど、決行でいいんですよね」
とのメールが来ている。7時ジャストの着信だ。栃木から3時間かけて来る山田が出がけに不安になって送ったもの

と思われるが、そして返信がないので気をもんでいるかもしれないが、愚かである。私がケータイができない人であることを、前回の尾行で学んでいないのか？彼は？　そんな男と、ケータイができない女での尾行は大丈夫か？　とこちらも不安を抱えながら準備を整え、傘を差して出発した。

船橋に早めに着いたので、何回来ても今一つわからない二つのヨーカドーと東武、シャポーと駅の関係を把握するため、シャポーや駅構内などでフロア図を写真に収める。一番ほしいヨーカドーの店内図は、非公開情報なのか見つからなかった。

今日のメンバーは伊藤岳人、山田幸司、三本美春、塔島ひろみ。シャポーに入ると、立っておにぎりを食べる岳人を発見。一緒にちゃん広場へ行くと、すでに山田・三本が来ている。とても偉い。組分けは岳人―三本組（標的2）、山田―ひろみ組（標的3）、ということにし、そして今日標的が動くとしたら早い時間帯だと思われるので、それぞれ大急ぎで現場へ向かった。

第1班の尾行顛末

「さすが伊藤さん」（三本）

伊藤さんと組んで標的2を追う。

10：15位、標的の家の前に到着。するとなんとすぐ標的が出て来る。標的をよく知っている伊藤さんについて行く。小路を抜けて歩きながら「帽子が似てるんですよね」と伊藤さん。なんか手なれてる感じでカッコイイ。

でも「ちょっと若い感じも…違うかな」とも言い出す。あまり頼もしくない…。その時、標的がチラチラこちらを振り返る。

自分は完全にバレていると思いあせるが、「あの振り返る仕草、間違いない」と伊藤さん。

そうか、あれはクセなんだ。さすが伊藤さん。やっぱ頼もしい。

「振り返るのは単なるくせなのだろう」（伊藤）

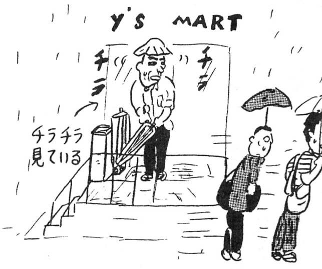
10時15分ごろ標的宅前着。道路を挟んだ京成線の高架下で三本さんと一言二言雑談を交わしていたところ、路地から標的に似た男が出てきて仰天。なんというグッドタイミング！　すぐにあとを追う。シャツがちょっと若い感じのデザインだが、背格好が同じだし、帽子にも見覚えがあるので間違いない。そしてやはり何度か振り返る。でもやっぱり気づかれているという感じはしない。大雨の中、青い傘を差し歩いていく。その道はこのあいだの駅へと向かう道ではなく、住宅街のあいだの細い道。しっかりとした足どりでずんずんと歩き、そして数回振り返りまた歩く。振り返るのは単なる癖なのだろうと思う。

「顔はちょっととかれた感じ」（三本）

標的は水色（グレー？）のシャツ、黒のズボン。60代位、170cmぐらい。なんというかノッポさんみたいな白っぽい布の帽子をかぶっている。

顔は先代（10代目）の文治みたい…わかりにくければ地井武男とたこ八郎をたして2で割った様な…（ちょっとかれた感じ）

ずーっとついて行くと交通量の多い道路を駅と反対方面に抜け、大きな通りに。ワイズマートというスーパーに入る。（標的の家からは200～300m範囲の所）　後ろについている我々を気にする様に（やっぱり自分には気付かれている様に見える）店に入る前にチラチラ見る。こちらはごまかしてそのまま通り過ぎる（イラスト①）



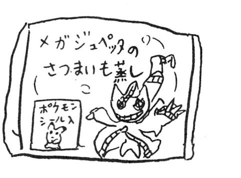
イラスト①（三本）

「最大のチャンス到来！」（伊藤）

10時20分ごろ、車道に出、その道を左へ。できればどこか遠くに出かけてほしいが、手ぶらなので近所かと思われる。と思っていたらやはり道沿いにあるY'Smartというスーパーマーケットに入店（10時22分ごろ）。入口で傘袋に傘を入れる場面で後方にいる我々をギロリと見たのでドキッとするが、その後は特に気にした様子もなく店内へ。野菜コーナーを歩いていき、商品棚のあいだを通ってレジの前にあるお米袋が積まれたコーナーあたりを凝視。そして5キロサイズ？くらいの袋を両手でかかえレジへ。尾行を開始してまだ10分くらいなのに最大のチャンス到来！

「自分は目の前にあったへんなパンを手に取った」（三本）

標的が店の中へ入る。我々もその後について入る。標的はほとんど迷う事なく米（5kg）を取りレジへ置く。（年配の男の買物ってこんな物だろうか？）自分は目の前にあったへんなパン（イラスト②）（伊藤さんはガム）を取り、レジのすぐ後について並んで（伊藤さんは20～30cm位の所にまで近付き）声を聞こうとするが何もしゃべらない。だまって、スッとポイントカードを出すだけ。店員も何も言わない。（でも我々にはカードはあるかとか袋はいるかとか色々聞いてきてうるさい）



イラスト②（三本）

「そのセリフ、標的にも言ってくれ」（伊藤）

買いたくもないガムを手に、怪しまれるのを覚悟ですぐ後ろにピタリと並び、耳も口の近くまで近づける。しかし、標的の口は固く閉ざされたままでまったく開かない。店員が袋に入れた米袋を手にとると、すぐレジを離れた。無言でお釣りを受けとり、無言で千円札を渡し、前回とまったく同じパターンだ。続けて店員が「(ガムを)袋にお入れしますか？」と僕に聞いてくる。そのセリフ、標的にも言ってくれればよかったのに～と思うととても悔しい。ガムを買い、店を出ていく標的を再度追う（10時24分ごろ）。標的、買った米を左肩に載せて歩いている。さっき真横であんなに怪しい行動をとったにもかかわらず、今度はあまり

振り返らない。やはり尾行に気づいてはいないようだ。来た道を同様に歩いて家の前の路地に入り、10時30分ごろ帰宅。「ただいま」と言ったかもしれないが、激しい雨の音でなにも聞こえず。最大級のチャンスを逃したことを三本さんと一緒に悔しがる。

「悪い予感はしていた」（三本）

標的は袋に入った米を肩にかついで帰宅。

悪い予感はしていたので、何か、何かとは思うのだけれど、策がなくただ追いかけるだけ。（伊藤さんはかなり近付いてはいたのだが）

そのまま家へ帰ってしまった。

「罪滅ぼし」（伊藤）

そのあとしりとりをしつつずっと張り込みをしたが、まったくなにもないままに時はすぎ、13時すぎ終了。三本さん、防寒のための上着を貸していただいてありがとうございました。

■しりとりの記録

無駄話→しりとり→臨機応変な行動→海釣り→リンガーハットで食事→ジュースを飲む→無理やり暗記→きつねうどんを食べる→ルンバを踊る→留守番をする→ルマンドを買う→運転免許の更新をする→ルックスを磨く→九九を覚える→ルソーの絵にいたずら→ラジオを聞く→クオカード眺め→目薬をさす→ストレートを磨く→クッキーを焼く→靴磨き→金魚の餌やり→理想の人生を考える→ルート検索→苦渋の選択→クイズを解く→熊の木彫り作り→リスの餌やり→陸ガメの世話→輪投げ→原付免許の勉強→梅酒作り→リクライニングシートでくつろぐ→グーグル検索→栗の皮むき→金髪に染める→類似商品を見分ける→ルビーの指輪を口ずさむ→ムラムラするだけ→献血→罪滅ぼし→シクラメンの香りを口ずさむ→ムード作り→リラックスする→ルージュを選びに行く

第2班の尾行顛末

気持ち悪い状態で張り込みが始まる（山田）

10月5日（日）、第3回目、私にとっては2度目の尾行だ。

前回同様シャポーちゃん広場に10時集合、再び塔島さんと〝3〟を尾行することになり〝3〟の自宅に急行。

台風前日の前線による雨で、一日降り止まない予報だ。

10：15頃

すでに靴に水がしみこみ気持ちの悪い状態で前回同様マンション入り口に隠れ、〝3〟宅の玄関を張り込む。

死んだふり（塔島）

10：15頃現場に着き、張り込み開始。まず標的家の外観を調査すると、車庫に車が停まっているのは前回までと同じだが、車の横にあった女物の（ピンクだった気が）自転車が今はなく、しかし車の後ろに自転車1台が停まっているのが見える。それから2階の雨戸が全窓とも閉まっていた。

私と山田氏は標的家の玄関がとてもよく見える前回見つけた格好の張り込み場所である向かいのマンション出入り口で待つことにし、しりとりを始めた。

ところがその直後、三本よりメール。たった二文字「発見」とある。すごい！ 規程では一方が見つかったら二班合流して協力して一人の標的を追うことになっている。なので「落ち着いたら場所を教えてください」と返し、スタンバイ。すると32分、岳人よりTEL。標的2は外出し、尾行したが、声を発することがないまま帰宅した。なのでまた振り出しに戻った。と言うがっかりな報告。たぶん台風に備えての外出を朝のうちに手早く済ませたのだろう。そうなると標的が再外出する可能性はかなり低い。我々の方だけでも声を聞きたい。気持ちを引き締めて、しりとり開始。「むだばなし」「死んだふり」。

見ると、標的の2階の雨戸が一部あいている。この間に開けたら気付くはずなので、恐らく始めから開いていたのだろう。家の写真を撮っておく。山田は「り」で長く考え込んでいた。

この雨の中出かける可能性は低いと私は思った（山田）

雨戸が閉まっているのは雨のせいなのか、それとも昨日から出かけたまま帰っていないのか。単にまだ寝ているだけかもしれない。

家にいるにしても、この雨の中〝3〟は出かけるのだろうか。

出かける可能性はかなり低いと思っている私に反し、塔島さんは明日の台風に備えて買い出しに出かける可能性があるという。それなら土曜のうちに備えているんじゃ？と思いながらも待つ以外無い。

雲を眺める（塔島）

我々のいる位置のちょうど向い、標的家の隣り家の玄関ドアが開いて、おやじが顔を出した。そしてぐいんと身を乗り出して我々を見た。それから更に身を乗り出して我々を見た。

え？どういうこと？ 我々は焦る。マンションの出入口に立ってるだけですでに我々は怪しい？ 「家の窓から我々の動きを見ていたに違いない」「写真を撮ってるのを見られたのかもしれない」「隣人に電話で知らせるかもしれない」など話し、緊張する我々。山田、しりとりの続きで「隣人に怪しまれないようにする」。

ところで2階の雨戸が全部閉まっている訳は何か？ 台風に備えているのか？ まだ寝てるのか？ 少しだけ開いているのは何故か？ 2階には誰かいるのか？ 誰がいるのか？

我々は標的の声を聞くだけが目的で、素姓を解明する必要はないが、膨大な待ち時間は余計な推測をする暇を我々に与えた。車があるのに標的はいつも徒歩。つまり車はお父さん、自転車はお母さんのもの？と、思うが何故今までの張り込み中の中で標的以外のただ一人も、家から登場しないのか？ 標的は今までの外出の中で、何故わざと遠回りすることが多いのか？ 何故ヨーカドー地下の茶をこうも頻繁に飲むのか？ そして、日曜日の決まった外出がしにくいこの雨を、今どこでどんな気持ちで受け止めているのか？

ルノアールで紅茶を飲む―むき栗を食べる　私はルノアールで紅茶を飲みながら人を待った経験はない。山田氏は

むき栗を食べながら人を待った経験があるのだろうか？　虫探し—白髪探し—詩を書く—雲を眺める—ルーマニアについて調べる—ルノアールでカフェオレを飲む—ムーミンのまね（って何？）—年賀状眺め—メガネ拭き—緊張。

さわやかな挨拶　（山田）

待ちながらすることしりとりをしながら待つが、２文節でもＯＫという謎ルールのせいで、動詞で終わってう段から始まるという地獄のループで苦労する。（しりとり内容の記録は塔島さんに丸投げ）

途中コンクリートに降りてきたミミズを救出したり、マンション住人とさわやかに挨拶を交わしたりしつつひたすら寒さに耐える。

いじめ　（塔島）

時折マンションの住人が出てきて、怪しむというより「こんにちは！」と明るく声をかけられる。挨拶は防犯に効果がある？　またはでかいマンションで住人の顔なんてどうせ知らないから、ここにいる人には取りあえず挨拶をする人が多い？

ミミズがどっかから登場し、雨の中をゆっくりゆっくり歩行している。ミミズはどこからきてどこへ行くのか？　腕立て伏せ—洗濯—クロスワード—ドングリ拾い。雨はどんどん激しくなっていた。突然山田氏がカバンからレジ袋みたいのを取り出してガバチョとミミズをつかみ、そばの植え込みの中に放った。このままではミミズは死んでしまうらしい。とても偉いが、ミミズは自分なりに目的を持ってどこかに行こうとしてたように見えたので、いきなり植え込みに戻すのはどんなものか？　有難迷惑なのでは？　と少し思った。その後ミミズは何故か泥だらけになり、また植え込みから出る方向に動くのを、山田氏が自分の傘で戻していた。急いで歩いている人や妹殺害中などの人は、目立たない所で老人が倒れていても気付かず、助けないが、待ってる人は、気付く。そして助けるだろう。待ってる人は、待ってない人より視野が広く、待ってる人が見落とす大事なことに気付く。待つことの効果を今、発見した。

犬に餌—皿回し—週刊誌を読む—無駄口を叩く。寒くなってきた。山田氏、公園にタバコを吸いに行き、戻ってくる。タバコを吸う人は待つとタバコが吸いたくなる。タバコを吸う人にとって、待ち時間が多いことは不健康に直結する。私は今タバコを吸う人でないため、このじっと待つことに耐えられなくなると時折、標的家を横目で睨みつつ公園まで足を伸ばし、また戻った。屑拾い—いじめ—メイク直し—しゃがみこみ—ミミズ観察—月見—身支度—苦しむ。

駅弁購入　（塔島）

お昼が近付いてきた。標的家の隣りも別の隣りもその隣りも、誰か出てきては出かけたり何か用をしたりと（自転車を動かすとか）動きがあるが、標的家だけ、静かだった。前回、午前中に出かけイトーヨーカドーで昼食と思われるものを買って帰った標的。今日はお昼はどうするの？お昼に向けて何か動きがあるのでは？と話していると、ブーンとオートバイが通り過ぎた。「ピザヨーカー」と書いてある。虫よけスプレー—駅弁購入。そのときである。

１１：５０頃突然　（山田）

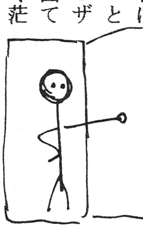
１１：５０頃

突然〝３〟宅のドアが開く。

私の位置からは自転車置き場の屋根で隠れて男性であることしかわからないが、塔島さん曰く〝３〟がじっとこちらを見ているという。そしてそのままドアを閉めてまた家の中へ。

店に入る　（塔島）

１１：４９標的家のドアが開き、標的の姿が。でこっちを見てる。じっと見ている。めっちゃ見ている。何で？何で？　私は動揺し丸い柱の陰に隠れながら震えた。さっきの隣人が電話で教え、標的が様子を窺った。と山田氏が恐ろしい仮説をたてる。私はさっきのバイクを思い出し、「きっとピザだよピザ！」と思い立った。ピザを頼んで、バイクの音がしたから出てみた。しかしいないので、しばらく茫然と立った。



でもしそうなら、つまり間もなくピザ屋が来る→標的がお出迎え→ピザ屋と会話を交わす、という流れになろうから、いつでも会話のそばまで行けるようスタートの用意。待ち構えた。腕組—店に入る。山田氏が「る」で考え込んでいる間１２：００になる。ピザーラが２台続いてやってきた。そしてあっけなく走り去った。ピザ屋がまた来た！　さっきのピザヨーカー。また探すでもなく走り去った。雨なので、今日はピザ屋大繁盛のようだ。そば屋も４回くらい通り過ぎた。

そうなれば私が頑張らなければ　（山田）

雨戸が閉まっていてこちらが見えないはずなので、単に雨の様子を見るためにドアを開けただけで怪しまれているわけではないとの結論に達したが、偶然にしてもこっちをじっと見られるというのはあせる。この後〝３〟が出かけるとなると、塔島さんはかなり怪しまれるのではないか、そうなれば私が頑張らなければ。しかし前回はぐれてしまってすっかり自信を失っている私は、〝３〟が出てきて欲しいような出てこないで欲しいような微妙な気持ちでしりとりを続ける。

恨む　（塔島）

１２時５分。三本からメール。期待して聞くと

「そちらも動きなしですか」

これは「そろそろ止めたい」と同義である。向こうは屋根のあるところがなくこっちより辛い状況かもしれない。この寒さだけど、岳人は半ソデだったし。だけど、残念でした。こっちは今終われる状況にない。ピザでなくても、ドアを開けたのは雨の様子を見たかった。何故ならこれから出かけるから。という事があり得た。「も少し待ってみます」とメール。

でさっき標的はジャージみたいな家の格好だったから、やっぱ出かけない？　いや雨の様子を見て、これならいけるとこれから防水バッチリの格好に着替えて出かけるかも。しかしさっき見たとき雨はかなり激しく降っていたから、やっぱやめた、って思うだろう。考え進めると出かけ

ない可能性の方が高いかも。三本から「(そちらだけでも)と思います」と自らの尾行は放棄したみたいな返信が来る。山田氏も全く続けたそうに見えない。「ルマンドを食う」一応しりとりは続けている。午後から出かけることはないと思った。13時まで待ってみることにし、1班にもそう伝え、あとはもう出てくるとは思えないけど一応立っているだけ。本当に体の芯まで冷え切っちゃった。

時間がかかり過ぎている(山田)

ドアが開いた時、〝3〟はスウェットのような部屋着だった。しかし着替えて出かけるを準備をしているにしても時間がかかりすぎている。

くじ引き(塔島)

迎えに行く―くじ引き―休憩―痛みをこらえる―ルートチェック―口出し―食事時間稼ぎ。

やっと13時になった。尾行は次の回へ持ち越しになったが、すかさず山田氏「俺は参加、義務じゃないですよね」と言った。

私は参加するのだろうか(山田)

結局この後、〝3〟は外出することなく13時を迎え、雨と寒さで耐えきれず張り込みは終了となった。今回、尾行にすら至らなかったが、あの雨を考えるとその方がよかったのかもしれない。傘で顔を隠せるとはいえ、靴下を濡らして雨の中を歩く事自体私にとってはかなりのストレスだからだ。

それにしてもこの尾行は今回ですでに3回目だ。次回でターゲットの声を聞いて終わらせることができるのだろうか。そして私は参加するのだろうか。次回決行日が暑くもなく、寒くもなく、ターゲットに気づかれもせず見失うこともない適度な人手の日であることを願って報告を終わる。

空き待ち企画「二軍ちゃん」―塔島ひろみの日記から

2011年10月1日(土)

高田渡のCD聞いてて、「鉱夫の祈り」で、家族が鉱夫を待っていた。

♪家族らは今日も待つ　深く頭をたれて
　子供らは帰りを待つ　今日の日の終わりを

今、フクシマの現場で働いてる人の家族の気持ちだろうか。鉱夫が帰ってこないとお金がないので、待っている。あと事故に遭いやすい現場なので心配で、無事で帰って来るのを待っている。

頭を垂れているのは、お父さん様様で、頭が上がらないのか、栄養が足りなくて頭が下がってしまうのか(ダランと)。

この「待つ」は鉱夫が帰った時点、1日が終わった時点でリセットされ、また翌日から始まるルーティンの待つである。

しかし鉱夫が出かけて直後から頭を垂れて待つのは不自然なので、もうすぐ帰ってきそうってときから待ち始めるのだろうか？

そうすると、意外と早く帰ってきたときは、待ってないのだろうか？

この歌の背景とともに、このあたりのことも調べておいていただきたい。

10月2日(日)

ついでに友部の歌も聞いたら、待ってるソングだった。

ストライキ。

♪僕は御茶ノ水で電車を待ってる、君は渋谷で僕を待ってる、とか言うのだ。

んで、一向に動く気配がないのか？　いつ動くのかな？　とか言うんだっけ？

忘れたけど、このストライキは、間引き運転？　それともノロノロ運転？

僕と君はそれぞれどのくらい待ったのだろうか？友部に聞いてみればいいのかな？

友部に聞いてみよう。

10月3日(月)

あみんだっけ？の♪私まーつーわーていう歌をCMで流してるみたいで、今日台所に聞こえてきた。何のCMか？　何を、どれだけ待ち、実現されるか？

あみんの元歌は忠犬ハチ公を思い出すのだが、「いつまでも待つ」と言って、本当にいつまでも待った人はどれだけいるか？　待つのをやめた人もたくさんいるのでは？

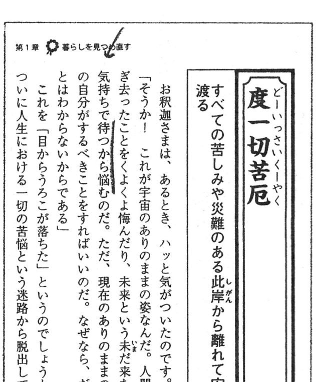
「待つ」と言っておきながら、やめた人の、その動機、そのときのやましさ、とかも調べてみたい。

10月16日(日)

再びポケット般若心経(中経出版　大栗道栄、2008)。「待つから悩む」(p41)。これを読んだのが9月11日(土)何と一年経っちゃった！

お釈迦さまがあるときこう気づいた。9/5、9/6の、9/5の方の考えである。9/5のは未だ来らぬを待ち設けることなかれ、で同じことが書いてあっただけだった。でこの考えにおいて「待つ」は「未来のことを考える」と同義に使われている、と気づいた。そう考えると、待つ、というのはお釈迦さまには悪いけど、前向きな、未来志向の行為である。でお釈迦様は「前向きな未来志向の行き方」というものを否定したわけだ。さすがお釈迦さまである。人は前向きでも後ろ向きでもなく、「今向き」にしてればよいと。

もう一度まとめると



第1章　暮らしを見つめ直す

度一切苦厄(どーいっさいくーやく)

すべての苦しみや災難のある此岸(しがん)から離れて安楽の彼岸(ひがん)へ渡る

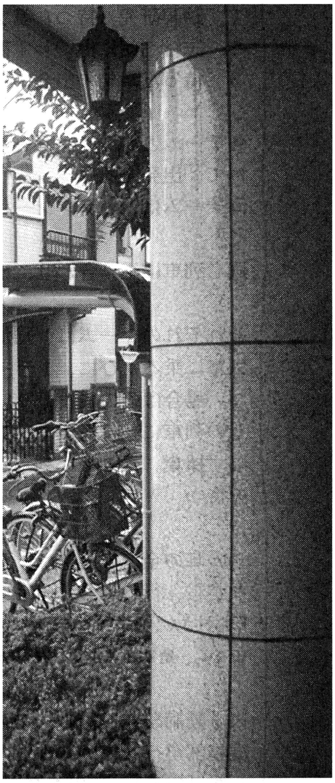
お釈迦さまは、あるとき、ハッと気がついたのです。

「そうか！　これが宇宙のありのままの姿なんだ。人間は過去という過ぎ去ったことをくよくよ悔んだり、未来という未だ(いま)来ないことを不安な気持ちで待つから悩むのだ。ただ、現在のありのままの現実を見て、今の自分がするべきことをすればいいのだ。なぜなら、だれにも明日のことはわからないからである」

これを「目からうろこが落ちた」というのでしょうか、お釈迦さまはついに人生における一切の苦悩という迷路から脱出して、悟りを開いた

41

第2班の張り込みを助けた、標的宅向いのマンションの柱。



米を肩に担いで帰宅する1班の標的と追跡する伊藤。

鳴くまで待つ・3
（52頁～56頁）

何の収穫もなく雨の中撤収する第2班。

若葉マークの美女、まじめに（信号機直視）待つ（上野広小路）

スマホに夢中の沖縄美女（沖縄・ゆいレールホーム）

待たれることの多い職業の人が待ってるところ（上野広小路）

話しながらバスを待つ女性と一見何もしないで待つ男性（上野広小路）

待ってない人の背景にまわる待ってる人（上野広小路）

空き待ち企画「二軍ちゃん」
―塔島ひろみ「待ってる時の待ってる人」―

待合～町田から、松戸から

志村を待つ　７　電車編

２０１４年８月

車掌２４号３５ページで、志村二朗氏はこう述べた。
「松戸へ行きたい」
また同３８１ページで、志村二朗氏はこうも述べた。
「川崎から自転車で町田へ行こうとしている」
志村に会いたい我々は、松戸と町田の２大起点から始める、壮大待合イベントを決行した。

25 号企画「待合～町田から、松戸から」　＜車掌編集部待合企画委員会＞

日時：８月３１日（日）13:00 集合
集合場所Ａ：小田急小田原線町田駅３，４番線ホーム待合室
集合場所Ｂ：JR 松戸駅５，６番線ホーム待合室
第２次集合場所：車内。（チームＡ、Ｂが同じ車両に乗り合わすまで待つ）

目的：
１　動詞研究「待つ」第２部
２　志村二朗に出くわす偶然を待つ
３　待った挙句の出会いの喜びを学ぶ

各チームとも、メンバーが集合したら、チームＡは松戸に向けて、チームＢは町田に向けて、出発する。
両チームは、トランシーバー等文明器具で連絡を取り合いながら、相手の方向に進んでいく。
同じ列車に乗り合わせ、出会い、喜ぶ。

それぞれのチームは、「動詞研究・待つ（第２部）」（※）を行いながら移動する。１つの列車に乗るたびに、１データ以上は必ず採集。降りたい駅に着いても、採集が終わっていない場合はそのまま乗り続ける。万一終点まで行っても採集できていない場合は、折り返しの列車に乗り採集を試みる。またそれぞれのチームは、下車した駅でも１データ以上を必ず採集。乗りたい列車が着いても、採集が終っていない場合は乗らず、「待つ」の到来を待つ。

この日の全ての動きは、行方不明となっている志村二朗氏にたまたま遭遇する機会を待ちながら、行われる。運よく志村氏を見つけたら、次のメッセージを氏に伝えること。
「志村さん、私たちは今、志村さんにたまたま会う偶然を待ちながら、25 号企画を松戸から、および町田から、始めています。24 号を渡したいです。ご連絡お待ちしています。車掌編集部一同」

※「動詞研究・待つ　第２部」
編集部が行っている日常の中で使われる「待つ」のフィールド研究。街中でたまたま耳にした「待つ」（活用を含む）を採集、分析する。今回は電車内または駅構内の利用客の使う「待つ」に限定し、調査（我々自身の使う「待つ」は含まない）。ちなみに同研究第１部は、舞踏家の村田青朔氏が行っている。
採集例：小田急線新宿行の登戸付近（走行中）。鳳蘭風の女性が、隣の友人に「私は今運命を待っているの」。など。

＜残念ルール＞「待ってない」
「待つ」の否定形を耳にしてしまった場合、残念ルールが適用され、ただちに下車。引き返し、または別の路線に乗り換える。ただし、待つの否定形も採集対象なので採集データに加えること。

＜禁止事項＞
車内での携帯電話・スマートフォンの使用は禁止。またシルバーシートの近くでは電源をオフにする。

出会えないまま参加者の帰りたい時間になった場合、同日中の完結をあきらめ、相手チームに連絡の上、解散とする。（後日、出直しを図る(続きから)）

採集したデータは、自チームの動きや感想もまじえた報告書とともに、終了後２週間以内に編集部へ提出する。

まつど

町田から　塔島

この企画を発表した時、神田ぱんから「私の住んでいる「町屋」も仲間です」みたいなメールが来た。確かに町屋は「まち」に関係はあるが、志村二朗に言及されなかった残念な、仲間はずれの町である。

参加者は栃木の山田、町屋の神田が松戸チーム。板橋の伊藤、葛飾の塔島が町田チーム。13：00発車のベルが鳴りました。

路線図を見ると何と松戸と町田はこんなに遠いけど、一回の乗り換えだけでつながっていた。油断すると、すぐ松戸に着いちゃう。そこで引き返しを避けるため、あえて時間稼ぎに各駅停車を選び、13時14分発新宿行き、というのに乗る。

町田から新宿へ

それはすごくすいている電車で、岳人と一旦解散して待つを探しに車内をうろつくと、一人客が多く、また遠くから乗ってきているのか、ほとんどの人が眠っていた。中学男子グループを見つけ、隣りに座って耳をそばだててみる。すると1から10までゲームの話題。会話に「待つ」は登場しない。席を立ち、「最後尾で待ち合す」という待ち合わせ方式に期待して、最後尾に移動。しかしいくら停車を繰り返しても、顔をあげてホームに興味を向ける人はなし、新しくこの車両に乗ってくる人もほとんどなかった。

岳人との待合せ場所に戻ってみる。いないので、岳人もまだ採取に成功していないようだ。優先席に座っている母子を見つけ、その正面の優先席に私も座る。親はスマホを操作し、子供は何かを食べていた。そして食べ終わり、「もっと食べたい」と言った。そしたら親は言ってくれた。

待って

よっしゃあ！　たぶんスマホ操作が中途半端だったのだろう。そうなんだよ、スマホは「待つ文化」を育てる楽しみな道具なのだった。役に立ってくれてありがとう！

まつど

松戸から　山田

2014年8月31日12：36　松戸駅到着

5、6番線ホームの待合室を探しているうちにスタート時間が近づき、昼食を取るチャンスを逃す。

空腹のまま待合室で待っていると、13時少し過ぎ、今回のパートナーであるぱんさんがやってきた。

13：02　ぱんさんと合流

13：06発の常磐線、唐木田行き各駅停車に乗るのがいいとのこと。代々木上原か新百合ヶ丘で小田急に乗り換えれば、一回の乗り換えで町田に行けることは事前に路線検索で知ってはいたが、私自身は間にもう一路線入れた方が出会いやすいとのプランを考えていた。しかし、車内で携帯電話使用禁止例が出ているので都心の路線情報に疎い私はぱんさんに従うことにして意見は言わないでおく。

松戸から唐木田へ

13：06　常磐線各駅停車、唐木田行きに乗車

この電車に乗ることをAチームに連絡していないことに気づく。しかしメール作成中に発車時刻になってしまい送信は断念した。

発車直後から二手に分かれ、「待つ」採集することにし、優先席でベビーカーの子供に話しかけている母親を発見し横に着く。車内は走行音が響き思っていた以上に会話が聞き取れないが、立っているのが嫌なので亀有で空いた向かいのシートに座って耳を澄ますと同時に、隣のカップルにも注意を注ぐ。

13：19　北千住出発直後、「待つ」採集

カップルがほとんど会話をしないので母子に集中していると、子供におもちゃを与え始めた。

母が持つビーズのブレスレットのような物に手を伸ばし「ちょうだい」と子供。母は他のおもちゃを先に袋にしまいながら

「ちょっと待って」

空き待ち企画「二軍ちゃん」
──塔島ひろみの日記から

8月28日

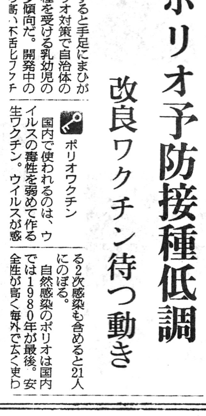
去年の9月3日に見つけた待つは、ヒロシマナガサキを考えるの98号p16の「慰安婦」問題（渡辺美奈）に出てきたやつで、国連の女性差別撤廃委員会が日本政府の慰安婦についての報告書を審査した。日本政府はいつもと同じ解決済論を展開したため、中国の委員が「慰安婦問題を直視しないといけない」と発言した。そして慰安婦問題に取り組むネットワークグループが国連の女性差別撤廃委員会への情報提出を一緒に準備してきたので、最終所見で慰安婦問題がどう触れられるか、期待して待っているところです。

という。

2009年7月の国連「女性差別撤廃」委員会の最終所見。

いつ、どういうふうにでたのか、調べてみよう。

9月1日(木)


月31日　水曜日　朝刊

ポリオ予防接種低調

改良ワクチン待つ動き

感染すると手足にまひが出るポリオ対策で自治体の予防接種を受ける乳幼児の数が減少傾向だ。開発中の安全性の高い不活化ワクチ

ポリオワクチン

国内で使われるのは、ウイルスの毒性を弱めて作る生ワクチン。ウイルスが感

る2次感染も含めると21人にのぼる。

自然感染のポリオは国内では1980年が最後。安全性が高く海外で広く使わ

ポリオの予防接種をうけない子どもが増えているそうだ。どういう人かというと、

①待つ人→国内で開発中の安全性が高く海外で広く使われる不活性ワクチンと合わせた混合ワクチンの登場を待っている人

②待たない人→①の登場を待たないで、海外のワクチンを独自輸入して接種する医療機関で自費だけど接種してもらう人

の2通り。

混合ワクチンが医薬品承認を受け使えるようになるのはいつか？

待つ人①と待たない人②と、待つ待たないの議論と関

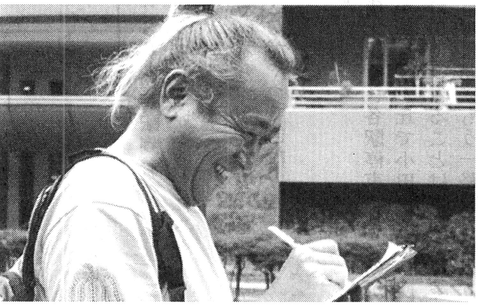
川崎旅行
（50 頁～51 頁）

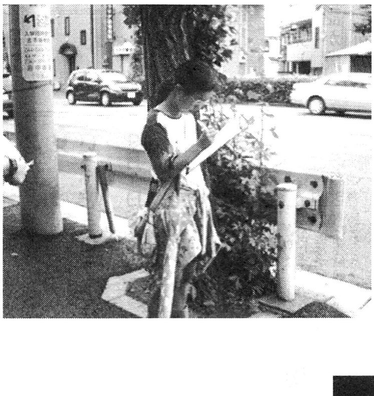
信号待ちしたい我々の
期待を裏切る青信号

川崎旅行ゲスト参加者　左から山田・塔嶌・鈴木
後ろは我々と同じ行程を辿る「バス川３３」

歌に詠み込まれた川崎市石川記念武道館

貴重な信号待ち
作詞は愉快だ





最年少参加者も真剣に信号待ちに向き合った

〽赤信号は突然やって来る

〽信じれば皆幸福

〽ここは川崎下平間

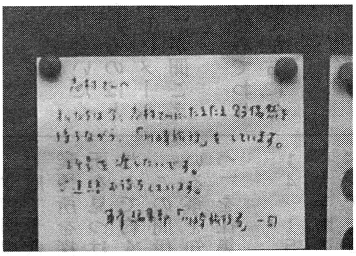
川崎旅行つづき

（50頁～51頁）

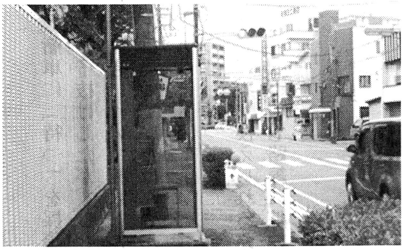
志村が休んだ自治会館　子どもと男は股をひらく

志村へのメッセージを掲示板に貼る参加者

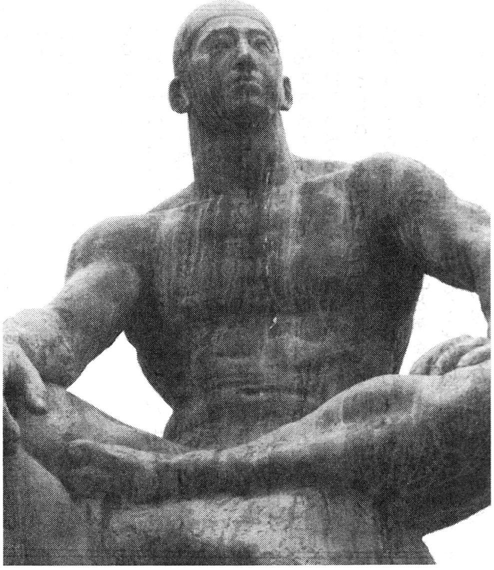
町内に公示されたメッセージ



電話ボックス（電話帳）にもメッセージを挿入



山田のかばんは自治会館バーゲンで買ったもの



最終地「健康美」についに到着

志村を偲び健康美と同じポーズをとる

笑ってさっきの車両に戻ると、めっちゃ耳をそばだてている岳人がいた。採取成功の旨を告げ、あとは一緒に乗って行く。新百合ヶ丘付近走行中のことであった。

チームBはどうなっているだろうか？　知りたくても車内ではケータイ類を使えない。祖師ヶ谷大蔵での待ち時間の隙にチェックすると、岳人あてに1つメールが届いていた。彼らは「唐木田行き」というのに乗っているらしい。そっか、こっちも何に乗っているか言わなきゃいけない。経堂で「待合せします」とかの放送があったので、岳人をホームに押し出し、メールさせる。が岳人はほどなくニヤニヤしながら戻ってきて「待合せしませんでした」とのこと。

電車は少しずつ混んできた。新宿まで乗るのかと思っていたら、松戸に行くには代々木上原で乗り換えるらしい。代々木上原で下車。

代々木上原

この駅が最寄りの、職場関係の人が複数いる。会いたくなかった。しかも岳人と二人でいるのを目撃されるのはとてもいやだったので、岳人にホーム上でチームBにメールを送らせ、私は階段を下りて改札付近で「待つ」が聞こえるのを待った。

そしたらありがたや。トイレの男女別。待ち始めてわりとすぐに、カップルがやってきて、トイレの前で左右に分かれた。男

ここで待ってるから

ホームに行く。岳人がおばさん集団のそばで耳をそばだてている。見つかったと言うと、少しがっかりな様子だった。

さてチームBを目指し我々は進む。14：17の綾瀬行きというのに乗ることになり、岳人がメール。そして乗った。

綾瀬行き

そしたらこの電車もメチャメチャすいている。うろうろ

と発言した。

発車から13分、こんなに簡単に「待つ」を採集できると思っていなかったので少し拍子抜けしたが、ひとまず安心しぱんさんに報告、今後の動きについて相談した。携帯電話使用禁止例の解釈が私とは違っていたぱんさんは、発車直後に伊藤さんからのメールを読んでいたようで、小田急で新宿方面へ向かっているのはわかっていた。今後はメールを読むのもやめることにし、乗り換えられる路線の多い大手町で降りることにした。ここでも路線に疎い私はぱんさんに任せっぱなし。

大手町

13：35　大手町下車

お互い喫煙者の私たちにとって、ここで降りた理由は実は乗り換えよりも煙草だったりする。

Aチームが新宿まで行って山手線等に乗るのか、代々木上原で千代田線に乗るのか予想しつつ、まずは改札を出て喫煙所を探す。東京駅へと続く地下道を移動しながら喫煙所を見つけ一服、家を出てからずっと改札を出ていなかったので約4時間ぶりの煙草がうまい。

この間伊藤さんからぱんさんにメール、代々木上原駅にいる事を知る。千代田線に乗るであろう予想とともに、「待つ」を採集しながら大手町駅に戻ることにした。

14：15　伊藤さんからメール

大手町の千代田線ホームで二手に分かれ、背中合わせのベンチで背後の家族連れに耳を澄ませているとぱんさんが来て、「待つ」の採集報告とともに、Aチームが14：17発の千代田線綾瀬行きに乗るとの情報も得る。

ここで同じ路線上に2チームが揃ったが、代々木上原方面へ向かうべきかAチームが目指す綾瀬方面へ向かうかで悩む。

この時点で14：30過ぎ。ふとAチームが今どの辺を走ってるんだろうと思い、代々木上原・大手町、14：17出発で路線検索をしてみたところ、まさに今大手町に着こうとしている列車がそれだということに気づく。

係なく今のワクチンを受ける人③と、最後に笑うのは誰か？

待つ人たちがどれだけ待つことになるかが楽しみだ。

9月4日（日）

車内で他の乗客が読んでる本に「待つ」が出てんのを偶然目にし、読むことになった伊坂幸太郎の「グラスホッパー」をようやく読み終わる。（角川書店）

目にしたのはp300「鈴木を待ち伏せして」だった。自殺させ屋の「鯨」が、結婚指輪を探しに戻って来るはずの鈴木を待ち伏せして、押し屋と対決せよと「蝉」の亡霊にけしかけられる。で実行する。

するとp307で鈴木が来た「どれくらい待ったのか、鯨にはわからない。時計で確認したわけでもない。数分とも数十分ともつかない」とある。

「待つ」長さを、時計基準にしてるのは固定観念だと気づき反省。時計があって待つのと、なくて待つのと、どう違うだろうか？と思う。時計と待つは、関係の深い仲間だと思った。

時計なしで待っていた鯨は、目をつぶったり耳をすましたり歩きまわったり、文庫本をいじったり、待つ間かなりいろいろやっているが、待つを基軸にしている。すると来るか来ないかの賭けの人を待っていたけど来たので、よかっただろう。一心に待っていれば叶うものだ。（尾行の経験から）

9月4日（日）

8月21日（日）に麦太に聞いた質問の答えは、一週間前に帰ってきたら机においてあった。麦太は河口湖で尾行をやらせたときは全く無能だったが、こちらはていねいにこたえていて、又口頭で「より広義には「天下をとること」だと補足される。ホトトギスが鳴くのを待っているのかと思っていたら、鳴き声が聞きたいわけではなかったのか。

もう一つ、去年の8月20日に

「おやじはそのときを待っていたんだ」

→ いつから、何を待っていたか

（そしてそれは実現したか）

具体的には秀吉が死んだ頃から？

光成が豊臣恩この大名たちに声をかけるとき

つまりまとめて始末できるとき

実現することになる

まちだ

するが、スマホを持った親子連れはなし、トイレに入りたいカップルもなし、苦戦である。岳人に前方車両を任せ、後方車両で会話のあるグループを見つけては近くに腰かけ、盗聴、の繰り返し。

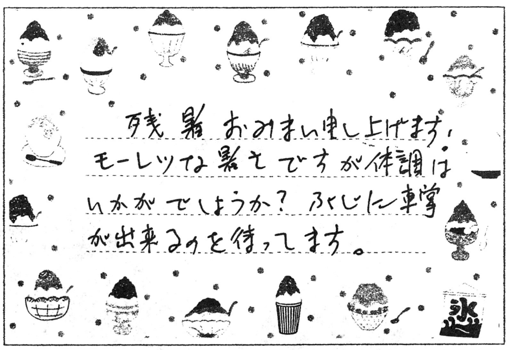
とやっているとき、突然前に二人の男女が立ちふさがった。一瞬固まる。そして見上げると、知っている二人が笑っていた。

私が発見された瞬間だった。

空き待ち企画「二軍ちゃん」―塔島ひろみの日記から

有吉佐和子『紀ノ川』に、初夜が明ければ新室見舞という習慣が待ちうけていた。とある。習慣が人を待つ、とはどういうことか？ 習慣て、人でもないくせに。めんどくさいので、ペンディングとしておこう。（2011年4月17日）

―のりた、車掌24号発売を待つ―



（2010年8月12日）

まちだ

千代田線

14：35 大手町から千代田線に乗車

ホームに到着した電車に乗り込み、車両を移動しながらAチームを探す。

始まる前、今回の企画のルールを見た時には絶対に合うのは無理だと思っていたが、こんなに都合よく入ってきた電車に本当にAチームが乗っているのか？と半信半疑ながらAチームを探し車両を移動する。

14：37 塔島さん発見

Aチームも二手に分かれて「待つ」を採集しているようで、後方の車両に塔島さんが一人で座っていた。伊藤さんは前側の車両にいるということで三人で移動。

14：39 伊藤さん発見

前側に5、6両ほど移動したところで座席にいる伊藤さん発見。あっけなく終了した。

電車内での携帯電話使用禁止というルールで、Aチームの現在地をリアルタイムに知ることは不可能と思っていたが、発車駅、発車時刻、路線、行き先さえわかれば、時刻表から大体の位置が把握できる事を忘れていた。ホームにさえいればネットですぐに検索できる。そして電車はほぼ正確にその時刻表通りに動いている。伊藤さんの14：15のメールが企画完了のカギになったといえよう。しかし、今回の企画がこれほどあっけなく、2時間もかからずに成功した一番の要因は、各チームの路線選択や「待つ」採集のタイミングに対する運やメール内容よりも、日本の鉄道のダイヤの正確さだったのではないだろうか。

そのダイヤを乱さないためにも、駆け込み乗車、電車への飛び込み自殺はしないようにしようと心に決めた。そして、今企画で、普段メモを取らない私が、ある程度の時刻とともに報告書を作成できたことを、数週間前私の会社に訪問し、販促用のメモ帳をくれた日本電子（株）の小林さんに謝意を表明し報告を終了する。

まつど

見つけた記事について。

昨今の婚活事情について、心理学会の小倉千加子さんが、次のようにいう。「メディアの中の二次元、三次元の相手に夢中になる男女は多い。（略）現実逃避というより、自分の中で世界ができていて、そこにいる限りは傷つかない。そのうち現実の人間と付き合えなくなる。でも実はみんな生身の人間との出会いを待ってい て、その待ち時間に脳内彼氏(女)に夢中になる。結局全員が待ったままだから何も始まらない」

ということで、結婚は待つものではない、と言いたいようだ。「家宝は寝て待て」という諺は、間違っているのか？ 家宝は寝て待ってもいいけど、結婚は自ら行動してつかむべきものなのか？

結婚相手との出会いは待つべきものか、待っているだけじゃいけないものか？

まちだ

松戸から　神田

松戸からまりんちゃんと小田急線直通千代田線で町田に行けばいいから楽勝だと思ったけど、途中で伊藤&塔島チームから乗り換えたみたいなメールが入ったので、大手町駅で我々も乗り換えようと思って、喫煙所があったから一服したら乗り換えルートがわからなくなり、ウロウロしてたら、伊藤さんからまた千代田線に乗ったみたいなメールが入ったので、我々もアタリをつけて千代田線に乗り、車両移動をしたら新お茶か湯島かどっかで伊藤チームにあっさり出会った。

いつもの車掌の取材なら半日以上ウロウロしてうまくいかないパターンなのに、2時間かそこらで終了したので驚いた。

電車は移動分数が読みやすいのと、「いま出ました」というメールが正確にタイムスタンプを刻むため、アタリをつけやすいのだなと思った。

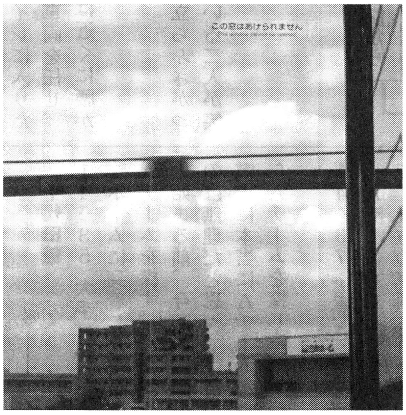
ていうかこれ「松戸で待つ」だけど、松戸で待ってたのは私と待ち合わせしたまりんちゃんだけだろう。と思った。

待合～町田から、松戸から

（58 頁～63 頁）

小田急線町田駅待合室で電車を待つ人たち

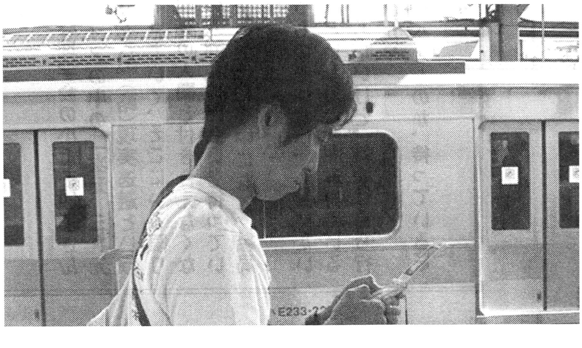
小田急線新宿行き車内。電車に乗ったら乗ったで今度は到着まで待つ。その間眠る人たち。



小田急線新宿行きの車窓から

女子便前で連れを待つ人

代々木上原で松戸組にメールを送る



湯島駅ホーム。左と中央は松戸組。右と撮影者は町田組。合成ではない。

集合日時：11月9日（日）13時
集合場所：安井誠一郎胸像
（上野駅公園口前の東京文化会館前）前

<旅行の目的>

1　自由な上野を発見する
2　「上野まつまつまっぷ」を作成する
3　「読み物「上野旅行」・２０１４」を創作する
4　詞「川崎、降ったり止んだり」に曲をつける
5　動詞研究・待つ　第２部
6　志村二朗に出会う偶然を待つ

1について
志村次朗氏作成の**「マップ四・上野」**掲載の各名所を、自由な目で見直し、感動する。代表者１名が次に進む名所を探しに行き、見つけ、戻り、残るメンバーを誘導する。代表者は、集合場所についた順番に、交替する。

2について
代表者が名所を探しに行ってる間、残りのメンバーの１名（名所を探す番が次に来る人）は待ち時間を利用して「まつ」にまつわる情報が満載の**「上野まつまつまっぷ」を作成**する。まっぷには我々がたどる道筋も図示し、次の名所で次の作成者に引き継がれる。

3について
代表者が名所を探しに行き、１名がまっぷを作成する間、残りのメンバーの１名（名所を探す番が次々回来る人）は待ち時間を利用して、**「読み物「上野旅行」・２０１４」を創作**する。読み物は「僕こそ被疑者だ」で書きだし、道中で見聞した事象などを適宜織り込みながら書きすすめる。創作は交代制で、次の番の人はそれまでの作品に書きたす（直しはだめ）形で書き進める。

4について
代表者が名所を探しに行き、残る２名が2や3に勤しんでいる間、次の番の人は詞**「川崎、降ったり止んだり」に曲をつける。**作曲は楽譜形式で行い、作曲者が作譜能力を持たない場合、他のメンバーが力を貸す。交代制で、次の番の人はそれまでの譜面に書きたす形で作曲を進める。

5について
編集部が行っている日常の中で使われる**「待つ」**のフィールド研究。１から４の担当者以外の参加者は、待ち時間を利用して周辺客や通行人の会話に耳をそばだてて、レアな「待つ」表現（活用を含む）を聞き取り、記録する。（われわれ自身の使う「待つ」は含まない）。参加者が４名の場合は、５の活動は行わない。

6について
車掌売り男・志村二朗氏のマップがベースとなる本旅行は、行方不明中の次朗氏の偉業を敬い、氏に遭遇する偶然を待ちながら実施される。最終地点には次のメッセージを残すため、このメッセージを書き込んだ板や置石などを持参すること。
「志村さん、私たちは、志村さんにたまたま会う偶然を待ちながら、志村さんのマップをベースに上野旅行を敢行しました。24号を渡したいです。ご連絡お待ちしています。車掌編集部一同」

まつまつ上野旅行

志村を待つ　9　やけくそ編

2014年11月9日、かつて志村が「この町にかつてのオリンピックは何を残しただろう」と質問しながら歩いた上野で、待つ待つ旅行を実施した。待ちながら、この町の地図を作り、待ちながら、志村の地図にある場所を観光する。待ちながら、読み物・上野旅行を創作し、待ちながら、作曲問題が残されていた川崎降ったり止んだりの作曲をする。待ちながらこんなにやったら、もはや待つことを忘れ、待っている対象に失礼かもしれない。しかしもはや、やけくそである。悪いのはこんなに待たせる志村であるのだ。いろいろやるのでがんばって人集めをし、スタッフのほか、山田幸司氏、笹井吾朗氏、五箇芳孝氏が参加、総勢6名の団体上野旅行となった。

1．自由な上野を発見する

2006 年当時、「が」を使えない志村二朗は上野周辺で「が」という文字を地図にまとめ、更に読み替えて車掌24 号企画の不自由研究に備えた(24 号に掲載)。そのマップに載る「野性ステージ」「すべての武器を石器に」などの珍しくも不自由な名所を、「が」を自由に使える我々が８年ぶりに探訪、以下の名所を発見した。

名所１「街路灯」(志村の地図の「通路灯」)。志村の地図と全く同じ「台東区　管理番号03-0242」の現物を見つけた。「通路灯」より「街路灯」の方が明るそうだが、昼なのでついていなかった。

名所２「しみ」(志村の地図の「カンケルー」)。志村の見つけた「カンケルー」のまえあし、うしろあしの絵は、ただの路上の「しみ」となって、街路灯03-0242のすぐそばに発見された。自由な我々の目で見ても、このしみが何たるかを説明する「が」は、どこにもなかった。

名所３「上野駅前商店街」(志村の地図の「上野駅前商店会」)。これも路上に発見されたが、名所２のようなことにはなってなくて鮮やかだった。「かねの鳴るまち」ともある。私はこのかねを何度も聞いたことがある。志村は路上観察者だったかもしれないと思った。

名所４「野外ステージ」(志村の地図の「野性ステージ」)。自由な目で見るステージ名はつまらなかった。

名所５「松坂屋東側路上　この一時集合場所は、災害時に」(志村の地図の「松坂屋合流路上　この一時集合場所は、災禍時に」)。２つの「が」に「マツ」までついた重要地点。よく見ると、８年前にあった「避難場所は上野公園一帯」の記述が消失していた。

名所６「外貨両替　外貨両替」(志村の地図の「金貨両方　銀貨両方」)名所５での集合を終え腰を上げると、名所６が目の前にあった。この間に「貨」が欠けたが「が」(４回も反復)は無事だった。

名所７「白山眼鏡店」(志村の地図の「白山眼利(めり？？)店」)。ジョン・レノンの眼鏡も作ったという待たない上野旅行者にとっても名所かもしれない名所で、上野のくせに敷居が高く(高級)私は嫌いだ。

2．「上野まつまつまっぷ」を作成する

待てば待つほど(1の発見が長びくほど)詳細になるホットなマップ。上野地図を「が」という視点から作ったのは志村二朗が最初だが、「待つ」をテーマに作った我々のこの上野地図は、志村のそれよりも汎用性が高いであろう。。我々が辿った道筋も図示。これがあれば、上野での待ちぼうけも心配ない。(次頁・次次頁)

空き待ち企画「二軍ちゃん」──塔島ひろみのあんぱん日記から

2010年10月16日(土)　大安

昨日1つ147円もするあんぱんを3つ、しめて441円も(！)自腹で買ってしまった。

たまには松坂屋で商品券で…と思って買って商品券(1000円)を出したら、「これはおつりが出ないタイプの券ですよ」と言われ、焦って現金払いしちゃったのである。さすが仏滅。

きょうは九中で13：00から懇談会の打ち合わせなのでまじめに13：00に行くと、一人も来ていない。部屋の鍵も閉まっていて、後藤は「後藤時間がある」と有名なのでまたかよ、と思い待つ。13：00にやっと知らない人が来たが、この人が私と同じ打ち合わせに来た人なのかがわからない。

そしたら後藤からこの人に电があって、後藤が遅れるという电だったので、同じ打ち合わせに来た人とわかる。

20分も待たせやがってやっと始まる。

驚いたのは、「ケーキを焼くのはどうしましょうか？」と後藤が言うのである。去年は後藤とまさきの母とで焼いた(それぞれ焼いて持ってった)そうだ。

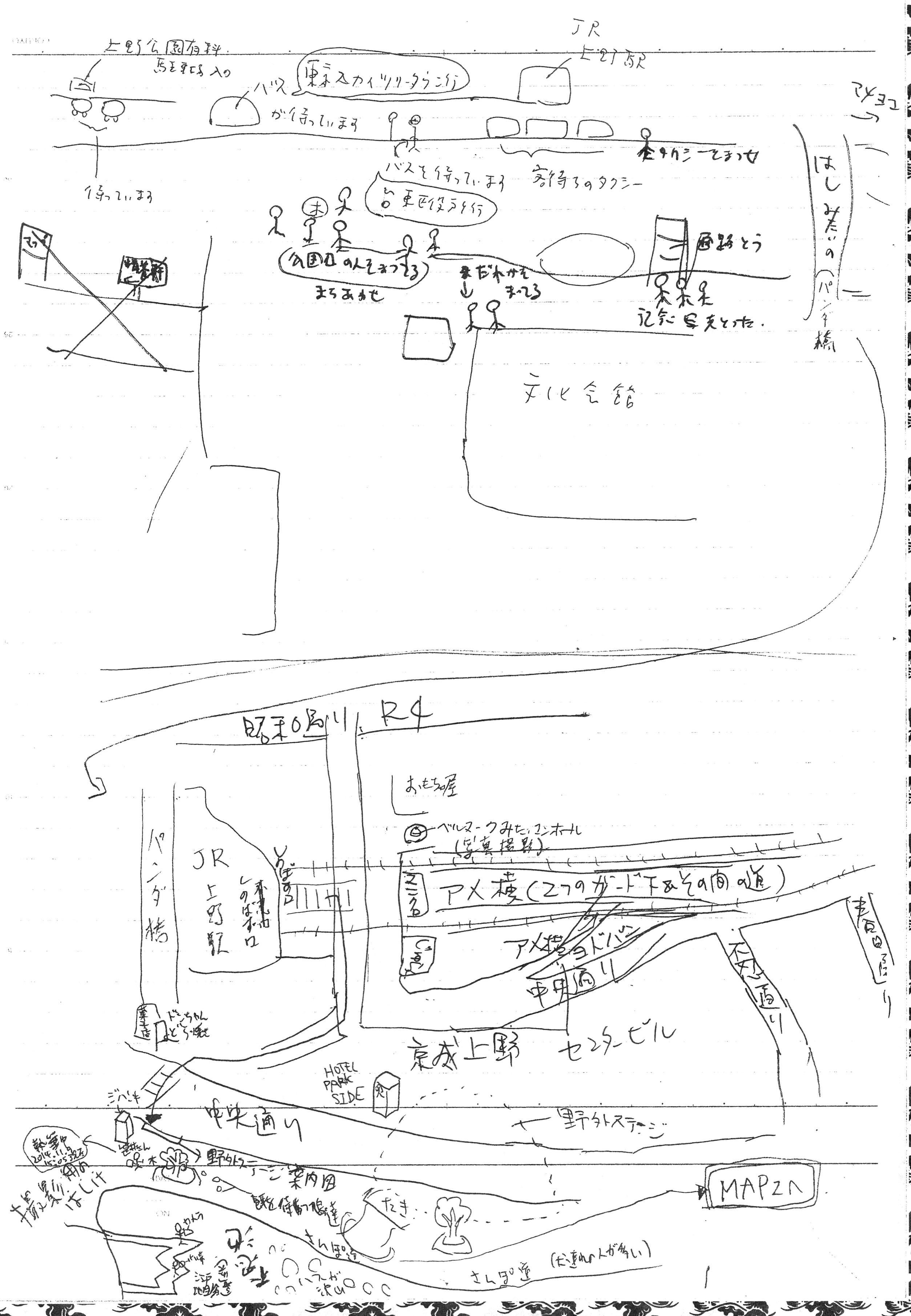
そんなもん買えよ！、とビビる。同じ一人一役立場で出席の橋谷田さんも同じ思いで、「そんな自信はない」と発言。大田垣さんも「平気で出来るのは後藤さんぐらいだ」とフォロー。

大体役員の永井さんはケーキ屋らしいのだが、なんでそれで素人が焼く話になるのだろうか？　てことで、結局永井さんに仕事として注文することになった。当然である。

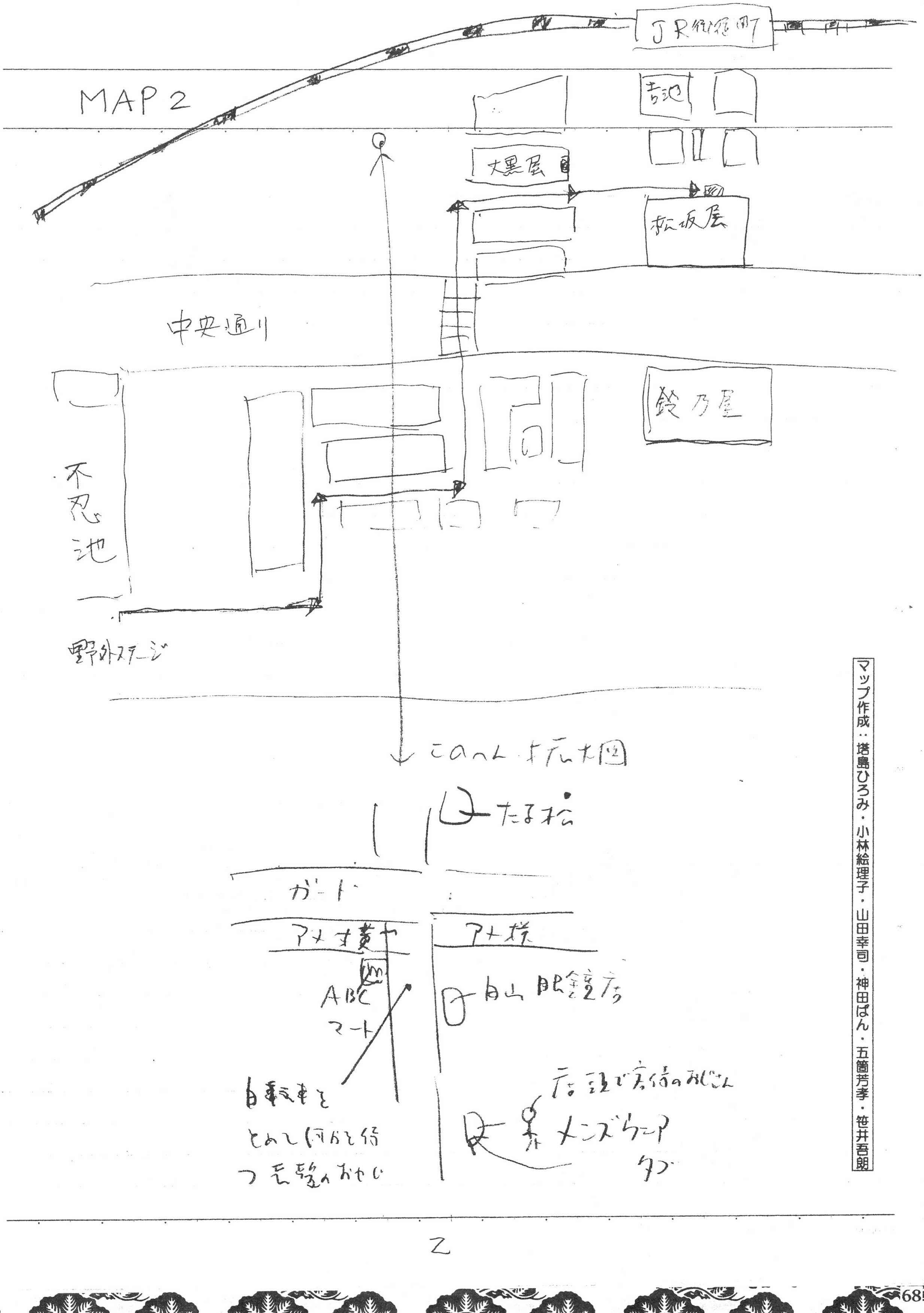
一方18：30からは学童の役員会で、図書館に寄るけど、楽勝と思って行ったら、15分も遅刻してしまった。そしたら、私が行って初めて始まった。「麦ママが来られる時間に開始の時間を設定しないと、みんな時間に来ても待ってるだけで不満である」と言われる。昼間の後藤さん状態。中心人物は、一番時間に遅れてはいけないのに、中心である自尊心から時間に遅れがち。ということがわかる。昼間、私が13：30に行っても13：40に行っても話し合いに影響はないのに13：00に行った。それは遅れると話がわからなくなるという危機感である。一方18：30に15分も遅れたのは、遅れても中心が私なので平気、という安心感だ。

大安よりも、25号特集のテーマ「待つ」を中心に考えてしまった大安だった。

11／8はケーキが食べられそうだということがわかった。(結局食べられなかった)



JR
上野駅
アメヨコ
バス
東京スカイツリータウン行
が待っています
待っています
バスを待っています
客待ちのタクシー
タクシーをまつ女
はしみたいのパンダ橋
公園口の人をまってる
まちあわせ
だれかをまってる
記念写真とった。
文化会館
昭和通り
R4
おもち屋
ベルマークみたいマンホール
(写真撮影)
JR
上野駅
しのばず口
アメ横(2つのガード下&その両の道)
アメ横ヨドバシ
中央通り
不忍通り
春日通り
パンダ橋
薬局
どらちゃんどら焼
京成上野
センタービル
HOTEL PARK SIDE
ジハンキ
中央通り
野外ステージ
野外ステージ案内図
MAP2へ
たき
さんぽ道
(犬連れの人が多い)
さんぽ道



マップ作成：塔島ひろみ・小林絵理子・山田幸司・神田ぱん・五箇芳孝・笹井吾朗

3.「読み物「上野旅行」・2014」を創作する

2006 年発表の「読み物「上野旅行」」(車掌 24 号所収)で、志村二朗は咳が止まらないことを訴えた。そして「僕こそ被疑者」であると結論した。8 年後、我々は志村が上野で咳をしながら見つけた名所で、新しい「読み物「上野旅行」を執筆する。志村の終着地が我々の出発点なのである。我々の読み物は「僕こそ被疑者だ」から始まり、志村もパンダも知らない世界へ展開していく。

上野旅行 2014

「僕こそ被疑者だ」

僕の名前は一輪社という，僕は絵描きである。平日は老人のかいごの仕事をしている。現代アート集団カオスラウンジのメンバーの1人だ。
僕には34年間，彼女がいなかった。いや，正確には大学の時に一度つきあったことがある。しかし，すぐにふられた。僕の何が悪いのだろう。
それから就職しても彼女はできなかった。5年つとめた会社をやめた。
無職の間，僕は修業に出た。四国のおへんろまいりをした。
そこで僕は悟った。
「僕はオタクだ」
と。
そして，コミケに行き，同人誌を売った。その同人誌がきっかけでカオスラウンジのコアメンバーの藤城嘘と知りあう。
藤城嘘という男と一緒にポストポッパーズというアート集団で絵を描いた。アート界にも女はいるが，みんな僕のことを見向きもしない。なぜだ？
僕は死霊のおかわりという女が気になっていた。若くてかわいい。年は20くらい。僕は34才だ。死霊のおかわりには彼氏がいる。僕はあきらめざるを得なかった。
僕は，仕事をしながら，休日に絵をかいて，一生彼女ができないまま，童貞として一生を終えるのだろうか。
そんな時，彼女ができた。
僕の好きなミニコミの作者，小林えりこさんがアイドルにハマっているのを知ったからだ。そのアイドルの現場に行ってえりこさんと知りあい，つきあうことになった。
僕は，幸せだ。幸せなのに不幸がおとずれた。でも僕の何がいけないのか。
そもそもの始まりは僕が，えりこさんに同棲しようと言いだしたのがきっかけだ。
僕はえりこさんと家庭を築きたいと思っていた。そしてえりこさんに僕の子供を産んでもらおうと思った。2人の生活には子供が必要だと

思ったからだ。

それの何がいけなかったのだろう？　僕が本当は子供なんか嫌いな事をえりこさんは知っていたのだろうか？　今となってはその答えはわからない

[redacted]

答えのわからないまま僕は旅に出る事にした。行き先は上野だ。

上野行きの京浜東北線に乗り込む。片道20分の旅だ。

正直上野へはよく来る。しかし今回の旅の目的は今までとちが[redacted]っていた。

上野に来た[redacted]からには、アメ横に行きたい。

アメ横にはちょっとカッコイイ時計をうってる時計やがあります。
でもその時計やは、夜い時すぎに、ジーパンやの裏手でひっそり開店するらしい。僕は時計やをさがしてジーパンやのうらをみてまわった。小さな店に「皮の館」とかいてあった。
ここがアヤシイ。時計のバンドには皮をつかうし。そこで僕は思いきって「皮の館」のドアをあけた。

「皮の館」のドアを開けると、中は真っ暗だった。うっすら人の気配のようなものを感じたので、少し待ったが、照明が少しずつ明るくなって ~~店員さん等の店の人~~ ~~店の人~~ 店の主が「ようこそ皮の館へ…」等と言ってくれるというような事は起こらなかった。
僕は、何の気なしに[redacted]今開けたドアをふり返って見て、何か手がかりになるような物がないか、[redacted]伺って見た。なんとなくピザの匂いがした気がしただけだった。ドアのうら側(つまり外側)をもう一度見てみようと、一回外へ出た。(貼り紙があるかもしれないぞ。)と思ったためだった。そのとき後ろからおばちゃんが話しかけてきた。「皮の館の人？」
「あっ、いえ、留守なんですか？」「[redacted]ここの主人なら、ハワイにいっちゃってるよ。」
[redacted]何であいてるんだろうと思ったけど、実はお店の扉は2重になっていて、僕が開けたドアの中には、よく見るとガラスのちゃんとしたドアがあり、そこにはカギがかかっていた。(うん、カギがかかってるなぁ)と思い、ガチャガチャ引き押ししてると、おばちゃんが、「どうした。何か用事[redacted]があるの？」と、少し心配そうな、ちょっと哀れむような感じできいてきた。犯罪者、不審者と思われてはたまらないので、「いや、ちょっと[redacted]なじみがあったような感じで)…」と、ちょっと ~~ごまかしながら~~ 語尾を濁しながら返答し、いいわけを考えた。(いや、ただの熱心な客[redacted]っていう事で大丈夫かなぁ)と思い、安心しながらおばちゃんの方をふり返ると、おばちゃんは[redacted]と(知り合いらしき女性)話をしながら、すでに向かい側のお店の方にいっていた。

上野から帰って3日目の昼だった。
職場の老人介護施設へ2人の警察官が尋ねて来た。
「一輪礼さんですね。」
24〜5歳と思われる若い婦人警官がたずねた
「はい、そうです。」
「3日前の午後3時頃、東京上野のアメヤ横丁にある『夜の館』という店に行かれましたね」
今度は年輩の男性警官がたずねて来た。
「ええ、行きましたが、休業日のようでしたので、そのまま帰りましたよ。何かあったんですか？」
「実は、あの店で盗難事件がありまして、それに関して、いろいろな方に話をうかがっているところです。」
男性警官は、表情こそ笑顔だったが僕に疑がいを持っていることは明らかだ

どうしてこんなことになったのだろう。そのとき思いついたのは、

この1件の裏側には小林えりこが関わっているのではないか？
ということだ。
上野で働いていたことがある、と昔えりこが話していたのを思い出した。

「ちょっと署まで一緒に来てくれませんか」
と警官。ああ、僕は逮捕されてしまうのだろうか？ 様子をみに老人介護施設にデイサービスできていたばあさんじいさんがぞろぞろあつまってきた。そのうちのひとり、「番長」といわれている日吉氏が、「一輪礼さん、こないだ大黒屋に何かをうりに行ってたでしょ、俺みたよ」と言った。警官はほぉ、という感じの表情で「そのことをもう少しくわしく話して下さいな」と言った。

日吉氏は「それは大きな声では言えない！」と4人で

警官の耳もとに口を近づけてもぞもぞ言っている。「あ」ることを
僕は気がついた。日吉氏の着ているセーターのうしろにダイヤモンドをもって
パンダのぼうしをかぶった「宣伝部長モこくん」のイラストが
ししゅうされている。このモこくんは、えりこちゃんがデザインした
キャラクターではないか！

石野卓球に会えた！バンザイ！

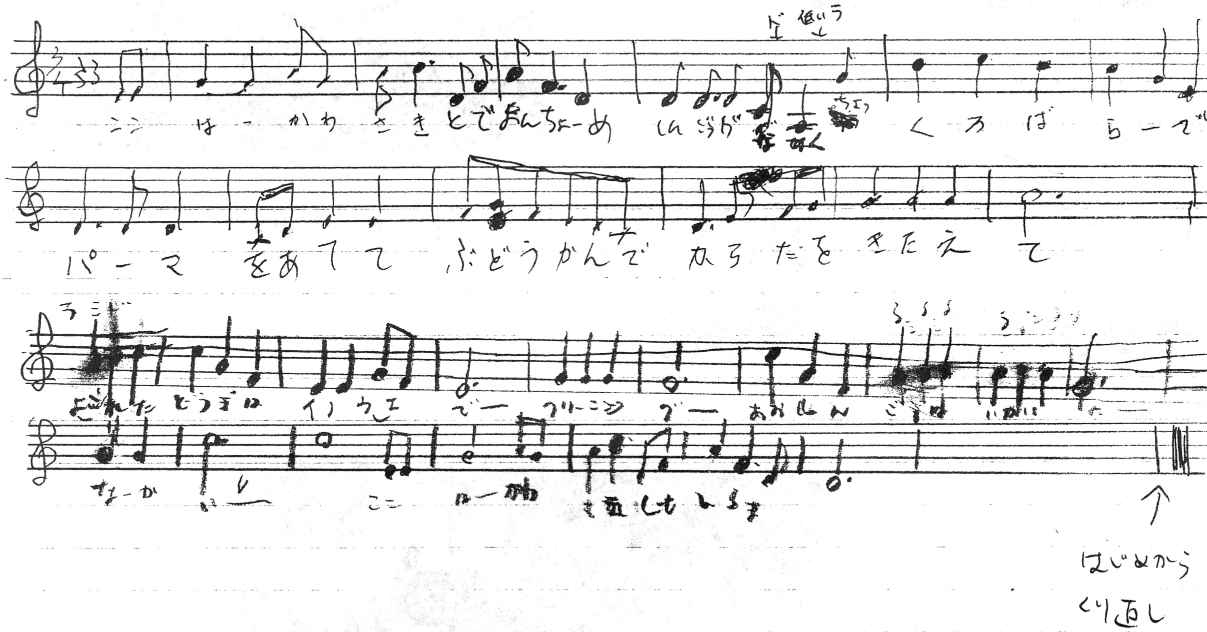
読み物「上野旅行・２０１４」（了）

著者：小林絵理子・山田幸司・神田ぱん・五箇芳孝・笹井吾朗・塔島ひろみ

4．詞「川崎、降ったり止んだり」に曲をつける

本誌50頁の「川崎旅行」中、待ちながら作られた歌詞「川崎、降ったり　止んだり」。曲は上野で待ちながら作られ、完成した。

作曲：山田幸司・神田ぱん・五箇芳孝・笹井吾朗・塔島ひろみ・小林絵理子、歌：町田町蔵（予想）



「川崎、降ったり　止んだり」

ここは川崎戸手四丁目
信号がなくちょっ
黒ばらでパーマをあてて
武道館で身体を鍛えて
汚れた道着はイノウエでクリーニング
青信号は意外に長い

ここは川崎市下平間
信号はゆとりをもってちょっ
ユナハゲン　ユナホルモン
焼きたてパン屋に　ラ・ベルージュ
信じれば　皆　幸福
幸わせならふくじゅ保育園

ここはどこだか　わからない
川崎は　志村さんがちょっ
米屋で駄菓子の充実～～
赤信号は突然やって来る
道路にワーゲン
自治会館でバーゲン
川崎に雨は降らなかった

作詞：山田幸司・塔島ひろみ・塔島麦子・鈴木あずさ

集合場所が工事で入れず、スッキリしないスタートとなった

背中に名所1，足元に名所2、という貴重な場所での撮影に緊張する参加者。

名所2

名所1

まつまつ上野旅行

(65頁~76頁)

このあたりからは楽しそう

名所3

不忍口にて。次の名所がなかなか見つからず、長く待った。そのためみな首が長い

名所3へはこの口を利用

名所５

名所４

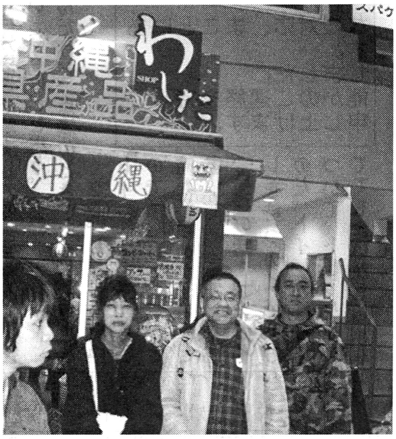
名所４前で苦笑する参加者

災害時ではないが一時集合。災害時でないので集合者は明るい。

名所６　信号機が邪魔

名所７

メガネじゃない４人でワイノワイノ。メガネの笹井は店の中か？



まずまずの旅行、志村が「私」研究をした「わした」にて、やっと終了

待つ女性。旅行途上で五箇氏が撮影。

まつまつ上野
旅行(続き)
(65頁～76頁)

5．動詞研究・待つ　第２部

以下の２点を採集した。

「ごめん、待った？」（しのばず口でおばさんが）（採集者・塔島）

「待ってると思うんですよ」（しのばず口で警官が警官に）（採集者・塔島）

6．志村二朗に出会う偶然を待つ

旅行中はとても忙しく、この旅行にこの目的があることを覚えていた者はたぶん誰もいなかった。そしてもちろん志村には出会わなかった。最終地・わした。店内の図書（売り物）棚の本の間に志村宛のメッセージを挟む。立体的なメッセージ（なぜ立体的だったかは忘れた）を本に挟んだので、本がいたみそうで、ただのいやがらせで、店が志村を知っていた場合、志村にも迷惑がかかるだろう犯罪行為でひどいものだとやりながら思った。しかしもはややけくそ。志村さんさよなら。

上野旅行感想

山田幸司

２０１４年１１月９日、集合場所の安井誠一郎像が工事中の塀の中で見えなくなっていて、さい先の悪いスタートだった。文章を書くのも得意ではないし、作曲なんていうのは小学校の縦笛のテスト以来したことがない。そもそも楽譜なんて物は読めないので書けるわけもない。

行動のほとんどがそんな苦手な事ばかりで、参加表明はしたものの、案内が送られてきた時点で後悔していた。さらに、一番最初に担当したのが作曲で、とても不安。

それでもなんとなく楽譜も書け、順番が一巡する前に曲が完成していたのでとても安心した。

創作文は2番目に担当し、絵里子さんに渡された時点でレポート用紙が二枚目に達していた。読むだけで時間がかかり、登場人物も最初から結構な人数で、つじつまが合うように続けようとしてもなかなか筆が進まなかった。

これも2周目が回ってこなくてよかった。

その他、名所を探したり、マップを探したりするのはそれほど苦労することもなく、総合的には今回の企画は楽に終わったような気がする。移動が多かったので、ターゲット宅前で張り込むだけで終わってしまうような尾行よりは数段楽しかった。

心残りは、「待つ」を一つも採集できなかったことだ。「待つ」をいいそうなカップル、集団を見極める目をもっと鍛える必要があると思う。しかしその方法がわからない。

空き待ち企画「二軍ちゃん」――塔島ひろみの日記から

2012年6月29日

2010年10月7日に私が連絡を待っていた。安永さんが14日から業務可能か中津さんからの連絡を待つ。同日、M氏らの、講演録配布についての連絡も待っていた。5日は、O先生から待たされていた。

待ってばかり！　車掌24号はこんなに法田さんを待たせていながら、仕事では私ばかりが進んでいるのか？

この中で、M氏という人は、とにかくすごい待たせる人なんだけど、「かんじ」という名前だけに幹事をひきうけることが多く、忙しいらしい。んで、策として、「すぐに返信しない」というのを実践している。これをすると、3，4日連絡しないでおくうちに、自分抜きで解決してることが多く、仕事量が減るらしい。なるほどと思う。

でその法田さんだけど、点滴のとき、トイレに行きたくなる。しかし点滴中トイレは尿瓶にするので躊躇して、じっと時が経つのを待つ。と書いてあった（24号［点滴の話1］）。トイレを待つのは辛いものだ。トイレの待ちについて、トピックを立ててもよいかもしれない。

ご対応ありがとうございます
はご連絡をお待ちしております
お願い申し上げます。

なご対応、まことにあ
す。
しました。
能かのご連絡を待って、
申し上げます。

で，もうしばらくお待ちくださ

2012年6月30日（土）

10月16日（2010年）の大安に「待つ」を中心に考えていた結論は〝待つは中心〟。人は周辺を待たず中心を待つ。周辺はよって待つばかりで、待たせることはなく、逆に中心は待たせるばかりで自分は待たない。

よって、中心は人を待たせる人だから、中心さえ時間を守れば待つ人が無くなり、スムーズである。ところが中心は中心だけにいばっていて、時間を守らない中心が非常に多い。ひろみのように、周辺のときはまじめに時間厳守してるくせに、中心になったとたん遅れ、大勢に迷惑をかける者もある。例外として、周辺が全員遅れたときだけ、中心が待つ。みじめさ、情けなさを伴う待つだ。

鳴くまで待つ　再起編

2015年3月　第4日め

3・11日（水）25号企画「ドキュメント・ザ・尾行〈鳴くまで待つ〉（再起編）その1」について

〈概要〉

この尾行は標的が鳴く（声を出す、そして我々が声を聞き取る）まで続く

標的1は、昨年5月6日の第1回目で、舟久保文恵が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

標的2は、同じく、伊藤岳人が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

標的3は、同じく、塔島ひろみが「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

このうち標的1については、舟久保が尾行開始後ほどなくその声を聞き、終了している。

標的2、標的3は、第1回目で声を聞くことができず、7月27日、続いて10月5日に再び、三度挑んだものの失敗に終わった。

そこで4たび挑むわけだが、今までの失敗をふまえ、再起編ではじっくり慎重に、一人ずつ尾行することにしようと思う。

その1ではひとまず標的2を全員で尾行し、声を聞くことを目指す。

〈当日の動き〉

3月11日（水）10:00船橋シャポーちゃん広場集合。

全員集まり次第標的2の自宅へ急行し、待機する。

標的は、家にいるのか、すでに外出しているのか、不明である。どちらの可能性も考えながら待機する。

尾行は、我々のうちただ一人でも、標的の声を聞いた瞬間に終了する。そのため声を出していることが明らかなときは顔を見られてもかまわず堂々と近づき声を聞き、逃げる。声を聞くために話しかけたり、何かを仕掛けたりするのは反則。我々は標的の行動に影響を与えてはいけない。

この日にもまだ尾行が完了しなかった場合、また後日再々々挑戦を行う。

〈その他〉

・この日の全ての動きは、行方不明となっている志村二朗氏にたまたま遭遇する機会を待ちながら、行われる。たまたま志村氏を見つけたら、尾行中でも次のメッセージを氏に伝えること。

「志村さん、私たちは今、志村さんにたまたま会う偶然を待ちながら、25号企画を船橋シャポーちゃん広場から始めています。24号を渡したいです。ご連絡お待ちしています。車掌編集部一同」

・待機中・尾行中は可能な範囲で記録を取り、後日感想もまじえ、編集部に提出する。

・待機中は退屈なので「待ちながらすること」しりとりを実行する。前回の「ルージュを選びに行く」の続きの「く」から始める。

以上

車掌編集部「鳴くまで待つ」実行委員長　塔島ひろみ

待ちながらすることしりとり（前2回分）

待つ→つらい思い出話（神田）→しいたけ栽培（三本）→イライラ（神田）→乱取り（三本）→立位前屈（神田）→つかの間の休息（三本）→靴みがき（神田）→恐怖新聞を読む（三本）→ムーを読む（神田）→普ばなし（三本）しらみとり（神田）→リゲインを飲む（三本）→無駄話→しりとり→臨機応変な行動→海釣り→リンガーハットで食事→ジュースを飲む→無理やり暗記→きつねうどんを食べる→ルンバを踊る→留守番をする→ルマンドを買う→運転免許の更新をする→ルックスを磨く→九九を覚える→ルソーの絵にいたずら→ラジオを聞く→クオカード眺め→目薬をさす→ストレートを磨く→クッキーを焼く→靴磨き→金魚の餌やり→理想の人生を考える→ルート検索→苦渋の選択→クイズを解く→熊の木彫り作り→リスの餌やり→陸ガメの世話→輪投げ→原付免許の勉強→梅酒作り→リクライニングシートでくつろぐ→グーグル検索→栗の皮むき→金髪に染める→類似商品を見分ける→ルビーの指輪を口ずさむ→ムラムラするだけ→献血→罪滅ぼし→シクラメンの香りを口ずさむ→ムード作り→リラックスする→ルージュを選びに行く

志村を待つ　10　時効編

「我々は危険な段階に一歩進んだ」

伊藤岳人

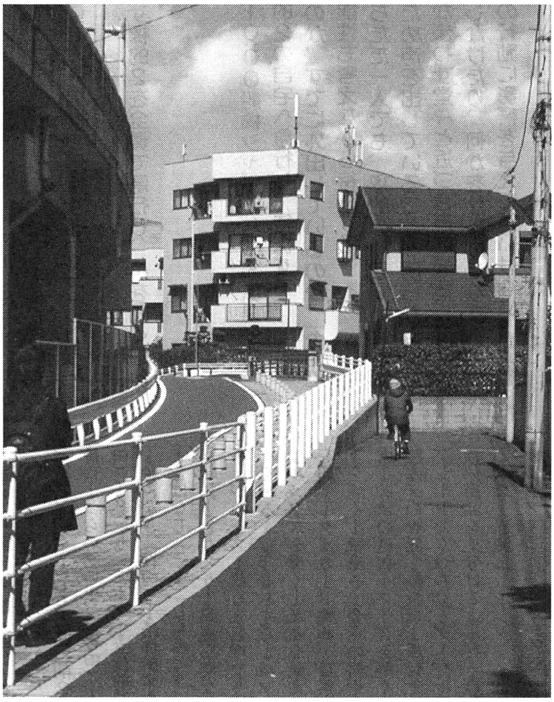
2015年3月11日（水）

10時25分頃、尾行の続き開始。前回との状況の違いは、路地入口の右手の家（アパート？）がリフォームみたいなのをしていて一部の外壁に工事用の壁紙みたいのが貼ってあるところ。冷たい強風の吹くなか外の道路に立ち、家と家の隙間から少しだけ見える標的の家の玄関ドアを見つめていると、10時38分、ドアが開いた気配がした。けれど、路地からは誰も出てこず、見にいってみても袋小路には誰もいない。出てきたのが標的だったのかはわからないが、家の中に誰かがいることは確かなようだ。10時40分、一台の軽自動車（習志野ナンバー、色はシルバー）がやってきて路地へと侵入。慌てて見にいくが、運転席から降りてきた帽子をかぶったおじいちゃんは標的とは別人物（でも小柄で背格好はとてもそっくり）。わざとらしくその場を通りすぎるように確認しただけなので、その後に彼が標的の家に入ったのかどうかはわからなかった。それからはずっとなにもなくしりとりを続けていると、12時25分、過去2回の尾行で見たことのない、えんじ色の作業着のようなものを着た肉体労働者風の男（短髪の髪はやや金色）が突然路地から顔を出し、我々尾行隊のことをいかにも訝しげに眺めたあと、また路地内へと消えた。この男は明らかに我々をわざわざ見にきたのだ！　この大事件に我々は凍りつき、その場から逃げるように200メートルほど船橋駅から反対の方向（つまり大神宮下駅の方向）に移動。路地の出口をはるか遠くに眺めながら今のはなんだったのかを話し合う。なぜ標的とは関係のないと思われる人物が我々を偵察に来たのか。結論は出なかったが、この尾行が危険な段階に一歩進んだことだけは確かなようだ。びくびくしながらその場所で再び張り込みを続ける。13時5分頃、さっきの男とは別？の男（黒い服装）が路地からひょっこりと出てくる。そしてその男も不審者を探すようにあたりをきょろきょろと見ている！　二人で大急ぎで

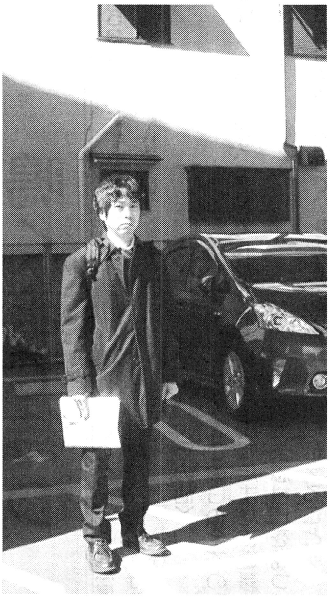
鳴くまで待つ・4

（77頁～82頁）

標的宅に通じる路地前に走る二本の道。橋を経て船橋駅へ続く坂道(左)に比し、極端に通行者が少ない右の道に、珍しく自転車が入って行った。

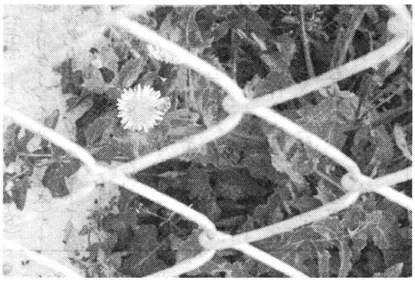


張り込みをする尾行隊長の伊藤岳人。もう少し笑顔がほしいところ。



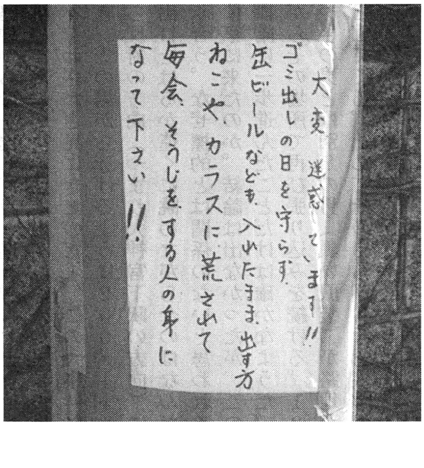
標的宅裏のボロく寂しい通り。大通りに続いているらしい。

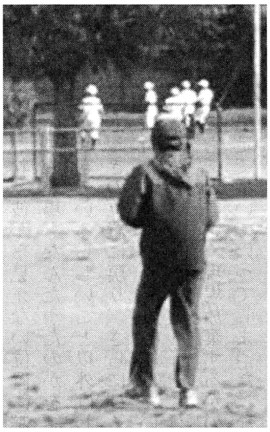
交通事故で斜めった標識

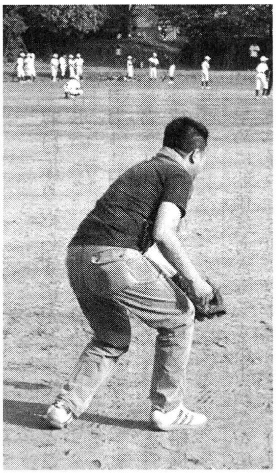


駐車場片隅にタンポポが咲いていた

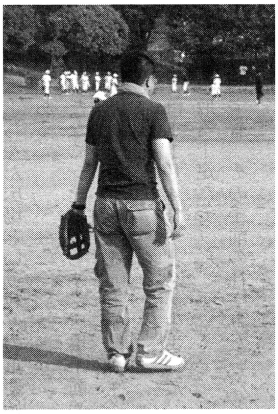
路地前の道に立つ電柱




92

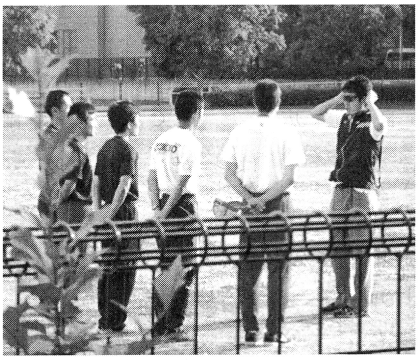

91

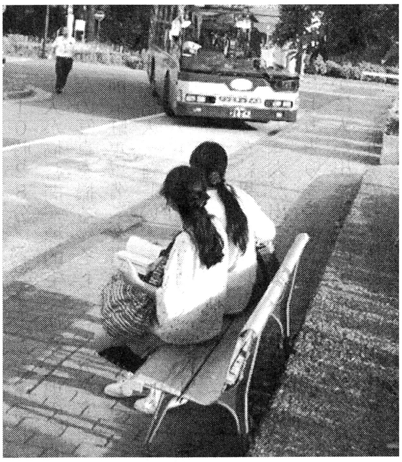
90


89

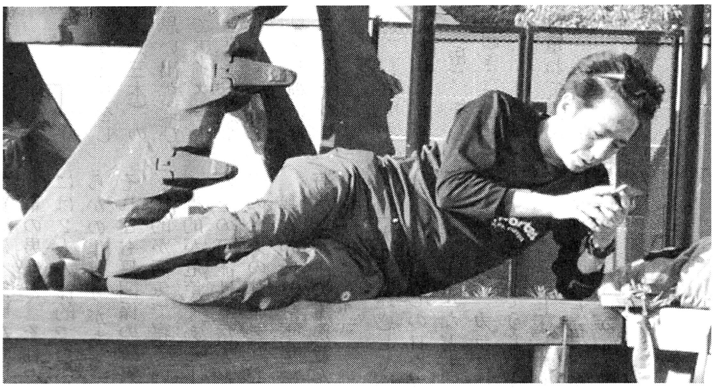
101

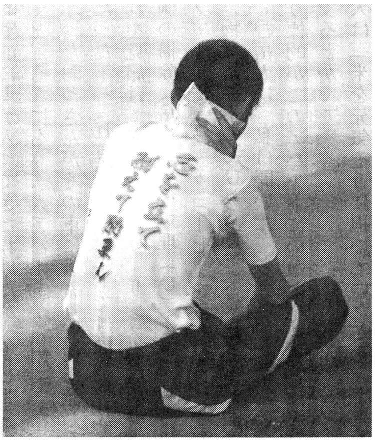
待ち人百景 8

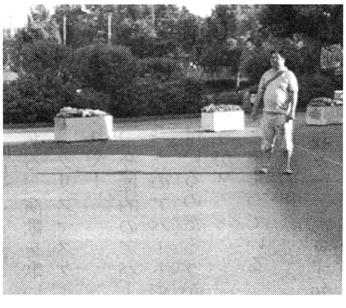

95


93, 94

97


96


100


99

98

角を曲がり、彼から見えない位置に避難。そして震えながら今の男の登場もなんだったのかを話し合う。でも大変な事態が起きているらしいこと以外はわからない。少ししてからさっきの位置に戻り、さらにびくびくしながら張り込みを続行。同時にしりとりも続けていると、ひろみさんの顔が急に青ざめ、「自転車が○□△……」というようなことをもごもごと言い、現場放棄するかのように大神宮下の方向に早足で歩いていってしまった。なにが起きたのかわからないまま、その背中を追う。そして標的宅から完全に離れた場所でひろみさんから聞いた真実はまったくもって驚愕するべきものであった。

「私は振り返らずにどこまでもどこまでもどこまでも歩いた」　塔島ひろみ

3月11日（水）

3・11の3月11日。

待合せ場所はもう4度目くらいの船橋シャポーちゃん広場。

早めに船橋に着き、シャポーちゃん広場に向かうと、いつまで経っても辿りつけない。まず何故か船橋シャポー自体に行きつけない。駅の改札を出るとそのままシャポーちゃんだったはずだが、違う口から出てしまったのかな？

地図を見て、シャポーに行こうとする。しかしシャポーに行けない。ぐるっと回って、ようやく、そうそうそう、といつも見るシャポーの入口を見つけ待合せ広場へ向かう。10時開店と同時に、シャポーちゃん広場へ向かう道が開かれる。ところがどうも様子が違い、「改装工事中のため地下1階通路の通り抜けはできません」と貼り紙。何と、シャポーちゃん広場という我々の重要始点が閉鎖されていたのである。

しかたなくシャポーちゃん広場手前のユニクロといういやな待合せ場所に変更し、伊藤と落ち合うとすぐに標的を目指して出発した。

岳人は11月4日子どもが生まれた。5月頃から半年間育休を取る予定だそうだ。

標的宅着。その手前の社宅みたいなところの人に前回かなり怪しまれたと岳人の報告。歩行者もなくしんとした水曜日の遅い午前中（10：24）に尾行再起編その1は始まった。

志村を待つ

尾行の打ち上げで、志村を待ちながら肩を組んで歌いたかったうたごえライブハウス「ゴリ」は、去年ウェブで閉店を告知していた。ゴリも、シャポーちゃん広場も、志村のためにあった場所で、志村がいなくなったので、ある程度待ったのち、閉めたのかもしれない。

「僕こそ被疑者だ」と言い残して去った車掌売り男・志村二朗。彼の犯した罪は、何だったろう？　我々は執念深さが身上だが、今我々の怨念は、声を聞きたい標的に向く。だとしたら我々をこの場に導いたことで志村の車掌売り男としての任務は完了し、もはや我々に彼を追い詰める権利はない。「志村を待つ」は時効であった。

●

高架下の駐車場に私と岳人は並んで立ち、しりとりをしながら標的を待った。「ルージュを選びに行く」（三本）の続きから、靴下を編む（岳人）→昔のことを思い出す（ひろみ）→するめを炙る（岳人）→ルノアールでアイスコーヒーを飲む（ひろみ）と、何か所帯じみている岳人である。

10時28分。「む」でどんな所帯じみた「待つ」があるか岳人が悩む間、標的宅へ通る路地の隙間から見える細い青空の写真を撮る。そして今自分が立っているこの場所の名前（駐車場名）を書きとめる。

岳人、難しい本を読む→結び目をほどく（ひ）→クリスマスケーキを買いに行く（岳）、→薬の用意（入院中、まさに待ってる間によくこれをした（ひ））→祈り（岳）。そして祈った結果、伊藤レポート6行目の出来事が起きた。

岳人「人が出てきました！」

しりとりを中断、固唾をのみ、待つ。岳人は重ねて「確かに人が出てくるのが見えました」と言ったが、いくら待っても祈っても、誰もこちらには現れなかった。

そのすぐ後に、伊藤レポート10行目の車事件！

標的宅前に車が入ってきたわけだが、少し間を置いて見に行くと、そこにもう一人アパートから出てきたっぽい帽子かぶったおっさんがその車に近寄り、何か話しかけているのだった！（これは伊藤レポートでは触れられていない）

それを見届けて元位置に戻り、リンスの詰め替え（ひ）→縁側の掃除（岳）→事後処理（ひ）→離乳食を作る（岳）→ルノアールでブラックコーヒーを飲む（ひ）→無印良品で買い物（岳）→のんびり（ひ）。今や待ってる間にも家事に勤しむ岳人に、私は聞いた。

「もう標的がこのアパートにいないってことはないよね？死んでるとかで」

岳人は「米を元気そうに担いでいたから、まだ死んでないと思います」と答えた。ナスを買い（1回目）、米を買う（3回目）標的もまた、家事に勤しむ男である。演歌を歌いながら縁側の掃除をし、呪文を唱えながらクリスマスケーキを買いに、健康ならいざ、出てきてくれや！

車の男性と、それを迎え入れた男性、今標的のアパートには2人の標的でないおじさんがいる。このアパートで何らかの集まりがある。その席に標的はいるのだろうか？それとも無関係の隣人室での会合だろうか？

標的が病気で寝ている→親戚が看病に集まっている

標的が危篤である→親戚が集まって遺産の相談

などの可能性も岳人と語り合いつつ、我々はこの見ず知らずの老人の健康を、心から祈った。

我々のいる駐車場には、標的宅を訪れた車と同じ、習志野ナンバーの車が並んでいた。つまりその車は遠方から来た車ではない。

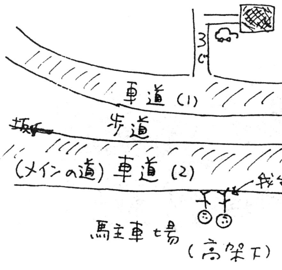
「大変、迷惑しています！！
ゴミ出しの日を守らず、
缶ビールなども、入れたまま、出す方
ねこや、カラスに荒らされて、
毎会、そうじをする人の身に
なって下さい！！」

路地に面した角の家前に立つ電柱に貼ってある紙を写真に撮っていると、伊藤「倫理の勉強」→「歌の練習」（ひろみ）。

11：11、えんじ色のダウンを着たおじさんが、自転

車で標的の家側の車道（1）に入ってきた。標的宅前の3本の道はとても通行が、特に車両の通行が極端に少ないが、車道（1）に至っては、1時間近く待って通ったのはたぶんさっきの車と、今の自転車だけ。で珍しいのでお、と思って思わずおじさんの顔をまじまじと見てしまったが、自転車はそのまま路地を素通りし、見えなくなった。

梅酒づくり（岳人）→離婚した場合の生活設計を考える（ひ）→累積赤字を計算する（岳）→ルノアールでオレンジジュースを飲む（ひ）→息子と遊ぶ（岳）→文具の整理（ひ）。



さっき通ったえんじダウンのおじさんの自転車が、奥の道から戻ってきて、我々の前を通過していった。

「通り抜出キマセン」の古看板が捨ててある。岳人はお嫁さんの出産シーンに立ち会ったそうだ。望んだわけでなく、拒否権を発動しないと立会出産になる立会病院だったそうだ。その息子が生まれてくるのを待つ間のことをつづった寄稿がこの車掌のどっかの頁にあり、履歴書を書く（岳）→工藤さんとおしゃべり（ひ）→稟議書を書く（岳）→臭いものしりとり（ひ）→理髪店に行く（岳）→黒田さんとおしゃべり、としりとりは続く。

標的もさっきの老人も、誰も出てこない。静かな静かな千葉の空気を、時々ゴオッと突風が吹いてかき乱した。私は今日の寒さに備え、フリースのジャケットの上に毛糸のオーバーコートを着ているし、ズボンの下にズボン下もはいているし、えりまきの下にえりまきをしているし、まだしばらくは大丈夫だ。

利尿剤を飲む（岳人）。

一方岳人はこの後出勤なので（しりとりネタも、徐々に家庭からオフィスに舞台が移ってきた）背広にただのサラリーマンコート、寒くないのかな？とは思うけど、寒いとわかったらマフラー貸してあげたりしないといけなくなるのもやだから、寒さについての話題はできるだけしないようにした。

むすんでひらいて（ひ）。

今まで通るのは老人か赤ちゃん連れのお母さんばかりだったのが、サラリーマン姿の今まで見ないタイプの男性歩行者がにわかに増え、皆示し合わせたように「通り抜け禁止」の古看板が落ちている道へと曲って行く。12時だった。

娘と遊ぶ（岳）、と言うので、え？！と驚くと「さっきは息子と遊ぶ、今度は、娘と遊ぶ」と岳人が解説。私はむすんでひらいてと言ったので、「て」である、と言う。

すると恥ずかしそうに「テレクラに行く」と言い替えた伊藤に「この先にラーメン屋でもあるのか？」と聞くと、少し行くと大通りに出て、そこにスーパーがあり、標的はよくそこへ買い物に行く。と教えられる。

よく見ると確かに、ずっと先でたくさん車が走っている。

空想（ひ）→梅ジャムつくり（岳）→リモコン掃除（ひ）。

駐車場上の高架は京成線、この駐車場の所有者は京成不動産で、京成百貨店専用のスペースもあった。その片隅にタンポポが咲いている。

サラリーマンたちが曲った角には「危険　左右の安全を確認しましょう」の看板があった。

しかし、通行車は石油販売車と京成百貨店の営業車ぐらいなもので、およそ危険とはかけ離れた交通事情の宮本である。

と思ったけど、一通の標識が、車にぶつけられたみたいな曲り方で、すごい斜めになっている。

次男と遊ぶ（岳）→武家諸法度の暗記（ひ）

ここで伊藤レポート17行目の事件勃発。まさに19行目のとおり、路地から突然現れたそいつは（その時我々は車道（1）にいた）、まだ完全に体が車道に出る前に「ぎろり」と我々の方に目を向け、その行為を終えるとすぐに引っ込んでいったのである。我々が凍りついたのはその男が行為だけでなく人相もすごい恐い人だったからだ。我々は息を飲んでひゅーっと一区画分後退した。ここでの尾行が今日で3回目になる岳人にとっても、今のおやじは初登場の人らしい。

我々は②へ後退したが、間に障害物がないので、こっからでも★を見ることはできた。（図）

きつねうどんを食べる（岳）→ルノアールの机にいたずら書き（ひ）→きしめんを食べる（岳）→ルノアールの従業員とおしゃべり（ひ）→理化学研究所に抗議の電話をする（岳）

それが待ってる間にすることか非常に疑問であったが、

ルノアールの間取り図を書く

と続けてあげたあと、伊藤レポート29行目事件が起こった。これもまた、遠目にだが恰幅のよい強そうな男、そして今までに登場していない新しい人だ。

入って行ったのは最初の老人だけなのに、次々違う人が現れ、我々を怪しんでは帰って行く。

どういうことだろう？　相談してると13：10、今度は矢印（※）の、スーパーがある方角から現れた男が路地へと消えた。

何が何だかわからない。しかしさっきの2番目の怪しんだ男は、遠くにいる私たちを見つけられなかったのではないか？

草むしり（岳）

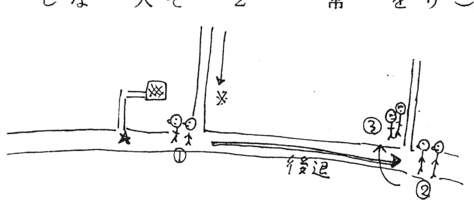
岳人が言ったとき、えんじダウンのおじさんが現れた。え！！？？　心臓がどきんとする。自転車で我々の前を通過しながら、我々を見る。

危ない！

私は小声で叫び、岳人を連れて③に引っ込む。

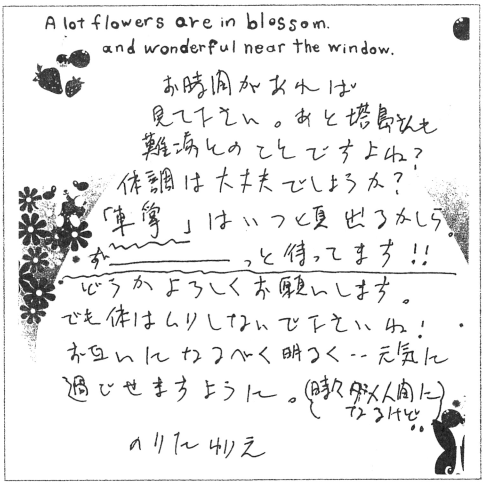
「歌の練習」の後に初登場、「文具の整理」の後に再登場したこの男が、今、この状況で3度目に登場したのだ！　と説明しているとき、ふと殺気を感じた。目を横に移すと何と！　今通り過ぎたはずのそのえんじ野郎が、何故か我々の横にいる。自転車にまたがったまま、こちらを見ているではないか！！

もーう、怖くて怖くて怖くて。

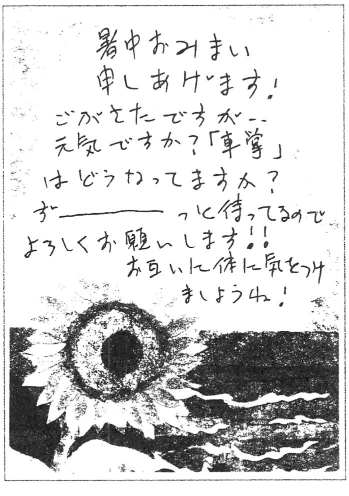


私は振り返らずどこまでもどこまでもどこまでも歩いた。
大神宮下駅という駅に着いた。
再起編未だ完了せず。

―のりた、車掌24号発売を待つ―



（2011年5月）



（2011年7月）

空き待ち企画「二軍ちゃん」―塔島ひろみの日記から

2011年4月11日（月）

⑭客（患者）が食事が来るのを待つ

野々宮さんが電話で話していて「今、お昼御飯が運ばれてくるのを待ってるところ」と言っていた。それは11:45くらい。まだお昼の時間まで15分あるけど、その15分間にもお昼が運ばれるのを待つのだろうか？（つまり、20日後に帰って来ることになっている人を15日後から待ち始めるようなもの）それは何故？

12時ジャストに食事が来て、カレーうどんだ。病室食分は早めに運ばれてくる、そう言えば昨日も5分前くらいに運ばれてきたのだった。（野々宮さんは病室食で私は食堂食）

つまり12時と言われて12時に待ち始めると、待つ前に来てしまうことがありうる。

こちらの用意が必要な何かを待つときは、約束時期より前に待ち始めないとならない。

⑮看護士が患者を待たせる

患者は待つことが多い身分のようだ。1:00に野々宮さんに「ごめんごめん、お待たせ。待ちくたびれちゃったね！」と看護婦が飛び込んできた。

起き上がり、歯を磨いて、靴下を洗い、トイレに行く、ということを野々宮さんはしたかった。

普通これらは待たなくてもできることであるが、足が不自由な身の上では看護士任せなのである。

身体不自由者＞身体自由者

←待つ機会が多

しかし洗面所、トイレとも野々宮さん側にあるため、私は野々宮さんが使っているとき、野々宮さんが使うのを待っているとき、野々宮さんに来客があるとき、医者や看護士が野々宮さんとこに来て何かしてるとき、その全ての場合に待っているので、実際は私の方が待っている。

⑯私が焼き魚を待つ

9日の焼魚以来、6食目ぶり！　また待っていた焼き魚が出てくれた。今度はカジキマグロの南部焼き。おいしくってたまんない。が、残念なことに明日からは一日二食生活となる。

4月12日（火）

⑰テレビが止まるを待つ

隣の野々宮さんがすぐイヤホンレスでテレビつけちゃってうるさい。が私も夜中にガサガサ音立ててお互いさまなので言いだせず、早く看護士に気づいて注意してもらいたいが、こんな大きな音なのに誰も気づかず、うるさかった。

花丸マーケットで西荻のモダンガールを紹介している。8:50、やっとレントゲン室に消えていった。50分待たされた。

⑱シャワーの順番を待つ

10:00頃と言われてたのに、10:20に呼びに来た。それまで源氏物語を読んで待った。

⑲病院が患者を待たす

レントゲンを撮りに行く。すぐ名前を呼ばれたけど、胸の写真を撮るのに私の胸は包帯でぐるぐる巻き。レントゲン係の女性はどうしていいかわからず、病棟に相談。数分待ち、取っちゃっていいことになったが、ハサミでジョキジョキ切っちゃってよいものかわからず、また相談。数分待ち、ジョキジョキやっていいことに。

でやっと胸撮影。ところがそのあとの乳房撮影が、ワセリン塗ってるので滑ってしまう。しかも胸が、小さく、傷だらけなので、マーモなんとかの機械に到底胸を挟むことができないのである。でどうしたらよいか、皮膚科医に相談。皮膚科医、降りてきて私の胸を拭く。しかし拭いてもまだ駄目で（やっぱり小さすぎ）あーでもないこーでもないのすったもんだで私は10分以上椅子に座ったまま待つ。眠ってしまいそうになった。

想定外の出来事（→相談、思慮の時間）が、私を待たす。

待乳山で乳を待つ

待乳山で乳を待つと怒られる

2012年12月28日東京新聞に、「都山景　待乳山」という記事を見つけた。「浅草寺(台東区)の北東に、「大根まつり」で知られる待乳山聖天(まつちやましょうてん)が鎮座するお山がある。」「お下がりをいただくと健康の御利益があるとされ、大根一本を抱えて訪れる参拝客の姿が絶えない。」

図書館（目黒区民センター）で調べると、「待乳山聖天」は隅田公園内にある高さ10mの山で、浅草寺の寺院。夫婦和合のご利益があり「〽山谷の小舟／着いた着いたおゝ着いた／待乳山風／手拭でしのぐ／雨かみぞれか／まゝま〳〵　／今夜もあしたの晩も居つゞけましょ／しょうが酒」などいう気の利いた小唄もあるそうです（江戸名所こよみ／江戸小唄社）。神田ぱんによると夫婦和合は大根形なので（指でやってくれる）大根を供えたりするそうだ。「待乳は真中知に通じ」(歴史と文化の散歩道10)とか「亦打山」「真土山」とも書く」（角川日本地名辞典13）とかあるけど、なんで「待乳」かは書かれていない。がまずは字義どおり、ここで乳を待ってみよう。

「待乳山（台東区浅草）で乳を待つ」にご協力を！！

5月24日（土）の13:00‐16:00、乳を持って、待乳山（台東区浅草）へお越しください！

車掌編集長を含む車掌スタッフ数名が、上記日時、待乳山で乳をお待ちしております。

これは車掌25号（待つ特集）の企画の一環です。

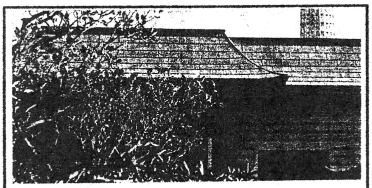
ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

車掌編集部

代表　塔島ひろみ

というメールを車掌を知る数人に送り拡散を依頼。乳を待つスタッフは岳人とひろみの2名に決まった。

2012年12月28日東京新聞



都山景

待乳山

した。作家の池波正太郎…門前が生家で、鳥居の横に足跡を記した碑が立つ。

頂上からは、冬枯れの…チョウの向こうに東京ス…イツリーの勇姿。「大根ま…つり」は新年7日だ。

（写真と文・星野浅和）

◇地下鉄銀座線、浅草線、東武伊勢崎線浅草駅・徒歩約10分

2014年5月24日（土）　待乳山で乳を待つ　伊藤岳人

（動詞研究・待つ　第2部（待乳山編））

13時51分

「お待ちください」

人力車えびす屋空樹所属、梅沢誠が発言。人力車を敷地内の空きスペースに停めた際に言った言葉。そのあと木製の車輪止めをタイヤの前に置き、客（若い男女2人）が降りるための足台を出して客の足の下に置いた。言い方は淡々とした、非常にビジネスライクな口調だった。

15時51分

「降車の準備ができるまでちょっとお待ちくださーい」

人力車えびす屋無限所属、田川恒平が発言。人力車を敷地内の空きスペースに停めた際に言った言葉。そのあと梅沢誠同様、足台を客の足の下に置いた。梅沢誠と違い、思いやりのある優しい口調だった。

空き待ち企画「二軍ちゃん」—塔島ひろみの日記から

6月14日（火）

それで（↓6月8日）借り、つまらなそうな本だけど、今日読み始める。

p22　いくら待っても赤にならない

22ページでやっと待つのが出てきた。妻の復讐のためにこの会社に入ったのがバレて、青ざめる鈴木には時間の流れが止まったように感じられちゃった。で、信号青のまま、歩行者用信号が点滅したまま、いつまで待っても赤にならない。

鈴木は信号が赤になるのを待っているわけではない。

鈴木は車に乗って停まってるので、歩行者用信号を信号機として見てるわけではない。

頭の中のチカチカ（ショックと恐怖）と、信号の点滅が重なって、赤になって点滅が止まったら我に返るのに、返りたいので赤を待ったが止まらなかった。

①時が長く感じられたから

②青の信号点滅（現実）が、心の中の点滅にすりかわったから

どっちみち待った時間は実際にはたいそう短いはずだ。

そして女が話しかけてきたので、待つの終わり。

〜乳を待ったら追い出され

塔島ひろみ

待乳山は、浅草といってもにぎやかな中心部からは外れ、隅田川沿いにさわやかな春風に吹かれながら10分ほど歩いたところにある。乳待ち当日の、2014年5月24日。私は持ってくるはずの大根を持たずに（お財布忘れ）、遅刻して（不徳）、待乳山に着いた。岳人は大根を持ってすでに来ていた。そして「1本百円の大根を買ってきたが、境内では法外な値段で大根を売っている」と言った。

入ってみるとぱんの言っていたいやらしい形の大根が各所に配されているエロ神社だ。本堂のそばで待ち始めるが、岳人が札を作ってきたことを思い出し、設置。知らない人が乳を持ってきてもわかるようにする。

すると早速知らない人（おやじ）が現れた。

「これは何かしてんの？」

「はい、えーと」

「何かしてんだね？　届けはしてあんの？」

「い、いえ。特に何かするわけじゃあ」

「こんなの置いちゃって。何かしてるわけでしょ？　勝手はだめよ。事務所に届けてからしてもらわないと」

と怒るように言われ、岳人としょんぼり事務所へ。すると見るからに血や涙のなさそうな男性が、厳めしく待ち構えている。おどおどと趣旨を説明。すると皆まで聞かず「だめです。」と、にべもなく断りやがる。待乳山は人気スポットで、取材も撮影もしたい人がわんさかいて、なのできちんと紙に実施計画を書いて申請してもらい、それを厳しく審査する。審査に通ったもののみが、ここで何かをできるそうだ。浅草とは思えない、教育委員会みたいな四角四面の男と寺だ。いずれ滅びよう。

それで仕方なく外に出て待乳山の前で待った。口が二つあるので岳人と別れて、それぞれ大根を持って、腕組したり。よりかかったり、うろうろしたりしながら、乳を待ち、乳が来ないまま3時間が経過した。

その間にした「**動詞研究・待つ　第2部（待乳山編）**」

①　そのままで少々お待ち下さい

人力車の男が、乗ってる人に。待乳山の駐車場に止めるときに。

乳を待つ間に同時進行で動詞「待つ」のフィールド調査（巷で実際に使われている「待つ」の収集）を行った。3時間も待ちその間聞こえた「待つ」はこれ一個だけ（伊藤のとは違う人）。言われた人の待ち時間は5秒くらいで、待ったとは言えないけど、駐車時には待たせてなくても「お待ちください」と言うのが決まりのようである（→岳人の報告参照）。

浅草は四角四面の作られた町だ。西小山や立石の方が全然いいや。

まゝま〜〜　／そいでも待ちましょ　乳が来るまで／　また今度

空き待ち企画「二軍ちゃん」
—塔島ひろみの観察メモから

2013年6月4日　東大病院

支払い待ち（番号が出るのをいすにかけて）

①左隣りの末広の死んだおばさん似のおばあさん（80位）。

ただ何をするでもなく待っている。時々キョロキョロする。それからカバンをゴソゴソして、お財布出して、お財布から鏡を出して、髪の毛を直した。鏡しまって、少しして立ち去った。（番号が来たわけではない感じ）

②右隣りの大野更紗似のおばさん（40才位）。

診察室でもらったと思われる薬関係の紙や次回予約関係の紙などを見たり、切ったり、折ったり、整理。スケジュール帳と照らし合わせていた。

6月6日（木）

朝、山手線、目黒。

『秦の始皇帝』という文庫本を読んでいた。

6月7日（金）

目黒線待合室。

ただ前を見つめているおばさん。本を読んでいる人は外の人に何を読んでるのかわかるけど、考えごとをしている人の頭の中は決して見えない。

6月10日（月）

東大構内行きのバス停（上野広小路）。

おじさん。左手に新聞、右はズボンのポケットに。ずっと後ろを見て、バスが来るか、来るか、と気にしている様子。

待っていることだけをしているように（外見上は）見えた。それがやって来る方角を見ているから。

同日帰り。湯島交差点。

信号ではなく人を待っている感じ。黒いスーツのおじいさん。後ろ手に手を組んでケータイを持っている。

6月18日（火）

6月18日の朝日新聞を読んでいる。走ってるときから読んでいる。武蔵小山で「発車までしばらくお待ちください」となっても同じに読んでいる。徳之島についての記事。畳み方がメチャクチャ。

車内の人は、走ってるときも止まってる

鳴くまで待つ

2015年3月　第5日め

再起編（その2）

3・28日（土）25号企画「ドキュメント・ザ・尾行〈鳴くまで待つ〉（再起編）その2」について

〈概要〉

この尾行は標的が鳴く（声を出す、そして我々が声を聞き取る）まで続く

標的1は、昨年5月6日の第1回目で、舟久保文恵が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

標的2は、同じく、伊藤岳人が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

標的3は、同じく、塔島ひろみが「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

このうち標的1については、舟久保が尾行開始後ほどなくその声を聞き、終了している。

標的2、標的3は、第1回目で声を聞くことができず、7月27日、続いて10月5日に再び、三度挑んだものの失敗に終わった。

これらの失敗をふまえ、再起編ではじっくり慎重に、一人ずつに的を絞ることにしてまず3月11日、標的2に的を絞って再起編その1を敢行した。が我々のかわいい耳に標的2の声は今もって届いていないのである。

今回の再起編その2は、標的3に的を絞る。標的3を全員で尾行し、彼の声を聞くことを目指す。尾行は、その声を聞きたいと願う塔島が、標的の声を聞いた瞬間に終了する。

〈当日の動き〉

3月28日（土）10:00船橋駅前、イトーヨーカドー地下のドリンクコーナー集合。

全員集まり次第標的3の自宅へ急行し、待機する。

標的は、家にいるのか、すでに外出しているのか、不明である。どちらの可能性も考えながら待機する。

この日にもまだ尾行が完了しなかった場合、また後日再々々挑戦を行う。

〈その他〉

・志村二朗氏に因む「歌声喫茶ゴリ」に続き、シャポーちゃん広場も閉鎖され、船橋はもはや、志村に会えそうな場所ではなくなってしまった。再起編その2より、我々は志村氏のことは頭から振りはらい、標的3の声を聞くことのみを目指す。

・待機中・尾行中は可能な範囲で記録を取り、後日感想もまじえ、編集部に提出する。

・待機中は退屈なので「待ちながらすること」しりとりを実行する。前回の「食事時間稼ぎ」の続きの「ぎ」から始める。（前回までのしりとり記録添付）

以上

車掌編集部「鳴くまで待つ」実行委員長　塔島ひろみ

待ちながらすることしりとり（前2回分）

爪かみ→身だしなみチェック→靴紐直し→写真撮影→石けり→隣接レストラン検索→首まわし→塩飴をなめる→ルービックキューブ→ブックオフで古本を探す→スイカにチャージ→ジャングルジム→昔話→静かにする→留守電メッセージチェック→クイズ→ずいずいずっころばし→新聞を読む→ムード歌謡を聞く→クッキーを食べる→ルノアールでコーヒーを飲む→虫捕り→料理番組鑑賞→運動→うがい→椅子に座る→ルノアールでココアを飲む→無駄話→死んだふり→隣人に怪しまれないようにする→ルノアールで紅茶を飲む→剥き栗を食べる→ルノアールで漫画を読む→虫探し→白髪探し→詩を書く→雲を眺める→ルーマニアについて調べる→ルノアールでカフェオレを飲む→ムーミンのまね→年賀状眺め→眼鏡拭き→緊張→腕立て伏せ→洗濯→クロスワード→どんぐり拾い→犬に餌→皿回し→週刊誌を読む→無駄口を叩く→屑拾い→いじめ→メイク直し→しゃがみこみ→みみず観察→月見→身支度→苦しむ→虫よけスプレー→駅弁購入→腕組み→店に入る→ルマンドを食う→怨む→迎えに行く→くじ引き→休憩→痛みをこらえる→ルートチェック→口直し→食事時間稼ぎ

まやかしのイトーヨーカドーフードコート

ゴリとシャポーちゃん広場の閉鎖により、もはや志村と関わりのある場所とは言えなくなったと思っていた船橋に、私たちはまた行く。待合せ場所はイトーヨーカドー地下、ドリンクコーナー。それは志村ではなく、標的にとっても会いやすい場所である。もはや形骸化した「志村を待つ」を正式に目的から外した我々は、「鳴くのを待つ」に集中し、成功を狙う。

イトーヨーカドーはツインタワーになっていて、標的が通うのがどっちのタワーなのか確認するのを忘れていた。そのため早めに行って下見をしようとしていると（塔島が）、山田から「イトーヨーカドーのドリンクコーナーって、フードコートのことですか？」とメールがあり、神田から「大幅に遅れます」とのメールがあった。

山田からの問いに答えるため急いでまず西館地下へ行くと、「フードコート」という名のドリンクコーナーがあり、見覚えのある「長崎ちゃんぽん」があり、ただで飲めるお水があった。（ずっと標的はここでお茶を飲んでると思ってたけど、見たらお水だった。）

たぶんここで間違いないけど、エスカレーターを降りてからここに到達するまでの店の感じに違和感があり、念のため東館にも行き、地下へ下りる。するとこちらの方が何となくしっくりして、そしてここにもまた、フードコートという名のドリンクコーナーが同じようにあり、しかも右に長崎ちゃんぽん、左にコージーコーナーがあるのまで同じだ。フードコートは同じ作りにしているようで、これは間違えそうなので、山田に「東館のフードコートです」と送るが、見回すとそこに山田がいた。山田に東西館のフードコートについて説明する。そしたら、驚きの、衝撃の答えが返ってきた！

「東館と西館は地下でつながっていて、フードコートはこれ一つですよ」

今回で4度目？　私が参加するのは3度目の尾行だ。

前回は〃3〃が外出せず尾行にすら至らなかったが、今回は天気もよく温かい尾行日和だ。〃3〃の声を聞いて尾行を終了できることを願いつつ10:20ごろ〃3〃宅前に到着。（山田報告より）

隣人

さて、標的宅へ急ぐ。気候はとてもよく、お彼岸を過ぎ、春の陽気だ。3月11日の尾行でどんなに情けなく恐ろしい目にあったかを説明しつつ、標的宅前着。するとお隣のおじさんが自転車を出そうとするところで、ものすごく不審そうに我々を認めた。このおじさんは前回の雨中の張り込み時にわざわざ家から出て我々を確認した人物である。

まだ1秒も張り込んでないのに、早くも我々は窮地にたってしまったのだ。おじさんはたまたまこれから自転車で出かけるところで、外にいて我々を発見し、怪しそうにこちらを見ているのであった。私は後ろを向き、山田は正面向きで俯いている。「どうしよう！」私が小声で言うと、山田が「今、出かけて行きました」と言うのであ、よかったと振り向くと、おじさんが自転車に跨ってこっちを見ている！　まるで3・11の再現フィルムのように！（↓鳴くまで待つ第4日め）

（まだ出かけてないじゃん！）咄嗟に振り向き戻って小声で叫ぶ。その後おじさんは本当に出かけた。

張り込み始まる

定位置である向かいのマンションの玄関前にて張り込みスタート、例によってしりとりを始める。（山田報告より）

隣りの家の門は開け放たれたままである。おじさんはほんの少しの用をするために出かけ、おそらくすぐ戻る。標的が出てくる前に、おじさんが先に戻ってきたら、私たちは一体どうしたらよいのだろう？

不安を抱えつつ、待ってる間にすることしりとり。標的2をめぐるしりとりは伊藤を中心にぬかみそ臭くなっているが、こちらの流れは何とも無為な、不充実感と孤独感満載なしりとりになっていて、今日は前の最後の「食事時間稼ぎ」の「ぎ」から始まるが、待ってる間にする「食事時間稼ぎ」（山田が言った）とは何？　待ってる間に食事をして時間を稼ぐと言うこと？　でもそれなら「時間稼ぎ食事」だよね？…　ネットでこんな記事を見つけた（ごはんが待てない1歳児の対処法）。

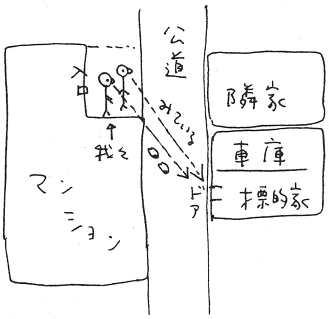
「イチゴ・バナナを一口サイズにして凍らせておいて、それを口に入れてやると必死で舐めてました。結構時間稼ぎになりましたよ。」

食事を待ってる間の時間稼ぎが「食事時間稼ぎ」？　「ぎ」なので「ギョウザの味を思い出す」（塔島）↓「水筒の水を飲む」（山田）と続けるが、これらも「食事時間稼ぎ」になるかもしれない。「胸騒ぎ」（塔島）

公園

途中隣の家から人は出てくるものの、〃3〃宅からは人のいる気配すらない。とはいえ自転車も車もあるので〃3〃は家にいるはず。根気よく待つしかない。（山田報告）

おじさんが去り、少し緊張も解けて私は「ぎ」を考える山田にスリランカ旅行の話を聞く。スリランカでは知らない間にえ？オレ今英語しゃべってる？てびっくりするほど英語が自然に喋れ、スリランカ人と1時間も語り合っちゃたりしたそうだ。そしてスリランカで買ったカメラをくれる。スリランカ旅行中にカメラが壊れたので、急きょこれを買い使ったけど、日本に戻ってきてから元のは修理して使えるようになったので、もうこれはいらない。



てとき私のカメラ（シャッターを押してから撮影できるまで待つ忍耐が必要／重い／画面がちっこい）のことを思い出してくれ、くれた。そして「銀行でお金を下ろす」（山田）と来たけど、「スリランカの話を聞く」とすぐ返し、カメラ代は払わなかった。

11時近く、山田、近くの公園へ。目的はトイレとタバコ。がどちらもできずにすぐ戻ってきた。トイレはなく、タバコは子供がいたので自粛した。またスリランカでは大麻を吸わされ、大麻代とかをだまし取られたそうである。

「車を出す」（山田）。「砂いじり」（ひろみ）。

11時を過ぎた。標的家の扉からも窓からも、誰も出てこない。隣りの家は門が開きっ放しで、おじさんはまだ帰らない。「リビングの掃除」（山田）。

宅急便・佐川などが、何度かマンションに配達に来る。手持無沙汰に私もぶらぶら調査に行くと、標的家から何か音が出ている。そして公園にはやはりトイレがなかった。山田に言うと、隣家の音が反射か何かして聞こえてるのだと教えられる。「熟慮」（ひ）↓「用意」（山）↓「石投げ」（ひ）↓「ゲーム」（山）↓「虚しさと戦う」（ひ）。

虚しさと戦いながら開く保障のないドアを見つめつつ、しりとりは続く。「運動」て出ました?と山田。運動は出ている。「じゃあ、腕立て伏せ」。調べるとそれも出ている。「腕相撲」（山）。

世界樹の迷宮

そこへ一人の女子が登場した。家々の写真を堂々と撮りながら歩いている。標的家隣家の窓辺に立つ猫を撮ってから進んでいく。こういう人も（イエジョ？）いるので我々も怪しいとは一概には言えないだろう、と心強く感じたのもつかの間、よく見るとその女子は、遅れてきた本日の尾行隊員神田ぱんだったのである。11時20分、本日の尾行隊のメンバーが揃った。

さっそくしりとりの「う」をぱんに回すと「運動」と言った。「出てる！」嬉しそうに山&ひ。うーん、とぱん考え、「じゃ、腕立て伏せ」。「それも出てる！」ますます嬉しそうに山&ひは声を合わせた。

「歌を歌う」（ぱん）↓「うつ伏せ」（ひ）でやっと「う」の堂々巡りから抜けだせ、「せかいじゅのなんとか」（山）が聞き取れず、書けないでいるとぱんが「世界樹の迷宮」というゲームソフトだと教えてくれながら「ゲーム名ならいくらでもあるわ」と今後のしりとりに自信を見せたが、爪かみから始まった待っている間にすることしりとりの第2の流れは、今ここに永遠に終了することになるのである。

しかしそのことをまだ、我々は知らない。

押し車

程なくぱんさんも合流し、三人でしりとりしながら張り込んでいると、〝3〟宅から母親らしき人が出てきて隣の住人と話し始めた。見つかるとまずいので奥に潜んでいて話している内容はよく聞き取れなかったが、隣に何かあげに行ったようだ。（山田報告）

11時34分。おばさんがいる。

標的家のガレージに、おばさんの姿を今確かに、私は見た。女物の自転車が置いてあるので標的家に女がいるらしいとは思っていたが、今その生（なま）が、たぶん標的の母親が、そこにいる。

家族の初登場に感動と興奮を覚えつつ、恐る恐る見に行くと、ガレージで何かサカサカ音がする。

掃除してるか、車の何かしてるか。戻って二人に報告。

服装はモロ家着。「だから出かけるんではないと思う」と言ってるとき、いけないことが起きた。

11：36、帰ってきてはいけない、隣りの自転車おやじ帰宅！

マンションの壁にへばりつき、身を隠す我々。しかしそこからはもう、標的家のドアが見えないのである。ここで張り込み中止だろうか？

この危機はしかし、予想外の助け舟によって回避された。自転車おやじが我々を見つけるのをまるで邪魔立てするかのように、標的家のおばさんがおやじに話しかけたのだ。

「となりの××ですけど、奥さんいらっしゃる？」

そしてこのあと、標的家と、自転車おやじ家との、長い近所会議が始まった。我々の「逃亡時間稼ぎ」のため、おやじは口に凍ったバナナを放り込まれた1歳児となって、奥さんを家に呼びに行き、奥さんも出てきた。その奥さんに標的家のおばさんは、**「押し車」をあげたい**、と今このタイミングで唐突な申し入れをするのであった。

そして何故我々がそれを知っているか？　それは我々がおばさんの好意を無にして、逃げるかわりに、隠れたまま近所会議の内容を聞く道を選択したからである。もちろん我々には標的の声を聞くという至上目的があったからだが、そのために待ち、待ちながら聞くともなく聞いたおかげで、標的のおばさんが我々の味方だと知ることになった。

おばさんは言った。家の車に「押し車」が積んであると。それはこのおばさんのお姉さんが退院した時、お祝いで買ってあげた品である。しかし何か（姉死亡？）で使わないまま不要になったため、奥さんにあげたい。

この押し車は、歩行困難者の助けになる介護グッズで、奥さんのような歩行困難者はこれを押しながら散歩する。疲れたら座る。座れるようになっているのだ。

これを押しながら歩けば、河内屋へ行ける。私は自力で歩く人だが、奥さんは歩けず引きこもっているのだから、これを使って歩くとよい。ちょっとは歩いた方がよい。散歩して疲れたら座ればよい。簡単である。

介護ビジネス会社のセールスマンのように、一方的に押し車を宣伝し、そして車から押し車を下ろしてきて、実演するおばさん。そして結局「押し車」は2軒の境界をまたぎ越し、お隣りへ渡った。おばさんが標的家に戻った（神田が確認）あと、隣家の敷地には歩けない奥さんと自転車おやじが、見慣れない「押し車」とともに残されたのだ。

標的

いきなりのでかいプレゼントに困惑するおやじが、目をあげると、マンションの入口に我々がいる。

山田「今、二人でここで我々を気にしながら話しています。」

最大の危機が訪れた。せっかくの逃亡時間稼ぎの利用をしなかった我々は、当然ながら窮地に立たされ、もはやこの同じ位置にとどまることはできない。どうしよう？　と顔を真っ赤にして考えをめぐらせたその直後、奇跡が起きた。

「誰か出てきましたよ」

一番外側にいた神田が、ずっと標的家のドアを見ていた。

「標的じゃないですか？」

母親が帰宅し少しすると、11:50分頃〝3〟が家から出てきた。（山田報告）

仏滅だと言うのに、この強運！　おばさんが標的の背中を押したのだろうか？　考えなしの背水の陣形から、我々は図らずも勝機のしっぽをつかんだのだ。

我々は隠れていた塀影から次々と姿を現し、標的といっしょに、ルンルン気分で歩きだした。疑わば疑えや！　もはや君たち（隣人）に未練はない！

黒いダウンっぽいジャケットにカーキ色のズボン、靴も黒で髪の毛はだいぶ伸びている。もしかしたら今回もまた散髪に行くかも？などと思いながら後をつける。（山田報告）

数か月ぶりに見る標的。今日は髪の毛はボリューム有バージョンの標的である。2度目の尾行でカット屋に入られ、「何で一緒に入っていかないのよ」（ぱん）と怒られて反省し、今日はその意気込はあるものの、私の髪は今すでに短くこれ以上切りたくはない。標的の頭部を見たとき、カット屋にはいかないでくれと咄嗟に念じた。

音楽

標的は前回のような公園回りでない、通常ルートを通ってまずロイヤルホストのある交差点へ簡単に着いた。そして今日もまた手ぶら。メガネハットのでかい看板の下を今までと同じように独特の歩きぶりで歩を進める標的は、メガネハットにもその先の、標的家のおばさん（たぶん母）がわざわざ言及したところの河内屋にも、何らの興味も示さず素通り。今日は結構暑いけどダウンジャケットを着ている。

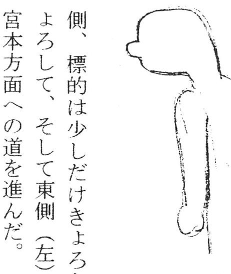
ロイヤルホストの向い「船橋駅北口十字路」で信号待ち。モサモサの髪で私は少し心配だ。青になり、渡ったところで急に止まる。靴紐を結び直している。その向こうに「とんぼ大黒像」なる変な物体がある。

駅方向へ。そのとき音楽が流れた。ずっと時間確認してなかったけど、これは正午の音楽だろう。今、正午だ。

「この人を尾行した気がする」と神田に言う。「時間で決めて、同じ時間に家を出ることにしてるんですかね」と神田。

歩道橋をくぐり抜け、ファミマを右折。

標的の特徴。顔が前に出て、肩が上がり、背中も上がっ



て、しかし全体としてはまっすぐなよい姿勢。

シャポー工事中の船橋駅東側、標的は少しだけきょろきょろして、そして東側（左）、宮本方面への道を進んだ。

「美容院ではなさそう！」

嬉しくて、神田に耳打ちする。

今回は三人での尾行なのでこれまでより気づかれるリスクが大きい気がして、二人が〝3〟とともに道を渡っても私は渡らず、道の反対側から監視してみる。尾行の目的は〝3〟の声を聞くことだが、どこか店に入るなりしないと声を発することはないだろう。その時にすぐ近づける距離にいれば大丈夫なはず。ぱんさんもある程度距離を置いて尾行しているようだ。塔島さんだけは突然カメラを構えたり、端から見てもとても怪しい。それなのにもっとも〝3〟に近いところにいる。（山田報告）

咳払い

12：03、駅東のガードをくぐり抜け、住所は本町5から本町1へ。

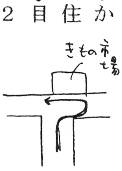
ここは前回の尾行では足を踏み入れていない一帯である。あゝ今日はどこへこの人は行くのか？

「さぬき」で右折、広い通りに出、横断歩道を渡る、そして左折（ドトールのところ）。少し行くと目の前に京成駅が現れた。京成に乗る？ わくわくする間もなく、京成素通り。時刻は12：06である。

そして、歌広、ダイソー、まちおか、など次々に現れるつまらない店群の横を何の感慨もなさそうに冷たく通り過ぎていく。ひたすら船橋の町を南下する標的。まだ知らないこの先に彼の目的地があるのかないのか。

と、目的地らしきものが現れた！ 「船橋スクエア21」というつまらないビルにつづき「市民ギャラリー」というのが現れ、展覧会やコンサートや演劇みたいなポスターが柱に貼られている。それに入って行く標的。

と思ったら、入らず、ただその角を曲っただけで、突き当り「レンタルきもの市場」の前を矢印のように一回右折すると見せかけて、ぐるっと大回りに左折。



そしてお次は「たまごや」角右折。大通りから離れ、つまらない店たちは姿を消した。住居表示は本町2・29。いつの間にか2丁目に来ている。少し歩いて次は左折。モール2番館というビルの角。

直進、住所は2・4となる。さっきまでと違い人通りのない道。**ゲヘン！** 標的咳払い。声ではないが、初めて彼の口から出た音を聞く。10m以上間隔があるが、人通り少ない静かな道のため、背後からでも、よく聞こえる。

前回同様、〝3〟は目的を持って歩いているようには見えない。（山田報告）

かくれんぼ

間もなく道は千葉街道と交わった。信号のない横断禁止の街道を、標的は無理矢理横断、わざと遠回りしたりもするくせに、今度はちょっと回れば信号あるのにまるで急いでいる人のように、危険なことをするのは何故？ こっちも仕方なく車が走っている道を斜め横断。

そして道はさっきより更に静まり返り、振り向くと神田も山田もいない。だから私は頑張んなきゃ。と頑張って、取り繕って、歩いていると、また咳払い。続いて腿搔き。私も少しゆっくり歩き。咳払いの音は普通で、そこから声を類推はできない。早く、何でもいいから喋ってほしい。

神田と山田を確認するため何度も何度も振り返る。

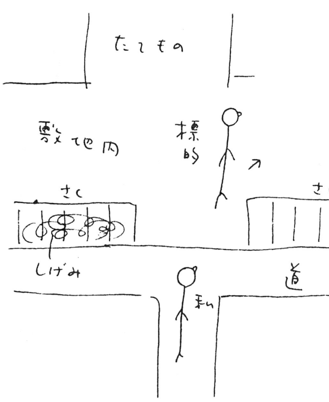
そして道は行き止まり。門があり、その中は何か大きなもの。そこに標的は入って行く。

とそのとき、突然標的が止まった。

そして、振り向いた。

そして、はっきりと私を見た。

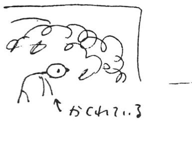
私は、わ、わ、わ、わたしは、どどど、どうしよう！！と心の中で慌てふためく。私はそのときもちろん彼に続いてその大きな建物に向って歩いていたのだが、標的の視線に耐えられず、左に曲った。そしてすぐ止まって、身をかがめ、ちょうどあつらえたようにそこにあった茂みに身を隠した。かくれんぼのように。



おそらく標的は私の追跡を感じ取り、まず無理矢理横断で振り払おうとしたが、しつこくついてくるので、我慢できずに振り向いた。そしたら私はわざとらしく左に曲って見えなくなった。

とするとこの次彼のすることは、私が見えないうちに走って消えさることであろう。

大ピンチ！ 私はここから出て、建物内に入って標的を探さないと！



そう私は気付き、茂み内を背を屈めながら前進し、まず首だけ出して、左を見た。そしたら、あらら。標的はまだそこに、さっきと同じ位置で止まって私を見ていた。

目が合い、もはやまた引っ込むわけにもいかず、私は普通の立ち方でそこに立った。

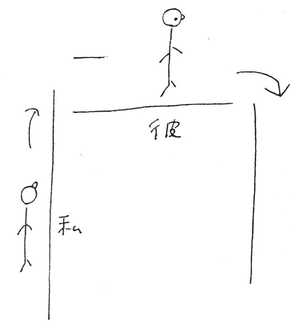
で、こう（図）なって、決まりの悪いこと！ 標的も決まりが悪かったようで、前を向いて歩き始めた。私は性懲りもなくついて行く。それ以外、できることは何一つない。

千葉街道

歩きながらすぐにここが市庁舎の敷地内であるとわかった。現場労働者みたいな人たちが何人か建物のそばを歩いている。我々のこの緊張感と無関係な世界でおしゃべりしている。

それからは標的は振り向かなかった。走りも、止まりもせず、閉庁中の建物を左に、まっすぐ歩き、そしてここは八ヶ月前に彼が歩いた道である。その時は市役所の端まで行ったら道を渡って折り返し、まっすぐ戻って角のセブンイレブンでエロ本立ち読み、という流れだった。

今また全く同じように、市役所の端まで行ったら向こうの道へ渡った。そのとき私の姿は彼の視界の端に入っていたはずだけど、止まることも、振り向くこともなく、そして前と同じ道をセブンイレブンの方へ戻ったが、立ち寄らず、セブンイレブン前を通過。私の存在が、彼からエロ本読みという静かな楽しみを奪ったのかもしれない。そして私は愚かしくも、こんな状態の中で彼がセブンに寄って立ち読みすると思って、間隔を開けていたのだった。それで彼が渡って行った「市役所入口」の信号に着いたとき、赤になっていた。赤信号の千葉街道を走って渡る。一人なので、頑張ったのだ。本町2-6。その時後ろに殺気を感じ、見ると神田と山田がいる。何だ、一人じゃなかったの？　すごく安堵。しかし、こんなに音もなくいても、しかも自分をつけているんじゃなくても、気付くものなのである。



維新の党

Ｌａｄｉｎｏというのを右折、2-29を通過すると、さっきも通った「たまごや」がまたある。大通りに出て、ベローチェを左折、バス停「駅前十字路」と書いたところでノートが終わり、三菱のメモ用紙に切り替える。標的の道筋、行動を、いくらメモっても仕方ないのに。声を聞かなきゃならないのに。私はただ尾行し、辿った経路を記録していく。

わざと遠回りしてみたり、無意味に信号を渡ってみたり。仕舞いには、駅の南側まで行ったのに何もせずに再び北側に戻ってくる始末。ウォーキングをするような格好でもないのにただ運動するためだけに外出しているのだろうか？（山田報告）

また京成の駅に出た。彼はケータイを恐らく持っていない。本当に難易度の高い人を選んでしまったものだと思う。

京成のエスカレーターを昇って行く。横の階段からそれを追いながら、もしかして今度こそ、電車に乗るかもと、一応思い、尾行のために一年前に購入したスイカに手をかける。が、やっぱり違って、昇ったら、右のビルＦａｃｅに通じる通路に曲がりそのまま、Ｆａｃｅを抜け、舗道を渡り、そしてメガネを押さえ、下りエスカレーターに乗って下へ。私もエスカレータに乗って下へ。地上では白い手袋の維新の党の誰それが、下りてくる人たちに手を振って笑顔で、そしてたぶん何かを訴えているが、こっちはそれどころではなく、（暑い）と思った。ＪＲ船橋駅着。それから東武でまた改札の方に上って行くので、また一応スイカに手をかけるが、やっぱりそこも素通りで、見慣れた駅方向側の景色に下り、12：35、自転車置き場前をまわって、いつものあそこに向っている。

「このまま昼飯買って帰るんじゃないですか？」と山田。私もさっきからそれを恐れている。疑り深いおやじの待つあの場所へまた戻るのは、千葉街道の信号無視よりはるかに恐ろしく、高速道路を走って横断するぐらいの勇気がいる。しかも標的とはもはや顔見知り状態！

標的がレジとかで声を発してくれますように！　祈る。

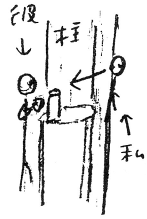
思えば前回も〝3〟の歩行パターンはこうだった。ただ歩き、遠回りに遠回りを繰り返して散髪、ヨーカドーで買い物後帰宅していた。（山田報告）

目的地

ヨーカドー着。地下へ降り、やはりすぐフードコートへ。そこでやはりまた、私がお茶だと思い違ってたお水を飲む。今日は初だ。

私はそばまで行って、隠れる場所がなくなっちゃって、お水飲む標的の裏側に行き、声を聞くには至近距離からの尾行に思いがけずもなり、ドキドキしながら見守るが、声は出ない。

それでそうっと離れベンチに座る神田、山田と並んで座ると、数秒後、我々の前を標的は過ぎていった。そしてヨーカドーの地下トイレへ。これも前と同じ。山田もついでに11時の段階で入りたかったトイレに、今やっと入った。



トイレから戻り、買い物もせず、上に昇りヨーカドーを出てしまう。そして駐輪場経由の横通路から外に出て左折。そしてだだっ広い道をまっすぐ歩いて、海神という地名に変わり、その2-8というのを左折して細い道に入ると動きが細かく速くなり、メモが取れない状態になった。そしていつの間にか彼は、2014年7月27日に入ったのと同じ、カット屋に入ったのだった。

そして何とまた、神田と山田は申し合わせたようにいなくなっているのだった。

今回も、散髪や買い物の前段階のウォーキングなのかもしれないが、振り回されるこっちにしたらたまったものではない。

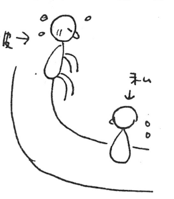
数回見失い、発見を繰り返しているうち、ぱんさんだけは見つけたが、〝3〟と塔島さんを見失った。（山田報告）

押し車

標的は入口を入ったところでゴソゴソしている。私も、それ以外の選択肢がもはやなく、思い切ってドアを開け中へ。

私が中へ入ったとき、標的は待合室に座っていた。私を見て、すごく、すごく、びっくりした顔をする。当たり前だ。本当に申し訳ない話である。そしてそのとき何か言っ

てくれりゃいいのに、そのまま首をうなだれてしまった。私はもう、体中の痒疹が飛び出しそうなほど張り詰めた緊張状態で、理髪台に座ってるおばさんが「お客さんが一人来ると続いて来るもんね」と言ってるのを聞く。固まったまま標的を見る。身体をくねくねさせ落ち付かない風に、紙切れみたいのをいじくりまわしている。



見ると、ここは小奇麗で洒落てるくせに、1200円カットでチケット式の店だった。私も券を買おうと思うが、セット、カット、前髪カットとあり、今差し当たって何もしてほしくない場合、どれにしたらよいのか迷ってそのまま動かないでいる。

で、あ、電話だ、と思いだす。震える指で、「とこや」と送信。時間は今見ると12：49である。「どこの床屋ですか？声聞けました？」とすぐレスポンス。

どこと言われても、前来たとこだ。大体君たちは大人のくせにどの段階で迷子になったのか？

ヒントになりそうなものを見まわし、外に、向こう側にマッサージ屋の看板を見つけ「ほぐれーるのそば」と打つ。すると「向います」と来たのでそれは本当に嬉しかった。

場所は船橋市本町7丁目、周囲をぐるぐる回ってみたが、〝3〟は見つからない。途方に暮れていると、パンさんに塔島さんからメールが届いた。〝3〟は付近の床屋に入ったとのことで、急いでそこへ向かう。見つけた床屋は1200円カットの Bcolle という店だった。（山田報告）

標的はやっぱりケータイを持っていない。持ってたら「今、つけられてます」と誰かに打電していたことだろう。早く来い来い神田山田。祈る。しかしなかなか来なくって、おばさんのカットは次第に終わりつつある。普通1000円カットだと店員は世間話をせず黙々と作業するものだが、1200円だと喋るものなのか、まるで普通の町のパーマ屋のように店員（チャラ系の男）と客がカットしつつされつつ話していた。その内容は緊張状態の頭の上を滑って行くが、

「そこにあるのは押し車です。母に買ったんですよ」

と、店員（主かも）がでかい段ボールを指さして言ったときは、ギクリとした。その押し車がまさに今日、さっき、自分ちから隣家へ移動していった標的は、この偶然を何と思ったことだろう。

がたぶんそれどころではなく、私に追いまわされる恐怖と気持ち悪さでいっぱいになっていて、ますます何もせず、本も読まず、その恐く気持ち悪い感じと声も出さず一人戦っている風であった。とても男らしい標的なのだ。

いったん通り過ぎつつ店を覗くと、塔島さんも店内にいた。このまま〝3〟の声が聞けなかったら髪を切るつもりなのだろうか？　声を聞ける確率は高いだろうが、大きな賭に出たものだ。と、思いながら、ぱんさんと二人でブロック塀の陰の駐車場で煙草を吸いながら待つことに。（山田報告）

声

私はまだ券が買えていない。そのうち、うまくすれば券買わないで済ませられるかも、と思い始めた。標的が声出したら、逃げちゃえばいいや、と考えてるとおばさんが終わった。次は標的の番。いよいよである。心臓はドッキドキ。

っていうこの重要時に、クライマックスに、店の人が私に「初めてですか？」と要らぬ質問を投げかけた。「そしたらこの券売機に1200円入れてボタン押してください」と言ってくる。

私は財布を探したが、探しながら顔をあげると、標的が鏡の前に座った。店員が何か言っている。耳をすます。

「──より、少し短く……」

と聞こえその瞬間、長い長い、神長姫の髪の毛よりも長〜かった、この尾行が終わった。

まじめで、横平べったい感じの、含みのない声。正直者の声　標的の声。私は聞いたよ！　叫びたくなった。

「わ、わ、わ、忘れ物しました！」と叫んで店を飛び出し、走って逃げ去り、大きな道に出たところで12：59、「終わりました」と最後のメールを二人に送った。

ほどなくして、塔島さんから尾行終了の旨がメールでぱんさんに伝えられた。時刻は13：10。

結局〝3〟の声を聞けたのは塔島さんだけだったが、自分が声を聞けなかったことに悔しさはみじんもなかった。昨年から続いた尾行が幕を閉じた安堵と、ターゲットはもう一人残っている事実、そのために招集がかかる不安だけが残っている。

さらに、このレポートを書くことが、本当に面倒でならない。（山田報告）

●神田報告

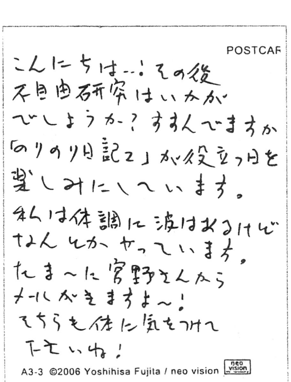
こないだ失敗した標的を、懲りずにまた尾行するというので、10時に船橋駅に集合した。

……とか書き始めたが、書いている現在は十一月五日で、私は二月から特訓していたフラダンスの競技会（何にも入賞せず）がおとつい終わったばかりのヌケガラで、その九ヶ月間のことはフラダンス以外、ほとんど何も記憶がない。だから、尾行のことも「10じ　船橋」と手帳に書いてあったことぐらいしか覚えていない。

あと思い出せるのは、最終的に標的が美容室（理容室かも）に入店したため、ひろみ編集長も続いて入店し、お店の人に（オマエ誰？）みたいな感じで対応されていた。ということぐらいです。なんか声は、たぶん聞いたんじゃなかったかな？　ひろみさんが。

〈文責・塔島〉

―のりた、
車掌24号発売を待つ―


POSTCAR

こんにちは…！その後
不自由研究はいかが
でしょうか？すすんでますか
「のりのり日記2」が役立つ日を
楽しみにしています。
私は体調に波はあるけど
なんとかやっています。
たま〜に宮野さんから
メールがきますよ〜！
そちらも体に気をつけて
下さいね！

A3-3 ©2006 Yoshihisa Fujita / neo vision

（2007年4月9日）

2013年11月19日（火） 山手線内。座れるまで立って待ってるとき、頭の中でふと音楽が鳴ってるのに気付く。
ユーミンの「♪はるよ〜とおいはるよ〜まぶたとじれば〜」

11月26日（火）午前7:55 目黒線でふと志村二朗について考えていることに気付きそのとき、ずっとふと考えていたこと日記をつけるのを忘れていたことを思い出した。

同日 8:15 山手線内、座席に座って新聞が読めるようになるのを待ちながら、ふと職場のサイトにアップされている動画について考えていた。（過激だけど大丈夫かどうか）

そのあと、同じ待ち時間内に今度は秘密保護法案について（通ったらどうなっちゃうか）を考えていた。

11月27日 8:20頃 白金高輪で乗り換え待ち中（電車遅れで大混雑）ふと気がつくと頭で長渕剛の「♪ああーそとはーコンコンこなゆき〜〜」が鳴っていた。

11月28日 8:00頃 目黒線電車到着を待つ間（西小山）、自分の皮膚状態について（類天疱瘡のときと似てる気がするなあ）ふと考えていた。

同8:02頃 武蔵小山で急行待ちの間、「乾癬」という病気について、入院時に会ったおやじの顔を思い浮かべながら考えていた。

同18:20 第3共同研究室前で研究会が終わるのをじっと待つ。（20分くらいも）
そのときに、気付くと頭の中で次のメロディーが鳴っていた。何だっけ？
♪レーレードレミファミードドー、ラーラーレミファラミソー、ラーレレー、ソードドー、ドシラーミドレー♪♪
（その後、「空も飛べるはず」と判明）

12月2日
ミドドラソミレド
ソソソソソラシラシレドシラー
トゥルトゥル〜
ていうのが目黒線〜JRでの立って待ってる間にずっと頭で鳴っていた。何の曲？

同日 バスが到着するのを待つ間、1億円当たったら何に使うだろうか？（クジ買ったこともないのに）考えていた。

12月3日
ミドドラソドファミーレド、シドレレラー
ソラファミレ
繰り返し
シドレソーシドレファーミーレドシラシソ
昨日とおなじやつかも。何これ？
これが目黒線の待ち時間、頭で鳴ってた。

12月4日 目黒までの車内（立っている）、押しつぶされて待つ間、今一生との再会パターンについてあれやこれや考えていた。
そのあとバス車内、座って到着を待つ間、後期高齢者、その制度への反発が起きたことを考えていた。

12月9日 帰りの目黒での電車待ち（6:25） シティインデックス目黒の広告を見ながら「最近の若者は一軒家よりマンションを好む」という人から聞いた話を思い出し、自分が近く一軒家に引っ越すことに思いを馳せ、その間頭中のBGMはBELIEVEだった。

12月11日 朝、武蔵小山で待ってるとき（8:09）♪ミファミーレーミファミ〜（おやすみなさい）のリフレイン。何？

12月13日 西小山8:06
ミドドーラソファミーレード
シドレソソファミレミド

12月16日（日） 朝、上野広小路行きのバス停でバス待ちの時、麦太が大学に行かなくて本当よかった、大学！ケ！この世の全てがくさってる、てことを考えていた。そして頭中のBGMはウイウィッシュアメリクリスマス、ウイ〜

12月20日（金） 春日で、フロッピー、データのうつしかえ、メールデータ、とりあえずフォルダのことなど。
♪はなやのみせーさきに（BGM）

12月21日（土） 多摩川で蒲田行き発車を待つ（13:08）間、田島町までバスで行くことの（功罪について）是非を考えていた。
BGMは♪秋の気配。

12月24日 9:30 職場。PCの再起動待ちの間、♪我は海の子〜（琵琶湖周遊の歌）が頭に流れていた。

12月26日（木） 朝、むさこでの乗り換え待合時、ふでまめソフトの購入方法（仕事上）について考えていた。

12月27日 8:06発を待つ間、♪ド、ド、ド、ド、ドドレミレミラソファミー レレソファレミ テロテロテロテロ〜 ？
ラジオで流れてたやつ？

2014年1月6日（月）朝 三田線内、席があくのを待つ間、♪私は泣いています、ベッドの上で〜、のリフレイン。

1月10日 18:00 御徒町信号待ちの間、上を見て月を見てるとき、小田和正の「たしかなこと」が頭で流れていた。

1月16日 夕方 目黒駅（目黒線）電車待ちの間、ふと、嵐のワンラブをBGMに、ひさうちみちおに色盲検査表デザインを頼む件について考えていた。

1月20日 朝目黒線電車待ちの間。
スカボロー・フェア。

1月21日（火） 朝、バス停。BELIEVE。

同日、帰り、歩いてるときからの続きで、古賀が麦子に年賀状をくれなかったことについて。（何を待ってる時か記録なし）BGMは小さな世界。

1月30日
目黒線目黒駅での待ち、18:30。公費助成の時の役員だった人のこと。田中●美の顔のこと。●角先生の顔のこと。●井先生が怒って物を投げたりしたこと。

2月1日 中央百貨店の花屋で、花ができるのを待ってる間、奥野先生の退職んときに頼んだ板橋の花屋のこと。松井先生の退職んときも、そこにするか、とかそういうこと。BGMもあったけど、何だったか忘れた。

2月4日 朝、満員電車（目黒線）の中。到着を待ちながら、ひさうちみちおとの打ち合わせについて、あれこれ考えている。BGMは石川セリの星屑の町でつかまえて。

2月7日 pm6:00 春日
電車を待つ間、本郷キャンパスバリアフリーマップについて考えていた（今日のやりとりを思い出していた）。

2月9日（日）Vaio パソコンのデータをUSB

に移しながら待ってるとき、ふとカーペンターズの「青春の輝き」が頭に鳴っていた。

そのあと電車に乗って立ってじっと着くのを待つ間（目黒線内）、中島みゆきの♪空と海との間には〜、が鳴っていて、そのあと山手線に乗り換えて、目黒〜品川で座るまでも、同じ曲が頭の中で流れていた。

2月10日　目黒線、西小山。嵐のワンラブ。

2月13日（木）　目黒線西小山で待っているとき、♪ソーソファミード、レミファミーレミード、レミファミレミソドーラソファミーレドー。何だっけ？

同日、新小岩で千葉行きを待っている14：05　♪しんそこお前とおーどりたーい、こえたところで、やさしさを〜　豊田勇造の優しさを越えたところで（？）に乗せて、新しいアパートでの鍵の使用方法について考えていた。

2月14日　朝、何かを待つ間、たまの歌。

同、16：30　雪なので帰り支度して森脇さんを研究室で待っている。手持無沙汰。
♪ミレド、ドミファラソー、ソファミーミソラドシ〜、ドレミードドーシ〜

同日、17：50　本郷三丁目駅（大江戸線内）。
♪ミレドー、ドミファラソー、ソファミ　ミソラドシー、ドレミドドーシラーレー、ミレドシラ（しつこく同じ曲）

2月17日（月）朝8：10　上野広小路の赤信号。なごみ→麦子→モノポリーについて考えていて、BGMはたまの「らんちう」。

同、かえり17：40　13Fエレベーターを待ちながら、たま、柳原氏の　♪待てるなら〜待ってるよ〜　まてんろうの下でずっと（待ってる歌じゃん！）

2月19日（水）①武蔵小山で急行に乗換後、発車待ちの間、薬を飲むのを忘れていたことを思いついた。

②JR目黒。①のあとの待ちの間、栗原さんのお見舞いに行ってないのに、私の入院した時は栗原さん来てくれた。

同日　湯島天神下交差点の信号待ち。ドラえもんのエンディング？のサザンの歌が耳の奥で流れていた。♪手を〜のばせば〜というやつ。

2月20日　スカイプのこと。（山手線車内。朝）

2月21日　目黒線車中。電気、水道のこと（新居での）。

同　山手線車中。♪この長い長い下り坂を、自転車に乗ってゆっくりゆっくり〜

2月25日（火）　朝、目黒線武蔵小山での乗換時の待ち時間、奥中とか、九中とかに、一人入るのは、私立校に、奨大とかえりかちゃんとか、一人で行くのとは同じ一人でも違うな、とかいうことをふと、考えていた。

同日、11時ころ　血液検査から戻るエレベータ内。戻ったときにいうセリフ（意外に早く終わった）についてふと考えていた。

同、13時30分　CTの番を待合室で待ちながら、BGM　♪となりのトットロ〜トトロ〜

2月27日（木）　上野広小路バス停。御徒町で車掌の集まりをしたときのこと→今度また御徒町で集まった場合どういう帰り方をするのか、バスの定期券を買うかどうか。
BGMは「負ける時もあるだろう」。

2月27日（木）　帰り、東京駅。今日送ったメールについて（rease のメンバーあて）。Simple is best. と思う。

2月28日（金）朝　武蔵小山（乗り換えの時）。昨日のメール事件（kawamura 宛て）について。

3月3日（月）　目黒―五反田。（満員の中、駅に着くのを待つ）　アスペルギルス及び明日の感染症内科受診について。

3月4日（火）　8：50東大　エレベーター待ち、&乗ってる間、ねこの手（業者）にFAX送るときの気まずさについて。

同、9：50　病院精算窓口に並びながら目黒ともやすの父の臨終にあたっての、ともやすや、ママの心境を推し量る。

3月5日（水）西小山→目黒（電車が遅れがち、止まり止まりの運行）の間、車内での待ち時間しりとりの「る」で始まる言葉について、考えていた。点字考案者の名前が思い出せず、思いだそうとする。

同日、仕事中エレベーターの待ち時間（5F→13F）、麦子が卒業式で歌う歌が鳴る。

3月6日（木）朝、目黒線待ちの時間　待つにまつわる原稿を「松」とかの人に依頼する件。具体的に、「待つ人」「待っていた人」「待たれる人」　など？

3月7日（金）朝、目黒線西〜目の乗ってる間の待ち時間　NSPの「さよなら」について、そのあと●村さんのこと、福島研のこと、etc。

3月11日（火）　朝山手線品川までくらいの、吊革つかまり席があくのを待つ間、BGM：オフコースのさよならで、マルシャレス氏の「マルシャレス」という読み方について

同　16：40　松井研でお湯がわくのを待ちながら、頭にSASの　♪ゆめのかけらを〜（ドラえもんテーマ）

3月12日　朝　山手線内。朝の麦子との喧嘩をなぞりながら、BGMは頭脳警察の♪さよなら世界夫人よ〜。

同、14：50　大崎から山手線内（出張）。お菓子購入計画について考えていた。

3月13日　朝、武蔵小山→目黒間　統計チームのこと（仕事）。BGM：星空のディスタンス。

3月15日　目黒駅前明学行きバス停待ちの間／乗ってから発車待ちの間
ティッテッコティ〜ン、ティティティティティティッテッコティ〜ン（ド、ドラド〜シドレドシラドッドラド〜）オペラ？

3月20日（木）　9：52　西小山で電車待ち。♪ソードレミファソードド、ラーレミファソラー
後藤佳名子の進路について（昨日聞いたことの思い返し）。

3月28日（金）朝　電車、山手線が止まって、立ちながら待ってる間、
♪たびだち〜のー、きせつだ〜ね〜♪

3月29日（土）　ふじ美容室で、おかまをかぶって髪がかわくのを待つ間。
♪青春時代が、ゆめなんて〜♪（青春時代）

4月1日（火）　目黒線　武蔵小山〜目黒。満

員電車に何とか立っている。
♪いつか夜の雨が〜

同、山手線乗換え。浜松町まで座れず立って、席があくのを待っている。
♪今日は国鉄のストライキ〜（友部）

4月3日（木） 19:00立石駅通り バス待ち（前日、引っ越し）。
♪すーてきなせーかいー そのあと、
♪あのーときのー（学生街の喫茶店）

4月4日（金）8:10 奥戸新橋バス待ち
♪たびだちーのーきせつだねー（麦子の卒業式の歌）そのあと、
♪汽車を待つ君の横で僕は（なごり雪）

4月8日（火） 奥中入学式（座席で待つ）
♪ミミレドシレドーレミファファミレドミレ〜、ミファソファミレミドド〜ラ〜

4月12日（土）17:00 小岩のボンボンで麦子がパンを買うのを待つ間、ケータイを持つ場合ウィルコムにするか、どういうのにするかなど。BGMはカーペンターズのシング。

4月15日 帰り、環七と奥戸街道の交差点。信号待ちの時。♪かわらないもの（BGM）

4月16日 朝、蔵前で電車待ち。 ♪春のからっ風（BGM）

4月28日 事務室で金子さんが電話終わるのを立って待っているとき、BGM:空と海との間には、いつも〜（byみゆき）

5月1日 立石駅ホーム 朝7:20 電車待ち。♪わけなんかきかないでくれ〜 わけなんかないんだーー（byこがちん）

5月9日 10:10 環七 スシローの交差点で信号待ち。♪「たしかなこと」

5月10日 環七で（同上）信号待ち。♪「何とか節？」都の名物〜 ミーレドレミソソラードドレミ〜

5月14日 立石駅。電車を待ってる間にリップクリームを塗っているときふと
♪あー、あなたにー恋心ぬすまれて〜

5月16日（金） 10:00pm頃 帰りの自転車スシロー前、環七信号待ちで、スシローから出てくる人々を見ながら、「スシローに3人で外食に行くってのはどうだろう？」とか考えながら、♪たとえば男はアホウドリー、たとえば女は〜（黒の舟歌）が浮かぶ。

5月19日（月） 17:45 本郷三丁目電車待ち。麦太の免許取得の必要性について。

5月24日（土） 待乳山の帰り、環七スシロー前で、♪だれもおきては〜こないのさ〜

5月25日（日） 環七スシローの角。こいでるときは、アンジェラあきの「♪拝啓、この手紙を読んでいるあなたに〜」てのだったのに、信号待ちになるとBGMが甲斐バンドの杏奈に変わっていた。

6月15日（木）大江戸線本三6:00電車待ち。♪オレたちはまだちっぽけな手のひらの中にはーーこの手のひらの中にはーー何もないけど〜。

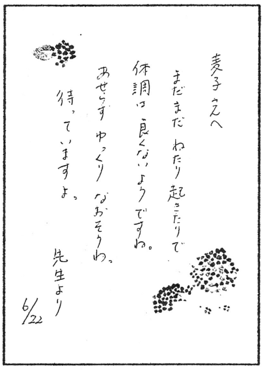
記録終了。

空き待ち企画「二軍ちゃん」—塔島ひろみの日記から

2011年6月22日（水）

夏至。麦子はついに一週間も学校を休んだ。そしたら小泉先生が心配になってうちに来ちゃった。しかし逸子しか家にいない（麦子はいるが）。その前の電話でも、いるくせに逸子も麦子も出なかった。

という状況でこういう手紙がポストに投函されていた。



小泉先生は忙しいので一人の生徒が一週間休んだところで授業の進度が落ちるわけでもないし、出せない書類があるわけでもないし、本当はそんなに「待つ」てはいないのではないかと疑惑。

それをわざわざこう書いて直々にうちに届けにきたのは、「待っている」と伝えて麦子を元気づけたかったのではないか。

て言うか、言いたかったのは「あせんなくていいよ」ってことかも。

「待っていますよ」

は、ラブレターの意味だ。

待っている、待たれている、とは自分が必要とされている、ということ。

特に病気で家にひきこもっている人は自分が待たれていると言われることで、回復したい勇気がわく。

森脇さんが乳がんで入院してるとき、松井先生から「第一秘書の復帰を待っています」という手紙が来て、死ぬほど嬉しかったそうである。

相手をよいしょするための言葉であり、

I.m looking forward to 〜ing …… you.

相手を重んじる気持ちを表す礼儀の言葉。

それを小泉先生のような、学童（保育）児が嫌いな厳しい先生が学童出身の麦子に使った、ということは、小泉先生ってわりといい先生なのではないか。

まーいいとして、「お待ちします」とは相手を重視する言葉。

「お待ちください」は自分を重視する言葉。とわかったが、これを見て麦子が何を感じたかはわからない。見せるのを忘れてしまったかもしれない。

p35 男が泣きやむのを、文庫本を読みながら待つ。（注:この文庫本は罪と罰）（この引用はグラスホッパー）

前に麦子か麦太をお昼寝で寝付かせるとき、母が文庫本を読んでいた。で、「おっ、これは良い考えだ」と思ったのだ。何でこんな簡単なことを今まで思いつかなかったのか？

簡単なことだけど、同じ待つでも

・何もしないでただ待つ→いらつく

・その間気がまぎれることをして待つ→ 時間が有効に使える

という事実は押さえておきたい。

しかも泣く、とかは人に泣いてることを見せたい意識がある行為だから、ただ待ってるといつまでも泣いてるけど、本を読んでると相手にされてない感じて泣きやむのも早そう。

鳴くまで待つ

2015年5月　第6日め

（再起編）成就祈願編

5・28日（木）25号企画「ドキュメント・ザ・尾行　〈鳴くまで待つ〉（再起編）成就祈願編」について

〈概要〉

この尾行は標的が鳴く（声を出す、そして我々が声を聞き取る）まで続く

標的1は、昨年5月6日の第1回目で、舟久保文恵が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

標的2は、同じく、伊藤岳人が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

標的3は、同じく、塔島ひろみが「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

このうち標的1については、舟久保が尾行開始後ほどなくその声を聞き、終了している。

標的3は、第1回目で声を聞くことができず、昨年7月27日、続いて10月5日、続いて本年3月28日に再び、三度、四度挑んだ結果、ついに声が聞け、終了した。

標的2は、第1回目で声を聞くことができず、昨年7月27日、続いて10月5日、続いて本年3月11日に再び、三度、四度挑んだ結果、周辺住民の不審と結束をあおり、失敗した。今回が5度目の挑戦である。

〈当日の動き〉

今回の待ち人隊長は伊藤岳人である。かおるは岳人の指示に従い、行動する。

尾行は、岳人が標的の声を聞いた瞬間に終了する。かおるは岳人が標的の声を聞くためにできる限りのサポートをする。

声を聞くために話しかけたり、何かを仕掛けたりするのは反則。我々は標的の行動に影響を与えてはいけない。

この日にもまだ尾行が完了しなかった場合、また後日再々々々挑戦を行う。

〈その他〉

・今までの尾行は、行方不明中の志村二朗氏にたまたま遭遇する機会を待ちながら行われた。

しかしゴリ、シャボーちゃん広場と、二朗にまつわる船橋の二大スポットが閉鎖され、もはや船橋は二朗を待つ場所ではなくなった。船橋は今、ただ岳人が標的2の声を聞くことを待つためにだけに存在する場所となったのである。集中して挑もう。

・標的の住居周辺では、待つ人を排除しようとする間違ったおやじ集団が結束している。気をつけよう。

・なお待機中・尾行中は可能な範囲で記録を取り、後日感想もまじえ、編集部に提出する。

・また待機中は退屈なので「待ちながらすること」しりとりを実行する。前回の「ルノアールの間取り図を書く」の続きの「く」から始める。

以上

車掌編集部「鳴くまで待つ」実行委員長　塔島ひろみ

待ちながらすることしりとり（前4回分）

待つ→つらい思い出話→しいたけ栽培→イライラ→乱取り→立位前屈→つかの間の休息→靴みがき→恐怖新聞を読む→ムーを読む→昔ばなし→しらみとり→リゲインを飲む→無駄話→しりとり→臨機応変な行動→海釣り→リンガーハットで食事→ジュースを飲む→無理やり暗記→きつねうどんを食べる→ルンバを踊る→留守番をする→ルマンドを買う→運転免許の更新をする→ルックスを磨く→九九を覚える→ルソーの絵にいたずら→ラジオを聞く→クオカード眺め→目薬をさす→ストレートを磨く→クッキーを焼く→靴磨き→金魚の餌やり→理想の人生を考える→ルート検索→苦渋の選択→クイズを解く→熊の木彫り作り→リスの餌やり→陸ガメの世話→輪投げ→原付免許の勉強→梅酒作り→リクライニングシートでくつろぐ→グーグル検索→栗の皮むき→金髪に染める→類似商品を見分ける→ルビーの指輪を口ずさむ→ムラムラするだけ→献血→罪滅ぼし→シクラメンの香りを口ずさむ→ムード作り→リラックスする→ルージュを選びに行く→靴下を編む→昔のことを思い出す→するめをあぶる→ルノアールでアイスコーヒーを飲む→難しい本を読む→結び目をほどく→クリスマスケーキを買いに行く→薬の用意→祈り→リンスの詰め替え→縁側の掃除→事後処理→離乳食を作る→ルノアールでブラックコーヒーを飲む→無印良品で買い物→のんびり→倫理の勉強→歌の練習→梅酒づくり→離婚した場合の生活設計を考える→累積赤字を計算する→ルノアールでオレンジジュースを飲む→息子と遊ぶ→文具の整理→履歴書を書く→工藤さんとおしゃべり→稟議書を書く→臭いものしりとり→理髪店に行く→黒田さんとおしゃべり→利尿剤を飲む→むすんでひらいて→テレクラに行く→空想→梅ジャム作り→リモコン掃除→次男と遊ぶ→武家諸法度の暗記→きつねうどんを食べる→ルノアールの机にいたずら書き→きしめんを食べる→ルノアールの従業員とおしゃべり→理化学研究所に抗議の電話をする→ルノアールの間取り図を書く

岳人のズボンの丈が長かった（前嶋かおる）

久しぶりの尾行。久しぶりの伊藤さん。久しぶりの車掌だ。ずっと不自由研究とか文庫とか机上のことばかりやっていたので、久しぶりの外回りに少し浮かれた気分で向かう。船橋はつくばから遠いからこれまで参加できなかったが息子が今春小学生になり、私の可動時間が少し増えたため思い切って行ってみたら船橋は案外近かった（1時間ちょっと）。

伊藤さんは相変わらずの伊藤さんだったが、以前よりはよく喋り（車掌に入って17年、こんなに伊藤さんと喋ったのは初めて）、ズボンの丈が少し長かった（昔は夏の伊藤さん＝ひざ丈ズボンだったが、今回は七分丈）ところに年月を感じた。

駐車場に先客がいた（伊藤岳人）

10時18分張り込みスタート。まずは（いつもの）道を挟んだ駐車場の車の陰に隠れて張り込もうとしたところ、車の脇に浮浪者ふうの男性が段ボールを敷いた上で寝ているのでビックリ。前回尾行隊は不審者として町ぐるみの警戒行動を受けたわけだが、こういう人は放っておいて

よいのかと少し不公平な気持ちになる。

ずっと見ている男がいた　（岳人）

１０時２５分、路地から老女が一人出てきてＪＲ船橋駅の方角へ歩いていく。標的と関係ある人物なのかは不明。１０時４０分、またもや社宅風の集合住宅の３階で窓を開け、こちらをずっと見ている男性？がいるのに気づいたので、前嶋さんとその場を離れる。

怪しすぎる伊藤岳人　（かおる）

この駐車場にいると通報されるらしいので歩道に移動。歩道のど真ん中で思いつめた表情でじっと立ち止まっているというのは怪しすぎるので、ゆっくりでもいいから動いてくださいと伝える。

川を眺める人になる　（岳人）

大神宮下駅方向の現場から離れた路上で張り込みを続けるが、前嶋さんから、ただ立っているのは怪しい、歩いているか携帯をいじるふりをしていたほうがいいと指摘を受ける。そこで前の道を何度かいったりきたりしてみるが、そうだ、橋の上で川面を見ているふりをしながら見張ってみようと思いつき、現場から少し離れた（ＪＲ船橋駅寄りの）川の上に架かる橋の手すりに寄りかかり標的が出てくるはずの路地を見張る。ここなら社宅風の住人からも見えないから好都合。前を通りすぎていく人もこの男は川を眺めているんだということで不審な目では見ない。

ヘラヘラ笑いながら標的を待つ　（かおる）

私は現在ローカル紙の新聞記者をしているが、地元のイベントとかサークル活動とかの平和な取材ばかりでこんな張り込みなどしたことはない。しかし本能的に「楽しそうにしていると怪しまれにくい」という気がし、この近辺で何かくだらないことを調査している学生という設定でヘラヘラ笑いながらぶらぶら歩きまわる。

橋の上から老人問題を考えたい　（かおる）

近くの団地からの視線を恐れて、団地からの死角になるような橋の上に移動。

その橋は名もない（プレート外された跡あり）みすぼらしい橋だが、それを挟む２本の橋には個性があった。例えば標的の家に向かって左手の橋はこんなのが（写真頁参照）いる橋。名前は新海老川橋。

でも標的の家につづく橋は名もなく、電車がうるさい高架に近く、道は狭く、標的の家は遠くからでよく見えなかったけど周囲を古いボロ家にぎゅうぎゅうに取り囲まれていた。買い物には出るが声を発することはない老人が息苦しそうに暮らしている姿を想像する。

残念ながら岳人がいた　（かおる）

昼ごろトイレに行きたくなり、近くに標的も行ったスーパーがあるとのことだったが私には見つけられず、男女共同参画センターとかいう公共の施設でトイレを借りた。その隣のセブンイレブンの前で若い女の店員が無闇に喧嘩腰のおじいさんに難癖つけられて困っていた。さっき駐車場で寝てたホームレス（おじいさん）が住宅街を獲物を探すオオカミみたいな顔で歩いていた（その時は靴を履いて）。スーパー探しに手間取ったため３０分以上現場を離れてしまい、伊藤さんがいなくなってたら~~いいな~~どうしようと思ったけどいた。

伊藤さんも入れ替わりに休憩に行き、いない間に路地からおじいさんが出てきたらどうしようかと思ったけどたぶん出てこないだろうと思ったし、実際出てこなかった。

牛乳と緑茶を飲みつつ何かを食べる怪奇男　（岳人）

１２時、トイレに行きたくなり、前嶋さんに「小柄なおじいさんが出てきたら尾行してください」と言い残し、前々回標的が買い物に行ったなんとかマートへ。１２時１８分、トイレを借りて戻ってくると、前嶋さんから何もなかった旨の報告を受ける。

見ると、川の横の歩道にさっきの浮浪者男が座って牛乳と緑茶を飲みながらなにかを食べている。やっぱり尾行隊よりあの人のほうがよっぽど怪しいと思う。

おじいさんとおとうさん　（かおる）

橋の上は涼しくて気持ちがいい。ひんやりした風が吹いてくる。川から離れるとムシムシした不快な暑さにとりまかれる。私も伊藤さんもずっと橋の上にいた。いつの間にか川の近くの地べたに座って昼飯を食べているおじいさんがいた。今回目についた人物全部おじいさんだ。

伊藤さんは橋の上で時々携帯電話を取り出し眺めている。我が子の画像でも見ているのかもしれない。赤ちゃんの性別だけは聞いたが、写真見せてとか名前はとか聞かなかった。男の子だと聞いて大変ですよとか言っちゃったけど、後から考えると伊藤家の子はうちの子と違っておとなしいかもしれない。

標的の顔を見ればわかるのかと聞くと、伊藤さんは「わかります。かなり近くまで寄ったので」と胸を張って答えた。思いつめた表情の伊藤さんが小柄なおじいさんに寄り添う姿を想像する。

おかあさんとおとうさん　（かおる）

しりとりをしながら私のメモには「あと３０分」「あと２０分」とか書かれ、もう帰ることしか考えてない。

私のタイムリミット午後１時になる３分前に「あと３分で帰ります」と告げると、伊藤さんも帰ることにしたらしく（朝「何時までいるんですか」と聞いたときは「うーん」とか言ってたのに）改めて路地に入っていき標的の家を確認したあと、駅に向かった。

不吉な予想はやめてくれ　（岳人）

１３時、前嶋さんが帰るというので僕も便乗して尾行終了。１０時２５分以降、路地からは誰も出てこなかったし誰も入っていかなかった。もう死んでいる可能性もある、と前嶋さん。ああもっと若い人を標的にすればよかった。

総評・身も知らぬ標的には愛着も湧かなかった　（かおる）

「老人なんだから３カ月も間があいたら死んでるかもしれない」「１０時集合じゃなくて現場に１０時の方が良かったかも」「志村さんを待つという件もあるが」などと話しながら歩き、駅前で別れて帰宅した。標的は遠かった。

ひろみさんが前日に送ってくれたこれまでの経緯を読ん

でもよくわからないし、伊藤さんに聞いても「小柄なおじいさんです」としか言わないし写真も似顔絵もない。「その路地から出てくる小柄なおじいさん」というだけの情報を胸に、車掌の用でなければ一生来ることもなかったはずの船橋駅から徒歩数分の住宅街で、ただ時間が流れていくのを見送るだけ（時々しりとり）という贅沢な半日を過ごした。車掌につきものの無駄、徒労、時間をドブに捨てた感じが今回あまりなく、もうずっと忙しくてこんな機会を強引に作らないとボーーッともできないから、ものすごく疲れたけど精神的なリフレッシュにはなった。車掌はそんな主婦の息抜きではなくもっと尊いものだった気がする気はする。

しりとりの記録　（吾人の相変わらずの生活感に注目！）

首の運動（前嶋）↓梅干しを食べる（伊藤）↓ルーマニアのことを調べる（前嶋）↓ルービックキューブを完成させる（伊藤）↓ルーペで観察（前嶋）↓爪切り（伊藤）↓療養（前嶋）↓ウノ（伊藤）↓飲む（前嶋）↓ムード歌謡を口ずさむ（伊藤）↓昔を思う（前嶋）↓ウルトラマンのDVDを観る（伊藤）↓ルンバを検索（前嶋）↓暮らしの手帖を読む（伊藤）↓ムカデを探す（前嶋）↓推理小説を読む（伊藤）↓むかつく（前嶋）↓薬をのむ（伊藤）↓無駄遣いする（前嶋）↓ルーマニア映画を観る（伊藤）↓ルパン三世の歌を歌う（前嶋）↓ウサギの世話（伊藤）↓わかめサラダのレシピを探す（前嶋）↓スイカを食べる（伊藤）↓ルソーの本を読む（前嶋）↓紫式部の本を読む（伊藤）↓むなしく過ごす（前嶋）

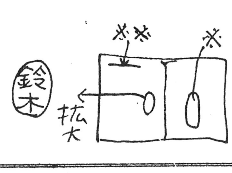
空き待ち企画「二軍ちゃん」――塔島ひろみの日記から

2011年6月2日
退院後久々の「待つ」調査。
源氏物語「竹河」岩波文庫(5) p52
玉「対面のついでに「憂へ聞えむ」と、待ちつけたてまつるかひなく、淡の御ことわりや」と、うち笑ひておはする、「人の親にて、はかばかしがり給へる程よりは、いと若やかに、おほどいたる心地す。（後略）」と、（薫は）思ひ給へり。

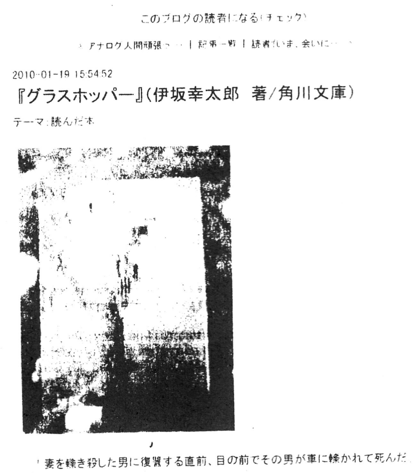
院にとついだ娘の大君が、冷泉の子を産んだはいいけど、元々の奥さんである弘徽や秋好がやきもちを焼いては、その女御（弘徽）や秋好をたよりにして、心やすくうち解けていたのに、事あやまりな事態になってしまい、おほけないよん、という気持ちを冷泉に伝えてほしい。

とお願いしたくて、薫が中納言に昇進して御悦び（自慢！）に玉んとこにきた。そして二人は対面した。ってときに玉がこういったのである。①中納言昇進の話をきく、②そすっと、御悦び（自慢！）に私のとこにくるだろう、③いついつ来るって知らせがくる、④くる　①～④まで至る間が待ちつけたてまつった期間である。で、待っていたのは薫だが、薫はきたけどダメだった（思い通りにならなかった）、つまり待ち人来たる、は待ち人その人が来たることに最終目標が置かれてないと、せっかく来たっても、うまくいかない可能性があるのである。

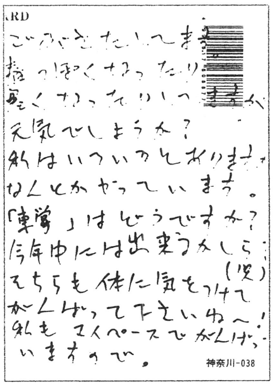
2011年6月8日
満員電車内で目の前の女が読んでいた小説の中に「鈴木を待ち伏せして――」（※）とあった。左の鈴木印が鈴木の人のパクリぽくて目にとまったみたい。ここ（※※）に「グラスホッパー」と書いてあり、まもなくすわった女は、小説をほどなく読み終わり、閉じる。背表紙に「伊坂」の字が読める。検索してみるとこの図書のようだ。



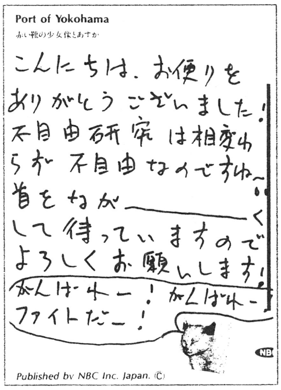
『グラスホッパー』（伊坂幸太郎 著/角川文庫）｜うすむら



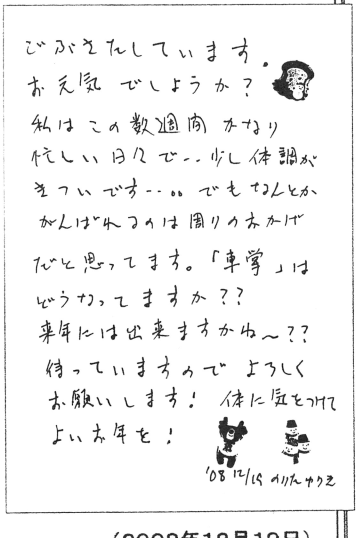
―のりた、
車掌２４号発売を待つ―



（2008年3月31日）



（2008年7月9日）



（2008年12月19日）

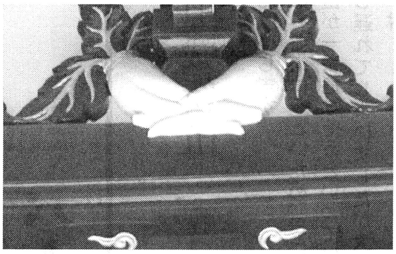
待乳山で乳を待つ

（83頁〜84頁）

入口で堂々と乳を待つ標柱

岳人制作のプラカード。これを置いた途端・・・。

マニュアル式ビジネスライク人力車のひとつ



本堂廂部では大根が交尾

法外な価格で供えられるのを待つ大根

待乳山外で乳を待つひざ丈ズボンの伊藤岳人

バトル・ザ・死ぬのを待つ

死ぬのは普通いやなことだが、死ぬを肯定的にとらえ、早く死んだほうがよく、早く死んでくれ、と死ぬのを待つ。

概要：死にそうな人が死ぬのを待つ（競争形式）

やり方：

①参加者がそれぞれ「死にそうな人」（有名人）を一人決め、編集部に連絡

②全員出揃ったところで、編集部で参加者全員に、名前の挙がった「死にそうな人」を発表

③以降、参加者は、自分の挙げた人が他人の挙げた人より、早く死ぬことを心待ちにする日々を送る

参加者は、日々の中で、自分の挙げた人、他人の挙げた人の現状を調べ、弱り具合など確認し、一喜一憂する

④一番早く死んだ人を挙げた人が優勝、以下、早い順に2位、3位・・・となる。

⑤自分の挙げた人が死んだ場合、できるだけ霊前または仏前に成績

山城新伍（待つ人：小林絵理子）

でお願いします。

私は有名人にうといため、母にきいたところ山城新伍が一番危なそうといっていました。期限から少し遅れてしまいましたが大丈夫でしょうか。

（小林）

桂米朝（待つ人：朝田春未）

私の「死にそうな人」は桂米朝（人間国宝）にします。

ご自宅が我が家から歩いて10分ほどのところにある、というご縁もあって決めました。

もし亡くなられた場合、家の近所のレポートなどもしたいと思います。

私の「家庭の事情」もわりと面白いと思いますので

日記が書ければその件についても書いてみようと思います。（朝田）

水野晴郎（待つ人：前嶋かおる）

こんにちは。私は妊娠9か月に入り、胃が苦しくて少しずつしか食べられず、股が重くてヨタヨタとしか歩けず、ちょっと動くと息切れがしてまるで年寄りのようです。

そんななか死にそうな人を探していたのですが、森繁や赤塚不二夫とかだと本当にすぐ死んじゃいそうで活動してないのであんまり情報がないし、しめきりはまだずっと先なのにすぐ記録が終わってしまう、などと考えるとなかなかむずかしいですね。

そこで私は「水野晴郎」を選んでみました。たまにテレビで見るたびに「衰えたなー」と驚くからです。もう76歳だし、肝臓が悪いほか、骨粗鬆症でよく骨折しているようで、この年末にもケガで入院してたと思います。すぐには死なないと思うけど、この1年以内にはなんとかなりそうな気がします。

そういうわけで水野晴郎でお願いします。（前嶋）

赤塚不二夫（待つ人：前島俊一）

バトルについてですが、たいそう悩みました。本当にすぐ死んでしまいそうな人物を選ぶと、開始前に死ぬ可能性があるからです。たとえば、先日亡くなったインドネシアのスハルトなどは、目をつけていただけに残念なことをしました。

25号ということなので、一年くらいは死なないでいるほうがやはりよいのではないか、とか余計な気を回したりもしました。

しかし、自分の選んだ人物が死なない場合延々と日記をつけなければならないでしょうから、つまらなくなるのは承知の上でやはりすぐにでも死ぬ人物を選ぶべきだろうという結論に至りました。というわけで私の選んだ人物は、赤塚不二夫です。

赤塚は数年前から脳内出血のため意識不明の状態にあり、いつ死んでもおかしくない状況にあります。しかも看病していた奥さんのほうが先に倒れて死んでいるという、皮肉なことにもなっています。案外長持ちするかもしれませんが、いくらなんでも今年中には死ぬのではないでしょうか。

ほかの人と重複する場合は、キューバのフィデル・カストロにします。この人もかなり弱っています。

いずれにせよ、入院中だったり、入退院を繰り返している人物を挙げるのはフェアでない気もしますが、ほかにいくらでも候補はあるので、いつでも変更する用意はあります。

また、個人的には六十歳以下部門などというものがあっても面白いと思いました。結構若くして死ぬ有名人はいるからです。というわけで、以上よろしくお願いします。（前島）

森繁久弥（待つ人：神田ぱん）

もし誰かとだぶってなければ「森繁久弥」にしたいです。

森繁は、有名人の葬式に行っては「本当ならば私が先に逝くところなのに」

と弔辞を読むことが知られており、死にたがっているようでしたが、最近は葬式にもでてきません。

95歳なので、もしかしてもう死んでるけど秘密なのかも…（神田）

大島渚（待つ人：伊藤岳人）

「死ぬのを待つ」の企画の件、ご返答が遅れまして本当に申し訳ありません。

大島渚か赤塚不二夫かで迷いましたが、赤塚不二夫でよろしくお願いします。

死ぬ人を待つ企画の件ですが、何の因果か、来週、赤塚りえ子（ふじおの娘）と飲み会をやることになってしまいまして、お父さんの死を願いつつ会話を交わすのは非常に申し訳ないので、第二候補だった大島渚に変更してもらえますでしょうか？

無理言いまして本当に申し訳ありません。（伊藤）

横田滋

（待つ人：坂野貴弘）

車掌25号はなんとか参加できればと思っているのですが、死ぬのを待つ企画、意外と横田滋さんが危ないかもしれませんので、待ってみようかと思います。（坂野）

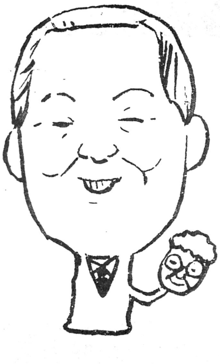
石原都知事

（待つ人：北島みみ）

いまさら遅いかもしれませんが、死にそうな人、やっと、決まりました。ひとりでいいんですよね？ならば「石原都知事」でお願いします。（生命力がありそうだけど、あえて。）（北島）

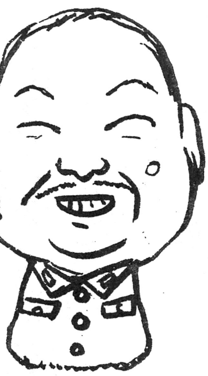
を報告に行き、感謝をする。
⑥①〜⑤の一部始終を日記形式で記録し、編集部に提出。
※自分の挙げた人が早く死ぬような、どんな工作もしてはいけない。

✪石原都知事


✪横田滋

✪山城新伍

✪桂米朝


✪水野晴郎

✪赤塚不二夫

✪森繁久弥

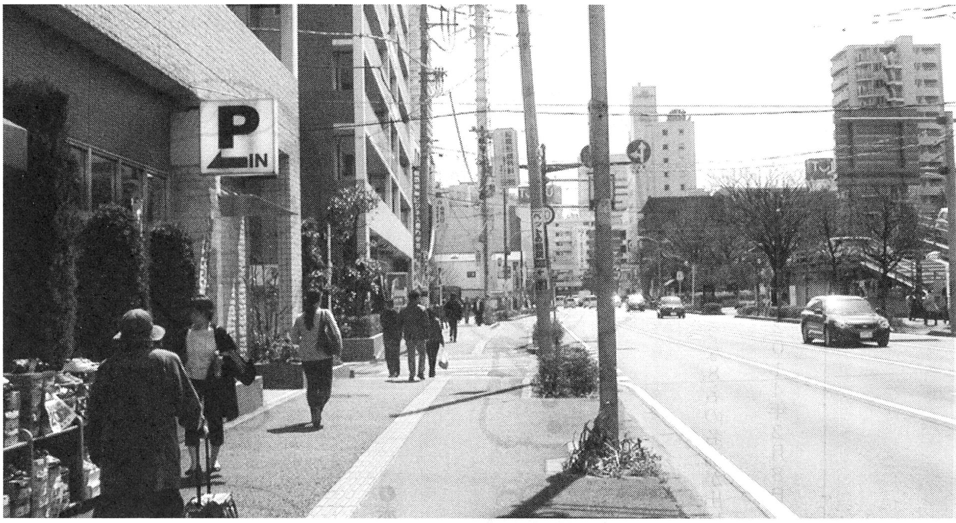
✪大島渚

この時点ですでに死にそうな8名の名前が出揃い、２００８年５月８日、戦いの火蓋が切って落とされた。そして**5年9カ月後**の２０１４年２月８日、戦いが終わった。

イラスト：北島みみ

「年をとると、似たメガネをかけ出し、顔もなんとなく似てくると思いました..」

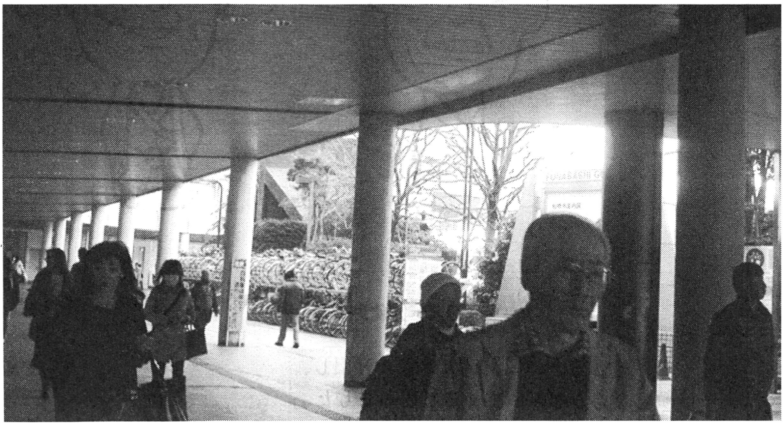
「とんぼ大黒」の前で標的は
靴紐を結び直した



船橋駅へ続く大通りを歩く標的。さりげなく神田ぱんが尾行している。

ガードをくぐって駅の南へ。密着する尾行者に標的は気付いているのだろうか？

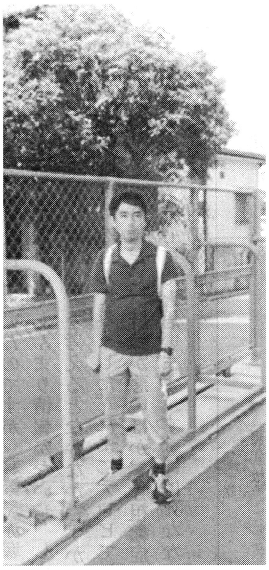
鳴くまで待つ・5
(85 頁〜90 頁)



結局どこへも寄らず、標的は船橋駅へ戻ってきた。

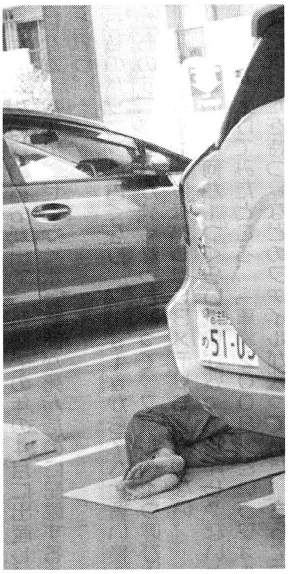
鳴くまで待つ・6

（94頁〜96頁）



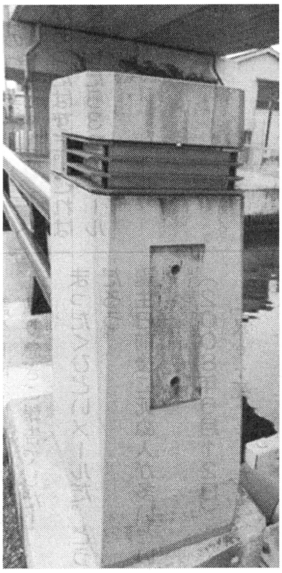
かおる撮影「育休中の伊藤さん」

伊藤撮影のかおるちゃん

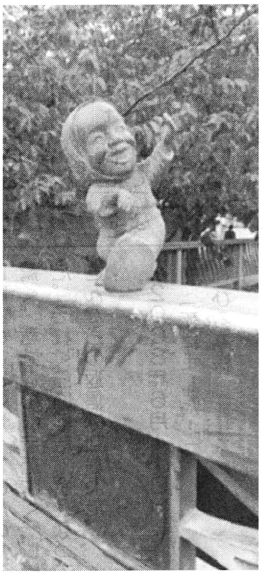


かおる撮影「高架下の駐車場ではホームレスが熟睡中」

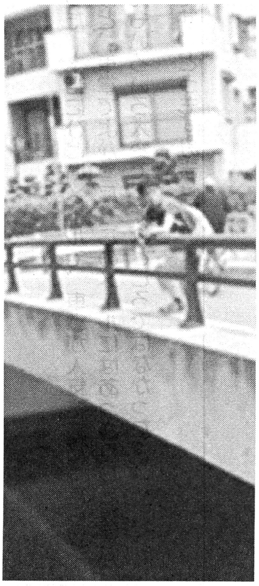
かおる撮影「わざとらしく携帯を見ながら歩く伊藤さん」



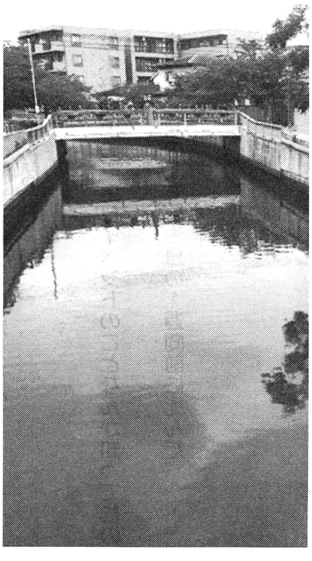
かおる撮影の張り込み場の橋



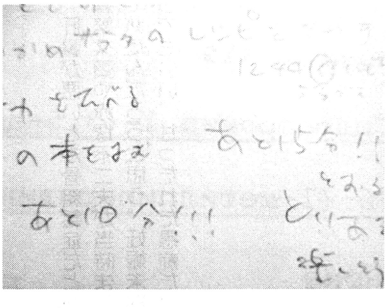
かおる撮影のとなりの橋



かおる撮影「みすぼらしい橋にたたずむ伊藤さん」



伊藤撮影のみすぼらしい橋から見た風景



帰ることしか考えていない前嶋メモ

「水野晴郎が死ぬのを待つ」

前嶋かおる

〔報告1〕

水野晴郎は2008年6月10日に死んだ。76歳だった。私は水野晴郎が死ぬと思って待っていて、このバトル期間中たしか一番最初に死んだのが水野晴郎だったはずだから、たぶん私が優勝者だ。だけどそれについての原稿が全然残ってない。

2008年の初めにこの指令が出て、私はその年の4月に出産し、以降3年間くらいそれどころではなかったので、せっかく水野晴郎が死んだのに記録するのを先送りにしたまま忘れたんだと思う。

そのうち私のパソコンは古くなり、Vistaから7へと買い換えた。Vistaはどういうわけかものすごく動作が鈍くなっちゃって、フォルダ1つ呼び出すにもなかなか出てこないしメールもなかなか開けないしUSBメモリも認識しない。

でもVistaの中に何か1つくらい原稿が残ってるんじゃないかと思って数年ぶりに何十分もかけて立ち上げてみたところ、「車掌2008」というフォルダ内に「水野晴郎」「コーヒーまたはB定を待つ」などのファイルが残っていた。さらに何十分もかけて開いてみたところ、どのファイルにもひろみさんからの指令のコピペが残っていただけで、私が書いた原稿はなかった。

写真(animono3)　パソコン立ち上げを待つ間に編んだ分（1月7日のつづき）

たしか水野晴郎が死んだとき、浮かれてひろみさんに送ったメールがあったはずだ。これはWEBメールなので今のパソコンでもすぐ見れる。「水野晴郎」で検索したら3つのメールが出てきた。

（2008年2月2日）

「死にそうな人の件」

ひろみ様

こんにちは。私は妊娠9か月に入り、胃が苦しくて少しずつしか食べられず、股が重くてヨタヨタとしか歩けず、ちょっと動くと息切れがしてまるで年寄りのようです。

そんななか死にそうな人を探していたのですが、森繁や赤塚不二夫とかだと本当にすぐ死んじゃいそうで活動してないのであんまり情報がないし、しめきりはまだずっと先なのにすぐ記録が終わってしまう、などと考えるとなかなかむずかしいですね。

そこで私は「水野晴郎」を選んでみました。たまにテレビで見るたびに「衰えたなー」と驚くからです。もう76歳だし、肝臓が悪いほか、骨粗鬆症でよく骨折しているようで、この年末にもケガで入院してたと思います。すぐには死なないと思うけど、この1年以内にはなんとかなりそうな気がします。

そういうわけで水野晴郎でお願いします。

ひどいメールだしまったく覚えがない。肝臓が悪いとか骨粗鬆症だとか、なんで私はそんなに晴郎のことを知っていたのだろう。森繁久彌や赤塚不二夫が当時まだ生きていたことにも驚く。私はこの頃まだよくテレビを見ていたんだろうと思う。妊娠末期の苦しさも忘れていた。それぐらい何だ。今となってはどうでもいい、甘ったれた愚痴だ。これに対するひろみさんからの返信はなかった。

（2008年6月11日）

「死にました！」

ひろみ様

水野晴郎が昨日死んでました！

私が優勝でしょうか！？うわー、なんかドキドキします

晴郎は7月8日にロフトプラスワンで誕生日イベントをやる予定だったんです。

誕生日前後に死ぬ人が多いので注意していたところでした。

取り急ぎご報告でした！

まったくひどいメールだ。どうして私は水野晴郎の誕生日イベントのことなんか知ってたのだろう。

誕生日前後に死ぬ人が多いというのは本当だ。私の父も誕生日の1週間前に死んだ。

（2008年6月12日）

「Re：死にました！」

かおる様

優勝、どうもおめでとうございました。

お祝いまで。

ひろみ

人が死んでお祝いを言ってもらった。本当にひどいメールで、車掌が人気雑誌だったらツイッターとかで炎上してると思うけど、車掌でよかった。このメールにはあっさりした返信が来た。たぶんこの頃のひろみさんもいろいろ大変で、それどころではなかった。

水野晴郎についての記録は以上です。どうもすみません。

〔報告2〕

「大島渚が死ぬのを待つ」

伊藤岳人

2008年5月18日（日）

東京新聞に大島渚のことが出ていた。2006年のパーティーに出席して以来、公の席に姿を見せていないそうだ。病名は多発性脳梗塞。介護をしている妻の小山明子（女優）が語る最新の病状は「過去のことはもうわからないみたい。日常生活の言葉がわかる程度で、車いすで寝ている時間が多いですね」とのこと。3月31日に撮られたという写真も載っているが、割と顔色はよさそうだ。少なくともすぐに死ぬという感じでは全然ない。ちゃんと座って食事をしているし。病気の内容から推すると脳以外は健康なのではと思われる。

2008年5月18日　東京新聞

パパは喜んでくれ

月後、多発性脳梗塞を再発。二〇〇六年二月、日
は九九年四月、映
たと明かす。

6月1日（日）

よく映画監督や俳優の人が死ぬと、テレビなどで追悼特集として故人の作品をいろいろ放映したりするが、これを先にやってしまおうと思う。つまり、生きてるのに追悼することで本人の死が早まるのではないかという作戦だ。というわけで、これから大島渚監督の映画をたくさん観まくろうと思う。ちなみに僕が彼の作品で観たことがあるのは、『愛のコリーダ』と『御法度』のみ（少ない）。しかも2作ともあまりピンとこなかった記憶がある。でも、有名な監督なので、この際自らの映画教養を高めるためにもチャレンジしてみたい。

6月11日（水）

水野晴郎が死んでしまった。負けたと思った。その後忙しくなってしまって、大島渚の映画も全然観ていなかったことも反省し、これからじゃんじゃん観ようと決心した。映画つながりということで。

6月18日（木）

まずは、いちばん有名だと思われる『戦場のメリークリスマス』を鑑賞。1983年製作の作品で、第二次世界大戦下、ジャワ山中の日本軍俘虜収容所を舞台に兵士たちの交流を描くという物語。坂本龍一、ビートだけし、デビットボーイなどが出ている。大作であり、いろいろと話題になった映画なので、逆に期待せずに観たのだが、その期待値をかなり下回る作品で2時間がとても長く感じた。ストーリーが平板だし、描かれるエピソードも極めて退屈。映画賞狙いなのか、切腹とかそういう外国人が喜びそうな場面をわざとらしく入れているのもちょっと……。坂本龍一とデビットボーイが（精神的な）ホモ関係という設定で、そういう世界観に僕がまったく共感できなかったからなのかもしれないが、なぜ大島監督はこの映画を作ろうと思ったのかが大きな疑問として残ってしまう。うーん……褒めなければ追悼にならないのだが。

6月23日（月）

続いて観たのは『青春残酷物語』。1960年製作。主演は、桑野みゆき＆川津祐介。監督2作目、28歳のときに撮った作品だそうだ。これはいい意味でも悪い意味でも印象に残る映画だった。安保闘争まっただなかの時代を背景に、自分を激しく傷つけながら「生」を謳歌する若者のパワーがダイレクトに伝わってくる。けっして好きな映画ではないが（むしろ嫌い）、観てよかったと思わせる何かが少しあった。ような気がした。

6月26日（木）

今日観た渚映画は、『マックス、モン・アムール』。1986年作品。登場人物はすべてヨーロッパ人の俳優で知らない人。人間の女性がチンパンジーのマックスに恋をしてしまうというストーリー。その設定自体が奇妙奇天烈なだけに、普通そっちに目が奪われてもよさそうなものだが、実はそれ以外、というか、そもそもの登場人物たちの描き方がエキセントリックであること極まりなく、そっちのほうが気になって「人間とチンパンジーの恋」というキワモノ的主題があまり前面に出てこない不思議な作品だった。つまり、結果的に製作者の意図とは違った意味でヘンな作風になってしまっているのだ。たとえば、マックスと奥さんのセックスが見たいという理由でその関係を急に許してしまったり、奥さんも奥さんでそんなにマックスが好きであるにもかかわらず、なぜか「近所迷惑だから、（マックスを）そのうち殺すかもね」なんてセリフを突然言ってみたり。とにかく人物たちが皆こちらの予想どおりの行動をしないので、観ていて非常に居心地が悪い。こうしたことは『戦メリ』でも感じたことなのだが（そういえば『御法度』でも感じたかな？）、本作はその究極であるように思う。これが大島渚の「作家性」なのだろうか。

6月30日（月）

今日も追悼として大島映画を観る。観た映画は、『儀式』。1971年作品。暗くて重くて陰鬱な映画だったが、これはとてもよかった。2時間があっという間に過ぎた。ある一族（大金持ち）のドロドロとした人間模様をグロテスクに描きながら、戦後日本の闇を活写するというストーリーで、河原崎建三、中村敦夫、佐藤慶、小山明子などが出ているが、とにかく出演者が例外なくみんな気色悪いというのが素晴らしい。観終わったあとの後味も最悪で、鬱のときに観たら死にたくなるだろう。それぐらい映画が持つべきパワーに満ちている。これまで観た大島作品で感じたキャラクターの支離滅裂さも全開だったが、画面がここまで

鳴くまで待つ・7
（109頁～111頁）

路地入口のアパート。リフォームが終わって壁とドアが新しくなっていた。

高架線下で隊長の指示に従いかしこまる平隊員

空き待ち企画「二軍ちゃん」
—待っている麦子—

赤組の応援が終わるのを待っている（原町小学校校庭）

出番を待っている（原町小学校校庭）

信号が青になるのを待っている（目黒区原町）

騎馬の出発を待っている（原町小学校校庭）

様式美に飾られているとそれも気にならない、というか、そのわざとらしさが映画全体に対してむしろ良い効果を与えていると思った。

7月5日（火）

本日観たのは『太陽の墓場』（1960年作品）。『青春残酷物語』に続くデビュー3作目。大阪西成を舞台にしたドラマということで、西成のドヤ宿泊が趣味の僕としては、かなり期待して観た。そしたら、すごくよかった。とてもよかった。感動までしてしまった。『儀式』より良いと思う。主演はこの映画がデビュー作だという炎加世子という凄い名前の女優さん（役名は花子と平凡）だが、この人がとてもよかった。スラム街でたくましく生きる姿がカッコよく描かれていて（同じ西成ドヤ街を描いた映画でいえば『マル秘色情めす市場』の芹明香と双璧）、存在感ありまくりで実に素晴らしい。ちなみに知っている場所がいくつか出てきたが（通天閣が目印になるのでわかりやすい）、昭和30年代のその風景が現在の西成とほとんど変わっていないことに驚いた。

7月10日（水）

本日も渚映画を観て故人を偲ぶ。観た作品は、『帰って来たヨッパライ』。主演はフォーク・クルセダーズ。当時の同名のヒット曲を映画化したもの。1968年作品。内容は、つげ義春の『ねじ式』のパターンで、主人公の3人がシュールな世界に入り込んでしまってシュールな人々と出会い、いろいろヘンな目に遭うというストーリー。日本人、朝鮮人というキーワードが随所に出てきてそれが裏テーマであるらしいのだけれど、そのあたりのことはよくわからなかった。でも構成も演出も実験的で面白かった。フォーク・クルセダーズ3人の演技も投げやりで素晴らしい。渚はこういう軽い映画も撮れるのだということがわかって勉強になった。

7月15日（火）

『白昼の通り魔』（1966年・主演／佐藤慶）を観た。昭和32年頃に関西各地で起きた実際の凶悪事件をもとにした映画。主に連続通り魔の男と2人の女性をめぐるストーリーなのだが、話が複雑でかなりわかりにくい。しかも時代背景（当時の山村地区が抱える問題とか）がいろいろあるらしく、正直意図がわかりにくい作品だった。あと、前に指摘した渚映画特有の「登場人物の行動の突拍子の無さ」というのがやっぱり鼻につく感じで（そもそも佐藤慶がなぜ通り魔になったのかがいまだによくわからない）、見終わったあと、答えのないなぞなぞを出されたような気持ちの悪さだけが残った。

7月17日（水）

本日の追悼鑑賞は『愛と希望の街』。1959年製作の、大島渚が27歳で撮ったデビュー作だ。主演は藤川弘志という人。川崎の貧民街を舞台に靴磨きで生計を立てている母親と精神薄弱の妹、そんな家族を持つ鳩売りの少年の物語。どうにもならない貧困のスパイラルをクールに描いており、ラストも救いようのないアンアッピーエンドで終わる。まるで山野一の漫画を映画化したような作品で心に残る良い映画だった。ちなみに題名が内容と真反対なのだが、これは当初『鳩を売る少年』というタイトルだったのを会社（松竹）に強引にこの題に変えられてしまったからだそうだ。

7月24日（木）

『日本の夜と霧』（1960年）を観る。60年代の学生運動に邁進する学生たちの葛藤を描いた作品。主演は、桑野みゆき、津川雅彦、渡辺文雄ほか。この映画は、とにかく作風に最大の特徴があって、異常なほどの長回しと即興風の演出だ。ひとつのシーンがいやになるくらい長く（全編で20カットしかないそうだ）、映画というよりは舞台中継を見ているよう。そのため途中でカットができないもんだから、セリフを言い間違えたり口ごもったり忘れたセリフを思い出してまた言い直したりという部分がそのまま使われているところが面白い。と、テクニカルな部分は非常に楽しめたのだが、ストーリーが、というか描こうとしているものの全体像がわかりにくいことこのうえなく、しかも台詞劇なので単調で観念的で後半かなり眠かった。これは作品が悪いのではなく、安保闘争とか火炎瓶とかゲバとかレーニンとかそういう当時の若者の最新トレンドの皮膚感覚とセットでないと楽しめない映画であることに根本的な問題があり、つまり平成20年に観たことに無理があったと思われる。そういう意味では、これはフィクションではあるが実はそうではなくノンフィクション（記録映画）と呼ぶべきものなのかもしれない。そしてそれは渚映画のすべてに通底している部分なのではないかと思ってきた。

7月27日（日）

今日は『日本春歌考』を観た。1967年、僕が生まれた年に公開された映画だ。これもかなり観念的な作品だったが普通に面白かった。大学受験のため上京してきた高校生4人組と、その先生（伊丹一三）と恋人（小山明子）がメインキャラクターで、日本の春歌を通じて抑圧された大衆の声なき声を再評価するというのがテーマであるようだ。そのあたりの問題が、思春期の青年が抱える性への葛藤と農村での性文化や性信仰と同時に語られる……って書いていてもなんだかよくわからないが、そういう映画なのだからしょうがない。あと、最後のほうで唐突に（唐突じゃなかったのかもしれないけど伏線がよくわからなかったので）小山明子が「日本人のルーツは朝鮮なのよ！」と叫んだりする。なんか大島渚の映画の仕組みがだんだんわかってきたような気にさせてくれる映画だった。それはいいとして、出演男優が年齢に比べてあまりに老けていることに驚く。主演の荒木一郎なんて、高校生役のくせにどう見ても40代だ。対して女優は現在の人たちとあまり変わらない。当時の若いオトコたちというのは見た目が年齢より相当上だったんだなあと作品とは関係ないことを考えさせられた映画だった。

8月10日（日）

レンタルで観られる渚映画もだんだん少なくなってきた。今日観たのは『悦楽』。原作は山田風太郎。1965年作品。渚は『日本の夜と霧』を松竹が無断で上映中止したことに抗議して同社を退社し、映画製作会社「創造社」を創設しているが、これはその第一回作品。主演は中村賀津雄、共演は加賀まりこ他。人殺しを見られたことによってなぜか3000万円の大金を手にした男のその後の人生が、官能チック&サスペンスタッチに描かれる。これまで観た政治的で観念的な作風とはだいぶ違って、ストーリーがエンタテインメントしていて普通に面白かった。これはやっぱり原作モノであるからだからだろう（渚映画で原作があるのは珍しいのかな?）。マニアックなものが多い渚映画の中では比較的人にすすめやすい作品であるといえる。

8月24日（日）

1967年公開の『無理心中　日本の夏』を観る。パッケージに「大島版ヤクザ映画」みたいなことが書いてあってつまらなそうな予感がしたのだが、実際にとてもつまらなかった。ストーリーが散漫で盛り上がる部分がまったくない。人物がちゃんと描ききれていないのもよくないと思う。出演は、桜井啓子（フーテン娘の役。実際に街でフーテンをしていたのを渚が女優にスカウトしたという）、佐藤慶、殿山泰司ほか。それから渚映画には珍しく田村正和が出ている。40年前の田村正和は若いという部分以外すべて今と同じ田村正和だったのでそれが凄いと思った。

10月5日（日）

かなり間が空いてしまったが、今日は『絞死刑』を観た。1968年公開作品。1958年に起きた「小松川事件」の犯人をモデルに作ったストーリーだという。犯人役は尹隆道。ほかに、佐藤慶、渡辺文雄、小松方正、小山明子など渚映画のいつものメンバーが出演。小松川事件というのは、1958年に都立小松川高校に通う女子高生が在日韓国人の工員に強姦され殺された事件だそうだ。犯人は1961年に死刑が確定し、翌年執行されたという。映画はその死刑執行の場面から始まる。最初の5分くらいはドキュメンタリータッチだったので凄く面白そうだと思いワクワクしたのだが、そのあとがずっとブラックユーモアな軽演劇というか密室コントみたいな展開になったので、ガッカリしてしまった。終わりのほうになって虚実が綯い交ぜになっていく感じは映画的でちょっとよかったけれど、やっぱり全体的に役者が演劇的にしゃべったり動いたりするので観ていてすごくシラけてしまう。せっかく現実の事件を元にしているのにもったいない気がした。世間的な評価は高いようだが自分的にはイマイチな作品だった。

10月13日（月）

追悼鑑賞だというのに、これまであまりホメてこなかったことに今さらながら反省し、今回はホメるぞ、と思いながら頑張って『愛の亡霊』（1978年作品）を観る。主演は、田村高廣 &吉行和子。中村糸子の原作『車屋儀三郎事件』を日仏合作で映画化したもの。内容的には、まあ一言で言うとドロドロとした不倫の恋の物語。浮気をした女房と愛人男が旦那を殺害、そのあと旦那の幽霊が何度も出てきて……というストーリー。戦後すぐの農村を舞台にそんな物語がホラータッチ?で描かれる。非常にオリエンタリズムに溢れた作風の映画であり、『戦場のメリークリスマス』同様、海外での賞狙いの作品だったのかな?という感じ。実際、カンヌ映画祭では監督賞を受賞したそうだが、日本での評価は低かったという。個人的にはそれもむべなるかなという感想。あ、やっぱりホメてないので、無理にホメると、吉行和子がとてもやらしい雰囲気でよかった。あと、おすぎがきちがい役で出ていたのも面白かった。

10月18日（土）

今日観たのは、『新宿泥棒日記』。実はこの映画がいちばん観たかったのだが、ツタヤでずっとレンタル中だったので今まで借りられなかったのだ。1969年作品。主演は、横尾忠則&横山リエ。そのほかに紀伊國屋書店創業者の田辺茂一や性科学者の高橋鉄、唐十郎などが本人役として出ている。これはなんというかもうはっきり言ってゴダールまんまの映画だった。でもゴダールは大好きなので「なるほどゴダールか」と思って最後まで観たのだが、前衛表現というものに対してまだ腰が座っていないというか全体的にぎこちない感じで迫力に欠けた。テンポもちょっと冗長だったように思う（特に後半）。……と書くと面白くなかったようだが、そんなことはなく非常に面白い映画だった。これまで観た60~70年代の学生運動を扱った渚のどの映画よりも当時の空気感を感じさせてくれる作品だったと思う。まあでもドラマツルギーは目茶苦茶なので、普通の人には絶対推薦できない。ゴダールが好きな人ならおすすめ。

10月26日（日）

『忍者武芸帳』を観る。1967年作品。大島渚作品に限らず今まで人生でいろんな映画を観てきたが、これはその中でも極めて「珍」と言える奇妙な映画だった。原作は白土三平の同名の名作漫画で、だからアニメーションなのかと思ったらそうではなくて、漫画のコマをひとつひとつアップで撮影して台詞をかぶせるという方法で撮られた「紙芝居映画」とも言うべき実験的ローテク作品なのだった。ナレーションは小沢昭一。声の出演は山本圭、小山明子、佐藤慶ほか。こういう手法を考えたのも凄いが、実現させてしまったのはもっと凄い。でもそれが映画として成功しているかと言えばそうではないのが悲しいところで、動きがない画面をずっと観ているのが途中で辛くなり、さらに137分もあるもんだから最後まで観るのにかなり往生した。しかしこういうふうに低予算という制約を逆手にとった作品を完成させてしまった渚の行動力は偉いと思った（↑頑張ってホメてみた）。

10月30日（木）

1962年公開の『天草四郎時貞』を観る。これがツタヤで借りられる渚映画最後の作品ということで心して鑑賞した。初めての時代劇作品、しかも唯一の東映作品、そのうえ主演は

大川橋蔵と、渚映画にしては珍しいことずくめの作品。内容的には島原のキリシタン弾圧を描いた作品なのだが、時代劇なのにチャンバラ的な場面が少なく、登場人物たちが議論するシーンばかりで、そういうところがやっぱり渚テイストだなあと思った。そのほかいろいろとなにか腑に落ちないところが多かったので、観終わったあとでネットの解説を見たら、この映画は60年代安保闘争を島原の乱に重ね合わせて表現した作品だということがわかった。ラストシーンで天草四郎率いる隠れキリシタンのグループが一斉蜂起のあと敗北する場面も安保闘争の失敗を暗喩しているのだそうだ。どんな素材を扱っても「いわゆるそういう映画」にしてしまう大島渚の力業はいい意味でも悪い意味でもすごいと言わざるを得ない。しかしまあ面白いか面白くないかと言えば面白くなかった。

11月8日（土）

もう大島渚の映画は観ることができないのか。と思っていたら、ポレポレ東中野で開催中の「ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2008オキナワ、イメージの縁映画篇」という企画内で渚監督の『夏の妹』がレイトショー上映されていることがわかったので観に出かける。21時からの上映でお客さんは7割くらいの入り。昔よく来ていた劇場なのですごく懐かしく、いつの間にBOXからポレポレに名前が変わったのだろうかと思っていたら映画が始まった。1972年公開作品。主演は栗田ひろみ。ほかの出演者にりりィ、石橋正次。あと、殿山泰司、小松方正、小山明子などいつもの渚ファミリーの面々。本土復帰直後の沖縄で長期ロケを敢行して製作したという経緯の作品で、ひとりの少女の初恋を通じて沖縄と本土の関係が浮きぼりにされるという内容。まず音楽がとてもよかった。それから全編ロケなのでアドリブっぽい撮り方をしていてそれが沖縄の空気感をうまく伝えている感じがしてよかった。あと、栗田ひろみが存在感があってオーラがあってよかった。というわけで全体的には大体よかったのだが、渚映画の特徴である支離滅裂さ（監督本人の中では筋が通っているのかもしれないが）が特に後半全快でちょっと苦笑という感じだった。というか、実際に場内でも失笑があちこちで聞こえていた。これまで感じていた渚監督の作品で抱いていた違和感は正しかったんだ！と思って安心した。やはり映画は映画館で観るのがいちばん良い。

2011年10月23日（日）

第24回東京国際映画祭で行われている「アジアの風」というプログラムの中で、まだ観てない『飼育』が上映されるということで、日曜日の夜に頑張って観にいった。1961年公開、大島渚6作目の映画であり、大江健三郎の芥川賞受賞作を映画化した作品。太平洋戦争末期の日本の山村が舞台で、村の近くに墜落した米軍機の生き残りの黒人が捕えられ鎖でつながれ「飼育」される。その黒人の処遇をめぐり、村人たちが翻弄され混乱していく様がねちねちと描かれている。登場人物たちが延々と議論（内容的にはやっぱり公開当時の政治状況を暗喩）するシーンが過剰なまでの長回しで活写されていて、3年ぶりに観た大島渚映画は観念的ムードたっぷりでこれぞまさしく大島渚映画という感じの作品だった。全編にわたって村社会特有の閉塞感が漂っており観ていてしんどかったが、渚映画にはめずらしく子供（村の子供）がたくさん出てくるので、そういう場面になるとちょっとほっとできる。ところで、観ていた中盤あたりで突然上映が中断し画面が真っ暗になってしまった。慌てて係員が出てきて「映写機にトラブルが起きたのでしばらくお待ちください」とアナウンス、そのまま10分くらい待たされたのちに再開された。まさに「待つ」特集にふさわしい出来事が起きたわけだが、大島渚はまだ死んでいない。

2013年3月5日（火）

本年1月15日、大島渚、肺炎のため逝去。享年80歳。心よりご冥福をお祈り申し上げます。ということで、現在シネマヴェーラ渋谷で全作品を上映する追悼企画が開催されている。監督は亡くなったが、残り本数わずかなのでこの機会を使ってコンプリートを目指そうと思い渋谷へ。今日観た映画は、『ユンボギの日記』と『明日の太陽』の2本。前者は、1965年公開の16ミリ作品。母親は家出、父は病気で働けないという境遇のなか、物乞い同然の生活を送る10歳の極貧少年の生活を描いたドキュメンタリー。動画は1秒もなく、スチール写真とナレーションだけで展開されているのだが、写真がリアリズムな感じで良いので鑑賞後は動く絵を見ていたような気持ちになる。それにしても、同じ韓国モノの作品でも現在の韓流とは100万光年くらいの違いがあるディープな作品世界に観終わって頭がクラクラする思いがした。後者は、デビュー作『愛と希望の街』の直前に撮られた6分の松竹PR映画。実質上はこれがデビュー作だったらしい。当時の銀幕のスターたちが豪華なセットの前で歌って

踊るという内容で、これまで観てきたような大島渚色が微塵も感じられない爽やかな映像だった。

3月7日（木）

いよいよラスト。シネマヴェーラ渋谷にて『東京・争戦後秘話』。1970年作品。チラシに「大島の作品中で最も難解なもののひとつ」と紹介されていたので思わず怯んでしまったが、観てみたらそれほどでなく良い作品だった。映画部に所属する男女が「遺書として映画を残して死んだ仲間」の影を追うというストーリー。たしかに作品中に起きてることはメタというか、現実と虚構がないまぜ状態なので難解といえば難解だが、頭の中で考えずに感覚だけを追っていけば非常にわかりやすい映画だともいえる（それでも終映後、僕の隣の隣のオヤジが「なんだかさっぱりワカンネェ映画だったなァ」と大声で言いながら出ていったので笑った）。どこかファンタジーめいていて大林宣彦作品も喚起させた。主演の岩崎恵美子という女優も上品なエロさを醸し出していて素晴らしい。前半の革マル派と中核派の映像も楽しめた。最後に非常に良いものを見せてもらった気がする。大島監督、本当にありがとうございました。

2014年1月14日（火）

と思ったら、逝去1周年記念ということでDVD化されていない幻の作品『忘れられた皇軍』を日本テレビで放送するという情報を知り、録画して鑑賞。これは1963年に日本テレビの「ノンフィクション劇場」という番組で放送された30分のドキュメンタリー作品で、日本軍に属し第二次大戦で戦傷を負った在日韓国人である傷痍軍人たちの戦後の不条理な人生をカメラが追ったもの。戦地で手足を失ったり両眼失明などの戦傷を受けて帰還したにもかかわらず、彼らには日本人の元兵士には与えられる恩給がまったく与えられない。激しい音楽、クローズアップを多用した演出など、大島監督の疑問と怒りがダイレクトに伝わってくる映像だった。テレビの世界で「いないことになっている」身体障害者をこんなにズバリ画面に登場させたというのは、現在もだが、当時も画期的なことだったろう。以上。

大島渚作品個人的ベスト5
1位『太陽の墓場』
2位『新宿泥棒日記』
3位『愛と希望の街』
4位『東京・争戦後秘話』
5位『夏の妹』

幻の30分作品
今夜 半世紀ぶり放送

戦争で失った両目からこぼれる涙をカメラはアップでとらえる。大島監督は「カメラは加害者」と話し、怒りや

2014年1月12日　朝日新聞

実行委員会が受理した報告書はただこの2通。よって、

優勝　水野晴郎が死ぬのを待った前嶋かおる（受賞理由：死ぬのを待った人が一番早く死んだから）

大権現賞　大島渚が死ぬのを待った伊藤岳人（受賞理由：人が死ぬのを根気強く待ったから）

と決定し、ここに表彰します。おめでとう！

最後に、ご協力いただいた水野氏、大島氏の貢献に深く感謝し、両氏のご冥福をお祈りします。山城氏、桂氏、赤塚氏、森繁氏、横田氏、石原氏にあっては、犬死となってしまわれたりしまわれそうだったことを深くお詫びし、ご成仏のほどを心よりお祈り申し上げます。

空き待ち企画「二軍ちゃん」―塔島ひろみの日記から

2011年4月14日（木）
23　待つ前に来る
今日は私は「低残渣」という繊維質を省いたつまんない食事だ。朝はおかゆに何と、待っていた塩鮭だ！が、鮭は昨日も一昨日も出ているので、全く待っていない。（待ち終わったものが遅ればせに繰り返し訪れる事例）

もうひとつ驚いたことに、今日部屋移動だそうだ。私は2700円もの差額ベッド代を払って野々宮さんと二人部屋で暮らしていたが、4人部屋が今日空き、移ることになった。4人部屋に移るのは16日以降、と言われていたので、4人部屋空き待ち状態の私であるが、実際は待っていなかった。16日になってもまだ呼ばれなかったら、それから待ち始める予定だった。待たずに済みよかった。移った先は、青木みどりの同室だった。

空き待ち企画「二軍ちゃん」―塔島ひろみの観察メモから

2013年6月24日（月）湯島交差点　30代男
伊集院静『逆風に立つ』を読んでいる。（赤信号待ち）
文庫本でもないのに背広の内ポケットにしまって歩きだした。

鳴くまで待つ

2015年8月　第7日め

（再起編）成就祈願編続編

8月6日（木）「ドキュメント・ザ・尾行〈鳴くまで待つ〉（再起編）成就祈願編続編」について

この尾行は標的が鳴く（声を出す、そして我々が声を聞き取る）まで続く

〈概要〉

標的1は、昨年5月6日の第1回目で、舟久保文恵が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

標的2は、同じく、伊藤岳人が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

標的3は、同じく、塔島ひろみが「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

このうち標的1については、舟久保が尾行開始後ほどなくその声を聞き、終了している。

標的3は、第1回目で声を聞くことができず、昨年7月27日、続いて10月5日、続いて本年3月11日に再び、三度、四度挑んだ結果、ついに声が聞け、終了した。

標的2は、第1回目、昨年7月27日、続いて10月5日、続いて本年3月11日、続いて本年5月28日に再び、三度、四度、五度挑んだ結果、声が聞けず、もしかして死んでいるのではないか?という不安点が浮上した。しかし2013年8月7日の朝日新聞天声人語は次のように言っている。

8月、列島の各地で死者の声が聞かれるのだろう。じっと耳を傾けたい。

8月6日は、標的が死んでいる場合、声を聞く絶好の機会である。じっと耳を傾けよう。

〈当日の動き〉

今回の待ち人隊長は伊藤岳人である。ぱんと三本は岳人の指示に従い、行動する。

尾行は、岳人が標的の声を聞いた瞬間に終了する。ぱんと三本は岳人が標的の声を聞くためにできる限りのサポートをする。

声を聞くために話しかけたり、何かを仕掛けたりするのは反則。我々は標的の行動に影響を与えてはいけない。

この日にもまだ尾行が完了しなかった場合、また後日再々々々々挑戦を行う。

〈その他〉

・標的の住居周辺では、待つ人を排除しようとする間違ったおやじ集団が結束している。気をつけよう。

・うたごえライブハウス「ゴリ」、シャポーちゃん広場と、二朗にまつわる船橋の二大スポットの閉鎖に伴い、船橋は行方不明中の志村二朗氏を待つ場所ではもはやなく、ただ岳人が標的2の声を聞くことを待つためにだけに存在する場所である。と思っていたら（前文書でそう書いたけど）、閉店直前に奇跡の「契約不成立」で営業継続、ゴリはまだあることが判明した。船橋は「声」の聖地、船橋の「声」は不滅である。我々は二朗が導いてくれたこの地で、必ず標的2の声を聞くであろう。

・なお待機中・尾行中は可能な範囲で記録を取り、後日感想もまじえ、編集部に提出する。

・また待機中は退屈なので「待ちながらすること」しりとりを実行する。前回の「むなしく過ごす」の続きの「す」から始める。

以上

車掌編集部「鳴くまで待つ」実行委員長　塔島ひろみ

待ちながらすることしりとり（前5回分）

待つ→つらい思い出話→しいたけ栽培→イライラ→乱取り→立位前屈→つかの間の休息→靴みがき→恐怖新聞を読む→ムーを読む→昔ばなし→しらみとり→リゲインを飲む→無駄話→しりとり→臨機応変な行動→海釣り→リンガーハットで食事→ジュースを飲む→無理やり暗記→きつねうどんを食べる→ルンバを踊る→留守番をする→ルマンドを買う→運転免許の更新をする→ルックスを磨く→九九を覚える→ルソーの絵にいたずら→ラジオを聞く→クオカード眺め→目薬をさす→ストレートを磨く→クッキーを焼く→靴磨き→金魚の餌やり→理想の人生を考える→ルート検索→苦渋の選択→クイズを解く→熊の木彫り作り→リスの餌やり→陸ガメの世話→輪投げ→原付免許の勉強→梅酒作り→リクライニングシートでくつろぐ→グーグル検索→栗の皮むき→金髪に染める→類似商品を見分ける→ルビーの指輪を口ずさむ→ムラムラするだけ→献血→罪滅ぼし→シクラメンの香りを口ずさむ→ムード作り→リラックスする→ルージュを選びに行く→靴下を編む→昔のことを思い出す→するめをあぶる→ルノアールでアイスコーヒーを飲む→難しい本を読む→結び目をほどく→クリスマスケーキを買いに行く→薬の用意→祈り→リンスの詰め替え→縁側の掃除→事後処理→離乳食を作る→ルノアールでブラックコーヒーを飲む→無印良品で買い物→のんびり→倫理の勉強→歌の練習→梅酒づくり→離婚した場合の生活設計を考える→累積赤字を計算する→ルノアールでオレンジジュースを飲む→息子と遊ぶ→文具の整理→履歴書を書く→工藤さんとおしゃべり→稟議書を書く→臭いものしりとり→理髪店に行く→黒田さんとおしゃべり→利尿剤を飲む→むすんでひらいて→テレクラに行く→空想→梅ジャム作り→リモコン掃除→次男と遊ぶ→武家諸法度の暗記→きつねうどんを食べる→ルノアールの机にいたずら書き→きしめんを食べる→ルノアールの従業員とおしゃべり→理化学研究所に抗議の電話をする→ルノアールの間取り図を書く→首の運動（前嶋）→梅干しを食べる（伊藤）→ルーマニアのことを調べる→ルービックキューブを完成させる→ルーペで観察→爪切り→療養→ウノ→飲む→ムード歌謡を口ずさむ→昔を思う→ウルトラマンのDVDを観る→ルンバを検索→暮らしの手帖を読む→ムカデを探す→推理小説を読む→むかつく→薬をのむ→無駄遣いする→ルーマニア映画を観る→ルパン三世の歌を歌う→ウサギの世話→わかめサラダのレシピを探す→スイカを食べる→ルソーの本を読む→紫式部の本を読む→むなしく過ごす

空き待ち企画「二軍ちゃん」—塔島ひろみの観察メモから

上野広小路駅バス停。女子高生。午後の紅茶（ペットボトル）を飲んでいる。朝だけど。それから定期を準備して定期を持ってバスを待ち、スムーズに乗る。（2013年7月30日）

ゴリ騒動

志村がたびたび足を運んだ船橋のうたごえ喫茶「ゴリ」は、２０１４年１０月いっぱいぐらいで閉店したはずだった。

ところが２０１５年８月に、何故かその「ゴリ」が、普通に営業しているのである。狐につままれたようで、調べると、２０１４年１１月９日のフィナーレを目前に控えた１０月３０日、ゴリを買い取ることになっていた会社が経営悪化で買い取れなくなり、ゴリは土壇場で営業存続となったらしい。なんという人騒がせなことだろうか。

この出来事の意味するところをまとめてみると、

①我々は、うたごえライブハウス「ゴリ」を中心とする志村の「船橋マップ」に導かれ、志村にたまたま会う機会の到来を待ちながら、船橋で尾行を開始した。

②ところが、尾行が完結する前に、船橋の２大志村スポットである「ゴリ」と「シャポーちゃん広場」があいついで閉じちゃった！

③それは天が我々に、「志村を待つ」の時効と、尾行への集中を諭したのだ、と我々は解した。そして天に従った。

④そしたら何と！　ゴリは本当は閉まっていなかった。

⑤つまりゴリは天または志村とグルであり、我々に志村を待つのをあきらめさすために閉店を宣言し、我々があきらめるのを見届けてからこっそり閉店を取り消して、何事もなかったように営業を続けてた、というわけだ。

⑥とするともしかして、シャポーちゃん広場という大物も、黒幕・志村が圧力をかけて閉じたのかもしれない。

⑦そして黒幕・志村がそこまでして我々から逃げるそのわけはズバリ、志村がもう車掌と関わりたくない、依頼している「横田滋さんまたは早紀江さんに「待つ」ことに関して話をきく機会が到来するのを待つ」という企画の実行部隊長をやるのが、ややでしょうがないけど断れなかった。

ということになろう。

人権の蹂躙に沖縄の怒りが爆発して起きたコザ騒動から４５年、車掌の専横に対する売り子の静かな意思表示が、ゴリ騒動だ。

岳人レポート

死んでいる可能性が高まってきた

集合時間の１０時、見慣れたというか、もう見飽きた現場に到着。応援スタッフはまだきていない。前回リフォーム中だった路地入口のアパートは工事が終わって壁とドアが新しくなっている。その様子を撮影していたら三本さん登場。前々回の尾行（というか張り込み）がいかに危険なものだったかを伝える。今日も同様の展開になった場合には前回のように橋の上に移動して続ける旨も伝える。と話していると１０時２６分、神田さん登場。間違って市川駅で降りてしまったそうだ。滝のような汗が顔中から流れている。１０時３０分、いつもの高架線の下で尾行（というか張り込み）開始。「風があって涼しい」と三本さんが言う。確かに、今日は本邦初の記録となる連続猛暑日７日目だが、標的宅と反対の方向からは常に風が吹いてきていて、しかも日陰なのでここにいると暑さはそれほどでもない。「海が近いので海風かもしれないですね」などと話す。そうこうしていると、またしてもすぐ前の社宅みたいな集合住宅の２階で窓を開けてこちらを伺う男性がいるが、今日はなぜかそれほど恐怖感を感じない。どうしてだろうと考えてみたところ、これほどまでに暑いと「我々は涼しい場所でただ涼んでいるだけなんです」という心理的優位感を感じられるからではないかということに気がついた。というわけで、今日は移動することなくその場所でずっと張り込みを続行。しりとりもしつつ、「ひろみさんの皮膚病の話」「育休の話」「ラインの使い方の話」「ふかふかカフカのＣＭの話」「麦太の文才の話」などをしていたら、いつのまにか時間はどんどん過ぎ、現場になんの動きのないまま終了時刻の１２時になってしまった。結果的には涼しい場所で１時間半立ち話をしていただけということに。ひょっとして引っ越したというケースもあるかもと思い最後に家の前まで行ってみるが、表札は「横山」のまま。ただし中に人がいる気配がない。この酷暑だし、本人は死んでいる可能性はますます高まってきた。

三本レポート

ラインの登録を教えてもらった

２０１５年８月６日(木)

広島に原爆が投下された、しかも戦後７０年の記念日。〈鳴くまで待つ〉企画の尾行の為、船橋駅に向かいました。

午前１０時、南口から徒歩１０分程の標的の家の前。もう伊藤さんが到着していて、家の周りを写真に収めていました。

伊藤さんとお会いするのは１０ヶ月ぶり。その間にお子さんも生まれたそう。

「ハイハイとかつかまり立ちなんかして目が離せない」とか、そんな話をしていると、おばちゃん２人組が標的の家の方へ。

伊藤さんも後を追って行く「もしかしたら声が聞けるかもしれない」

２人組は標的の家の前へ行く。しかしチャイムも鳴らさず、ただのぞいただけ。すぐ出て来る。こちらにあいさつをしながら（何かの勧誘か？）

ぱんさんが到着。

伊藤さんによると、前々回、塔島さんとここで待機した時に、何人もおやじがこちらを監視する様に集まって来たそう。

「標的の家の前から離れても、連携して皆なやって来た」という話に、ぱんさんが「ラインでもやっ

てるんじゃないか？」と言い出す。

自分が「スマホは持っているけれど、ラインをやった事がない」と言うと、ぱんさんがラインの登録などを教えてくれる。

こんな時に何だけれど…

しりとりをしながら標的を待つ。

この日、関東地方は「暑さのピーク」と言われ、最高気温35～37℃と予想されています。

ぱんさんのお知り合いのお母様が「熱中症で亡くなった」との事（調布から二子玉まで、川づたいを自転車で走っていた所、その途中で倒れたのだそう）まだ60代とか…

家で寝ていると、暑くて目が覚める事がある。

時々頭が痛くなると「このまま治らないんじゃないか？！」と不安になる。

人がしょっちゅう救急車で搬送される。

もちろん戻る人もいるだろうけれど、戻らない人も多くいるだろう。ぱんさんが「もう、ゆでたまごは生たまごにもどらないんだよ」とおっしゃっていた。脳へのダメージは恐ろしい…

標的はもうすでに「死んでるんじゃないか？！」改めて家の表札の名前を見に行く伊藤さん。

「表札は前と同じ」と伊藤さんは言った。

結局12時で尾行を終了。この日も標的の声を聞くことは出来ませんでした。

神田レポート

自分に協調性がないことがわかった

三月の尾行と同様、フラダンスのことで頭がいっぱいだったので、「標的が出て来るのを待ってしりとりをした」ということしか覚えていない。

というか実際やったのも「標的が出て来るのを待ってしりとりをした」だけで、標的は出て来ないままタイムオーバーになった。それから家に帰ってフラダンスの練習をした。

もう競技会には二度と出たくない。自分にはまったく協調性がないことがわかった。そんなフラダンス競技会でした。

●しりとりの記録

スマップの歌をうたう（伊藤）→馬の予想（三本）→ウエイトリフティング（神田）→軍歌をうたう→うなじを探す→スロット→土佐犬の世話→ワンズの歌を覚える→ルフィーの真似→猫の世話→忘れ物のありかを思い出す→スイカ割り→リスの世話→ワニの世話→わるだくみ→ミカンを食べる→ルチャリブレの練習→海町ダイアリーを読む→ムクドリの世話→ワインの熟成→イシルの熟成→イクラを食べる→ルチャリブレの鑑賞→うだつをあげる

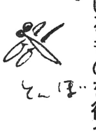
空き待ち企画「二軍ちゃん」
―塔島ひろみの日記から

2011年7月1日(金)1:00

拓郎のCDを聞いている。♪指折り待ってた夏休み。待ってる歌じゃん！

たぶん1番の夏休みは待ってたけど来なかった
2番の夏休みも待ってたけど来なかった
3番の夏休みは昔きた
4番の夏休みは来なかった
というよりも、1，2，4はこのときは待っていて、今は待っていない。
いつまで待っていたか、と言えば、いつかしら？

7月2日 1:43
うつす
①麦わら帽子は もう消えた／たんぼの蛙は もう消えた／それでも 待ってる 夏休み
②姉さん先生 もういない／きれいな先生 もういない／それでも 待ってる 夏休み
③絵日記 つけてた 夏休み／花火を 買ってた 夏休み／指おり 待ってた 夏休み
④畑のとんぼは どこ行った／あの時逃がして あげたのに／ひとりで 待ってる 夏休み
⑤西瓜を食べてた 夏休み／水まきしたっけ 夏休み／ひまわり 夕立 せみの声
そしてわかった。
吉田拓郎にとって夏休みは待つものである。〈1〉必ず来るものを待つ）
小学生のとき、夏休みを待った。→夏休みが来る→夏休みが終わり、冬を経由してまた夏が近づく→夏休みを待つ→来る…
大人になり、小学生の夏休みはもうない。夏休みは来ても「夏休み」は来ない。しかしわかっているけど待っている。
夏休みは郷愁だ。〈2〉こないとわかっているものを待つ）
＝不合理な行動→芸術につながっていく。



乳し（片方）

待乳山アゲイン

9月20日　待乳山アゲイン

岳人と二人でまた、待乳山で乳を待つ。前回の反省(→83ページ)で、今回はプラカードを用いず、乳を待っていることを隠して、お忍びで待った。

←知り合いに片っ端から送った文書

> **「待乳山（台東区浅草）で乳を待つアゲイン」にご協力を！！**
>
> **９月２０日（土）の 13:00—16:00、乳を持って、待乳山（台東区浅草）へお越しください！**
> **車掌編集部員が、上記日時、待乳山で乳をお待ちしております。**
>
> **これは車掌 25 号（待つ特集）の企画の一環です。5 月 24 日にも同様の呼びかけをし、待ってみましたが、乳がきませんでしたので、再び待たせていただきます。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。**
>
> なお、車掌編集部員は、単なる参拝客のふりをして待っています（目印として大根を持っています）。
> （前回「車掌編集部　乳待ち中」として待っていたら追い出されてしまったため）
>
> **車掌編集部　代表　塔島ひろみ**

待つ企画をしていることを山側に覚られないよう、禁忌とした行為(7月27日尾行中列挙した「待つ人がする行為」)←

> つらい思い出話・しいたけ栽培・イライラ・乱取り・立位前屈・つかの間の休息・靴みがき・恐怖新聞を読む・ムーを読む・昔ばなし・しらみとり・リゲインを飲む・つめかみ・身だしなみチェック・靴紐直し・写真撮影・石けり・隣接レストラン検索・首まわし・塩飴をなめる・ルービックキューブ・ブックオフで古本を探す・スイカにチャージ・ジャングルジム・静かにする・留守電メッセージチェック・クイズ・ずいずいずっころばし・新聞を読む・ムード歌謡を聞く・クッキーを食べる・ルノアールでコーヒーを飲む・虫捕り・料理番組鑑賞・運動・うがい・椅子に座る・ルノアールでココアを飲む

始まりを待つ間散策すると、驚いたことにこの狭い、憎い境内内に、面白そうなモノレールがある！(さくらレール)

さて13：00になった。今度こそ乳よ来い！　心の中で祈りながら乳待ち行為がひっそりと始まる。待ってないふりをしながら乳を待つ間は、「待ちながらやらないことしりとり」をして待つことになっていた。出入り口に近い、来た人には見えるけど山関係者があまり来そうにない場所を選び、そこで立ったまま、しりとりが始まった。「待ちながらやらない」の「い」から始めて「遺産相続」と言ったところで、

甘い乳来る

なんとこんなに早くに乳が来た。森永「れん乳」が届いたのだ！

届けてくれたのは笹井吾朗氏。感動である。乳を届けてくれた人には、3つの特典が待っていた。(1)大根受取証を受け取る、(2)好きな場所で車掌編集部員と記念写真、(3)しりとりに加わる

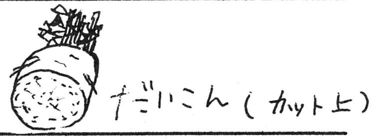
笹井氏に一番大きな大根に書いた受取証を渡す。そして、笹井氏が選んだ場所で記念撮影。本堂裏側の、大根性交マークの前である。

そしてこんなに早く来てしまったので、笹井氏はその後約3時間も、待つ側の一人として、しりとりに加わる恩恵を得た。

待ちながらした「待ちながらしないこと」しりとりの記録

遺産相続→くつみがき→木登り→リトミック→ロうつし→シミ抜き→客をもてなす→すり→林間学校に行く→クラス替え→えり好み→みかん狩り→リコーダーコンサート→登校拒否→ヒマラヤ遠征→インド旅行→腕試し→新聞配達→積木くずし→死刑執行→うさぎ跳び→びっくり→リストラ→ラジオ体操→姥捨て→転校→運転代行→うどん屋を開く→クレー射撃→雑打ち→近道を急ぐ→グループ交際→炒め物→のど自慢大会開催→イルカ虐待→イタリア出張→うなぎ屋を開く→熊虐待→胃カメラを飲む→虫歯予防→ウミネコ虐待→イラン視察→伝い歩き→錦糸町視察→ツンデレ→連続宙返り→隣人殺害→遺産放棄→教務主任殺害→妹殺害→茨城県知事選出馬→バイト→通り魔→丸太割→料金踏み倒し→新幹線爆破→張り紙→右向け右→偽装パスポートで入国→栗拾い→医療行為→いかだで入国→くるみ割り→リーダーシップ発揮→君が代斉唱→牛追い→一気飲み→ミイラ取りがミイラになる→ルーマニア紀行→裏口入学→熊殺害→インカ帝国滅亡→占い師殺害→いかだで出国→九九→くすぐり→離婚届提出→釣り堀経営→イカフライ調理→理由もなく自殺→ツーリング→ぐずり→リンカーン大統領の墓参り→利用申請→犬の散歩→ポルトガル紀行→牛の乳しぼり→利尻島視察→月探査旅行→馬の調教→うずら探し

待乳山アゲイン



待つ人も　待たない人も　靴磨き

しりとり再開。遺産相続の次に岳人は「靴磨き」と言ったが、どうしてだろうか？ 靴磨きに特別な思い入れがあるのか？ それに靴磨きは、神田ぱんが「待つ間にする」とした行為なので却下されるべきだったのだが、笹井が「木登り」と続け、却下問題はうやむやになった。

待乳山、愚かなり

そしてしりとりをしながら、次の乳の到着を待った。すぐに飽きたが、乳は来ず、飽きてもしりとりを淡々と、延々と、続ける。2時間以上も、ただ立って、しりとりを続けたが、一度も山関係者の目に引っかかることはなかった。愚かなる待乳山関係者たちよ、君たちは2か月前我々に禁じた行為（乳を待つ）を、我々が同じ顔で2時間以上も続けているのに、まんまと見過ごしているのである！ それは我々がプラカードを立てていないからであり、プラカードで行為を判断するという、本質を見ない、まったく仏教者の風上にもおけない表面主義な寺なのである。

結局乳は練乳だけ？

と思った矢先の終了まであと20分という3時40分、栃木の山田が乳を持って到着。自分は栃木県人、いただく私たちは東京人、なのに乳は、「チバラキを支えてる皆さん！」と呼び掛けのある「練乳入りマックスコーヒー」の中に入った「練乳」だった。

「大根持ってますか？」

記念撮影は「待乳山」と書いてあるもののそばで、ということで、入口付近で記念撮影。練乳を二つ手に入れ、4人に膨らんでしりとりを再開した我々の前に、女が現れ、「大根持ってますか？」と聞いてきた。名前を聞くと「スギモト」と名乗った。なんとこいつは、車掌24号の不自由研究で、「これからは心を入れ換えて、三本さんから受け継いだこの研究を立派にやり遂げようと思います。私は三本さんのマンガのすごいファンで、好きで、好きで、そんなに好きな人から受け継いだこの研究を絶対に大事にします。」とか宣言しながらやり遂げなかった無責任な女、杉本であった。無責任ながら今は一児の母となり、関東地方に住んでいる。そして「おいしい牛乳」をくれた。

練乳以外の乳ゲット！ 受取証の大根は、ここから塔島持参の小サイズのものに。そして本堂前のお線香を焚くところの前で記念写真を、一人ずつ人を変えて4枚も撮った。

坊主と大根

そのあと雨が降ってきて、売店の軒先に横一列に並んでしりとりを再開。がもうすぐ終了の4時で、せっかくだから杉本は本堂の方を大根かついで見に行った。そしたら、本堂へ続く階段のあたりで坊主頭の男に絡まれているのが、軒先から見えた！

そして杉本は坊主頭男を伴って戻ってきた！ 果たして坊主頭男は、寺の軒先に一列に並んでしりとりをする我々が、実は乳を待っていることを見抜くだろうか？ そして雨に湿ってこんなに膨らんだ車麩のような我々を、追い出すことができるだろうか？

最後の乳

坊主頭男が近づいてきた。坊主頭男にありがちなギョロリとした目。しかしそれは見覚えのある顔。あ、前島さんじゃん！

杉本同様、24号の不自由研究を途中で投げ出した男・前島俊一氏だった。そして杉本同様、乳を待つ我々に乳を届けにきてくれたのだった。

「おいしい無調整豆乳（紀文）」「小岩井コーヒー（乳飲料）」

前島は撮影場所に「心願成就」と書かれた碑前を選んだ。4時になり、待乳山での無届イベントが終了した。

「練乳を選んだ理由ですが、登山愛好家なので、山に持って行く行動食の中で「乳」といえば練乳が基本のため選びました。（山でコーヒーを淹れて練乳でカフェオレにして飲んだりします。）」（笹井）

「待乳山にマックスコーヒーを持っていったのは、牛乳じゃ当たり前すぎるしなにか珍しい物をと思ったからです。千葉栃木群馬ぐらいでしか売ってなかったと思ったんですが、帰りの浅草駅までの道中の自動販売機に売ってたのでがっかりしました。」（山田）

「乳を選んだ理由はスーパーで安かったからということと、何らかの理由で自分が持ち帰る場合を考えて、牛乳だと下痢をするので腸にやさしい豆乳のほうがいいであろうと思ったからです。2本持っていったのはバラエティを考えてのことです。」（前島）

鳴くまで待つ

2015年9月　第8日め

正念場編

9月30日（水）「ドキュメント・ザ・尾行　〈鳴くまで待つ〉正念場編」について

〈概要〉

この尾行は標的が鳴く（声を出す、そして我々が声を聞き取る）まで続く

標的1は、昨年5月6日の第1回目で、舟久保文恵が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

標的2は、同じく、伊藤岳人が「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

標的3は、同じく、塔島ひろみが「この人の声を聞いてみたい」と思った人物である。

このうち標的1については、舟久保が尾行開始後ほどなくその声を聞き、終了している。

標的3は、第1回目で声を聞くことができず、昨年7月27日、続いて10月5日、続いて本年3月11日に再び、三度、四度挑んだ結果、ついに声が聞け、終了した。

標的2は、第1回目、昨年7月27日、続いて10月5日、続いて本年3月11日、続いて本年5月28日に再び、三度、四度、五度、挑んだ結果、声が聞けず、もしかして死んでいるのではないか?という疑惑が浮上したが、死者の声が聞かれるはず（朝日新聞）の8月6日に待ってみたら（六度目）、やはり声が聞かれなかったので、死んではいないと信じ、今回7度目の「待ち」を行う。

〈当日の動き〉

今回の待ち人隊長は伊藤岳人である。ひろみは岳人の指示に従い、行動する。

尾行は、岳人が標的の声を聞いた瞬間に終了する。ひろみは岳人が標的の声を聞くためにできる限りのサポートをする。声を聞くために話しかけたり、何かを仕掛けたりするのは反則。我々は標的の行動に影響を与えてはいけない。

この日にもまだ尾行が完了しなかった場合、また後日再々々々々挑戦を行う。

〈その他〉

・うたごえライブハウス「ゴリ」の奇跡の復活により、船橋は「声」の聖地であることが判明した。我々は標的の復活と発声を信じ、徳川家康か栃ノ心になったつもりで気長に待とう。なお、今回も鳴くのを待つに集中するため「志村を待つ」は行わない。

・当日は、住居周辺で結束するおやじ集団、社宅窓からの上から目線などに十分気をつけよう。そのため、前嶋かおるの下記の助言を念頭に置こう。

「楽しそうにしていると怪しまれにくい」

「思いつめた表情でじっと立ち止まっているというのは怪しすぎる」

「歩いているか携帯をいじるふりをしていたほうがいい」

・なお待機中・尾行中は可能な範囲で記録を取り、後日感想もまじえ、編集部に提出する。

・また待機中は退屈なので「待ちながらすること」しりとりを実行する。前回の「うだつをあげる」の続きの「る」から始める。

以上

車掌編集部「鳴くまで待つ」実行委員長　塔島ひろみ

待ちながらすることしりとり（前6回分）

待つ→つらい思い出話→しいたけ栽培→イライラ→乱取り→立位前屈→つかの間の休息→靴みがき→恐怖新聞を読む→ムーを読む→昔ばなし→しらみとり→リゲインを飲む→無駄話→しりとり→臨機応変な行動→海釣り→リンガーハットで食事→ジュースを飲む→無理やり暗記→きつねうどんを食べる→ルンバを踊る→留守番をする→ルマンドを買う→運転免許の更新をする→ルックスを磨く→九九を覚える→ルソーの絵にいたずら→ラジオを聞く→クオカード眺め→目薬をさす→ストレートを磨く→クッキーを焼く→靴磨き→金魚の餌やり→理想の人生を考える→ルート検索→苦渋の選択→クイズを解く→熊の木彫り作り→リスの餌やり→陸ガメの世話→輪投げ→原付免許の勉強→梅酒作り→リクライニングシートでくつろぐ→グーグル検索→栗の皮むき→金髪に染める→類似商品を見分ける→ルビーの指輪を口ずさむ→ムラムラするだけ→献血→罪滅ぼし→シクラメンの香りを口ずさむ→ムード作り→リラックスする→ルージュを選びに行く→靴下を編む→昔のことを思い出す→するめをあぶる→ルノアールでアイスコーヒーを飲む→難しい本を読む→結び目をほどく→クリスマスケーキを買いに行く→薬の用意→祈り→リンスの詰め替え→縁側の掃除→事後処理→離乳食を作る→ルノアールでブラックコーヒーを飲む→無印良品で買い物→のんびり→倫理の勉強→歌の練習→梅酒づくり→離婚した場合の生活設計を考える→累積赤字を計算する→ルノアールでオレンジジュースを飲む→息子と遊ぶ→文具の整理→履歴書を書く→工藤さんとおしゃべり→稟議書を書く→臭いものしりとり→理髪店に行く→黒田さんとおしゃべり→利尿剤を飲む→むすんでひらいて→テレクラに行く→空想→梅ジャム作り→リモコン掃除→次男と遊ぶ→武家諸法度の暗記→きつねうどんを食べる→ルノアールの机にいたずら書き→きしめんを食べる→ルノアールの従業員とおしゃべり→理化学研究所に抗議の電話をする→ルノアールの間取り図を書く→首の運動（前嶋）→梅干しを食べる（伊藤）→ルーマニアのことを調べる→ルービックキューブを完成させる→ルーペで観察→爪切り→療養→ウノ→飲む→ムード歌謡を口ずさむ→昔を思う→ウルトラマンのDVDを観る→ルンバを検索→暮らしの手帖を読む→ムカデを探す→推理小説を読む→むかつく→薬をのむ→無駄遣いする→ルーマニア映画を観る→ルパン三世の歌を歌う→ウサギの世話→わかめサラダのレシピを探す→スイカを食べる→ルソーの本を読む→紫式部の本を読む→むなしく過ごす→スマップの歌をうたう（伊藤）→馬の予想（三本）→ウエイトリフティング（神田）→軍歌をうたう→うなじを探す→スロット→土佐犬の世話→ワンズの歌を覚える→ルフィーの真似→猫の世話→忘れ物のありかを思い出す→スイカ割り→リスの世話→ワニの世話→わるだくみ→ミカンを食べる→ルチャリブレの練習→海町ダイアリーを読む→ムクドリの世話→ワインの熟成→イシルの熟成→イクラを食べる→ルチャリブレの鑑賞→うだつをあげる

一．杖を持った老人

岳人レポート

２０１５年9月３０日

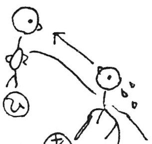
月日の経つのは早いもの。第1回目の尾行からはや1年以上が過ぎてしまった。あの頃まだ見える形としてはこの世に出現していなかった我が子も、今ではつかまり立ちをし、納豆ごはんを食べ、おならをしたりしている。一方あのころしっかりと我々にその姿を見せていた標的は、その存在をすっかりこの世から消してしまったままでいる。果たしてこの先、あの男の肉体が再び目の前に現れて声を発することなどあるのだろうか？……と考えながら船橋駅からの道をてくてく歩き、１５時１５分標的宅前到着。現場は以前となんら変わったところはない（ように見える）。前回はとんでもない酷暑だったが、今日は暑くもなく寒くもない、非常に張り込みのしやすい陽気だ。橋の上に佇み、標的宅に通じる路地の入口あたりを見つめる。しかしなにもないまま３０分が経過。トイレに行きたくなり、勝手知りたるなんとかマートで用をすませ戻ってくると、ひろみさんと緑色の杖を持った老人（男性）が橋のところに立っていた。

塔島レポート

ここに謝覚人という一人のヨイヨイの男がいる。２０１５年9月３０日、私は鳴くまで待つための場所に向う途上の橋の上で、３月１１日に我々を恐怖のどん底に陥れた当時えんじのジャケットを着た男とすれ違った。彼はただの通行人の私に見向きはしなかったが、今日もこいつが自転車でうろついているのは実に具合が悪く、不吉なことだ。

と思いながら現場に到着してみると、先に来ているはずの伊藤の姿はなく、代わりに向こうから小柄な老人が歩いてきた。標的は「小柄なおじいさん」と聞いている。もしや、と思い身を固くしていると、老人は杖をついて苦しそうに坂を登りながら、坂の天辺にいる私に照準を合わせている。坂を登っているというより、私に近付きたい気持ちでしかもそれを私にアピールする感じに、顔はあくまでも私に向けたまま、坂をヨタヨタと登って来るのだ。

とすると、これは標的ではなく謝覚人なのでは、と私は思った。しかしやはり標的かもしれないとも思った。いるはずの岳人がいない理由がわからないことも、私の混乱を増幅させ、私はどうしていいかわからないまま坂の天辺で私にゆっくりゆっくり迫りくる老人を待ちうけた。そして老人は私に到着した。標的ではなく、ヨイヨイの謝覚人氏であり、安心した。



謝覚人氏は車掌にたびたび登場する車掌関係者の老人で、車掌関係者になった頃は中年だったが、今はヨイヨイの老人である。そして実は彼は岳人の標的のご近所さんなのだ！

どうも住所が近いので、老人同士だし、何かに利用できるかもと思って、こんな平日、日中の尾行であるが、声をかけてみたのであった。

まさか本当に来てくれるとは！　感謝感激。やいのやいの。旧交を温めているうち、トイレに行ってたという伊藤岳人も戻ってきて３人がそろった。

聞いてみると、同町内でも近くはなく、２５分かけてここまで来たそうで、この時点で彼の利用価値はマイナス１ポイントとなった。

近所なら、ちょくちょくここへ足を運んでもらい、標的の生死を確認したり、動向を探ったりという任務を押しつけることも考えていたからだ。

二．因縁の男

塔島レポート

さて謝覚人も巻き込みながらしりとり開始。うだつをあげるからで謝覚人が

「流浪の歌を歌う」

とすぐ言う。流浪のうたとは何であろうか。固有名詞かそれともジャンルか？　咄嗟に「流浪の民」と、「♪流れ流れてゆくあてもない」という歌詞の２つの歌が思い浮かんだ。謝覚人は「あるでしょ、ねぇ、流浪の歌って」と言った。私はすぐ岳人が「宇都宮餃子を食べる」と言った。私は「ルのつく言葉を考える」と言った。謝覚人は「ルンペンと会話を交わす」と言った。「る」でも一向に困らない元社会科教師の謝覚人はそして「このすぐ近くに太宰の住居があった」という新事実をついでに我々に教えてくれる。私はそれを書きとめる。その時である。

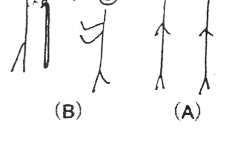
岳人レポート

そこに一台の自転車が我々の真横を通り過ぎていき、ひろみさんが怯えた顔で「このあいだの自転車」と言う。前回は現れなかったが（僕が気づかなかっただけ？）、彼はあいかわらずこの町内のパトロールを続けているらしい。

塔島レポート

そして集まって何かやってる我々を、今度ははっきりと見たのであった。１６：３０。

このとき明らかに謝覚人は役に立った。謝覚人がいなければ、ただじっと立っている二人（Ａ）。謝覚人がいたから、楽しそうに話している三人（Ｂ）。そう、彼が見たものは、全く怪しくない我々の姿だったのだ。本当に助かった。



岳人レポート

謝覚人さんのような老人が一緒にいると、なぜかそれほど不安な気持ちにはならず、３人で橋のたもとに立ち、張り込みを続ける。

三．現場界隈

塔島レポート

さて、その太宰の住居跡はここのとても近所なので、行ってみないかと謝覚人が誘った。尾行中に観光に？！　さすが元高校教師の現場感覚は警察並み。恐れ入りながら岳人を残し私だけついていくと、何とそこから３０秒ほどの場所に太宰治が昔住んでいたことがわかる。太宰はこの地でダスゲマイネや虚構の春とかを書いたのである。しかも太宰が利用していたというカワナベ書店という本屋がその辺にあるそうだが、謝覚人はそこの息子と同級生だそうであ

る。しかし何と、その息子は若くしてヤクザに殺されてしまったそうである。

そのほかマンガ橋、成田街道、滝不動、きちがい病院などもそばにあり、謝覚人もそのうちその病院に入ることになるかもだそうだ。

あと謝覚人の家は老人世帯だけど、奥さんは日中一度だけもっと早い時間に買い物に（ヨーカドー）行き、その他はあまり外出しない、という、標的の生活行動の参考になる情報も得た。

そんなわけで地元民つきの張り込みはとても心強かったが、しりとりはあまり進まない。

水墨画を書く（岳）→蜘蛛の巣集め（ひ）→面倒なことを言う（謝）→受付業務（岳）→麦わら帽子を編む（ひ）→無理難題をふっかける（謝）

岳人レポート

しりとりをしながら、船橋の歴史についての話、大沢樹生の話などをし、太宰治旧居跡を見にいったりしていたら、あっという間に17時半、あたりはもう黄昏状態となった。

三．乗用車と老人

塔島レポート

ところで標的宅だが、以前と少しも変わらず表札も出ているが、ぴくりとも動かず、中に死人がいるのか岳人がいるのか無人なのか皆目分からないありさまだった。

玄関脇にレジャーシートでくるんだ何かが置いてあるが、それは前はなかった気がする。

岳人レポート

と、ひろみさんが「ダイレクトメールを入れるふりをしてポストの様子を見にいく」と大胆なことを言って現場へ。

そして路地に入りすぐに出てきたひろみさんは手招きをしている。

塔島レポート

暗くなったので、明りがついているかを確認するため、私は標的宅へ行ってみた。岳人レポートにあるダイレクトメール発言は、伊藤の記憶違いで、このときは私はポストでなく標的家の点灯事情を見に行ったのである。するとついているかいないかが外からでは皆目分からず、空しく戻ろうとしたとき、車が入ってきた。

習志野ナンバーのその車には、小柄な老人が乗っている（自分で運転）。標的宅のまん前に停めようとしていて、緊急事態発生である。私は坂の上にいる岳人を（早く早く！）と、手招きで呼んだ。

ところがそしたら、全く驚いたことに、岳人と一緒に謝覚人が、緊迫した顔でホイホイと杖をつき、坂を転がるように降りてきたのである。

岳人レポート

謝覚人さんと行ってみる。すると、標的宅前にひとりの人影がいた。一瞬標的かと思うが、よく見てみるとそうではなく、たしか前々回にも現れた「車でこの路地にやってきた男」だった。そして、やはりさっきはなかった自動車が前のように標的宅前に停めてある。

塔島レポート

そして謝覚人氏は、我々とともに車を見張り、我々とともに車内の人物を観察し、我々とともに素知らぬ顔で現場を離れた。

岳人レポート

路地から離れ、ひろみさんとこの男と標的の関係について話し合うが建設的な結論は出ない。

塔島レポート

車から降りた老人は、こっち（公道側）に戻ってきて角のアパートに入って行って何かしている。何かチョロチョロしていてこちらもやりにくく、顔をそむけていたらそのうち消えてしまった。

四．点灯

塔島レポート

「流浪の民に思いを馳せる」（岳人）。しりとり再開。岳人世代もやはり流浪と言えば、民なのだろうか。「ルクセンブルグの街並みを想像する」（ひろみ）。「ルビーの模造品を探す」（謝）。

謝覚人がトイレに行くと言っていなくなった。5時40分過ぎ。もうとても暗い。

私は標的宅に新聞が届いているかを見に行くことにした。夕刊が入っていれば住んでいる。チラシがたまっていれば住んでいない。暗くなった路地にチラシ配達人ということにして入って行ったが、ポストに行きつく前におぉっ！

何と標的宅に明りがついてて、ずっと奥の方まで見える！

そして、中に男がいて、歩いている！

岳人レポート

現場を見にいったひろみさんから「部屋の電気がついていて人がいるのが見えた」という衝撃的な報告を受ける。慌てて行ってみると、たしかに玄関の横の小さなガラス戸に明かりがあり、戸も開いていて中が見える。けれど人の姿は確認できない。

塔島レポート

私もまた行ってみる。やはり男は消えていた。

こうなると私が見た男の記憶が重要になるが、もともと標的を知らない私にはそれが標的かどうだかがわからない。

しかし何となく小柄ではなく、そんな老人でもなかった気がする。

岳人レポート

その人物と標的の関係についてさらに話し合いを試みるが、やはり建設的な結論は出ず。

五．パトロール

塔島レポート

駐車場でコソコソ話している我々の前を、又もや自転車の例のあいつが通り過ぎた。いったいこの人は何なのか？

こいつこそ怪しい犯罪人なのではないだろうか？（たとえば標的を殺し、気になって現場をうろついている）

謝覚人が戻ってきた。張り込み場所が駐車場になり、もう

2時間も不自由な足で立ちっぱなしの謝覚人は杖を倒したり、自販機をつかんで身体を支えたりと、痛々しいが、弱音も吐かなければ、帰ろうともせず、男らしいことこの上ない。

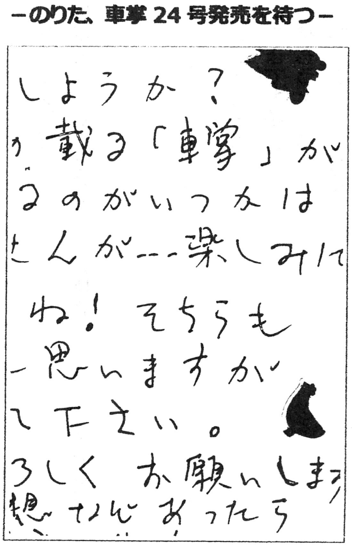
岳人レポート

そして18時、時間切れで終了。もうあたりは真っ暗。ひろみさんと謝覚人さんの姿はシルエットになっている。せめて家にいたのかいなかったのかだけでも知りたかったなーと思う。

空き待ち企画「二軍ちゃん」
―塔島ひろみの観察メモから

春日。三田線ホーム。電車待つおばさん(50～60代)かばんをごそごそしてるので、何が出てくるか楽しみにしていると、ナイロンバッグが出てきた。そして畳み直してカバンにいれ直し。おわり。そしてよいタイミングで電車到着。(2013年7月19日)

―のりた、車掌24号発売を待つ―


しようか？
…載る「車掌」が
…るのがいつかは
…たんが…楽しみにて
ね！ そちらも
…思いますが
…て下さい。
…ろしくお願いします
…想なんどあったら

(2006年12月2日)

空き待ち企画「二軍ちゃん」
―塔島ひろみの日記から

2011年9月22日(木)
昨日は渋谷で1時間ほどバスを待った。待ち過ぎて驚いた。今まで標的をこのぐらい待ったことはあるが、バスはこんなに待つのは初めてだ。でその間に頭の中で詩を作る。

私はバスを待っている／あなたもバスを待っている／その女もバスを待っている
待って待って待ちつくして／つまようじみたいに立ちつくして／足と地面の境がわからなくなった頃／バスが来た

バスの運転手は高齢者(後期)と子ども(未就学児童)
バスの中にはたくさんの死体／バスは燃えながら走ってきた／焼死体を積んで走ってきた
バスが何とか止まり　バスは何とかドアを開ける
乗りこむ人々／乗りこむ我々／乗りこむ猫の又七／ドアが閉まる

私は焼死体になり走っている／あなたも焼死体になり走っている／猫の親子も焼死体になり走っている　楽しい遠足のようなバスだ
焼死体団体貸切バス

都圏

帰宅ラッ

本州を縦断した強い台風15号の影響で、各地の交通網が寸断され、首都圏では帰宅ラッシュ時に混乱が起きた。激しい風雨による死者と行方不明者は、21日夜までに計13人にのぼった。
▼38・39面＝各地の被

神奈川で垂れた電線に触れて1人が感電死したほか、死者は愛知2人、岐阜
愛媛1人、佐賀1人
静岡

市内の那珂川が氾
れがあるとして、
1万2400世
に避難指示を出
県須賀川市で
浸水し

2011年9月22日朝日新聞

9月23日(金)
明学のオリ祭に行き、写真部の展示を見てて「鳩待峠」とか書いてある風景写真発見。詳細を知りたい。今日はすんごく混んでて、待ちに待った。ついでに武内氏にまで、40分も待たされたあげく(広報委員の仕事)、来ても渡部氏(広報委員幹部)と関係ない話で(学校の運営について)論議してて、それが終わるまで待たされて、冴えなかった。

・人が多いと待つ指数が増す。

また、麦子は私と武内氏の話の間もただじっと待ってて、かわいそうだった。武内氏との用事に絡む麦子の待ち時間は、2:00-2:30、3:30-5:00の2時間待ちで、21日の私のバス待ちより長かった。ごめんね！

9月24日(土)
野間宏の真空地帯を読み出したんだけど、結構待つ文学だ。(新潮現代文学27)まず11pで木谷は中隊の事務室で中隊長が来るのを長い間待っていた。
この前のバス待ちで感じたのは、
・待つことだけをやって待つ「待つ」
・待っている間何かして待つ「待つ」
と2個の待ち方があり、前者は純粋待つ、後者は不純な待つだ。昨日麦子はかなり長いこと純粋待つを行った。で11pの木谷の場合、
小さい長椅子に頭をたれてすわって待ち始め、その間に
★准尉と話す
★曹長と准尉との会話を聞く
★軍曹の中隊当番への呼びかけを聞く
★そして曹長と軍曹が自分の方を見ながら話してる気がし、すごく気にする
・中隊長が来る。
もし、待たない場合には、★印の行為を行わないなら、待ちによって★をしたことになり、待ちがこの人の人生に十を及ぼしていることがわかる。

ーのりた、車掌24号発売を待つー

（2011年1月1日）

2010年正月、車掌編集部は車掌24号の編集に追われていた。車掌編集部は、その前年の2009年も、その前々年の2008年も、その前々年の2007年も、車掌24号の編集に追われていた。追われ追われて幾千里。もはや車掌24号を待つ人がのりたゆりえ氏一人になったころ、車掌忘年会の案内が読者・関係者のもとに届いた。

あけましておめでとうございます。

日ごろは車掌をご愛顧いただきまして、誠にありがとうございます。旧年中、車掌編集部はただただ24号の編集に終始し、車掌の発行をはじめ何ら表立った活動をいたしませんでした。それは24号がとても面倒な号だからなのですが、そしてそのため25号は「待つ」特集の号なのですが、私たちが引きこもっている間、皆様はどのようにご成長・ご発展を遂げられていたでしょうか。2009年。とはなんだったのか。を改めて見つめ直し語り合いながら料理を待つ、「24号お待たせ記念2009年忘年会」（以下「09忘年会」）を、車掌25号の企画の一環として、ここに計画いたしました。09忘年会は、その数字にちなみ人数がちょうど9人集まったときに開かれますが、当日キャンセル者が出たりその9人での日程調整等が難航したら出直しになります。09忘年会は人数がちょうど9人集まるまでいつまでも待って、ずいぶんあとに開催されるかもしれませんが、内容はあくまでも2009年の忘年会です。参加希望される場合は、車掌編集部「09忘年会係」までお申し込みください。

皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

2010年　元旦

車掌編集部代表　塔島ひろみ

24号お待たせ記念2009年忘年会

（待った人ほど長く書ける）

（注文が来た順番・注文品名・参加者名）	
1 からしれんこん　宮野真一	**2009年7月について** 7月は、（2010年12月18日現在）私の最新映画を上映した月なので7月を選びました。車掌スタッフを離れだいぶ間があいてしまったが、新しい車掌が出版されるまでまだスタッフであるらしい。映画の話に戻るがタイトルは「ぴんくノイズ」。そういえば「ピンクノイズ」のシナリオを掲載する予定の「マイノリティ」もいまだ出版されていない。「ピンクノイズ」の主演はSATOMIさん。
2 たことれんこんのガーリックいため　タキナミ	**2009年5月** 16日　急に自然が恋しくなって夫と奥多摩に行ったら小雨が降っていたので駅前をウロウロした。22日　ユニコーンの武道館のライブに行った。
3 たこねぎ　門戸大輔	**2009年11月** 38歳になった。11月29日。毎年その歳のごろに合わせたことを行っているので、380円セットのものがないか、私は考えていました。牛丼やマクドナルドに行ったが、380円ぴったりものは見つからなかった。それから魚屋（阿佐ヶ谷ゴールド街）に行きカンパチがないか探したが、買わなかった。夜になって、恋人がケーキを買って帰ってきた。そして母から電話があった。
たぶん**4** レンコンコロッケ　山田幸司	**2009年6月** ロス→ラスベガス→セドナ　ドライブ旅行 セドナ→ロス間でスピードいはんの写真をとられて、帰国後レンタカー会社を通し、ケーサツから連絡 ネットで写真を確認。 ばっ金¥500
5か**6** ハッシュドれんこん　かおる	**2009年10月**の思い出 子供の1才半検診があった。そこで息子は ・つみきをつむのが好きでいつまでも積む ・つみきテストが終わっても積もうとする ・かと思うと別の親子の間にわりこんでさわぐ

お待たせ記念忘年会

「待つ特集」にちなんで、０９年にちなんで、参加人数がちょうど９人集まるまで待ってから開催する忘年会だったので、ちょうど９人集まるのを待って、待って、そしてついに世間では２０１０年の忘年会をやるぐらいの時期を迎えた。

お待たせいたしました。

もうお忘れの方もいるかもしれませんが、みなさまが参加申込をなされました標記忘年会が、ついに行われそうな雲行きです。２００９年。とはなんだったのか。を改めて見つめ直し語り合いながら料理を待つ、車掌２５号の企画の一環として、ずいぶん前に計画された忘年会です。その数字にちなみ人数がちょうど９人集まったときに開かれ、当日キャンセル者が出たりその９人での日程調整等が難航したら出直しになり、人数がちょうど９人集まるまでいつまでも待って、ずいぶんあとに開催されても、内容はあくまでも２００９年の忘年会だ、という忘年会です。

集合日時：１１月２７日（土）17:00　集合場所：←車掌２２-２号表紙撮影場所（車掌２２-４号Ｐ４３や、車掌７号参照）

ご参加いただける場合、１１月１２日まで(必着)に
Fax: 03-3794-5126、email: toujimahiromi@nifty.com
郵便：〒152-0011 東京都目黒区原町 2-1-14 塔島方車掌編集部
のどれか宛てに参加の意思をご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

２０１０年１１月　大安　車掌編集部　代表　塔島ひろみ

ついにこんな（↑）案内を出すまでにことが運んだのである。そして１１月２７日は無理でしたが、粘り強く調整を行った末ようやく、１２月１８日という運命の日に、ついに待ちに待った０９忘年会が実施された。

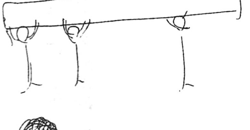
会場は上野のレンコン居酒屋。参加者９名はそれぞれ違うメニューを注文し、自分のオーダーが到着するまでの待ち時間に、２００９年の特定月についてその思い出をカレンダーにしたためた。

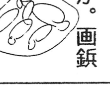
参加者９名それぞれの２００９年を、下記にご紹介いたしましょう。

・勝手に部屋を出ていき、くつをはいて戻ってくる（和室に）
・その間に大声でしかったり、よんだりしても無視
という状態だったので、発達が心配な子として「のびのび教室」というのを紹介されてしまった。
タダだし、おやつも出るというので参加。（月２回）
いまだに通っている。子供の様子はだいぶましになった？
息子がスイミングに通い始めて1年たった頃である
スイミングは楽しみ（息子は）だが、私は他のママさんたちにいまだになじめず。
前年、1才半すぎると楽になるよと夫のイトコに言われたので、楽しみにしていた。（この頃1才7カ月）楽になったか？　子供のことばかりで自分自身、夫のことが思い出せない。
10月、つくばは紅葉がキレイで良い季節である。

5か6
しょうが焼サラダ
塔島ひろみ

２００９年９月１２日　碑文谷八幡例大祭
いつも通りのお祭り
・子供みこしをかつぐ麦子
・ゆかた（黒）（麦子）
・みきお（甥）
・塔島家でのお昼→この年が最後
・経子
・たこ焼
・町田さん
・型抜きにはまる　１００円か、２００円か、３００円かで、絶対にできないが。画鋲でキリキリやる。
・金魚すくいで、金魚を残り全部、８匹ぐらいもらった
↓急に金魚鉢の人口密度が増え、金魚が泳げないことになった
↓次々に死に、３年ぐらいずっといた前からの金魚もついでに死んだ。（１２月くらい）





7
レンコンニョッキ
舟久保文恵

２００９年１２月
チケットのオフ会もあったが、ライブと重なっていけなかった。
忘年会に５つぐらい出る。うぐいす谷ホワッツアップの忘年会が19:00ぐらいからかと思っていたら、深夜24:00からなのでびっくりする。なんとなく、いごこちが悪かったな。
彼氏ができて、３ヶ月ぐらいだったので、電話で彼氏だよねって確にんしたら、まだ３ケ月もたってないじゃんと言われる。
２５日のクリスマスは、うぐいす谷ホワッツアップでライブ。今年も恋人（２０１０年にうんざりして、連絡をするのをやめる）と過ごすクリスマスはなかった。一応彼氏がいるはずなのに、ひどい。く…。
>

空き待ち企画「二軍ちゃん」―塔島ひろみの日記から

2011年11月19日(土)

「真空地帯」を返さねばならないので、せっかく付箋がついてる「待つ」だけ、ちょっと見てみよう。(カラー版日本文学全集35(河出書房)p39)

曾田一等兵は木谷が或いは便所に行ったのではないかと思ってしばらく待っていた。しかし木谷はなかなか帰ってこなかった。で便所ではないと判断し待つのをやめたようだが、

・誰かが不在のとき、トイレ?と思って待つとき、大体何分待ってトイレではないと判断するか?

という問題がある。

そのあと同ページ:

そこで彼はたれか初年兵が通りかかればそれのもっている帽子を借りようと思って、石廊下の裏手の便所へ出る通りのところでまっていると、一番最初にそこを通りかかったのは、初年兵の弓山だった。

でも弓山からは、彼は帽子を借りずそのあとにきた染に借りた。

弓山と話してる間に染がきて、染からの方が借りやすかったたから。

で便所にいくと(便所にいくのに帽子が必要)窓ごしに、射てき台の裏側に木谷をみつけた。

待っていた人を別の展開の中でみつけている。

待つことの多い本なので他にもこういう待つがあるかチェックしながら読んでいこう。

2012年11月12日

H22・11・20にコピー保管した源氏の中の待つ。(四)p30。

もう忘れちゃったけど、朱雀が女三の宮を待っているようだ。女三て、源氏の奥さんになった子供だった気がするけど、何だっけ? 源氏は、朱雀が女三を待ってるのが心苦しいと。朱雀と女三の関係て何だっけ?

ま、とにかく男を待たせる女は悲しくても美しく、男を待つ女はみじめでブスだ。

同じく(四)p41.「五月待つ花立ちばな」(待って咲く)

待つ、には「いついつまでは…ができない(またはしない)という意味がいつもこめられている。

待つ、は行為を表わす動詞のくせに、行為をしない、という意味を持つ変な言葉。

懐しくて、「五月待つ花
、うち解けぬ御けはひど
の、見し折よりも、ねび

お待たせ記念忘年会

8

れんこん焼き

小林絵理子

2009年8月

25日あたり　彼氏と多量服薬　死にかける

彼氏と多量服薬する前は、一週間に一度くらい10錠程のオーバードゥーズを繰り返す人生で一番つらい時でした。

人工とうせき4回、一週間入院。

クリニックへの不信と、怒りがこみあげました。

その後べてるの方々に助けていただきました。

首のところに人工とうせきのあとは残るし、体も壊すし、最悪でした・・・・・・

人生の次のステージに移った、そんな2009年8月でした・・・

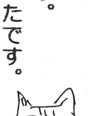
日本の精神科医って本当に遅れてるし、インチキですね!!

いそいそと見えました、病院と、製薬会社のゆ着、もうこの業界から抜け出したいです。

ひまだから猫を描きます

精神病新聞をよりよいものにしたいです。

この頃は調子悪すぎてワケわからなかったです。



詳しくは精神病新聞増刊「和解」を読んでください。(アピール)

9

れんこんとえびのはさみあげ

神田ぱん

2009年1月

18:05注文　18:24到着

伊藤左千夫氏をしのび短歌に親しむことを目的にした千葉県山武市の第57回伊藤左千夫短歌大会高校生の部で、成東高校2年の菱木俊雄君(17)の作品が市長賞に輝いた。

受賞作品は

ぼくゴリラ　ウホホイウッホ
ウホホホホ
ウッホホウッホ　ウホホホホーイ

これはのちに「ピューと吹くジャガー」の第129笛に出てくる「ゴリラ人間」という詩に酷似していると盗作ギワクがおきた。ゴリラ人間は「ウッホッホ　ウッホッホ　ウッホーウッホ　ウホウホ　ウッホオーウホウホウッホオーウ　ウホウホウホホ　キェーウォホー　ハアハア　ウホウホウホウホ好きですつきあって下さい」というもの。

ピューと吹くジャガーからパクッたんならしょうがないと思った。

ここまでかいてもこないのでまだかく。

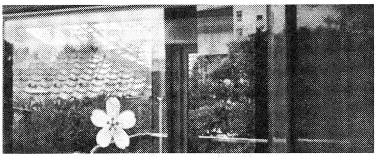
1/16尾久の「司」というのみやへロケハンに行きおさけをのんでたら、座しきからオヤジ客がころがり落ちごろごろ転がり、柱の角にぶつかって頭部を強打した。

「ご」という音がしたから、死んだな。と思った。

もし死んだら、店の責任はどうなるのだろう?ということを考えつつも、ホントは(こんな事件がおきたら取材どころじゃねえ・・・)と自己都合を真っ先に思いやった。オヤジが死んだら恨もうとしたけどオヤジは死なずに起き上がった。そして「てへへ」と

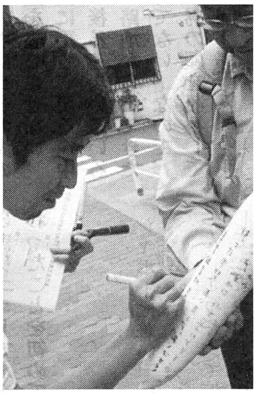
待乳山アゲイン（112頁〜113頁）

破られるのを待つ提灯と蹴り飛ばされるのを待つ大根箱



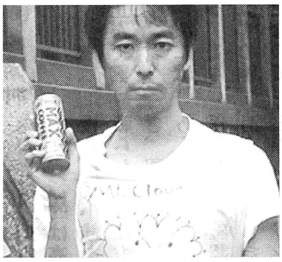
落書きを待つ聖天内のモノレール

乳、ついに来る



乳の受取証作成中

それぞれもらったものを持って、エロ桶の前で記念撮影

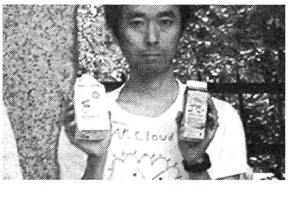


第二の乳はマックスコーヒーに混入して到着

栃木から乳を届けに来た山田氏（中央）。笹井氏（左）はこのあと全ての写真に登場

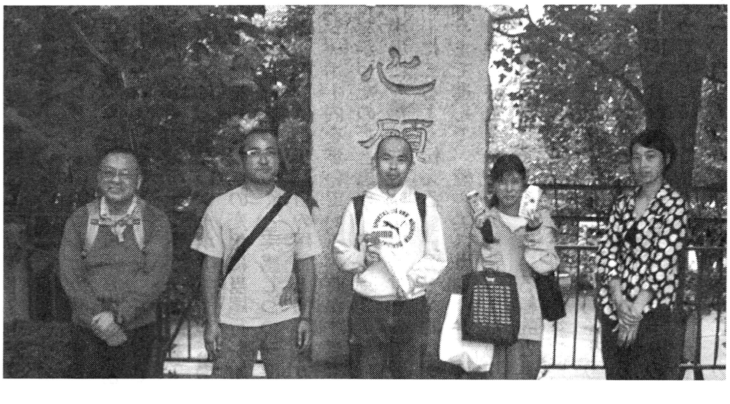
人が増えるごと、大根は小さくなっていく

明治「おいしい牛乳」



豆の乳と乳飲料（コーヒー）

待乳山聖天内の「心願成就」碑の前で最後の写真。寺男らは厳しいが聖天様は我々を祝福してくれた。



鳴くまで待つ

2015年11月　第9日め

石の上にも三年、待てば海路の日和あり編

伊藤岳人が標的の声を聞くまで続くこの尾行も9日めを迎えた。反復の好きな私だが、失敗の反復はやはり失敗のようである。ここらでレイアウトを少し変えて様子をみよう。

神田ぱん

尾行、とてもだれている。

まったくやる気がおきない。

しかも今回は伊藤岳人さんと2人っぽくて、伊藤さんと2人なんてやだなーと思ってグズグズしたくしてたら遅刻した。

どうせ時間通りに行ってもしりとりするだけだしいいや……となめてたら、いつものガード下には誰もいなくて、あわてて伊藤さんに電話するとシャポーにいると言う。また

駅に逆戻りか、あーあ。

伊藤岳人

2015年11月26日（木）

13時30分、現場到着。朝から降っていた雨は止んで雲の隙間から薄日も射しているが、風が冷たくてすごく寒い。いつものように川にかかる橋の上で張り込み開始。川にはこれまで見たことのなかったたくさんのカモがいる。くるはずの神田さんもこない。14時10分、40分経ったがなにも動きなし。よってしりとりもできない。退屈なので標的宅前を見にいってみる。このあいだと同じ（たぶん）シルバーの車が停まっている。標的の家の中は真冬の湖のように静まり返っていて、人のいる気配を感じさせない。詮なき気持ちでまたとぼとぼと橋の方向に戻り、戻る途中でふと振り返ると、標的によく似た男が後ろを歩いているのが見えた。すごくよく似ている!が、路地から出てきたところを見たわけではないので確信が持てない。なので、立ちどまって自分の前を通りすぎるその男の顔を凝視してみる。間違いない、標的だ、と思った瞬間、標的は僕の顔をギロッと見てまたスタスタと歩き、一度振り返ってこちらの様子をうかがったあと再びスタスタと駅に通じる方向へと歩いていった。なんということだろう、標的が出てきたのはラッキーだったが顔を覚えられたうえ完全に怪しまれてしまった！　でも応援隊もいないし、ここは危険を顧みず尾行するしかない。と覚悟を決め、少し距離を置きながらあとを追う。追いながら標的の後ろ姿を観察。やけに薄着だ。この寒さなのに上着はなしで、薄手の生地の長袖シャツに紺のズボンという姿。そして毎度おなじみの帽子に、手ぶらなのもいつもと同じ。薄着で寒いのか、両手をズボンのポケットに入れて歩いている。そしてやっぱりときどき振り返る。これはやばい、本当にやばいと思っていたら、標的は高架線の下にある自販機の前で立ちどまり、投入口に小銭を入れ出した。僕を先に行かせようという作戦らしい。仕方がないのでわざとらしく標的の横を通りすぎ、駅のほうに向かって歩く。そしてその途中の道沿いにあるサンクスにさりげなく入り、店内から店の前を通りすぎる標的を確認、また距離をあけてあとを追う。僕の姿が消えて安心したのか、標的はもう振り返らなくなった。14時21分、シャポーの建物に入りエスカレーターを降りる標的。壁に貼られたポスターには大きな字で「11月13日リニューアルオープン！」とあり、同施設の改装が終わったことを初めて知る。

神田ぱん

シャポーに着いて伊藤さんに電話すると、いまシャポーから出た、一段落したら連絡すると言う。

ふん。こうやって振り回された挙げ句、どうせ標的が帰宅してしまって、残り時間だらだらしりとりやって終わりなんでしょ。

と思いつつ伊藤さんに電話したら、あんのじょう標的は帰宅してしまったそうで、またいつものガード下へ向かった。

二度手間なんだよ。

伊藤岳人

なるほど……と思っていると、標的はエスカレーター降りてすぐのY'S martの店内を進んでいき、米袋が積んであるコーナーで歩をとめ、2キロ980円のコシヒカリの袋をじーっと見た。が、手にとることはせず再度歩き出し、Y'S martを抜けてシャポーの中の通路をまたズンズンと歩いていく。追いながら見ると、施設内のテナントが一新されている。そしてリニューアルにともないシャポーちゃん広場もなくなってしまったことを知る。この変化に当尾行が始まってから流れた時間の長さをつくづくと実感しつつ、標的の背中の写真を撮る。標的は第1回目の尾行と同じように後ろに手を組んでシャポー内を歩いている。時がすぎても標的だけは変わらなかったのだと思う。14時24分、神田さんから着電。現場にきたが誰もいないと言うので、追跡中につきシャポーにくるよう伝える。一方、標的はシャポーの端っこのほうまで進んで、短いエスカレーターに乗り1Fフロアへ。しかし時間をおいてから乗ったつもりだったのに、上りきってみると、すぐそこにいる標的と鉢合わせしてしまった！　仰天して狼狽したが、平静を装い、すぐ前にある「食鮮館」というスーパーに用事があるようなフリをして入店。それから野菜の棚に隠れて標的のほうを見てみる。すると標的、食鮮館には入らず、また下りのエスカレーターに乗って下に降りていってしまった。え？え？と思いながら、自分も急いで降りるべきかエスカ

レーター前で逡巡していると、なんと標的がまた上りのエスカレーターに乗って戻ってくるではないか！　慌ててエスカレーター脇で開催されていた物産展を見る演技などしてみるが、もうこれは危険度100パーセント。案の定、標的は僕のほうをギロリと見て（だがなにも言わず）、今度は左手にある扉から建物の外に出てしまった。ヤバイ状況であることこの上なし、なので、ものすごく距離を置いて（150メートルくらい）小さくなった標的のあとを追う。豆粒みたいな標的は駅前ロータリーの横の道を歩き、京成船橋駅方面へ。そして「京成船橋駅東改札」と表示のある駅ビルの入口の前で立ちどまる。危ない状況は変わりないが、このあたりはかなり人が多いので、離れていれば人ごみに紛れることができて、やや安心。神田さんに電話。京成船橋駅東改札にくるよう指示。しかしどうしたわけか標的はそこからなかなか動かない。腕時計を見たりしているので、誰かと待ち合わせをしているのだろうか？と思ったころ、再びまた歩き出した。信号のある横断歩道を渡り、高架線の下の駐車場を歩き、方向的には自宅のほうへと移動している。と、神田さんから着電。

神田ぱん

いつものガード下ではなく、ガード下近くの橋の上に伊藤さんがいたのでどーしたんスかと聞いたら、標的に気づかれた。ガード下は危険だからここで待機していると言う。なんでも標的は、伊藤さんに気づいて、伊藤さんをまくような行動をしたのだと言う。

伊藤岳人

東改札にきたがどうすればいいのかと言うので、移動中なのでまた連絡すると伝えて電話を切る。14時37分、駐車場を抜けた標的は、今度は日高屋（ラーメン屋）の前で立ちどまっている。そして3分くらいそのままでいたあと、また歩き出す。僕を意識した行動であることは違いないが、なにをどうしたいのかがわからない。さらに離れて200メートルくらい距離をあけ、あとを追う。それから京成の高架線横の道をどんどん歩き、見慣れた風景の住宅街へと戻り、橋を渡り、家に通じる路地を曲がって標的は消えた。時間は14時45分。あえて路地に突入して「ただいま」の声を聞く作戦もあったかもしれないけれど、失敗したときのリスクを考えるとさすがにそれはできなかった。神田さんに電話。帰宅してしまった旨を伝える

神田ぱん

こないだも思ったけど、なぜ標的たちは、まこうとするのだろう。怪しいヤツに尾行されてる…と気づいたんだったら「オマエら何なんだ！　警察呼ぶぞ」ぐらい言ってくればいいのに。そうすればミッションクリアなのに。そんなさー、シロウトがさー、尾行をまくとかさー、ドラマじゃないんだからさー、無理にきまってんじゃん！　とイライラするが、そもそも尾行してるのはこちらの勝手なので仕方がない。

もし私が尾行されたら、そのときは「オマエら何だ！」と言おう、そう決意した。

そして予想通り、残り時間をだらだらしりとりやって終わった。

しりとり以外で伊藤さんから聞いた話は、伊藤さんちの赤ちゃんはもうごはんを食べるということと、いつものガード下の近所に太宰治ゆかりの地（住んでた家？）がある、ということだった。

待つことしりとりもいいかげんネタ切れなので、次こそは声が聞きたいです。

伊藤岳人

合流後、神田さんと張り込みを続ける。しかしそれからはなにもなく、16時、時間切れで終了。結局今回も失敗に終わってしまったが、標的の「生存確認」ができただけでも有意義だった。と思うことにしたい。

しりとりの記録

水彩画を描く（伊藤）↓組み紐作成（神田）↓インド映画を観る↓ルッコラ栽培↓イラン映画を観る↓ルンビニー幼稚園へ散歩↓ポツダム宣言を読む↓ムーンライダースを聴く↓黒ウーロン茶を飲む↓麦茶を飲む↓室井佑月の本を読む↓麦太の投書を読む↓麦太と遊ぶ↓ブックオフめぐり↓リラックマのぬいぐるみを愛でる↓ルーセントパウダーをつけ直す

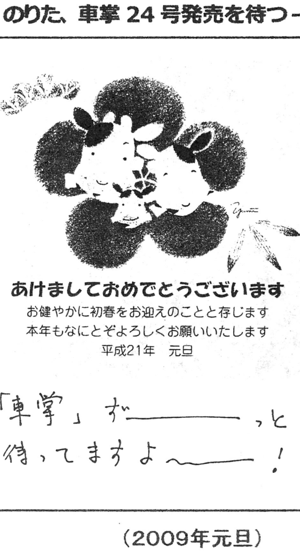
空き待ち企画「二軍ちゃん」―伊藤岳人の「待ってるときにふと考えていたこと日記」から

2013年11月22日(金)13時3分頃〜6分
銀座線銀座駅で浅草方面行きの電車を待っていたときに考えていたのは、帰社してからライターの○○さんに返信するメールの内容。井上さんの本のネタ集めを○○さんにも頼もうと考えた。

2013年11月22日(金)13時9分頃〜12分
東西線日本橋駅で中野方面行きの電車を待っていたときに考えていたのは、高田馬場で昼食になにを食べようかということ。

2013年11月22日(金)13時33分頃〜56分(33〜35分は店外、35〜56分は店内)
べんてんの店の外で席が空くのを待ち、店内でつけ麺（麺少なめ）が出てくるのを待つ。そのときに考えていたのは、アルバイトの女性が変わったなあ、とか、前にいた爽やかな青年はいつ辞めたのかなあ、とか、柔道さんは元気かなあ、とか、（隣の隣の席の）焦がし塩ラーメンも美味しそうだなあ、とかそんなこと。

―のりた、車掌24号発売を待つ―

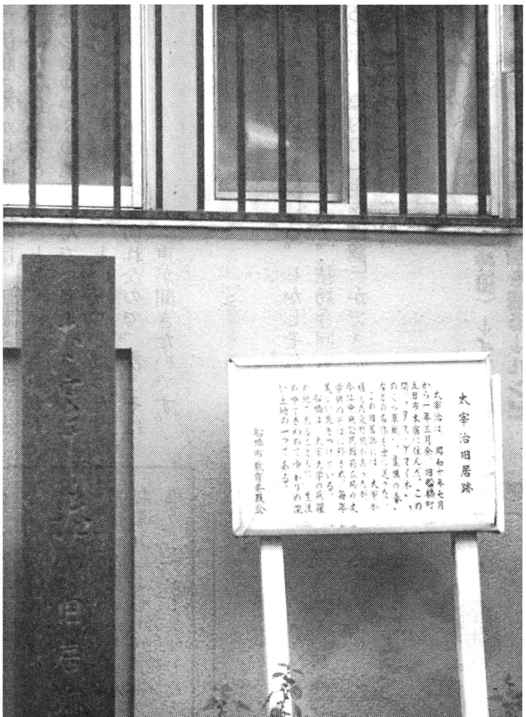


（2009年元旦）

鳴くまで待つ・8　（114頁～117頁）

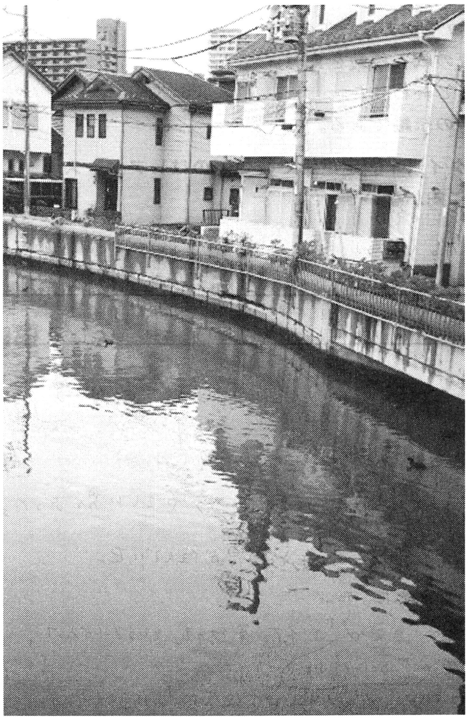
張り込み場所から海老川上流を望む。この先に「滝不動」なるものがあるらしい。

この日大活躍の謝覚人（右）と伊藤岳人（左）。

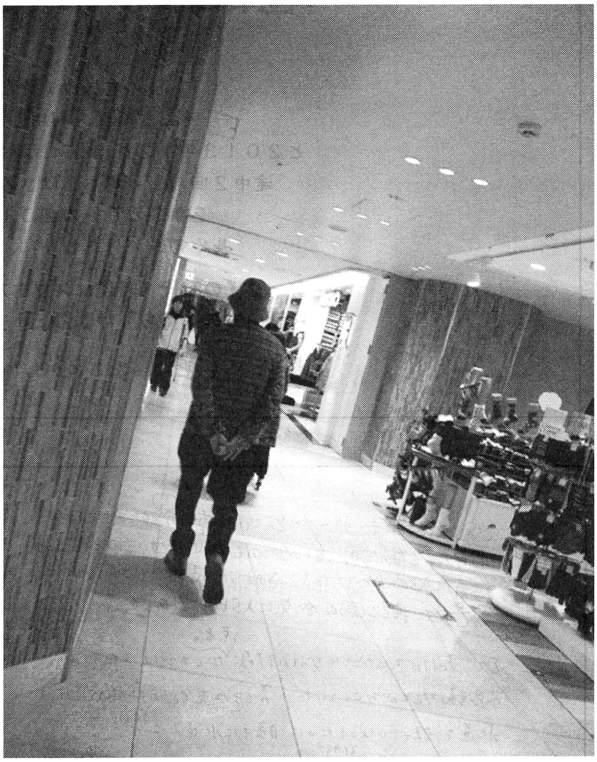


すぐそばにあった「太宰治旧居跡」。「船橋は太宰文学の飛躍の地である」らしい。

鳴くまで待つ・9（122 頁〜123 頁）



川と鴨



シャポー内を歩く標的

空き待ち企画「二軍ちゃん」
―塔島ひろみ信号待ちシリーズ―

2013年5月・目黒区原町

2013年5月・目黒区原町

2013年5月・文京区湯島

2013年5月・台東区上野

2013年6月・目黒区洗足

電話口で小説を　（前半）

電話口で待たされて手持無沙汰。
そんな時間を利用して創作しよう、小説書こう！
と２０１３年１２月に場所は車掌編集部の電話口で始まったこの企画、
途中２回の引っ越しをはさみ、その都度小説の紙も移動を重ね、
２年３カ月後の２０１６年２月、やっと終わった。
長く書き続けたわりに、Ｂ５の紙３枚半の短編である。

・ケータイの時代（時代はスマホだがうちはケータイ）、「固定電話で待つ」のはレアケース
・電話口での［待ち］は緊張・不安を伴い、創作に向かない

といったことがわかり、勉強になった。（塔島）

ごみぶくろの中の赤い帽子がとんでいき、志村の(兄)頭にむけて妹が投げたからなのだが、それというのもなぜやすいものを買うのが気に入らぬかといったら、このように志村がいつも安物を買ってはすぐに捨ててしまうのが気に入らぬのであった。

さて、志村がそんなことになっている間、長者のかしまでは、またふしぎの不思議なことがおこっていた。かしまは長らく海外旅行に行って水道を使っていなかったのに勝手に水道メーターがうごいて、水道を2ヶ月で42m³もつかっていることになっていた。そんなかしまの苦悩や妹からの嫌悪をよそに、志村は祖母宅へ、「自分の名を書き間違えるなんていよいよ危ないんじゃないか？」などと考えながら、安否確認がてらノートを返しにむかっていたが、その途中、パトカーとおれちがった。パトカーの中からいいにおいがしてくる。カレーのにおい！思わずお腹がぐるぐるなった。ところが、パトカーから出てきたのは、加齢臭を放った、長者のかしまだったのだ。かしまは、水道料金をたいのうした罪で、お縄にかかっていたのだった。さあ、それでどういうわけか見られてしまって恥ずかしいが、トイレに行きたくなって途中でパトカーをとめてもらった。志村さん、と声をかけられ、志村をみると、志村ではなかった。え、食事はどうする？くさは？読書会？早いにこした方が？さまざまな記憶がはなの中からにおいとともに洗濯機が走馬灯のように、ぐるぐるとめぐり気がつくと、そこには鹿島も志村もいなかった。さて、警官が志村のそっくりさんは「松本」という名で女だった。子どもであった。

タイトル「しむらのかしま」

待ってるときに小説をかこう！

昔々あるところに、しむらというやさしい男がおった。
となりには長者のかしまという男が住んでいた。
しむらは貧乏だった。
ある日しむらの家のポストに「ご不在連絡帳」というノートが入っていた。
しむらは「ハッ！」とした。ノートをひらく志村。「おばあちゃんです。送りっぱなしでつかえません。どうしたらよいでしょうか。」そんな記述。「おばあちゃんです。送りっぱなしでつかえません。どうしたらよいでしょうか。」と又くりかえし。志村はその文章に全く心あたりがなかったので、これは鹿島さんに届いたものがまちがって入っていたのでは？と、思った。そのノートの裏側を見る。「武田一良」と書いてある。
そして赤帽さんは1月12日できまったように、…はっ！と志村は赤くなった。頭に手をやると帽子が赤くなっている。
もしかすると、武田一良というのは…。志村の父の母、和代氏の書きまちがいぞ。しかし何故ばあちゃんが自分の名前をかきまちがえたりするものだろうか。とうていありえん。頭の帽子は白いものだったはずが、赤くなっていることがわかったのには訳があった。
それは志村がやすいものをかうのが妹の気に入らぬ。妹はいつも歯医者に行く前にゴミをすてる習慣があるが、

空き待ち企画「二軍ちゃん」
―塔島ひろみの日記から

４月１９日（火）
３６　ひろみが食パンを待つ
昨日富士登さんから聞いた話では、すでに２回、食パンが出ている。が私はまだ一度も食パンを食べていない。私の方が前から入院しているのに。私は食パンが好き。ずっと食パンを待っている。そしたらやっと今朝出た！　１１日ぶりのことである。
トーストするか皆で話すが、ホカホカなのでそのまま食べた。
（黒いぱんだった）
３７　紀ノ川ｐ８３-８８　弟が兄嫁を待たす
花が浩策（義弟）の新家へ初訪問！　すると誰もいなかった。で上がりがまちに腰をおろして待つ。
待ちながら進物として持ってきた卵を１個、自分で飲む。
すると女中が出てきた。女中に用があるわけでないので、まだ待つ。
その間に女中と話す。しばらくして本命が現れた。
初めから女中がいれば、卵を飲むはなかっただろう。
女中が間になかったら、もっと前に待ちきれなくなって、卵だけ置いて帰っていたか、
勝手に上がりこんで、見たい部分を見ていただろう。
誰かん家に入って、その人が留守の時、でもその家の他の人がいると不安感が払しょくされるものなので、女中の存在意義は大きい。
しかし待つ間に好き勝手やり

電話口で小説を　（後半）

執筆に参加しているのはこの固定電話を利用している３名（塔島ひろみ、麦太、麦子）である。
このうち塔島麦子は執筆回数が極端に少なく、
それは「リレー小説の執筆は“そこまでの部分を読む”ことから始まる」ことと関係している。
タイトル「しむらのかしま」は最初の執筆者・ひろみが決めた。
貧乏な志村がある日心当たりのないノートを受け取る。
また隣りに住む長者かしまは海外旅行に出ているうち・・・
物語は電話口で待つ人の事情を如実に反映、また小説用紙は電話中のメモ用紙を兼ねていた。
塔島家の中古冷蔵庫が繰り返し壊れていなければ、
小説は、鹿島は、はたしてどんな運命をたどっただろうか。（塔島）

名演技、つまり志村の正体。それはかしまなのでありまする。かしまけんせつのかしま。九中女教師のかしま。その他かしま、かしわ、ましま、しかまなど、色々と自動合法ルール※にのっとって、一人数役をこなしておったのでございます。さて、鹿島の目的とはいかなるものだったのでございましょうか。

※…自動合法ルールとは自動的に法律的矛盾の出ないように1人の登場人物に複数のこ冷たい役割をになわせるもの。

―おわり―
2016、2、23

ぐるぐる回って０でとめる

温度　冷ぞう

18:00すぎ
訪前にTel

9000～5654
1554
152～74
1～2.3
3～5.5

出2500
検1000
3780

保5年

受付　オー0-5377-8655

さ円

―“―

さあ大変だ。「金よ、明」「うるせい!!!」あたしはうるさいオから肉だけがれ…。大丈夫。そう松本は叫ぶ　あのダウンタウン松本ひとしのむすめなのだ。ちなみに鹿島はけいこ中。鹿けいにはあまりはかどらない。あれ？目がさめたのは鹿島けい子。そう、あの顔面凶器と呼ばれた身近の女教師、鹿島けい子だった。そう、全ては彼女の夢…元来困ったことがあると白昼堂々ふて寝をしてしまうのが彼女の幼少時よりの癖であったのだ。鹿島けい子は鹿島の娘で
鹿島けいこと志村の関係、それは冷蔵庫と霜の関係とくらんでいて、鹿島けいこは松本ひとしの娘と友人関係　冷蔵庫と冷凍庫の関係のようなもの。
さて、何が彼女の夢かというと、全てだったんだろ！
全て夢で物語はふり出しに戻る。しむらというやさしい男はやさしくなかった、やさしいようにみせかけているはいゆうのようなずるい男なのです。実はそうゆうこと。みんな志村にだまされていた。
車輪の表　り男？それも志村の

たい人にとって、不必要な家人の存在は邪魔であろう。

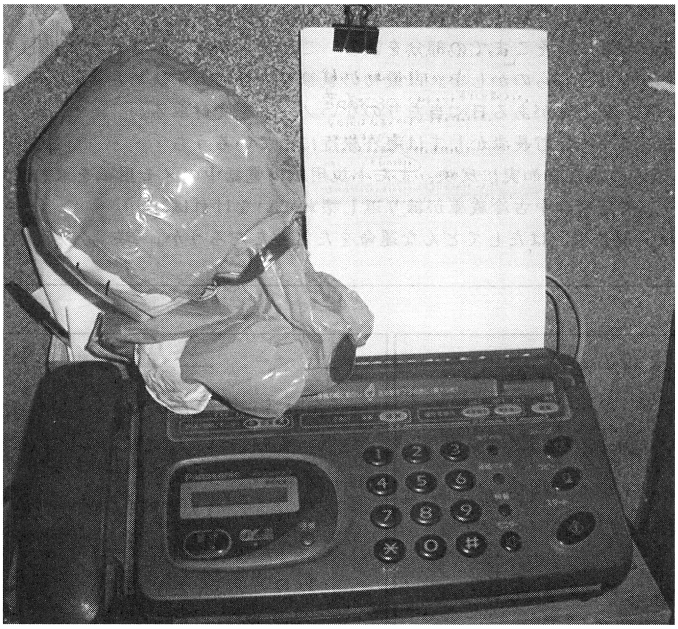
38　p91　子が親を待つ（お腹がすいて）
前項の行動をしている花を、子供の文緒が待っていた。おっぱいが飲みたいから。
お腹がすいてからおっぱいが来るまでの時間は、泣いている時間。

39　姑が嫁や孫を待つ　p94
花が2歳になった文緒を抱いて敬策、政一郎と、つまり一家そろって矢射止神社に参詣して、帰ると、姑が餅を焼いてみなの帰りを待っていた。そのためには皆の帰り予想時刻より早く餅を焼かないとならない。でも早く焼きすぎると硬くなる。「時分みて焼いといた」と言うが、みなの帰りが予想より早すぎても遅すぎてもうまくいかない。
もちを焼いて人を待つのは難しい。（熟練を要す）

40　兄嫁が弟の婚礼を待つ　p104
もう決まっている婚礼に対して、新郎と兄は不愉快。花（兄嫁）だけが活々としてウメの嫁入りを待っていた。とある。同じ未来の予定があり、それを意識しているのは関係者は同様なのに、楽しみにしている人にだけ「待つ」という言葉が使われている。「不愉快な気持ちで待っていた」って言ってもいい気がするけど。どっちかって言うと待つはいいものに対して使われる言葉。⑪の「待つ」とは「望む」と同意語か？（仮定3）」とも関係している。

電話口で小説を

（126 頁～127 頁）



電話口小説始まる。車掌編集部固定電話と小説用紙・空気の抜けたドラえもん

空き待ち企画「二軍ちゃん」

―鳴くのを待つ・図版 補欠ちゃん―

標的3が利用した店。尾行開始時刻を待つ間撮影。(第3日目)

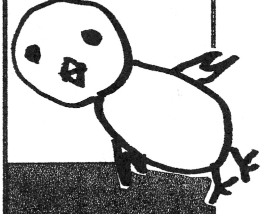
標的2を待っている。私も彼らも。(第8日目)

標的3宅そば。標的3を待っている。(第一日目)

鳴くまで待つ

大吉編

2015年12月　第10日め



標的よ鳴け。

「鳥越（トリゴエ）神社」というものがあった。白雉2年に創建され、日本武尊、天児屋根命、徳川家康を合祀している。

社伝によると**日本武尊**が東国平定の道すがら、「白鳥村」に滞在。その威徳を偲んで村民が**「白鳥明神」**として奉祀した。

それから400年くらいたって、今度は奥州平定（安倍貞任らを鎮圧）で源頼義・義家父子が通った。彼らは名も知らぬ**鳥が越える**のをみて浅瀬を知り、隅田川を渡ったらしい。それにちなんでここは**「鳥越大明神」**となり、一帯は**「鳥越の里」**となった。

それからさらに850年くらいたって、蔵前にあった**松（マツ）平神社**が焼失した（関東大震災）。そこに**祀（マツ）**られていたのは、ホトトギスが鳴くまで待ったことで知られる**家康公**。**公は近くのこの鳥越神社に合祀された**。

標的があんまり鳴かなすぎる。

鳥越神社に詣でてみると、そこは前述のようにまさに、鳥が鳴くのを待つ人が願をかけるための、我々の専用神社のような神社だった。

二拝二拍手して一円を入れ深く礼をし、伊藤岳人が標的の声を聞けますようにと、心から祈る。お守りを買い、おみくじを引く、すると「大吉」！

雲中乘好箭　うんちうとはそらなりそらへやをはなちてもおのづからよきえものある　しとなり

▲ぐわんもう十ぶんに叶ふべし少しにても心にじまん有ては叶はず

▲方角東の方よし

▲待ち人来るべし信心ある人は思ひの外に幸あるべし

▲漁業、大漁なり

▲出産、至って安し

などとある。

私は肌身お守りを今回の尾行者伊藤岳人と神田ぱんにそれぞれ送った。

「尾行中は、それぞれこの「肌身お守り」を肌身離さず、そして「少しにても心にじまん有りては」いけないので、孫や子のかわいさや賢さは思い出さないものとする。」「鳥越神である家康公のご加護を信じ（この「信心」がとても大事）、標的の鳴き声を待つように。」と書いて。

（「鳴くまで待つ」実行委員長　塔島ひろみ）

第十一大吉

有祿興家業　ふくろくみにそなはりかげうをおこしおひ／＼さかへるていなり

文華達帝都　ぶんくわとはそのみのげいのうあらはれみやこまでもきこゆるほどのほまれあるべしとなり

雲中乘好箭　うんちうとはそらなりそらへやをはなちてもおのづからよきえものある　しとなり

兼得貴人扶　かやうによきうんきたるじせつゆへめうへのひきたてにあひいよ／＼さかへるなり

▲ぐわんもう十ぶんに叶ふべし少しにても心にじまん有ては叶はず▲方角東の方よしいしは午の方よし▲ざうさく半吉なり地所方角ぎんみしてきこうすればのちよし▲祝事すべてよしゑんくみして末々よし▲たび立よしさはりなし思ふやうなるべし▲待人來るべし信心ある人は思ひの外に幸あるべし▲失物出べし隨分早く尋べし▲賣買のちよし▲訴訟勝收事、勝利なり▲出産、至つて安し▲病人、程なく癒ゆべし▲漁業、大漁なり目上の意見を聞くべし四日間に見ゆ

２０１５年１２月２４日（木）

本当は１４時から2時間くらい尾行に時間を割ける予定だったのに、あれよあれよという間に仕事がせっぱつまってきてしまって、１５時には現場を離れ会社に戻らなければいけないというスケジュールになってしまった。なので、少しでも、と思い、やや早めに社を出て、船橋駅に着いたのは開始時間４０分前の１３時２０分。改札を出てシャポーの中を通って現場へと向かう。そしていつものようにＪＲの高架線横の道をてくてくと歩いていると、前方からこちらに向かってくる男の顔&体躯になんとなく見覚えがある。2~3メートルの距離まで近づいてやっとわかった。なんと、この男は………標的だ！　と思った瞬間、標的も僕の顔を見て眦を決した顔をし、その表情のまま、僕の横を通りすぎて駅の方向へと歩いていく。半歩後ろにはマスクをした小太りな女性（老人）の姿が。初めて登場する人物だが、年齢からいって標的の妻だろう。そして標的は今日も薄着で、黒いシャツに黒いズボン。それからやっぱり帽子（茶色）を被っている。標的妻は、ベージュの帽子に、薄紫のダッフルコート、白いズボンという姿で、黒いショルダーバッグを肩から斜めにかけている。前と同じように両手をズボンのポケットに入れながら歩く標的は、僕の存在を気にして何度も何度も振り返っている。怖いので、前回同様、大きく距離を開けてあとを追う。路地を曲がり、標的と標的妻はＪＲ船橋駅北口方面へ。ロータリーを横切り、エスカレーターに乗って駅と直結する歩道橋の上にあがり、その橋をずんずんと歩いていき、１３時３６分、伊藤恒人（父）が勤めていたことで知られるイトーヨーカドーの建物の中へ。入ってすぐのフロアは婦人洋品売り場になっていて、靴や鞄、洋服、下着などさまざまなものが売られているが、標的&妻は脇目も振らず、奥の靴売り場のほうへ。そこで2人が婦人靴を見だしたので、神田さんに電話。標的と遭遇してしまったので早く来てくださいと伝える。靴を熱心に吟味している奥さんの横に立ちながらも、標的はまだ僕が周囲にいないかチェックを続けているようで、かぶりを振って左見右見している。怖い。とてもそばには近づけない。なので、かなり離れた売り場の片隅でその行動を見張る。１３時４８分、標的妻がためし履きを始める。標的になにか意見を求めたりもしているようで、標的はそれに答えて彼女になにか話している。ああ、最大のチャンス到来なのに近くに行くことができない！　いや、行こうと思えば行けるのだが、僕の姿を見た瞬間に標的は驚いて会話をやめてしまうだろう。神田さん、早く来て~！と、たまらずまた電話。しかしまだ電車の中だという。こんなことなら、開始時間を早めておけばよかった~、とか思っていると１３時５５分、標的&妻は靴売り場を出て、店内のエスカレーターを上がり3階の売り場へ。結局靴は買わないことにしたようだ。隣の棟との連絡通路を渡り、今度はユニクロの中に入っていく。ここはさっきの売り場に比べてとても狭く、しかも高い棚に囲まれた細い通路の中に数多の客がいるので、標的の姿はすぐに紛れて見えなくなってしまった。慌てて店内に入って標的&妻を探す。しかしどうしたわけかなかなか見つからない。あっちかな、それともこっちかなと迷路のような店内を早足で見てまわるが、なぜかどこにもいない！！！のである！もしかしたら僕がこうしているあいだに死角をついて店を出ていってしまったのかと思い、大急ぎで同じフロアの売り場近辺をさがしてみるも、彼らの姿どこにもなし。ならば、とエスカレーターを降りてその棟の下のフロアに行ってみるが、そこにもいない。きびすを返し、エスカレーターを走って上ってユニクロの上のフロアもさがしてみるが、やっぱりいない。ああ、なんていうことだろう、僕はまかれてしまったのだ！！！　ガックリとした気持ちになりながら、さっきの靴売り場に戻ってるかもと思い一応行ってみるが、願は叶わず。スーパー好きの標的なので、地下の食品売り場に行った可能性もあるかもと思い、そこもさがすがいない。爾後とりあえず2階の婦人洋品売り場に戻る。この間、神田さんから着電があったようなので電話をすると、イトーヨーカドーに着いたというので合流。標的と妻の特徴を教え、手分けしてもう一度建物内を探してみることに。しかし、最上階の飲食店フロアや標的と関係なさそうな子供用品売り場までくまなく見たが、残念ながら標的&妻の姿はどこにもなかった。１５時、タイムアップで終了。お守りの効果なく、標的がしゃべっているのを見たのにその声が聞けなかったという無念極まりない結果となってしまった。もうやりたくない。

（しりとりの記録はありません）

（伊藤岳人）

久しぶりに仕事をうけていたため忙しかったけど、1時間だけだし、ひろみさんからお守りまで送りつけられたので、しょうがなく電車に乗った。

そしたら伊藤さんから電話が来て、「いま標的が出てきてて尾行するので早く来て下さい」と言う。早くと言われても、電車の中だし、どうしようもないですと言って切った。しばらくしたらまた電話が来て「早く来て下さい」と言われた。っせえな！　どうやって早くいきゃいいんだよ！　だいたい、こちとら尾行どこじゃねえっつぅの！！！

と、とてもイライラした。

ふん。どうせこんな急かされたところで、また逃げられて、そんで終わりで解散になるに決まってる。

そして結局はその通りになった。

ヨーカドーでウロウロしたあげく、時間切れで終了だった。

伊藤さんが、標的は奥さんと一緒だったというので、ハア？　連れがいる？　声聞く絶好の機会じゃない！　何やってんだ伊藤ォォ！　と伊藤さんの無能ぶりに呆れた。伊藤さんは自分の顔は知られてるので、標的に怪しまれるから近づけなかったと言う。あーそれで何度も電話してきたのか。前回も言った「近づいたって『なんだキサマ！』て怒られればそれで尾行完了じゃない

ですか、思い切って近づかないと」というアドバイスをしたが「いや無理無理無理…」と伊藤さんはすっかりビビリあがっていた。小市民め。

伊藤さんと別れ、せっかく都会に来たので、東武デパートでクリスマスケーキなどを買って帰ることにした。私はこのクソ忙しい中、しょーもない尾行に来たのではなく、クリスマスケーキを買いに来たんだと自分に言い聞かせ、虚しい気持ちを誤魔化した。バカバカしいので、もう尾行には行くまいと決心した。

（神田ぱん）

空き待ち企画「二軍ちゃん」―塔島ひろみの日記から

2013年10月19日

2010年12月の源氏物語のコピーを見ながら。

もうすっかり、今までの経緯を忘れている。

「待てといふに散らでしとまるものならばなにを桜に思ひまさまし」

という古今、春下、読人知らずの歌がp77で引用されたようだ。（4巻）

待ってくれない桜の美しさということ？

待つ＝いさぎよくない

さっさといく＝いさぎよい＝美しい→日本人の美意識、ということ。

日本は待つ文化、と思ったけど、一方待たない文化もある。勉強になった。

一方85ページでは源氏が

待つ里もいかゞ聞くらんかたがたに心騒がす　ひぐらしの声

というたを詠んでいる。

女三の宮と浮気している時のこと？　これは？

待つ里というのは奥さん（紫？だっけ）が待ってるってことかな？

心やましさをうたったうたかも。

夫を待つ→いさぎよくない、みじめ、うっとうしい

夫を待たない→いさぎよい桜のよう→美しい女ってことかもね。

待つ、待たない、どっちが正しい？　どっちが美しい？

次に「待っていた「答え」にてタイトルのコピー。

これは車イス本屋の本で、

そうなのだ。この言葉こそ、わたしが待っていた〝答え〟だった。

という下りがメインテーマの章である。

この人はいろんな人に「……」と話しかけてみてもなかなか意に沿う返事が返ってこないなか、手塚会長に同じことを言ったら待っていた返事をしてくれて感動している。

なんてつまらない男かい。こいつは？

期待する返事を待ちながら質問するなんて。

先生かい？てめえは？　なんてくだらないあさましい人生だろうか？

と頭にきた。

2013年10月31日

2011年2月2日に読んだ「モリー先生の火曜日」。

ぼくは、毎火曜日、死にかけているモリー先生のとこに行くのだが、空港から行く途中でケータイで「今〇〇辺よ」とか言わないで、「待たせておけばいい」とモリーの口調をまねて自分に言い聞かせ、ケータイを使わなくしたそうだ。

同じ時間に着く場合でも、ケータイを使うと相手は待たない？

〃　〃　ケータイを使わないと、相手は待つ。

相手がいつ来るかわからないとずっと待ってなきゃいけない。

相手が、ジャスト〇〇に来るとわかってたら、その時だけ待てばいい。

とすると、電話もない昔の方が人は待った。

今の時代、人は待つことをしなくなった。

「待つ」というのはアナログな時間の経過とともにある動詞だ。

で同じ本で2／12に

「モリーは、ミルクを待つ子犬のようにそのキスを心待ちにする」と出てきた。

犬は、〇〇時に、とか知らないから、待つね。うちでは旅行くときとか金魚は4日ぐらいも食事なしになるけど、それを知らない金魚はずーっと待ってるんだろう。

動物の待つ、と言えば、ハチ公が有名だけど、結局「待つ」のは「無知」ととても深い関係があるのかもしれない。

2011年2／7の（に読んだ）新聞について

春日錦が清瀬海に「もう少しだけ待って」と。「来場所のことですがもらえるならくれませんか？　ダメなら20万は返してもらいたい」に対して。

返事を待って、ということ？　そのあと春日錦は他の力士にお金を借りるお願いをしたので、20万返せる準備をしたあとで返事をしたのかも。

借りている人が督促に「もうちょっと待って」とお願いするのは、すごい切羽詰まった「待たせ」で、普通待つ人の方が下の位置だけど、こういう場合待つ人の方が立場が上だ。

この内容の通りの相撲で清瀬海が勝利した。
千秋楽の二十三日、清瀬海は春日錦に「来場所のことですがもらえるならくれませんか？ダメなら20万は返してもらいたい」と勝ち
、清瀬
日錦は
踏ん張

ようなメールを送信。これに対して春日錦は「もう少しだけ待って」と伝えた。
金策のためか、春日錦は場所後の六月日、恵那司に「所持がないから今日の昼少し立て替えてもらて俺の口座に入れてらえるかな」と銀行と口座番号を示し懇している。

枚目
枚目
枚目
りやりとりの相手
恵那司
は関与を
認めた力士
枚目
[redacted]

2011年2月3日東京新聞

父が死ぬのを待つ

かおる

平成25年12月26日深夜、父（82歳）が呼吸困難発作を起こして救急搬送されたそうだ。

（写真（sougi）　告別式が始まるのを待つ巖）（→写真頁）

12月27日（木）

夕方、母（79歳）から電話が来たが、内容は「今日は私の誕生日で紀子さん（兄嫁）がお赤飯を炊いてくれた」という自慢話で、父の話は一切なし。私は母の誕生日をうっかり忘れていたので、でも今年は母に旧式足踏みミシンをオークションで探して買ってやったし、父には句集を作ってやって、今後5年分くらい先渡ししたようなつもりだったから、そう伝えた。

12月29日（日）

実家のすぐ近所に住む兄からの電話で、父が危篤状態だと知る。とりあえず自宅待機を命じられた（どうせ子連れで行っても何も手伝えない）。喪服を探してみるけど夫のがない。どっちにしろ数年前に着たのが最後だからもう着れまい（太った）。今後着る機会も増えるだろうからと紳士服店に夫が行き、帰ってくると怒っている。「6万もした」「前の喪服、どっかにあるかもしれないのに」「（お前が）だらしないから無駄遣いした」どうせ絶対（太って）着れないし、いまのマンションに越してから着てないのだから収納場所から動かしていないはず、そこにないのだから、とっくに処分したか、夫実家にでもあるんじゃないかと思う。デカい男なので吊るしのスーツはサイズが合わない。喪服が6万、別に高くないと思うが夫は衣類に興味がまったくないのでぼったくられたように感じるのだろうけど放っておく。そのうちに機嫌が直る。

12月30日（月）

朝、実家の近くに住む姉1からの電話で起こされる。昨夜も様態が悪化して呼び出された、意識があるうちに一回顔を見に行ったらどうかと言われたので、巖（息子・5歳）を夫にまかせて出かける。夫はそれなら俺らも行ったほうがいいんじゃないかと言うが、まだそんな段階じゃないだろうし、巖が病院で騒いで迷惑かけると思い、一人で行く。茨城から神奈川の実家まで、いつもなら車だが、時間が読めないし一人なので電車で行く。天気もいいしそれほど寒くもない。年末なので電車はすいている。子なし単体で2時間半、久々にたっぷり本が読めた。何しに来たのか忘れかけて穏やかな気分で病室をのぞくと、父がものすごい感じで居る。仰向けで浴衣の胸をはだけて腹まで丸見えで、口や頬がブルブルするほど強い風圧の酸素マスクをつけられている。姉1夫婦が来ていて、間もなく兄夫婦も来て、看護師がこまめにいろいろやりに来るしお医者さんも来て、4畳半程度の狭い病室がいっぱいになった。エアコン効きすぎで暑い。点滴の管を何本もくっつけて、酸素マスクで強制的に呼吸させられている父は、胸を上下させて大きな呼吸を、猛スピードの深呼吸みたいな呼吸をし続けている。苦しくて眠れないらしい。薄目をあけて私を見たが、声は出せなくて、手をちょっと動かした。意識はしっかりしているようだ。心拍数と酸素飽和度と血圧と呼吸数がいっぺんにわかる便利な機械があって、そのリズムが病室に活気のようなものを与えている。父はナースコールのボタンをずっと右手に握り締めていて、時々呼び出すが、声は出せなくて、看護師はなんとなく暑いらしいとか苦しいらしいとか体の向きを変えたいらしいとか判断し、ちょっと世話をしていく。看護師が「おなか出しておきたいんですかー?」と聞くと、うなずいた。暑がるので両脇にやわらかアイスノン、頭に氷枕を当てている。うちわであおいであげたらと言うと、姉1が「扇子ならあるんだけど」と言ったが、あおいではあげなかった。私もそれ以上言わなかった。

電話でも現場でも聞かされたが改めて医者にも説明されたのが、この大きな呼吸はマラソンしているのと同じで、倒れてからもう4日、眠らずにマラソンし続けていることになるらしい。肺気腫の人は吸うのはできても吐くのが苦手で、呼吸を無理にさせても体に二酸化炭素がたまっていって苦しいとか、気道を広げる薬を与えすぎるとマラソンに疲れている心臓にさらに負担がかかるとかで、現状できることは一通りしているが、現状維持か悪くなることはあってももう良くなるということは期待できない。最終手段としては肺に直接チューブを入れて呼吸させる手があるが、痛いので全身麻酔となり、そうなるともう二度と自力呼吸のできない植物人間になるだろう。機械的な延命治療はしたくないのでと、たぶん今日までに何度か伝えてはいるんだろうけど改めて兄がそう言い、医者も「ですよねー」みたいに答える。

医者も看護師も去ると、唯一イキイキと働いている心拍数その他のモニターをみんなで眺めるしかなくなる。心拍数130くらい、呼吸数30～40くらい、血圧は覚えてない、酸素飽和度が90～97くらい。昨夜は血圧がどうこうだったんだけど、と前夜呼び出された兄が説明する。酸素は98以上はないと苦しいらしいと、その年の秋巖がぜんそくをやったときそう教わったので私も知識を披露する。あまりに苦しそうなので早く楽にしてやりたいけど、肺以外は悪いとこのない、基礎体力のある人なので、案外もっちゃうんじゃないかと話し合っているうちに近所に住む叔母（父の妹）が来た。前日にも来たそうで、そのときは筆談ができたという。「書く物をってジェスチャーでいうから紙とペンを渡したら、のどかわいたー水飲みたいーって書くから、ちょっとお水飲ませてあげたら、器官に入ったのかなーすっごい咳き込んじゃって」。口からの摂取は厳禁だ。叔母に殺されるところだった。

「それからね、前の晩に怖い夢を見たかなんかして暴れたのを、先生にあやまっといてって書くの。それを見た、最近はお医者さんだか看護師だかわかんないわね、男の看護師さんがね、（ぶっきらぼうに）そんなのあやまんなくていいっすよって言ってねー」叔母の話にみんなで笑った。父はずっと猛スピードの深呼吸をしている。

しばらく病室にいてから、姉1夫婦の車で実家まで送ってもらう。巖はお正月にはサンタさんにもらった仮面ライダーの変身ベルトをみんなに見せたいが、そのベル

トがよくしゃべる。おじいちゃんの件でみんながシーンとしてるときにベルトの素っ頓狂な声や音をさせたら困る。という話をすると、姉1夫が「でも子どもはそういう役目だよなあ。空気をガラッと変えてくれるっていう」と笑った。実家に着くと母が私を見て驚く。もー何にも言ってくれないんだもーん！と怒ってみせると、だってさあべつに今言ったって、とか言っている。少し風邪っぽい声だ。あまり眠れないらしい。お昼食べるんでしょと言うので座っていると、残りごはんと、ごぼうの煮たのと、さつまいもの煮たのと、こんにゃくの煮たのが出てきた。母は肉や魚、というか食べものにあまり興味がないので、あるもの（父が畑で作ったもの、兄嫁が買ってきたもの）を必要最低限の調理で食べる。父がいれば肉や魚を食べたがるので渋々作るし、兄や婿など男が来れば何か買ってきたりするけど、私ら娘相手だとこんなのしか出てこない。

「お父さんがこんにゃくをやろうとして、すっかり準備したけどできなかった」父は台所の寒い寒い土間でこんにゃく芋の皮をむこうとしていたが風邪をひき断念、そのせいで風邪をひいたのか風邪気味だったのを押してやろうとして悪化したのかはわからないが、「こんにゃくの準備」が父の最後の活動だったようだ。母が続きをやって完成した夫婦最後のこんにゃくリレー。

土間以外でも実家は寒い。築50年くらいですきまだらけなので雨風をしのぐだけで、室内も外とあまり変わらない。家に入っても上着は脱げない。最盛期は8人家族だったので7LDKでも狭苦しいと思っていたが、今は老夫婦2人だけ。寝室だけはエアコンをつけているが、両親は家の中でも帽子をかぶったり厚着したりして暮らしている。この広い家に、母ひとりが残されることを想像しますます寒くなる。

姉1に、姉2に今日の様子を報告しといてと言われていたので、ごはん食べてから姉2宅に電話をした。姉2は感傷的になっていて、私がはるばる茨城から駆け付けたことに感動していた。母が電話かけてきたくせに父の入院を黙っていたことを話すと「でもきっとあんたの声が聞きたかったのよ～」とか言って母の味方をした。姉2は3年前に父が倒れたとき（このとき片肺を半分切除した）がすごくショックで、あの元気なおとうさんが死んじゃうんだと思って動揺したんだよねー、でも復活したから、さすが戦前生まれの人はすげえ。というような話をしていた。そういえば前回の入院中にタマネギの植え時になってしまい、父はそれが気になって気になってとうとう病院を抜け出して畑仕事をして後で医者にえらく怒られた、というエピソードがあった。あのときは父が死ぬなんて誰も考えていなかったが、今回は誰もが父は死ぬと思っている。畑仕事も今は大根やネギを抜くだけで何もやる時期じゃないし、桐箪笥直しの仕事が久々に入ったのを早めに仕上げ、年賀状もとっくに出した。何年も前から約束してた句集は今年作ってやったし、父には今やりかけのものが何もない。

姉2はまだ仕事（介護ヘルパー）があるので、明日お見舞いに行くと言う。電話を切って、母に、姉2は明日行くって、と言うと、「一回見ときゃいいんだからね」と答えたので、ちょっと腹が立って「何よ一回見ときゃって。パンダじゃないんだから」と言ったら二人で笑ってしまった。

日帰りの予定だし、実家の夜は早い（寒いから夜7時には寝る）。もう一度病院に寄ってから茨城に帰ると言うと、母はちょっとまじめな顔で「ありがとうね」と言った。入院した日以来見舞いにも行ってないようだし、何があっても自分のペースを崩さないで生活しているようだけど、母なりに心細いのだろうと感じた。

バスに乗って病院へ行くと兄夫婦がいて、兄がむき出しになった父の腹をさすったり、モニターの数値をメモしたりしている。ほかにしてやれることもないから仕方がないという感じだ。それでも父が持てば、恒例の1月2日の新年会は予定通りやるつもりだからと言われる。私一家は元日に夫実家に泊まり、2日に私実家に泊まり、3日から新潟にスキーに行くのが恒例だったんだけど、さすがに今年はスキーはやめて、でも実家は寒くて夫子が風邪をひきそうなので私だけ残ろうかなとか考える。兄夫婦が車で駅まで送ってくれた。

兄によると、周囲の話や親戚や近所の人の死んだときの経験から導き出した残り時間は「短くて一週間、長くて3週間」だという。入院から一週間目は1月2日、実家の新年会の日だ。3週間もてば父は83歳の誕生日を迎えられるのだが。兄「焼き場は3が日お休みなんだ。だから4日は予約でいっぱい、5日も空きわずか。年末年始に死ぬとお通夜や告別式まで何日も空いちゃうのが普通。だから正月に何かあっても日にちに余裕があるから焦らなくて大丈夫」。なるほど焦って喪服を誂えなくても、死んでからでも充分間に合ったのかもしれない。準備してるみたいで（してるんだけど）夫の心証が悪くなるので喪服の件は黙っていた。

兄はほかにも「この市にも斎場あるけど隣市にも新しい斎場できたからちょっと行ってみたいなー」などといろいろ下調べしているようで、インターネットの威力を感じる。10年くらい前に祖母が死んだ時、喪主初体験の父がパニクっていたのを思い出す。駅前で別れて、私はまたゆっくり本を読みながら2時間半かけて帰った。夫子は私の留守中どこかの湖に白鳥を見に行ってきたそうだ。でもはくちょうにあげるパンをわすれたから、ただみて、すぐかえってきた。かえりにパパがようふくをかった。と巌が報告した。喪服ができあがったらしい。

12月31日（火）

兄に電話すると「昨夜は病院から呼び出されなかった、年を越せるかもな、おまえは予定通りにしてていいから」と言うので、例年通り下妻の温泉に行って宴会場でテレビを見ながらダラダラして、でも一応いつ呼ばれてもいいようにビールは飲まないようにして（夫は飲んでた）、携帯を常備しつつ、温泉施設内にある農産物直売所で実家へのおみやげや年越しそばを買って帰って、夕飯にはちらし寿司を作り、紅白見ながら夜食にそばを食べて、巌が眠くなるまでUNOをやって寝た。でも夜中に目が覚めて、父はまだマラソンしてるのかなとか考えたらなかなか寝付けなかった。

1月1日（水）

朝、兄に電話すると「昨夜も病院から呼び出されなかった。昼頃から様子見に行く」というので、では私らは夫実家に年始に行くので何かあったら連絡してくれと伝え

る。どうなるかわからないので着替えを多めに持っていく。私実家の防寒対策のために、スキー行くのはやめたのにスキー並みの衣類を用意したら旅行バッグのチャックが閉まらない。長い留守になるかもしれないからハムスターもつれていくことにし、やたら大荷物になって出かける。夫実家では普通に楽しく過ごし、初詣もした。初詣では毎年巌の成長を祈るが、今年は「父が苦しまずに逝けますように」と祈る。夜は私も夫実家のみんなも酔っ払ってさっさと寝てしまった。

（写真(ham)　ハムスター）（→写真頁）

1月2日（木）

朝、夫実家から私実家に移動する。午前中に着いたら病院に寄っていこうと思っていたら、ものすごい渋滞で昼過ぎてしまい、巌は腹が減ったと言うし疲れたので、直接実家に行った。そしたら姉たちは病院に寄ってから来るそうでまだ全然集まってなかった。私たちまで行ってたら病室に入りきれないから行かなくてよかったと思う。それから姉1姉2家族がやって来て、新年会を行った。父は昨日から体を横向きにして枕を抱くような姿勢にしてもらって、そしたら少し呼吸が楽になったみたいでよく眠れるようになったという。初めの3日間はほぼ不眠でマラソンをしていたのだからさぞつらかったろう、眠ってるのはもしかしたら弱ってるってことかもしれないけど、それでも苦しいのよりはよかった、とみんなで話した。やっぱり暑がってるからうちわを持っていくといいと姉1が言った。実家の座敷にあった戸棚とかが移動され、広くなっている。兄が年末大掃除と称して着々と父の死後の準備をしていたのがわかる。毎年騒いで迷惑をかける巌が、今年はなぜか静かにしている（前日、夫実家では大騒ぎしていたのだが）と思ったら、いつの間にか家を抜け出し父の畑に行ってはだしで土を踏み荒らしていた。きちょうめんな父がきれいにならした土がボコボコになったので怒ると、あしあとのこんせきをのこしたの、と言う。ここに足跡をつけても化石にはならないことを教える。姉2の次男が巌を抱えてきてくれたので風呂場で足を洗ってやったりしているうちに夕方になり、解散となる。姉たちは例年通り残ったごちそうを根こそぎ持って帰った。父がいないだけでいつもの新年会だったけど、今年は誰も写真を撮らなかったし酒もあまり飲まなかった。

後片付けを手伝ってから、うちわを持って、私一家で病院へ行く。姉1夫婦も来ていた。隣市に住む叔父（父の弟）夫婦が先に来ていて、看護師に介護用の歯ブラシが必要だって言われたから売店で買っといた、と不思議な形の歯ブラシを見せてくれる。初めて見るもので、みんなで「へー」とか言って手に取って眺める。父は横向きの姿勢で、猛スピードの深呼吸ではないけど、やや早い浅い呼吸でよく眠っている。もう両脇のアイスノンはなく、暑くなくなったのかどうかわからないけど、一応うちわで少しあおいだりするが反応はない。「病院でのおやくそく」を巌にしつこく言っておいたので、巌はおとなしくしているが、「ちょっとだけっていったでしょ」と言って急いで帰ろうとする。少しこわいらしい。 窓際のテーブルにメモを見つける。この前来たとき叔母が言っていた「筆談」のメモだ。乱れたカタカナで「ミズノミタイ／ペットボトルタナニアル」「アツイカンゴシサンヨンデ」「ユウベユメミテ／アバレタ　センセイに／アヤマッテ」などと書いてある。声をかけても起きないし、巌が帰りたがってしかたがないので10分も居ずに病院を出る。実家に戻り、新年会の残り物を食べ、母が寝たのが7時半。実家の夜は早いが、夫や巌はそうはいかないので、しばらくテレビ見たり絵本読んだりして過ごす。長身の夫は実家のふとんから足がはみ出し、去年は風邪をひいたので、今回寝袋を持って行った。それに加えエアコンを最強にしてあったためたので暑いほどで、乾燥して喉が痛くなり、やっぱり風邪をひきそうだ。

1月3日（金）

昨夜も深夜の病院呼び出しはなかった。父が死ぬのに一番いいのは1月2日、みんなが集まっているときだろうと思っていた。みんな仕事を休んだり遠くから急いで駆け付けなくてもすむ。全員でいっぺんに見に行けて、冬休みのうちに諸々終わる（仕事始めは1月6日からだが、巌の幼稚園は9日からなので余裕がある）。でも死ななかった。何事もなければ私たちが実家にいるのはかえって邪魔になる。巌はほっとけば畑を荒らすから坊主めくりをやり続けてやらないといけないし、夫は勝手のわからないところで自分から声をかけて何か手伝う、ということは絶対にしないので、ただゴロゴロとしている。私たちがいるだけで洗濯と食事の手間をかけさせてしまい（私がやると言っても母や兄嫁がしてしまう）、その挙句に誰かが風邪をひいたりしたら何もいいことがない。夫は「スキーに行けないなら成田山に行きたい」とか言うし、とにかく一度引き上げることにした。結局2泊で帰るならハムスターまで連れてこなくてもよかった。ハムスターが移動のストレスで死んだら後味が悪いだろうなと思った。帰る前にもう一度病院に寄ると、今度は誰も来てなくて、父は昨日と同じ横向きで眠っている。2度目なので少し怖くなくなった巌が「おじいちゃーん」と声をかけたが反応なし。酸素飽和度が100になっていたので安心したが、少しすると一気に89とかになって警告アラームが鳴った。と思うと93くらいになる。ひどく不安定だ。意識のあるうちに巌の顔を見せたかったが、長居してもいつ目を覚ますかわからないし、夫が成田山に行きたがっていて道路は渋滞して、早く出ないといけない。15分程度の滞在で病院を出て、成田山に向かったがひどい渋滞で、こんなときに父が死んだらすぐには戻れない、常識的には実家にもう一泊したほうがよかったかなと思ったけど、実家を退屈がる夫に気を遣うのも疲れるし、いろいろ考えるうちになんでこんなときに混むとわかっているところにわざわざ行きたがるのかわからんとイライラする。でも車中で眠ったらイライラが収まり、父が死んだら当分忙しくなるから今のうちに遊んでおこうと思う。

3時間以上かけて成田山の近くまで来て、もう1時過ぎなので腹が減り、デニーズに入る。ピカチュウの貯金箱がもらえるのでポケモンわくわくセットを頼むが、巌が食べたいのは大人サイズのスパゲティなので、ポケモンセットは私が食べる。ちゅう太はお子さまランチ＝おもちゃがもらえる＝おもちゃは自分で選べる（近所のラーメン屋の場合）、と思っていて、デニーズ店内のおもちゃ売場のものをもらえ

ると思ってしまい、店を出るとき仮面ライダーのロックシード（イチゴ）を手に取った。１５００円もする。もらえるのは貯金箱だけだと説得すると、じゃあ買えばいいじゃんと簡単に言うので腹が立ち、サンタさんに変身ベルトとロックシード（オレンジとバナナ）のセットをもらったばかりなのにもう新しいのが欲しいのか、１５００円というのはそんな簡単な金額じゃないと説教し泣かせ謝らせ、殺伐とした気分で成田山へ詣でる。成田山へは以前３人で行ったことがあると夫が言うが記憶にない。あるような気もうっすらしないでもないけどわからない。たぶん巌が赤ちゃんの頃で、たぶんそのときもなんでこんなに育児に疲れてて寒くて混んでるときに行きたがるのかとイライラしながら行ったんだと思う。また「父が苦しまずに逝けますように」と祈る。もう死ぬものと思っているので回復を祈る発想がない。駐車場から境内までは２キロくらい離れてて、足の悪い夫はだんだんつらくなって遅くなってびっこがひどくなった。元気いっぱいの５歳児はどんどん先へ歩く。帰り道は１０メートルくらいおきに巌を立ち止まらせ、夫を待ちながら戻った。風邪をひきそうだとまた思ったが、幸いだれもかぜをひかず、ハムスターも元気。

１月４日（土）

実家から連絡はない。夫は足が痛いのでトイレに行くにも松葉杖をついている。こういうことはよくあるが、懲りない。午後、実家に電話をしてみると、母は今日やっと見舞いに行ったそうだ。よく眠ってて一応大丈夫そうだとのこと。昼間はどこにも行かず家にいる。ひろみさんからの年賀状に「アクリルたわしがない」と書いてあったので、５個編んで送る。実家にも持っていこうと思い、あと３個編む。そのうち頭が痛くなり、風邪をひいたかなと思う。夫が夜モツ鍋を食べに行きたいというので、夕食は近所の居酒屋に行く。連日ご馳走続きで私などすっかり胃が疲れているのに、松葉杖をついてまでモツ鍋を食べたい夫に呆れ、こいつは何でこんなときに行きたいところに行って食いたいものを食ってエンジョイしているのかと思うが、まだ何事も起きない間なので文句を言う筋がない。帰りは私が運転するからと言って酒を飲ませ、いい気分のところに「お父さん今死んじゃわなくても、寝たきりにはなるだろうから介護とかまかせっきりじゃ悪いし、ちょくちょく実家帰ることになるかも」と言うと、そうだよね行ってきなよ、と快い返事をもらった。モツ鍋であったまったせいか風邪気味が治った。年末から外食続きでみんな太ってきた。昨日の１５００円のロックシードの件から、巌は今後お手伝いをして金を稼ぐ方針が決まった。

１月５日（日）

実家から連絡はない。父は今日もあの状態で眠っているのだろう。まだまだ死にそうにないように思う。兄夫婦は日に何度も様子を見に行っていて、夜中に呼び出されたりもするし忙しそうで悪いので電話しづらい。携帯のメールアドレスを聞いておこうと思いつつ、聞きそびれてしまった。またいつでも行けるよう荷造りをしておこうと思うが、子どもの服はすぐ足りなくなるのでまた荷物から引っぱり出したりして意味がない。夫の冬休みは今日で最後なので一日中寝ているし、巌は一日中録画したキョウリュウジャーとガイムを見ていて手伝いもピアノの練習も何もしないので、私ものんびりすることにした。アクリルたわし２個編む。そうだ今私は父が死ぬのを待っているのだと思いついて、車掌用に今日までの原稿を書いた。夕方実家に電話、明日は暇なので見舞いに行くと伝える。

１月６日（月）

夫は仕事始め。８時半に夫が出かけ、巌を叩き起こして９時に出発。自転車に乗せて駅まで走る。寒い。空は青く、雲一つない気持ちいい天気。つくばエクスプレスに乗る。わりとすいている。ふだんほとんど車なので巌は電車が新鮮で、おとなしく窓の外を見ている。巌の左隣に座って巌側を向いていると私の左側の骨盤のある一点がピリピリ痛む。正月は長時間車に乗っていて、常時巌の左隣に座って巌側を向いていたから何か歪んだのかもしれない。右隣に座る位置を変えたら痛まない。地下鉄に乗り換え、途中で巌がえっとあのね、えっとあのね、えっとあのね、えートイレ！と言いだして途中下車。すぐ言えばいいのになかなかトイレの一言が出てこないので電車を降りるのがギリギリになり、巌が先に降りて私はドアに挟まれながらやっと降りる。駅のトイレに寄ってから再乗車し、小田急線に乗り換える。落ち着いてから、もし次にこのようなことがあって、ママだけが電車から降りられず離れ離れになってしまったら、あわてて次の電車に乗ったりしないでその駅で待つんだよ、と教えると、「でもうんこしに行っていい？」と聞くので、うんこ終わったらまたホームに戻って待つように教える。地下鉄の間はしりとりやポケモンクイズなどで相手をしたが、外が見える路線では巌はおとなしく外を見ていたので、少し編み物をする。昼前に本厚木駅に到着、巌がおなかへったと言うので構内の箱根そばで昼食。巌のラーメンはすぐ出たが、私の頼んだめかぶそばがなかなか出てこない。店の人が「かきあげそばのお客様ー」と何度も呼んでいて、しまいには店内ぐるぐる歩き回りながら呼んでいたが、かきあげそばの客はいない。あまりにめかぶそばが遅いので言いに行くと、おばさんが「あらじゃあきっとかきあげの人がめかぶ持ってっちゃったんだわ」と言って、５秒くらいでめかぶそばを出してくれた。食べていると携帯電話が鳴り、母からだ。お昼を用意しておくと言われたが、「今おそば食べてる」と言うとがっかりしたようだった。

バスに乗って病院へ向かう。巌はバス停でおばあさんに「学校は休み？」と聞かれ、まだ幼稚園で冬休みなんですと私が答えると、「大きいねえ小学生かと思った、きっと１８０センチいくよ、うちの孫も大きくて１８０センチ超えたの」とか言われる。病院に着くとエレベーターで一緒になったおばあさんが、巌の顔を見てほれぼれと「まああなんて色が白くてきれいなお顔。こんなきれいな子がいるのかしら」「モテるわよ～」などとベタ誉めするので、巌ニヤニヤして「うん」と肯定。良い気分で病室へ着くと、姉夫婦がいる。ベッドの配置が変わっていて、この前は縦（窓側が頭、ドア側が足）だったのに、今日は横向きになっている。この前は「お父さん」という感じがしたが、今日はなんだか黒ずんでちっちゃくなって、寝たきり老人のモデルのように見える。

呼吸数と血圧がだいぶ下がり、心拍数だけが相変わらず早い。酸素飽和度は時々ガクッと下がるけどだいたい97くらいだ。今朝も急に血圧が下がったので病院から呼び出されたそうだが、その後安定したという。巌は見舞い3度目なのでだいぶ慣れて病室でくつろぎだす。電車でいい子だった己を自慢し、ポケモン図鑑を開いて一方的なクイズを出したり説明したりして、やることがなくなると「もうおばあちゃんちにいこう」と言いだした。私らが出て、姉1も用事を済ませるため一旦外出。姉1夫だけが病室に残って待つ。

またバスに乗って実家に行く。母にアクリルたわしを5個渡す。母がいちごを買っておいてくれた。いちご好きの巌が一人で1パック食べてしまう。煮魚を作ったというので私だけお昼を食べる。なぜかやたらおいしくてごはんをおかわりしてしまった。少ししたら、用が済んだら遠いんだから早く帰れと母が言う。兄が3時ごろ病院に行くから一緒に行こうと言うので、巌と折り紙や坊主めくりをしながら待つ。

(写真(arigamimusi)　待つ間に折った昆虫おりがみ)(→写真頁)

「もうこういうことはしかたないからねー」と母が何度も言う。「あんたの草履がないから買っときなさい。履き物屋はあるの？」数年前に母が私の喪服を勝手に作っておいたが、草履を買い忘れたという。黒い草履を買っておかなければならない。正月に巌が忘れたキョウリュウレッドカーニバルのお面が出てきたので、巌はお面をかぶってパワーアップし、坊主めくりに勝つ。3時になり、兄の車で出かける。兄が「そろそろだろうから覚悟しとかなきゃだよねー」とか言うので、でも案外お誕生日（13日）まで持っちゃうんじゃない？と言うと「そこまで俺らが持たねーよ」と鼻で笑った。巌は病院に着いてもお面をかぶっている。マスク代わりのようでいいかなと思ったけど、知らない人が見たらギョッとするので、やっぱり外させる。

病室に着くと姉1夫がまだいる。看護師が処置しに来たので廊下に出て待っていると、姉2がやってくる。ずっと良い子だった巌がだんだん疲れてきて悪い子化してきた。姉2が「おばあちゃんのお葬式の時ナオちゃんがこんなんだった。火葬場で運動会してたわー」と言う。姉2の次男ナオヤは今大学生だが、そういえばそんな記憶がうっすらある。はしゃぐナオヤと一緒にお骨拾いをしたような気がする。病室も狭いが5人も立ち話してたら廊下も狭くなるので、談話室のようなところに行こうかと姉1旦那が言う。私と巌は茨城に帰ることにする。

電車に乗ると暖かくて巌が突然眠りに落ちたので、編み物をする。でも地下鉄に乗り換えるとき目が覚めて元気になり、もう寝てくれない。夕方で混んでいて編み物もできない。巌は疲れたのか自分の足で立たず私にズルズル寄りかかってくるので、降りるときバランスを崩して車内で転んでしまった（私が）。なんで転んだのかわからないが恥ずかしいので「もーなんでちゃんと立たないのー」と巌のせいにする。まるで私が巌に寄りかかっていたようだ。もうすっかり暗くなった頃やっとつくば駅につき、ものすごく寒い中、自転車に乗って帰る。自転車の荷台に巌（21キロ）を持ち上げて乗せたのと、重い荷物と電車移動のせいで、帰宅したら全身が痛い。夫が先に帰っていたが、夫は何もできないのでご飯ができるのをおとなしく待っている。あまりに疲れたので皿は洗わないで先に寝た。夫と巌は遅くまでUNOをやっていた。

(写真(amimono1)　今日電車で編めた編み物)(→写真頁)

1月7日（火）

今夜は夫が会社の後ブルーノートに行く（一人で遊びに出かけるのは珍しい）。昨日とかに父が死んでたら行けなくなってただろうからよかった、今夜まで持ってくれと思う。今日も全身が痛い。昼間は巌に部屋の掃除をさせ、その後はテレビを見せて、私はじっくり休む。午後はスイミングスクールに連れて行き、巌が泳いでる間、近くのウェルシアで湿布と鎮痛薬を買う。両肩と背中と頭と腰が痛い。節々が痛いし寒気がするので風邪かなと思うけど、熱も鼻も喉もなんともないのでやっぱり筋肉痛なんだろう。寒気がするのは寒いからだ。茨城は低温注意報が出ているがいい天気。それから少し車の中で編み物をして待つ。

(写真　amimono2　プールが終わるのを待つ間に編んだ分)(→写真頁)

終わる10分前くらいにスクールに戻ると、巌がクロールの指導を受けているところを見れた。まったく腕を動かせていない。巌は今月から「グッピー」になった。たまご→ひよこ→あひる→白鳥と進級してきて、なぜ急に小さい生物になるのかと人には言われるが、やっと魚になれたということなんだろうと思っている。その後はエンゼルフィッシュやタツノオトシゴを経て、人間になる予定。

今夜は巌と2人なのでカスミで納豆巻きとメンチカツを買って夕飯とした。まだ全身痛いのでいつも6時の夕食を5時半に食べ、6時に風呂に入り、7時半にはふとんに入る。まだ眠くないと言ってテレビを見ていた巌も8時にはふとんに入りに来た。私も巌もウトウトしかけた8時20分兄から電話、父が死んだとわかった。

空き待ち企画「二軍ちゃん」一塔島ひろみの日記から

2011年（平成23年）2月4日（金曜日）

八百長問題

協会、初の

千代

大相撲の八百長問題で、メールを直接やりとりしていた
日、解雇ではなく、最も重い除名にする方向で検討に入った
分者はいなかったが、協会は相撲界の根幹を揺るがす極め
て

外部委員による特別調査委員会の聞き取り調査の結果を待ち、六日の臨時理事会で最終的に話し合う。

理事会の事情聴取で八百長を認めた十両千代白鵬が三日、協会に

も新たに判明した。協会は一時預かりとし、六日に扱いを検討する方針。

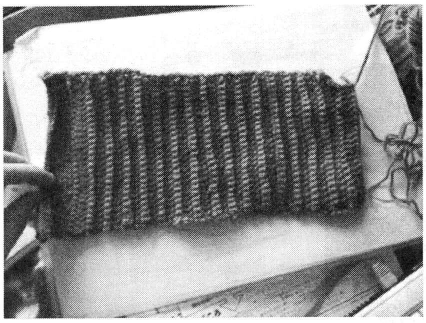
賞罰規定では、けん責から解雇まで五段階の処分は理事会の決議で行えるが、除名は理

代表らで構成
員会で四分の三
賛成による特別
必要。永久追放
のは解雇と同
え、除名は角界
で処分を決め
に意味を持つ。

2014年1月17日
2011年2月4日の八百長問題！
「外部委員による特別調査委員会の聞き取り調査の結果を待ち6日の臨時理事会で最終的に話し合う。」
誰が待つのかといったら、相撲協会のようだ。
この日が4日で、6日に話し合う。いつから、何をしながら待っていたのかな？　わかんない。
ちょうどこれは今日仕事であった「実験の解析の結果を待って、2回の研究会を行う」というのと似ている。

バトル・ザ・死ぬのを待つ

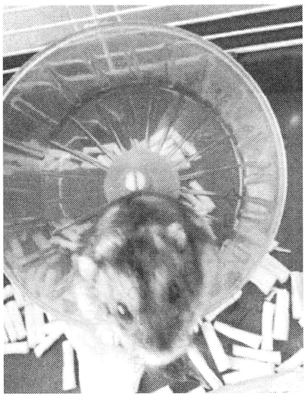
〔報告１〕（102 頁）



写真(amimono3)　パソコン立ち上げを待つ間に編んだ分（１月７日（ｐ136）のつづき）

父が死ぬのを待つ

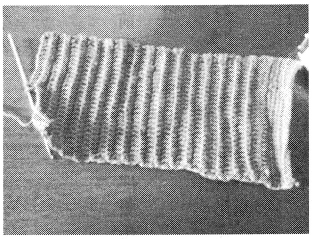
（132頁～136頁）



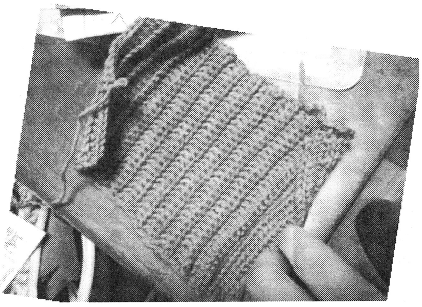
写真(ham)　ハムスター

写真(sougi)　告別式が始まるのを待つ巌

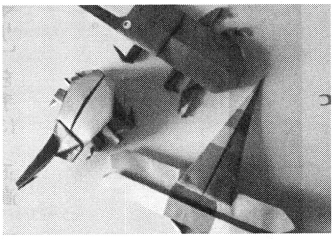
写真(amimono2)　プールが終わるのを待つ間に編んだ分



写真(amimono1)
今日電車で編めた編み物

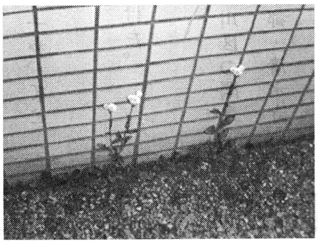


写真(arigamimusi)　待つ間に折った昆虫おりがみ

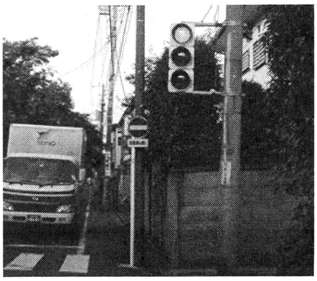


空き待ち企画「二軍ちゃん」
―塔島ひろみ信号待ちシリーズ―

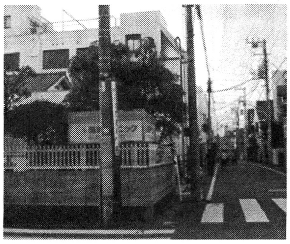
都内（忘れた）



目黒区原町



目黒区目黒本町



鳴くまで待つ

緊張編

２０１６年３月　第１１日め

鳥越神社の肌身守りを身につけて臨んだ前回の尾行で、伊藤岳人は標的の声にもう一歩、てところまで近づいた。

今回、「鳴くまで待つ　第十一日め」において、我々はさらに強力な神を味方につけた。

２０１５年１０月２２日、オコエ瑠偉外野手は車掌編集部からほど近い東京都江戸川区の関東第一高校で、「お声」がかかるのを待っていた。彼の手にはお母さんからもらった京都・清水寺のお守り。

「待つだけなので、緊張はしないです」（２１日記者会見）

すると彼に「お声」がきた。東北楽天から１位指名を受けたのである。

「正直、緊張しました」（２２日記者会見）

この正直な天才外野手「オコエ様」が我々の神だ。

伊藤岳人（隊長）、神田ぱん（平隊員）、佐伯なつみ（平隊員（新スタッフ））の３名は、何でも屋スタッフの前嶋かおるが制作した「オコエ様守り」を手に、正直、緊張して、２０１６年３月１０日、船橋市内のあの場所に立った。

そして標的の声が聞こえるのを、静かに待った。

オコエ様とサエキさん（神田ぱん）

3月10日（木）

また尾行だ。

前回あまりにガックリきたので、もう参加すんのやめようと思ったが、伊藤さんがあんなにびびっていては、標的に近づいて声を聞くとか無理だろう。そして尾行できる人は私と伊藤さんしかいないのだから、行くしかねえだろう。

ひろみ編集長からは指令書と、かおるちゃん特製の「オコエ様守り」まで送られて来た。またお守りかよ……中を見たら、オコエ選手がベンチでダラーっとしてる感じの写真が入っていた。

しょうがないから、行った。

そしたら現場には伊藤さんと、新しいスタッフの佐伯さんという若い女性がいた。

佐伯さんは礼儀正しく御挨拶なさったあと、「あっこれ」と言って「オコエ様」を出した。「なんでこれ出すの?」と聞いたら「あの、スタッフの証拠がいるかなって」と答えた。佐伯さんはマジメな方なのだなと思った。

佐伯さんがいるなら私は来なくても良かったかなーと後悔した。

佐伯さんは、フリーの家事代行をされていて、どうやってお客さんがつくのかというとマッチングサイト経由で、時給はだいたい1000円ぐらいだそうで、それはいいな…私もその仕事やりたいな！　といった情報を、しりとりの合間に得られたので、どうせ今日の尾行も不首尾に終わるのだろうが、とりあえず有意義だったことにできる。

伊藤さんと神田さん（佐伯なつみ）

グーグルマップを見ながら指定場へ向かう途中、少し先を歩いていたスーツ姿の男性がふと後ろを振り向き、その顔でそのひとが伊藤さんだと気づいた。伊藤さんの顔は以前の車掌に載っていた写真を見ただけだったが、すぐにそうとわかったことが嬉しく、声をかけ挨拶をした。標的の家の場所と今までの尾行の経緯を教えていただき（わたしはほとんど何も知らなかったので）、今回の標的の尾行はもう6回か7回目で、伊藤さんは標的に顔を知られているため積極的に動けないのでわたしと神田さんが標的を近くで追い自分は離れて尾行すると言い、また、自分の顔が標的にばれていて警戒されていることで町内会で問題になっているとも言うので、わたしは少し不安になり、警察に通報されていたりしませんか?と聞くと、伊藤さんはそこまではいっていませんが…と不安げな表情だった。

その後神田さんがやってきて、挨拶をする。中学生くらいのときから読んでいた「車掌」のスタッフさんたち（しかも伊藤さんと神田さん！）と会っておはなしできるなんて、ほんとうにすごく嬉しいことで、大袈裟に聞こえるかもしれないがわたしは感動してしまった。

神田様のお寒い提案（伊藤岳人）

12時55分、現地到着。前回と同じ道を歩いてきたが、今日は標的とはすれ違わなかった。と思っていると後ろから声をかけられ、振り返ると若い女性が立っていた。佐伯なつみという名の新しいスタッフだという。稚内募金にも200円寄付してくれたそうだ。標的宅を見せに行き（今日は玄関前に、男性用、女性用2本の傘が干されていた）、これまでの経緯を簡単に説明。13時5分、神田ぱんさんも到着。神田さんの提案で、橋の横の駐車場のフェンス前に隠れて標的宅に通じる路地を見張ることにする。しりとりも始めるが、日陰なので寒いことこのうえない。オコエ様のお守りを握りしめながら震えて張り込みを続ける。

神田様の苦労話（佐伯なつみ）

標的の家から少し離れた川辺の近くで待つことになり（柱や金網でこちらの姿が見えにくい）、神田さんからこれまでの尾行の苦労話を聞いたり（老夫婦に尾行をまかれたとか）雑談をする。わたしは待つ間のしりとりの意味を理解しておらず、それが「待つ」ことに関するしりとりだと教えてもらい、塔島さんから手紙でいただいた今までのしりとりを読んで「???」となっていた謎が解ける。

（待ちながらすること）しりとりの記録

（第9日目の続き）すっぱい飴を食べる（伊藤）→ルノアールで食べるトースト（神田）→登校拒否（佐伯）→昼寝→寝言→トイレでスマホをいじる→累進課税について学ぶ→ブートレク探し→スーパーの休憩所で水を飲む→武蔵美の学園祭に行く→クロックスで買い物→ノートパソコンのキーボードの掃除→人権問題について考える→ルノアールでカフェオレ→冷凍ご飯を解凍する→ルーレット賭博→国境まで遠乗り→履歴を消す→駿台予備校の願書を書く→クウネルのレビューを書く→腐った食べ物を捨てる→ルビーを磨く→クイーカ演奏→迂回ルートを通る（伊藤記録）

神田様も寒かった（神田）

しりとりを始めて1時間ぐらい経って、寒くて寒くてしょうがないので、14時過ぎたらもうやめようと提案したが、伊藤さんは「また来るのはちょっと」と言って断った。あ～あ。どうせまた来る羽目になるのに。

痩躯な男性、我々の凍結を防ぐ（伊藤）

が、なにもなく1時間以上がすぎ、身体が凍ってしまうのではと思えてきた14時9分、路地からひとりの人物が出てきた。こちらのほうに歩いてくるその痩躯な姿は老人の男性のように見える。標的なのか?　フェンスの陰に隠れ、近づいてくるその男の顔をよく見てみると……間違いない、標的だ！

伊藤さんは離れたところから（佐伯）

標的が外に出てきたのは待ち始めてから約1時間半ほどのことだった。伊藤さんが金網越しに標的を確認し、僕はあとからついていくのでお二人が先に行ってくださいと指示する。標的は老人だが足取りは早く、標的を追いながら

家康も合祀される鳥越神社

鳥にちなんでか「文部大臣鳩山一郎」氏が揮毫

鳥越神社のお守り（伊藤用）

こちらは赤い神田用

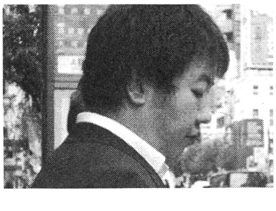
標的＆標的妻が姿を消したユニクロ（あとで撮ったもの）

空き待ち企画「二軍ちゃん」
—塔島ひろみ「待ってる時の待ってる人」

バス待ちの間停留所の表示を見て困った表情をする男性（上野広小路）

お相撲さんを待つ人々（左側）とお相撲さんだけど待たれてない人（右）（両国国技館）

同じ人。茫然として接写にも気づかず。



左と同じ人。あきらめの表情。

お相撲さんを待つ人々（両国国技館）

わたしと神田さんがはぐれたときのためライン交換をする。神田さんとライン交換ができるなんて…と思いながらもこちらも早足で標的を追う。ときどき後ろを振り返ると伊藤さんは離れたところから追ってきていた。

伊藤さんは動こうとしない（神田）

標的が出て来た。
確かに、私が前に標的だと思った草野大悟似の人とは全然違って、おじいさんだった。
伊藤さんは「僕はもう顔を知られているので」と動こうとしないから、私と佐伯さんで尾行を開始した。

「消極的尾行」（伊藤）

再会できた僥倖に思わず心が弾む。標的は我々尾行隊の横をすたすたと通りすぎていき橋を渡り、船橋駅方面へ。しかし僕はもう顔バレ危険度１００％なので、事前の打ち合わせどおり、神田さんと佐伯さんに声を聞く任務を託し、彼女たちの後方で「消極的尾行（→車掌5号参照）体制」に入る。

標的のファッションを後方チェック（伊藤）

標的はそのまま道をまっすぐ進み、ＪＲの高架線の下を横切って線路沿いのいつもの道へ（前回標的に出会ったのもここだ）。今日の出で立ちは、茶色い帽子に辛子色のジャンパー、黒いズボンに茶色い靴。またしても歩きながら両手をズボンのポケットに入れている。

標的、いきなり後ろを（神田）

しばらく歩いてから、佐伯さんが「2人で一緒に尾行するんですか」と尋ねて来たので「基本一緒ですけど、バラバラになっちゃったら携帯とかで連絡しあって」と答えてアッ！　佐伯さんと連絡先を交換しとくの忘れた！　と気づいて、歩きながらあわててＬＩＮＥを登録した。ＬＩＮＥの登録はよくわからないので、試しにトークを送ろうと思ったとたん、標的がいきなりクルッと後ろを向いて我々を見たからびびった。
佐伯さんはもっとびびったらしく、「伊藤さんが、なんか町内会とかで問題になってるって言ってたんですけど」と伊藤さんの妄想について心配し出したので「そんなの伊藤さんの妄想だよ」と一蹴した。

私も振り返ると伊藤さんは‥（佐伯）

一度、駅近くの歩道で標的が身体を文字通りぐるりと後ろを向いた。ほんとうに警戒しているんですねとドキドキしながら神田さんに言う。そのとき伊藤さんが心配になり振り返ると、だいぶ遠いところに立っているのが見えてほっとした。

慢心隊長（伊藤）

１４時１４分、サンクス前を通過し、そのあと高架線下の居酒屋の前で大きく振り返る。やはり警戒しているのだろうか。でも、消極的尾行は心境的にラクなものだなあと思って慢心していたら、ファミリーマートを曲がったところで尾行隊を見失ってしまった。

もしかして待ち伏せしてるのでは（佐伯）

階段を上がるときは標的は老人らしく歩調が遅くなった。しかし上がりきるとまたスタスタと歩き出し、散歩ではなくどこか目的があって歩いているのだろうなと思った。そして標的が駅ビルの中に入り、非常用階段のような扉の向こうへ消えたときは、もしかしてわたしたちに気づきそこで待ち伏せているのではないかと不安になった。しかし曲がった先には二台のエレベーターがあり、標的が乗ったエレベーターの扉が閉まりそうになったところを神田さんが「すみません」と入りわたしも続く。神田さんは自分たちもこの先になにか用があるような会話をわたしに投げかけたのでわたしも合わせた。

標的のオコエは聞こえない（神田）

標的はおじいさんなのに、とても足が速くて、迷うことなくシャポーを抜け、ＦＡＣＥビルに入って、エレベーターに乗った。
我々も同じエレベーターに飛びこんだ。
「すいません」と言いながらエレベーターに乗ったので、「何階ですか？」とか聞いてくれるかなと期待したが、標的は無言だった。ちっ、ケチ。と心の中で舌打ちした。

ラーメン横丁入口での決断（伊藤）

標的のいつものパターンでシャポーの地下のワイズマートに行ったに違いないと思い、探してみるが、いない。そのままシャポー地下内をうろうろしてみるが、尾行隊＆標的はどこにもいない。船橋ラーメン横丁の入口のところでもう探すのはあきらめる。

これは違う！（神田）

おじいさんがファッションビルに用事があるとも思われないので、まかれるのかな、いつもの負けパターンかな、とうっすら考えた。
標的は5階で下り、「ハローワークふなばし」と書いてあるドアを押した。そのトシでハロワ！？　一億総活躍社会だけどこれは違う、これは間違いなくまかれる！

すごく真剣な神田を見る（佐伯）

標的が降りたフロアの自動ドアには「ハローワークどうのこうの」とか「福祉どうのこうの」というもので、役所のようなところだった。ここでわたしは一気に緊張した。神田さんと少し離れこの場所に用があるような振りをして

いると真横を標的が通り過ぎさらに緊張した。そして神田さんを見ると、神田さんはものすごく真剣な表情をしていた。

あっという間に用が済んだ（佐伯）

標的が窓口に向かう。わたしは標的にあまり近づけず書類を見ているふりをしていたが、あっという間に標的は用を済ませ出ていこうとしていた。すると神田さんがやってきて、親指を立てて（ガッツポーズだったかもしれない）わたしのところにやってきて、「オコエ」を聞いたという。

「はい、これで」（標的）

だが予想に反して標的は番号札をとり、国民健康保険の窓口へ行った。私も番号札をとろうか迷っていたら、あっ、窓口の人と何か喋ってる！　慌てて窓口へ駆け寄ったら標的が「はい、これで」と言ったのが聞こえた！
おじいさんらしい、乾いたしわがれ声だった。
やったぁ～～♪
声さえ聞けば、もう標的には何の用もない。（神田）

青葉（ラーメン屋）前での驚倒（伊藤）

14時22分、携帯にメールがきた。神田さんからだ。「終わりました　こえ聞けました」とあったので驚倒。青葉（ラーメン屋）の前でしばし呆然と立ちつくす。

伊藤さんは全然違う場所にいた（佐伯）

すごい！わたしはほんとうに驚いたしびっくりした。尾行を何回もしているひとは行動が違うと思った。神田さんによると、標的は窓口のひとに「はい、これ」と言ったそうだ。

　神田さんが急いで伊藤さんに電話をかけるがなぜかつながらない。エレベーターの前で神田さんが伊藤さんにメールを打っていると、いつのまにか標的がわたしたちのすぐ後ろにいて、神田さんがそのことに気づいていないようなので慌てて今度はわたしがこの場所に用があったけどここじゃなかったですねえみたいな出まかせを神田さんに言う。標的とは別のエレベーターに乗り、安堵しながらも、今度は伊藤さんが心配になる。下で標的と遭遇してつかみあいとかになってないかと不安になった。けれどしばらくして伊藤さんから神田さんに電話がかかってきて、全然違う場所にいることがわかる。

伊藤さんはなんと（神田）

佐伯さんに「聞いた！」と言って廊下へ出て、伊藤さんに連絡しないと……とかスマホをいじってたら、おじいさんがすぐ出て来たので少しびびった。
合流した伊藤さんは、とても嬉しそうで、なんと笑っていた。

ニコニコの伊藤さん（佐伯）

合流すると、伊藤さんはすごく安堵した表情でニコニコしていた（神田さんはあとであんなに笑っている伊藤さんはあまり見たことがないと言っていた）。神田さんもすごく嬉しそうに伊藤さんに報告をする、そして標的の「オコエ」を聞いた場所のフロア表示の前で写真を撮った。おふたりがとても喜んでいるのを見てほんとうによかったなとわたしは思い、それほど今回の標的は大変だったのだと感じた。

感想（伊藤）

オコエ様のパワーは凄い。

車掌19号19ページを見よ（編集部）

伊藤さんはいつも無表情で、笑ってるところとかほとんど見たことがないからビックリした。

「嬉しそうですね」と言ったら「もう来なくていいかと思うと」と言ってまたニコニコ笑顔の伊藤さんだった。
証拠写真とかを撮って、伊藤さんと別れ、佐伯さんとお昼ごはんを食べに地下の『日本海庄や』へ入った。（神田）

生きていてよかった（佐伯）

余談

　伊藤さんは仕事のため写真撮影のあと会社へ戻り、わたしは神田さんのお誘いで一緒にお昼ごはんを食べることになった。神田さんとごはん！わたしも神田さんも煙草を吸うので駅ビル下の「庄や」でランチを食べながらおしゃべりをした。神田さんからいままでの「車掌」企画のはなしや元スタッフの方たちのはなしなどをたくさん聞き、一番感嘆したのは塔島さんのおはなしだった。塔島さんのはなしを聞いて「生きていてよかったです」とわたしは神田さんに言ったのは嘘でもお世辞でもなくほんとうにそう思ったからだ。

まゆ毛がない佐伯さんと物知りの私（神田）

佐伯さんが、まゆ毛がないのは人に剃られてしまい、まゆ毛を描く位置がわからないからだと言うので、

1　目頭の延長線上を始点
2　黒目の外端の延長線上をまゆ山の頂点
3　目尻と小鼻を結ぶ直線の延長線上を終点

とする3点をまず打って、その点を「へ」の字になるようつなげば良い。と教えて上げた。

まゆ毛再生、大きな喜び（佐伯）

更に余談

　神田さんに「眉毛がない」と指摘され、わたしが眉毛を書くのが本当に下手だしいまだに描き方がどうしてもわからないと説明すると、神田さんがすばらしいアドバイスをくださった。中学生から自分の眉毛をどうしたらいいかわ

からなかったことが、28歳になって初めてわかり、興奮してしまった。神田さんのアドバイスはとてもわかりやすく覚えやすく、神田さんが鏡と眉ペンシルを貸してくださりその場で実践すると、ほんとうにうまく書けた。わたしは初めての尾行で比較的早く任務終了となったため、伊藤さんや神田さんのように苦労をしていないぶんおふたりほどの喜びは味わえなかったと思うが、最後にやっと眉毛の描き方がわかったことは大きな喜びだった。

苦は楽の種 （3月10日開運日めくり暦）

会計をしたら福引きの券を2枚貰ったので、福引きをした。私はティッシュだったけど、佐伯さんはFACEビルで使える500円の商品券が当たったので、薬局でアイブロウペンシルを買った。

私は家事代行マッチングサイトの情報を、佐伯さんはまゆ毛を入手でき、かつ標的の声も聞けた実りある尾行だった。それもこれもオコエ様のおかげだ。かおるちゃん、ありがとう。オコエ様すごい。（神田）

オコエ様より神田様 （佐伯）

「庄や」でもらった福引券で500円分の商品券が当たり、神田さんが「これで眉ペンシルを買ったらいいんじゃない?」と提案してくださりふたりでドラッグストアで眉ペンシルを探した。神田さんがいい感じのものを見つけてくださり商品券で買った。そのあと神田さんにお礼を言い、解散。ほんとうにすばらしい楽しい日だった。

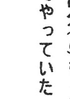
空き待ち企画「二軍ちゃん」—塔島ひろみの観察メモから

6月19日
54分発と59発の間。左手はWRITERIST(?・?・なんか雑誌) 右手はスマホ、同時進行。
電車が着いたら雑誌をカバンにしまったので、待ってる間だけやってたこととわかった。
(左肩にショルダーをかけ、腕に傘をかけて本を持つ。右はスマホのみ)

6月20日
品川手前、電車が止まっている。吊革につかまって肩をボリボリしていたおばさん。(50位)
「品川駅到着までしばらくお待ちください」との放送。ボリボリをやめて広告をじっと見ている。視線の先にあるのはリポビタンDのつまんない(内容のない)広告。
その後、より上位置の早稲田アカデミー広告に視線移る。品川で下りたので、本当に待っていた人だとわかった。
(電車は走っていても到着まで待ってることに変わりないので)

6月21日(金)
広小路バス停で待っている、20代の木村カエラみたいなつけまつ毛女。時々バスが来る方向を気にしながら、何もしてない。視線は大通りをはさんで向いの飲み屋やカラオケ屋だが本気で見てる感じではない。
と思ったら、実は耳から線がつながっていて、音楽を聞いていたようだ。バスがなかなか(と言っても2分ぐらい)来ず、一回カバンからスマホを出して曲の選択をして新しいのを聞きだした。
髪の毛を何度か手探りで直していた。(または癖でいじってただけかも)

この部分(↙)をくりんと指でやっていた



6月23日
冷蔵庫前で素振りをしているので(竹刀はなし)危ないな〜と言うと、ご飯の火をつけるタイミングをうかがっている数分の待ち時間だったようだ(麦太)。

6月25日(火)
広小路。赤信号で最初から待っている男性。50才位サラリーマン。右手ポケット、片足まげてだらけた姿勢で、見るともなく左前方を見つめている。途中1回、急にポケットから手を出して、気をつけのよい姿勢になり、またすぐ元に戻る。

6月26日
湯島4丁目バス停。30・40代OL。左手に傘を差し、右手でスマホを操作「今から帰ります」の文字が見える。バスは全然来なくて、すごい行列になってしまった。一旦スマホをしまって何もしてなかったけど、又スマホ取り出して操作。打っているよりメールを読んでいる感じ。「○○、もう家にいるよね?」の文字が見える。

6月27日
8:06発を待つ間、観察しようとしてたのに思わず考えごとをしていた。
内容は7・2のカメリアの予約を誰の名前でしたっけ? Mだっけ? M研だっけ? M研塔島だっけ? どうしよう? 確認した方がいいよね? とか思いめぐらして、気付いたら隣りの人が、手の平にクリームを塗る、という待ち方をしていた。指と指の間とか、こういう(図)出っ張ったところとか指の側面と

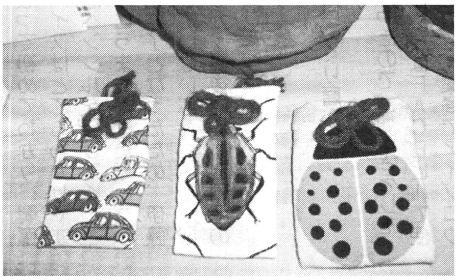
空き待ち企画「二軍ちゃん」—塔島ひろみの日記から

3月15日(土) 麦子を待つ時間が来るのを待つ間、明学のオリ祭で偶然見つけた鳩待なんだらについて、区民センター図で調べる。今日は3:00から明学で運営委、一方7:00に東京駅に麦子を迎えに行くのだが、時間が中途半端なので、空き時間に図書館でたまっている調べ物をすることにしたのである。鳩待なんとかは、全くどこにあるのかわからない、ひとまずブリタニカや、岩波やらの百科事典や、地名辞典やらを片っ端からあさってゆくが、鳩谷とか鳩胸とかで、待はない。しかしこの過程で、「鳩の街」が売春街であることがわかる。何か、鳩待と関係あるかも。で、ついにしかし、あった。小学館「日本大百科全書」の索引に、鳩待峠が載っていた! やはり小学館は車掌寄りの出版社! で、尾瀬だった。

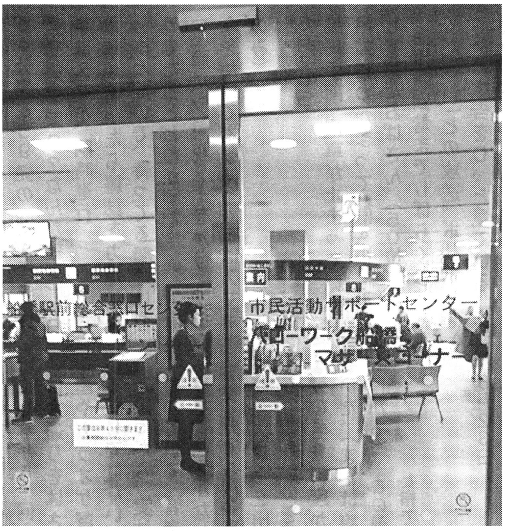
鳴くまで待つ・11

（138 頁〜143 頁）

散歩に出て来た標的を尾行開始。



「オコエという人を全然知らなくて、検索したら違う3カットの写真が出てきたのでそれぞれに入れてみました」（かおる）

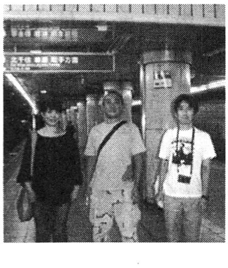


標的が入って行ったハローワークふなばし。

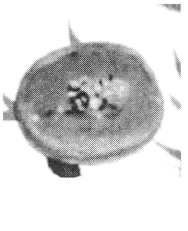
標的がようやく重い口を開いた国民健康保険窓口。

空き待ち企画「二軍ちゃん」
―一軍ちゃんそっくりちゃん

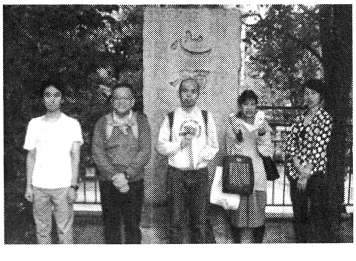
<プレゼントコーナー> **それぞれどの一軍ちゃんにそっくりかな？　わかった人は車掌編集部・プレゼントコーナーまで正解と好きなものを書いてお送りください。折り返しプレゼントをお送りします。**



一軍ちゃんそっくりちゃん①

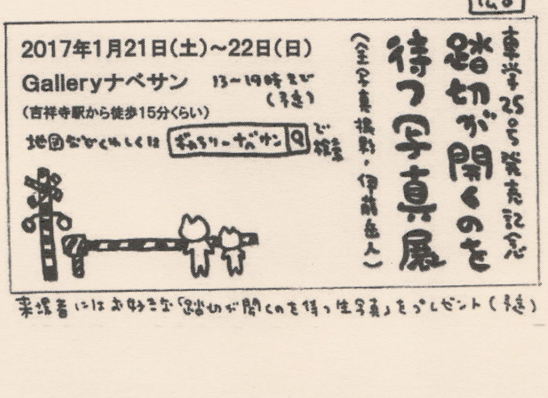


一軍ちゃんそっくりちゃん②

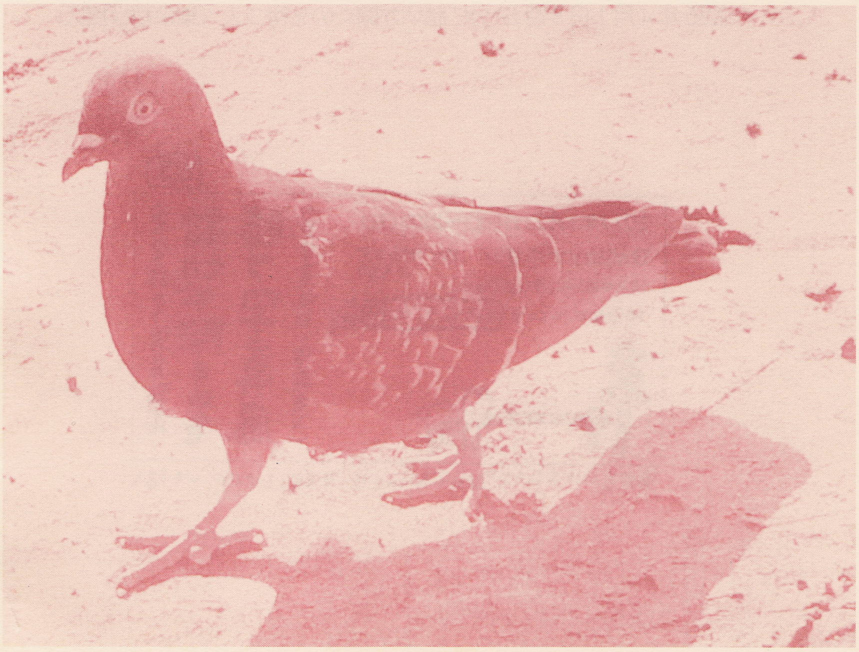


一軍ちゃんそっくりちゃん③

2016年4月1日8時52分に踏切が開くのを待つ人（東京都板橋区）



（奥付記載は表紙裏）

車掌25号

車掌編集部